

# 経済学科

開設科目	ミクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	仲間瑞樹				

- 授業の概要 ミクロ経済学の基礎的な理論を講義します。経済学の考え方を利用して、私たちの買い物行動や企業の動きを理論的に把握してみましょう。はじめは難しそうな言葉や考え方ができます。でもその内なれてしまいます。とにかく出席して勉強してみましょう。／検索キーワード 需要と供給・消費者の行動・生産者の行動・独占
- 授業の一般目標 ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけること。ミクロ経済学の考え方を利用し、世の中の動きを考えられるようにすること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：経済学用語に対する理解 ミクロ経済学の理論に対する理解 関心・意欲の観点：ミクロ経済学を利用して、世の中の動きを解釈できること。
- 授業の計画（全体） テキストを利用して授業をします。前半は需要と供給、消費者の行動を勉強します。後半は企業の行動を中心に勉強をします。前半と後半のトピックがそれぞれ終了したら、中間試験を実施します。そして前期末試験を行います。なお出席も確認します。
- 成績評価方法（総合） 基本的には中間試験（2回 合計200点）・前期末試験（1回 計100点）で評価。
- 教科書・参考書 教科書：グラフィックミクロ経済学, 金谷貞男・吉田真理子, 新世社, 2001 年
- メッセージ ミクロ経済学は積み上げタイプの科目です。まめに予習・復習することが理解への第1歩です。なお講義で扱うトピック、講義に関する詳細な説明は、第1回目の講義でお話します。
- 連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ミクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	寺地伸二				

●授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義をします。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

●授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

●授業の計画（全体） 下記のテキストに従って授業をします。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ミクロ経済学で学ぶこと
- 第 2 回 項目 需要の理論
- 第 3 回 項目 需要の理論の背景にあるもの
- 第 4 回 項目 供給の理論
- 第 5 回 項目 需給曲線と弾力性
- 第 6 回 項目 市場の理論 その一
- 第 7 回 項目 市場の論理 その二
- 第 8 回 項目 需要と供給で解く経済問題
- 第 9 回 項目 余剰分析で解く経済問題
- 第 10 回 項目 外部効果と公共財
- 第 11 回 項目 情報の非対称性
- 第 12 回 項目 独占
- 第 13 回 項目 不確実性のもとでの選択行動
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 後期末試験

●成績評価方法（総合） 定期試験（100 %）

●教科書・参考書 教科書：基礎からわかるミクロ経済学, 家森信善・小川光, 中央経済社, 2003 年

●メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	ミクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	グエン・フー・フック				

- 授業の概要 ミクロ経済学の基礎的な理論を講義します。経済学の考え方を利用して、私たちの買い物行動や企業の動きを理論的に把握してみましょう。はじめは難しそうな言葉や考え方ができます。でもその内なれてしまいます。とにかく出席して勉強してみましょう。／検索キーワード 需要と供給・消費者の行動・生産者の行動・独占
- 授業の一般目標 ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけること。ミクロ経済学の考え方を利用し、世の中の動きを考えられるようにすること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：経済学用語に対する理解 ミクロ経済学の理論に対する理解 関心・意欲の観点：ミクロ経済学を利用して、世の中の動きを解釈できること。
- 授業の計画（全体）テキストを利用して授業をします。前半は需要と供給、消費者の行動を勉強します。後半は企業の行動を中心に勉強をします。前半と後半のトピックがそれぞれ終了したら、中間試験を実施します。そして前期末試験を行います。なお出席も確認します。
- 成績評価方法（総合）基本的には中間試験（2回 合計200点）・前期末試験（1回 計100点）で評価。
- 教科書・参考書 教科書：グラフィックミクロ経済学, 金谷貞男・吉田真理子, 新世社, 2001 年
- メッセージ ミクロ経済学は積み上げタイプの科目です。まめに予習・復習することが理解への第1歩です。なお講義で扱うトピック、講義に関する詳細な説明は、第1回目の講義でお話します。

開設科目	マクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	馬田哲次				

●授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されるのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。／検索キーワード マクロ経済学 景気循環 経済政策

●授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身に付ける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. 経済の国際的な依存関係を正確に知るために、開放マクロ経済学の基本を身につける。 4. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国民経済計算
- 第 3 回 項目 消費関数
- 第 4 回 項目 4 5 度線モデル
- 第 5 回 項目 投資関数
- 第 6 回 項目 貨幣市場
- 第 7 回 項目 IS-LM 分析 1
- 第 8 回 項目 IS-LM 分析 2
- 第 9 回 項目 中間テスト
- 第 10 回 項目 国際マクロ 1
- 第 11 回 項目 国際マクロ 2
- 第 12 回 項目 労働市場
- 第 13 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 14 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法 (総合) 定期試験（中間・期末）および出席で判定する。中間試験 40 %、期末試験 60 %、出席で最高 10 点加点。

●教科書・参考書 教科書：「マクロ経済学講義 2005 年度版」, 馬田, 自費出版, 2005 年

●メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

●連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	マクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	山田正雄				

●授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。／検索キーワード マクロ経済学 景気循環 経済政策

●授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. 経済の国際的な依存関係を正確に知るために開放マクロ経済学の基本を理解する。 4. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国民経済計算
- 第 3 回 項目 消費関数
- 第 4 回 項目 45 度線モデル
- 第 5 回 項目 投資関数
- 第 6 回 項目 貨幣市場
- 第 7 回 項目 IS-LM 分析 1
- 第 8 回 項目 IS-LM 分析 2
- 第 9 回 項目 中間テスト
- 第 10 回 項目 国際マクロ 1
- 第 11 回 項目 国際マクロ 2
- 第 12 回 項目 労働市場
- 第 13 回 項目 総需要・総供給分析 1
- 第 14 回 項目 総需要・総供給分析 2
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 定期試験（中間・期末）および出席で判定する。中間試験 40 %、期末試験 60 %。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

●メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

開設科目	マクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	中村 保				

●授業の概要 1. マクロ経済に関する会計原則・統計データに関する基礎を学習する。2. マクロ経済の長期均衡及びそこでの失業を理解するために新古典派理論を学習する。3. 短期的な経済変動の要因を分析するために IS-LM 及び総需要・総供給分析を学習する。4. マクロ経済の国際間の相互関係を分析するための道具としてのマクロ開放経済モデルを学習する。／検索キーワード マクロ経済学 国民所得 景気 経済政策 基盤科目

●授業の一般目標 1. マクロ経済に関する統計データを正しく把握する知識を身に付ける。2. 国民所得、失業、インフレ（デフレ）等の基本的な決定メカニズムを理解する。3. 経済政策の効果及びその外国への波及、外国の諸政策の自国経済への影響等について議論するための基礎を身に付ける。

●授業の計画（全体） 授業の前半では経済の長期均衡を分析するための（新）古典派理論を中心に解説する。そこでは価格メカニズムがうまく機能する場合の経済の均衡が分析の中心となる。授業の後半はいわゆるケインズ経済学に焦点を当てて、短期的な経済の変動の要因について解説する。そこでは価格メカニズムが必ずしもうまく働かない場合の経済の失業を含んだ均衡についての分析を主として行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科学としてのマクロ経済学
- 第 2 回 項目 マクロ経済学のデータ
- 第 3 回 項目 国民所得の生産及び分配
- 第 4 回 項目 長期における失業
- 第 5 回 項目 貨幣とインフレーション
- 第 6 回 項目 開放経済の長期均衡
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 景気変動へのイントロダクション
- 第 9 回 項目 総需要 I－ケインジアンクロス－
- 第 10 回 項目 総需要 II－IS-LM 分析－
- 第 11 回 項目 開放経済下の総需要－マンデル-フレミング・モデル－
- 第 12 回 項目 総供給 I－名目的硬直性－
- 第 13 回 項目 総供給 II－実質的硬直性－
- 第 14 回 項目 総供給-総需要分析
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 宿題と出席を通してこの科目に対する取り組み方及び各人の勉学姿勢を評価します。期末試験では授業内容の理解を総合的に判断します。

●教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I・入門篇・第 2 版, N.G. マンキュー, 東洋経済新報社, 2003 年／参考書：『入門マクロ経済学』（第 4 版）, 中谷巖, 日本評論社, 2000 年 『入門マクロ経済学』, 井堀利宏, 新世社, 1995 年 『マクロ経済学の基礎理論』, 武隈慎一, 新世社, 1998 年

●メッセージ 今後の経済学学習の基礎になる科目なのでしっかり勉強して下さい。

●連絡先・オフィスアワー nakamura@econ.kobe-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	塚田広人				

- 授業の概要 資本主義社会の経済的特徴（構造・循環）」を理解することを目標とする。経済学の基本用語・基本理論の修得に重点を置く。
- 授業の一般目標 資本主義社会の経済的特徴（構造・循環）」を理解することを目標とする。経済学の基本用語・基本理論の修得に重点を置く。
- 授業の計画（全体） 1）資本主義経済の基礎 1 資本主義における生産力と生産関係 2 商品と貨幣 3 賃労働と資本 4 生産に関する決定 5 国家・貨幣制度・世界分業 2）資本主義経済の再生産 1 価格機構 2 再生産表式 3 生産・雇用 4 恐慌・景気循環 5 貿易・為替レート 3）資本主義経済の進路 1 生産力発展と資本主義 2 資本主義の変容 3 新しい矛盾 4 資本主義の変化
- 成績評価方法（総合） 授業時の毎回の小テスト（一回5点×14回＝）70点＋期末テスト30点＝100点
- 教科書・参考書 教科書：経済学, 置塩信雄他, 大月書店, 1988年
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日1時半－3時ただし上記以外の時間でも在室時はいつでも訪問可。電話933－5558 メール:ht@yamaguchi-u.ac.jp Homepage: <http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm>



開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	植村高久				

●授業の概要 政治経済学 (マルクス経済学) の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史的変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなったとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特徴を理解するとともに、その特徴を生かして、資本主義とは何であるかを歴史に即しながら概観し、あわせて現代の経済問題への展望も試みる。

●授業の一般目標 現代経済の動きや諸現象について、政治経済学の用語を用いて概略説明できること。政治経済学の用語について、そのあらましを説明できること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：政治経済学の基本的な用語を理解し、適切に使用できる。思考・判断の観点：経済的諸現象について、経済学的思考法を用いてに把握できる。関心・意欲の観点：様々な経済現象に興味をもって継続的に観察できる。技能・表現の観点：経済学的な用語を含む文献を自力である程度読むことができる。

●授業の計画 (全体) 前半部分は理論の提示であり、後半は資本主義の歴史的発展と変貌の分析である。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か：古典派とマルクス 内容 政治経済学と新古典派の違い、政治経済学の主要内容の紹介。
- 第 2 回 項目 2. 商品と貨幣・市場の論理 内容 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。
- 第 3 回 項目 3. 資本 内容 資本 (営利企業) の特徴とその意義を示す。授業外指示 第 1 回レポート出題。
- 第 4 回 項目 4. 労働・価値・剰余価値 内容 賃金や利潤などの所得の内容を労働価値説に基づいて解明する。
- 第 5 回 項目 5. 資本と技術革新 内容 資本はなぜ技術革新に熱心なのか、またその効果は何かを示す。授業外指示 第 2 回レポート出題。
- 第 6 回 項目 6. 資本蓄積 (1) 内容 資本主義の拡大・成長の過程を労働力との関連で解明する。
- 第 7 回 項目 7. 資本蓄積 (2) 内容 前回の続き。授業外指示 第 3 回レポート出題。
- 第 8 回 項目 8. 資本主義の歴史的要素 内容 資本主義の前提条件である伝統社会の解体・近代国民国家の成立と世界経済について説明する。
- 第 9 回 項目 9. 産業革命と近代社会 内容 資本主義の自立化の起点である産業革命の影響について解説。授業外指示 第 4 回レポート出題。
- 第 10 回 項目 10. 大企業と組織された資本主義 (1) 内容 19 世紀後半からの寡占的資本主義の特徴を解明する。
- 第 11 回 項目 11. 大企業と組織された資本主義 (2) 内容 前回の続き。
- 第 12 回 項目 12. 大恐慌と世界経済の解体 内容 1920 年代～40 年代の危機的な資本主義の時代を示す。授業外指示 第 5 回レポート出題。
- 第 13 回 項目 13. 組織された資本主義の黄金時代 内容 戦後の黄金時代 (1950～1970) を解明する。
- 第 14 回 項目 14. グローバル化の下の資本主義 内容 1970 年代から現代までの新自由主義的な資本主義の特徴を示す。授業外指示 第 6 回レポート出題。
- 第 15 回 項目 定期試験

●成績評価方法 (総合) 定期試験を中心にして評価するが (70 %)、これに宿題 (練習問題のレポート) を加える (30 %)。質問票を提出してもらい、これで出席をチェックする。欠席は 3 回を超えると受講放棄と見なす。なお、読んだ質問票は 1 回につき 5 点を加算する。定期試験は、比較的短い分量の記述式を中心にする。

- 教科書・参考書 教科書：テキストの代わりに毎回プリントを配布する。プリントは後からは配布しないので、各自確実に補完しておくこと。
- メッセージ 確実に出席し、ちゃんと授業を聞いていて、練習問題レポートを提出していればなんとか合格はできます。ともかくは、遅刻しないで毎回出席することを心がけて下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 問い合わせは [uemura@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:uemura@yamaguchi-u.ac.jp) へ、どうぞ。

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	植村高久				

- 授業の概要 政治経済学 (マルクス経済学) の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史的変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなったとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特徴を理解するとともに、その特徴を生かして、資本主義とは何であるかを歴史に即しながら概観し、あわせて現代の経済問題への展望も試みる。
- 授業の一般目標 現代経済の動きや諸現象について、政治経済学の用語を用いて概略説明できること。政治経済学の用語について、そのあらましを説明できること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：政治経済学の基本的な用語を理解し、適切に使用できる。思考・判断の観点：経済的諸現象について、経済学的思考法を用いてに把握できる。関心・意欲の観点：様々な経済現象に興味をもって継続的に観察できる。技能・表現の観点：経済学的な用語を含む文献を自力である程度読むことができる。
- 授業の計画 (全体) 前半部分は理論の提示であり、後半は資本主義の歴史的発展と変貌の分析である。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か：古典派とマルクス 内容 政治経済学と新古典派の違い、政治経済学の主要内容の紹介。
  - 第 2 回 項目 2. 商品と貨幣・市場の論理 内容 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。
  - 第 3 回 項目 3. 資本 内容 資本 (営利企業) の特徴とその意義を示す。授業外指示 第 1 回レポート出題。
  - 第 4 回 項目 4. 労働・価値・剰余価値 内容 賃金や利潤などの所得の内容を労働価値説に基づいて解明する。
  - 第 5 回 項目 5. 資本と技術革新 内容 資本はなぜ技術革新に熱心なのか、またその効果は何かを示す。授業外指示 第 2 回レポート出題。
  - 第 6 回 項目 6. 資本蓄積 (1) 内容 資本主義の拡大・成長の過程を労働力との関連で解明する。
  - 第 7 回 項目 7. 資本蓄積 (2) 内容 前回の続き。授業外指示 第 3 回レポート出題。
  - 第 8 回 項目 8. 資本主義の歴史的要素 内容 資本主義の前提条件である伝統社会の解体・近代国民国家の成立と世界経済について説明する。
  - 第 9 回 項目 9. 産業革命と近代社会 内容 資本主義の自立化の起点である産業革命の影響について解説。授業外指示 第 4 回レポート出題。
  - 第 10 回 項目 10. 大企業と組織された資本主義 (1) 内容 19 世紀後半からの寡占的資本主義の特徴を解明する。
  - 第 11 回 項目 11. 大企業と組織された資本主義 (2) 内容 前回の続き。
  - 第 12 回 項目 12. 大恐慌と世界経済の解体 内容 1920 年代～40 年代の危機的な資本主義の時代を示す。授業外指示 第 5 回レポート出題。
  - 第 13 回 項目 13. 組織された資本主義の黄金時代 内容 戦後の黄金時代 (1950～1970) を解明する。
  - 第 14 回 項目 14. グローバル化の下の資本主義 内容 1970 年代から現代までの新自由主義的な資本主義の特徴を示す。授業外指示 第 6 回レポート出題。
  - 第 15 回 項目 定期試験
- 成績評価方法 (総合) 定期試験を中心にして評価するが (70 %)、これに宿題 (練習問題のレポート) を加える (30 %)。質問票を提出してもらい、これで出席をチェックする。欠席は 3 回を超えると受講放棄と見なす。なお、読んだ質問票は 1 回につき 5 点を加算する。定期試験は、比較的短い分量の記述式を中心にする。

- 教科書・参考書 教科書：テキストの代わりに毎回プリントを配布する。プリントは後からは配布しないので、各自確実に補完しておくこと。
- メッセージ 確実に出席し、ちゃんと授業を聞いていて、練習問題レポートを提出していればなんとか合格はできます。ともかくは、遅刻しないで毎回出席することを心がけて下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 問い合わせは [uemura@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:uemura@yamaguchi-u.ac.jp) へ、どうぞ。

開設科目	ミクロ経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古谷京一				

●授業の概要 ミクロ経済学の応用分野に関して、講義をします。ミクロ経済学の基礎を基にして、主に独占の理論、厚生経済学などの分野を中心に講義をしていきます。必要ならば、基礎的な部分に関して補足的な説明を加えつつ講義を進めていきます。

●授業の一般目標 不完全競争（独占など）の理論や厚生経済学（ゲームの理論、公共財、消費者余剰など）の理論に関する基礎的な知識を身に付けることを目標とします。

●授業の計画（全体） 今まで学んできたミクロ経済学的な思考を基にして、応用的な概念で経済を考える力を身に付ける。基礎的な理論の理解することを念頭に置き、さらにその応用の基礎を学んでいきます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 ミクロ経済学の基礎理論の復習

第 2 回 項目 独占の理論 1

第 3 回 項目 独占の理論 2

第 4 回 項目 ゲームの理論 1

第 5 回 項目 ゲームの理論 2

第 6 回 項目 寡占の理論 1

第 7 回 項目 寡占の理論 2

第 8 回 項目 その他の不完全競争

第 9 回 項目 厚生経済学 1 パレート最適

第 10 回 項目 厚生経済学 2 公共財

第 11 回 項目 厚生経済学 3 消費者余剰

第 12 回 項目 不完全情報と外部性 1

第 13 回 項目 不完全情報と外部性 2

第 14 回 項目 予備

第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）＝ 80～100 % 未満 出席 ＝ 10 % 未満 宿題 ＝ 10～20 % 未満

●教科書・参考書 教科書：グラフィックミクロ経済学, 金谷貞男・吉田真理子, 新世社, 2000 年／参考書：授業の際にプリントを配布する。

開設科目	マクロ経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中村 保				

●授業の概要 1. マクロ経済の長期的な発展を特徴付ける主要な要因である経済成長について学習する。  
2. 短期のマクロ経済に関する政策論争を学習することを通して現実のマクロ経済問題への理解を深める。  
3. マクロ経済学の基礎となっているミクロ経済学の理解を通してマクロとミクロの関係とそれぞれの有用性を確認する。／検索キーワード 経済成長、景気循環、財政・金融政策

●授業の一般目標 1. (初歩的ではあるが) 数学という分析ツールを使ってより厳密にマクロ経済現象を分析できるようになる。  
2. マクロ経済分析に必要なミクロ経済学の基礎を身に付ける。  
3. 現実の経済政策について経済学の基礎理論にしっかりと立脚した議論できるようになる。

●授業の計画(全体) 最初に経済の長期的な動きを理解するために不可欠な経済成長の問題について勉強します。そのためにまず成長会計の基礎を学び、それをを用いて日本をはじめとした先進国の経済成長の実態を紹介します。それから、経済成長の理論をソローの新古典派成長モデルを中心に学習します。次に、短期的なマクロ経済政策の問題を議論します。政府による経済安定化政策の是非及びそれに伴う財政赤字及び政府の負債の問題について考えます。最後に、マクロ経済学の基礎になっているミクロ経済学について少し詳しく見ていきます。マクロ経済で重要な役割を演じる消費需要、投資需要、及び信用創造の問題について、より厳密なミクロ経済学観点から再度考察し、最後にミクロ的基礎に基づいた景気循環理論を取り上げます。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 経済成長 I
- 第 3 回 項目 経済成長 II
- 第 4 回 項目 経済成長 III
- 第 5 回 項目 安定化政策 I
- 第 6 回 項目 安定化政策 II
- 第 7 回 項目 政府負債と財政赤字 I
- 第 8 回 項目 政府負債と財政赤字 II
- 第 9 回 項目 消費関数 I
- 第 10 回 項目 消費関数 II
- 第 11 回 項目 投資関数
- 第 12 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 13 回 項目 経済変動の理論の発展 I
- 第 14 回 項目 経済変動の理論の発展 II
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法(総合) 学期末試験・宿題・小テスト等を総合して成績を評価する。

●教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 II・応用編・第 2 版, N.G. マンキュー, 東洋経済新報社, 2004 年

●メッセージ 現実のマクロ経済政策に関する議論を十分に理解するためには、この授業のレベルのマクロ経済学の知識は必要不可欠です。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：nakamura@econ.kobe-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	植村高久				
<p>●授業の概要 「政治経済学 II」は、「マルクス経済学」を中心にした経済理論を学ぶ授業である。授業の狙いは、「政治経済学 I」の内容を基礎にして、市場経済というシステムがどのような性格を持ち、どのような働きを持っているのかを理解することにある。／検索キーワード 市場、貨幣、情報、限定合理性</p> <p>●授業の一般目標 資本主義のシステムの挙動が概略説明できる。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：基本的なタームについて説明できる。思考・判断の観点：資本主義の動作原理を念頭において、現実の経済現象をある程度推論できる。関心・意欲の観点：経済現象を経済理論を用いて説明してみようとする意欲がある。態度の観点：通常の経済理論の説明に対し、いつでも違った説明がありうるとする批判的な立場を理解できる。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 1. 政治経済学の 枠組み 内容 政治経済学の特質を歴史性、社会関係の特質、経済的利益優先という見地から理解する。</p> <p>第 2 回 項目 2. 市場の理論 内容 乏しい情報と弱い情報処理能力という当事者の特質から、貨幣を用いた交換と売買という制度を説明する。</p> <p>第 3 回 項目 3. 貨幣と商品流通 内容 貨幣交換媒介物としての意義と実際の市場の仕組みを説明する。</p> <p>第 4 回 項目 4. 消費と貨幣に対する合理性 内容 貨幣に関連し、際限のない消費をどう考えるかを検討する。授業外指示 レポート第 1 回</p> <p>第 5 回 項目 5. 貨幣の権力 内容 貨幣を通じた人間の支配など貨幣が社会的力を帯びることを理解する。</p> <p>第 6 回 項目 6. 資本とは何か 内容 資本(営利企業)の一般的特質を「利潤を得る」という点から説明する。</p> <p>第 7 回 項目 7. 利潤率均等化とその障害 内容 営利という資本の特質は、利潤率の高低に応じた規則的な動きを引き起こす。この原理と結果を明らかにするとともに、実際にはこの原理が動作困難であることを理解する。</p> <p>第 8 回 項目 8. 商人と商業資本 内容 資本の最も基本的な形である商人とその現代的な形である商業資本、及び商業資本が作り出す市場構造と競争の特質を説明する。</p> <p>第 9 回 項目 9. 利子つき資本 内容 金貸しも古くからある資本であるが、利潤ではなく「利子」を得る。この「利子」の意味を示し、金貸しの特質を明らかにする。授業外指示 レポート第 2 回</p> <p>第 10 回 項目 10. 近代的信用制度 内容 現代の銀行は利子つき資本(金貸し)と根本的に異なったものであり、決済制度と「信用」に基づくものである。この特質を示す。</p> <p>第 11 回 項目 11. 産業資本 内容 製造業や農業を担う資本を産業資本と呼ぶ。その動作原理や生存の条件を示し、資本主義の基本的な特性を検討する。</p> <p>第 12 回 項目 12. 資本による生産 内容 資本による生産は、著しい特質を持つ。この特質を資本の動作原理から説明する。</p> <p>第 13 回 項目 13. 調整と再生産 内容 資本による生産が実際に需要と供給の関係を通じて、どのように調整されるか、あるいはそれが維持され続けるかを説明する。</p> <p>第 14 回 項目 14. 資本蓄積 内容 利潤の再投資による資本の膨張を資本蓄積というが、資本蓄積が労働供給との間に持つ緊張関係を説明する。</p> <p>第 15 回 項目 15. 競争と技術変化 内容 技術変化は資本蓄積、物価・景気に影響を与える。ここでは、そうした影響が全体としての資本主義の状況に与える影響を考察する。授業外指示 レポート第 3 回</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席を質問票でチェックしています。欠席は 3 回までとします。評価は定期試験中心(70%)程度。レポート(宿題)30%で、質問票を読んだ人は 1 回 2.5 点を加えます。試験の形式は論述式です。</p>					

- 教科書・参考書 教科書：プリントを授業時に配布します。
- メッセージ 内容は経済理論としては平易な方だと思います。しっかり授業に出ていれば、誰でも理解できます。
- 連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	経済理論史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中尾訓生				

- 授業の概要 経済科学の形成過程で捨象されていったものを経済理論に取り込む。よって現代社会の分析に有効な理論を構築する。まずスミス、リカード、マルサス、マルクスを紹介する。マルサスの人口論、ケネーの自然論は現代的観点から、すなわち生態系保護の視点から重要である。生態系の破壊をもたらした市場経済の特質を説明する。講義は人間復興を唱えるものである。

開設科目	計量経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	野村淳一				

●授業の概要 計量経済学 II では、計量経済学 I で学んだ重回帰分析について復習し、その応用である連立方程式モデルについて学習する。現実の経済を理解するためには、様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する必要があり、その記述方法のひとつが連立方程式モデルである。本講義では、マクロ経済学の IS-LM 分析を例にステップ毎に解説する。また、計量経済学では実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるため、平行してパソコン (EXCEL) を用いた具体的な実習を行う予定である。

●授業の一般目標 様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する方法を理解し、実際に自分で分析できるようにする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：連立方程式モデルの分析に必要な計量経済学の理論を理解している。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：分からないところを積極的に質問する。技能・表現の観点：統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●授業の計画 (全体) 1. 重回帰分析 2. 同時方程式モデル 3. シミュレーション分析

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価、前回試験結果の分析
- 第 2 回 項目 統計学の復習 内容 シグマ演算、期待値、仮説検定
- 第 3 回 項目 重回帰分析の復習 (1) 内容 最小 2 乗法、決定係数、t 値、F 値
- 第 4 回 項目 重回帰分析の復習 (2) 内容 DW 統計量、系列相関、不均一分散
- 第 5 回 項目 重回帰分析の演習 (1) 内容 EXCEL の使い方、重回帰分析
- 第 6 回 項目 重回帰分析の演習 (2) 内容 重回帰モデルの評価方法
- 第 7 回 項目 同時方程式モデル (1) 内容 識別性、誘導型、間接最小 2 乗法
- 第 8 回 項目 同時方程式モデル (2) 内容 2 段階最小 2 乗法、モデルの解法、政策シミュレーション
- 第 9 回 項目 同時方程式モデルの演習 (1) 内容 国内総生産の決定、IS-LM モデル
- 第 10 回 項目 同時方程式モデルの演習 (2) 内容 消費関数、投資関数
- 第 11 回 項目 同時方程式モデルの演習 (3) 内容 輸入関数、為替レート、金融市場
- 第 12 回 項目 同時方程式モデルの演習 (4) 内容 トータル・テスト、ファイナル・テスト
- 第 13 回 項目 同時方程式モデルの演習 (5) 内容 政策シミュレーション
- 第 14 回 項目 予備 内容 予備
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

●成績評価方法 (総合) 期末試験と提出レポートによって判定する。ただし、講義毎の質問書などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験 40 %、レポート 40 %、質問書 20 %。

●教科書・参考書 教科書：『日本経済：実証分析のすすめ』, 小川一夫・得津一郎, 有斐閣ブックス, 2002 年 / 参考書：『計量経済学』, 山本拓, 新世社, 1995 年

●メッセージ パソコン (WINDOWS) の起動・終了、日本語入力、ファイルの管理ができるということを前提として講義をする。本講義は基盤科目と経済統計学の単位取得を条件とする科目なので注意すること (制度上、条件を満たさない者の単位認定は出来ません)。統計学・計量経済学の分析手法についての解説は最小限に留めるので、受講者を計量経済学 I の単位取得者に限定します。

●連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける (講義中に指示)。

開設科目	経済情報処理概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤井美知子				

●授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算（Excel）の授業を行なう。／検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

●授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト（Excel）の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

●授業の計画（全体） Excelのグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 表計算ソフト（Excel）の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存
- 第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成と印刷 以下、3 回目から 14 回目まで演習問題を行う
- 第 3 回 項目 統計関数（AVERAGE、MAX、MIN）、書式設定、グラフ作成
- 第 4 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用
- 第 5 回 項目 順位付け、数学/三角関数
- 第 6 回 項目 並べ替え
- 第 7 回 項目 論理関数
- 第 8 回 項目 検索行列関数
- 第 9 回 項目 データベース関数
- 第 10 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用
- 第 11 回 項目 分析ツールの利用
- 第 12 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用
- 第 13 回 項目 回帰分析、ゴールシークの利用
- 第 14 回 項目 ソルバーの利用
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

●教科書・参考書 教科書：30 時間でマスター Excel 2002, 小倉俊悦他, 実教出版, 2002 年；教科書の購入について 1 回目の授業時間に指示します。また教科書以外の練習問題も行います。／参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

●メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目は出席してください。レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補っておいってください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェックを行ないます。

●連絡先・オフィスアワー E-mail：fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済情報処理概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤井美知子				

●授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。／検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

●授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

●授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 表計算ソフト (Excel) の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存

第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成と印刷 以下、3 回目から 14 回目まで演習問題を行う。

第 3 回 項目 統計関数 (AVERAGE、MAX、MIN)、書式設定、グラフ作成

第 4 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用

第 5 回 項目 順位付け、数学/三角関数

第 6 回 項目 並べ替え

第 7 回 項目 論理関数

第 8 回 項目 検索行列関数

第 9 回 項目 データベース関数

第 10 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用

第 11 回 項目 分析ツールの利用

第 12 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用

第 13 回 項目 回帰分析、ゴールシークの利用

第 14 回 項目 ソルバーの利用

第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) 定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

●教科書・参考書 教科書：30 時間でマスター Excel 2002, 小倉俊悦, 実教出版, 2002 年; 教科書の購入について 1 回目の授業時間に指示します。また、教科書以外の練習問題もします。／参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

●メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席してください。レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って 置いてください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェックを行いません。

●連絡先・オフィスアワー E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	数理経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柏木芳美				

●授業の概要 権利の価格であるオプション価格に理論価格を与えたブラック・ショールズ方程式を理解するための数学の概説とブラック・ショールズ方程式の簡単な応用を説明する。ブラック・ショールズ方程式は金融工学の重要なトピックである。簡単ではない。数学的予備知識(最低微分の知識)がない人には無理である。

●授業の一般目標 微分, 積分, 確率, 偏微分方程式などの基本事項を身につけ, ブラック・ショールズ微分方程式の意味を理解し, 簡単な計算ができること。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 微分と積分の基礎 2. 簡単な常微分方程式 3. 簡単な偏微分方程式 4. 確率の基礎 5. オプション価格の意味 6. ブラック・ショールズ方程式の適用 関心・意欲の観点: 1. 経済現象を数理的に捉えることに関心があること。

●授業の計画(全体) 最初にオプション価格の意味を説明し, ブラック・ショールズ微分方程式の解を適用して具体的なオプション価格の計算方法を説明する。次に, 微分, 積分, 微分方程式, 確率の基本的なことを説明し, ブラック・ショールズ微分方程式のたて方と解き方を説明する。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ブラック・ショールズ微分方程式・その 1 内容 オプション価格の意味とブラック・ショールズ微分方程式の解の説明
- 第 2 回 項目 ブラック・ショールズ微分方程式・その 2 内容 ブラック・ショールズ微分方程式の解を適用してオプション価格を決める。
- 第 3 回 項目 微分・その 1 内容 微分の計算
- 第 4 回 項目 微分・その 2 内容 偏微分の計算
- 第 5 回 項目 積分・その 1 内容 定積分の説明
- 第 6 回 項目 積分・その 2 内容 不定積分の計算
- 第 7 回 項目 積分・その 3 内容 定積分の計算
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 簡単な微分方程式 内容 定数係数 2 階
- 第 10 回 項目 偏微分方程式・その 1 内容 熱伝導方程式
- 第 11 回 項目 偏微分方程式・その 2 内容 重ね合わせ
- 第 12 回 項目 確率の基礎
- 第 13 回 項目 伊藤のレンマ
- 第 14 回 項目 ブラック・ショールズ微分方程式
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法(総合) 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。出席状況を加味する。小テストは成績には無関係。

●教科書・参考書 教科書: 金融・証券のためのブラック・ショールズ微分方程式, 石村貞夫・石村園子, 東京図書, 1999 年; 生協で販売する。

●メッセージ 微分(共通教育の数学概論かまたは経済数学 I)を全く知らない人は受講しても無駄である。遅刻欠席をしないように。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済数学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柏木芳美				

●授業の概要 この講義の目的はミクロ経済学で使われている数学の概説である。具体的には、2変数関数の取り扱いに慣れ、効用最大化問題・支出最小化問題を解いて需要を数学的に定めることである。一部ではあるが、国家公務員 I 種、II 種、地方公務員上級試験の問題も簡単に解説する。内容は必ずしも易しくない。共通教育の数学概論程度の予備知識は必要である。この講義を取ることで自分の経済学の幅が広がる。

●授業の一般目標 ミクロ経済学の理解に必要な数学を身につけること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 具体的な関数の偏導関数が計算できる。2. ヘッセ行列式と縁付きヘッセ行列式の計算ができる。3. 効用最大化問題・支出最小化問題を解くことができる。思考・判断の観点：1. 経済現象を数学を使って考えることができる。関心・意欲の観点：1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

●授業の計画（全体）最初に 1 変数関数の微分を復習し、次に多変数関数の微分の計算練習をする。また、必要最低限の行列式の計算方法を説明する。道具としてはこれでそろそろ。次に最大化問題・最小化問題を説明する。次に、陰関数定理の応用して無差別曲線と限界代替率を説明する。以上の準備の下で効用最大化問題・支出最小化問題の解法とこれらの解のミクロ経済学における意味を説明する。時間の許す範囲内で国家公務員、地方公務員上級試験の関連問題の解説をする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分 その 1 内容 基本的関数の導関数。小テスト
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分 その 2 内容 合成関数の微分の練習。小テスト
- 第 3 回 項目 偏微分 その 1 内容 多変数関数，偏微分。小テスト
- 第 4 回 項目 偏微分 その 2 内容 偏微分の計算練習。小テスト
- 第 5 回 項目 全微分，Chain rule 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 オイラーの同次関数の公式とその応用 内容 小テスト
- 第 7 回 項目 最大・最小問題 その 1 内容 最大・最小の必要条件。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 最大・最小問題 その 2 内容 弾力性，特に需要の価格弾力性。小テスト
- 第 10 回 項目 最大・最小問題 その 3 内容 最大・最小の十分条件，ヘッセ行列。小テスト
- 第 11 回 項目 陰関数定理 内容 無差別曲線，限界代替率。小テスト
- 第 12 回 項目 効用最大化問題，支出最小化問題 内容 条件付き最大最小問題。小テスト
- 第 13 回 項目 効用最大化問題，支出最小化問題の必要条件 内容 ラグランジュの未定乗数法。小テスト
- 第 14 回 項目 効用最大化問題・支出最小化問題の十分条件 内容 2 階の条件。小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合）中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、授業内容の理解の確認で、成績とは無関係である。遅刻・欠席をしないように。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

●教科書・参考書 教科書：経済数学 I 第 3 版，柏木 芳美，2004 年；生協で販売する。

●メッセージ 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	産業連関論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中谷孝久				

●授業の概要 企業は他の企業などと様々な取引を行っている。これらの企業間の取引を産業別にグループ化し、産業間の取引を核として経済全体の分析を行う方法が産業連関分析である。講義では、産業連関表を初めとして産業連関分析の基本的事項について説明する。／検索キーワード 産業連関表、投入・産出分析、レオンティエフ

●授業の一般目標 産業間の取引を核として経済活動全体を記述したものが「産業連関表」である。まず、産業連関表の構造や役割を理解する。次に、基本的な産業連関モデルを理解し、産業連関表を利用した基本的な産業連関分析を理解する。このような理解を通じてさらに経済活動の構造や仕組み全体に関する理解を深める。

●授業の計画（全体） 講義項目を次の基本的事項について行う。 ・産業連関表 ・産業連関分析  
 ・地域産業連関分析 産業連関分析では、理論的な側面と実証的な側面とを併せ持つ。この講義では、実証的な側面に重点を置き、可能であれば、PCによる実習も一部に取り入れる。講義の最初の段階では、基本的事項を丁寧に解説する。講義の理解を助けるプリントを配布し、理解を確認する小テストを随時行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済活動と産業連関
- 第 2 回 項目 投入・産出関係
- 第 3 回 項目 産業連関表
- 第 4 回 項目 産業連関表の構造
- 第 5 回 項目 投入構造と販路構造
- 第 6 回 項目 付加価値構造と最終需要構造
- 第 7 回 項目 産業連関データ
- 第 8 回 項目 中間テスト
- 第 9 回 項目 産業連関モデル
- 第 10 回 項目 生産誘発モデル
- 第 11 回 項目 波及効果分析
- 第 12 回 項目 Excel 演習
- 第 13 回 項目 地域産業連関モデル
- 第 14 回 項目 地域波及効果分析
- 第 15 回 項目 定期試験

●成績評価方法（総合） 出席（講義態度を含めて）、小テスト、定期試験などを総合的に判断して、単位認定・成績評価を行う。

●教科書・参考書 教科書：特に指定しない。講義でプリントを配布する。／参考書：産業連関分析入門、宮沢健一、日本経済新聞社（日経文庫 227）、1995 年；参考書は下記以外にも講義中に紹介する。

●メッセージ 必ずしも必須ではないが、PC と Excel の基本的操作はマスターしておくことが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー 質問があれば、講義の終わった後、時間を取ります。

開設科目	景気循環論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	馬田哲次				

●授業の概要 景気循環がおこる仕組みについて説明する。最近の日本経済のデータをみながら、現実的な理論を考える。併せて、日本経済が停滞を続ける原因とその解決策について探してみたい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 景気循環論とは
- 第 2 回 項目 GDP について（復習）
- 第 3 回 項目 景気循環の基本モデル
- 第 4 回 項目 在庫投資の決定
- 第 5 回 項目 差分方程式の基本的な解法（1）
- 第 6 回 項目 差分方程式の基本的な解法（2）
- 第 7 回 項目 消費の決定（1）
- 第 8 回 項目 消費の決定（2）
- 第 9 回 項目 消費の決定（3）
- 第 10 回 項目 設備投資の決定（1）
- 第 11 回 項目 設備投資の決定（2）
- 第 12 回 項目 景気循環モデル分析（1）
- 第 13 回 項目 景気循環モデル分析（2）
- 第 14 回 項目 景気循環モデル分析（3）
- 第 15 回 項目 まとめ

●連絡先・オフィスアワー [umada@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:umada@yamaguchi-u.ac.jp)



開設科目	経済政策総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	塚田広人				

●授業の概要 今、日本と世界の経済とそれを取り巻く社会は大きく変わりつつあります。(たとえば、1990年前後の冷戦体制の終了、1980年代以降の世界の急速なボーダーレス化などを想起してください。)この変化の過程では政府の行う経済政策が大きな役割を果たしています。それは国民の望む社会を実現するための強力な手段となります。その使い方次第で、私たちの社会は大きく変わっていきます。なかでも今、先進工業化諸国では、これまで試みられてきた政府の政策のあり方が強い関心を持って問い直されています。(たとえば政府の財政赤字の拡大傾向、公共事業に対する批判、郵政事業民営化、国立大学の法人化などの動きを想起してください。)これらの問題を考えるための第一歩として、この講義では政府の経済政策とはそもそも何か。なぜ生まれてきたのか。何を対象とするのか。何を指すべきなのか。どのような手段があるのか。どのような問題が残されているのか、などの基本的な問題について考えます。／検索キーワード 社会システム、市場経済、効率性、公正性、慈恵性

●授業の一般目標 概要に示した基本的論点について考えることで、日本を含む先進工業化諸国が今後進んでいくべき道を考える手がかりを得ることを目指します。

●授業の計画(全体) 次の順で考えていきます。○経済の基本的仕組みは生産と分配である。では、今、そこで何が問題となっているのか? ○ここでは分配ルールが特に重要となっているがそれはなぜか? ○分配ルールはどんな風に、誰によって作られるのか? ○分配ルールは何を目指して作られるのか? ○分配ルールは誰のためのものなのか? ○自然資源はどのように分けたいのか? ○労働成果はどのように分けたいのか? まずは働いている人の中でどのように?(公正性を基準として考えます。) ○労働成果は、働けない人にどのように分けたいのか?(慈恵性を基準として考えます。) 加えて、余裕があれば、こうした検討を元に、現在の日本で問題となっている経済政策上の課題について触れてみたいと思います。(日本経済の不況脱出策、空洞化対策、新しい国際的協力政策などがトピックとなります。)

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1・2 回 経済体制 と政策目的
- 第 2 回 項目 3・4 回 市場経済 体制と政策目的の 体系
- 第 3 回 項目 5・6 回 分配ルールの決定主体
- 第 4 回 項目 7・8 回 分配ルールの目的主体
- 第 5 回 項目 9・10 回 分配ルールと政策判定基準
- 第 6 回 項目 11・12 回 分配政策 1 (資源分配ルール)
- 第 7 回 項目 13・14 回 分配政策 2 (成果分配ルール (1))
- 第 8 回 項目 15・16 回 分配政策 2 (成果分配ルール (1))
- 第 9 回 項目 17・18 回 分配政策 3 (成果分配ルール (3))
- 第 10 回 項目 19・20 回 分配政策 3 (成果分配ルール (3))
- 第 11 回 項目 21・22 回 資源 分配ルール・事例 研究(土地)
- 第 12 回 項目 23・24 回 資源 分配ルール・事例 研究(教育費)
- 第 13 回 項目 予備
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法(総合) 出席 20% 宿題 40% 期末試験 40%

●教科書・参考書 教科書: 社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂, 1998 年 / 参考書: 講義の終わりのほうで扱う大学の授業料に関する論文は次の HP の「研究業績」から読むことができる。  
<http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/educationfee.htm>

- メッセージ 基本的な思考方法、勉強方法とは、先行者の考えに接し（本を読み）、ノートを取り、それについて考え、その結果を文章にすることです。こうして積み重ねた結果が自分の世界観、社会観、人間観となっていきます。がんばってください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail [ht@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:ht@yamaguchi-u.ac.jp), 電話 5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水：1時半-3時 参考：研究室のHP：<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm>

開設科目	現代日本経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中村 保				

●授業の概要 1. 戦後の日本の経済発展とその過程での経済政策を概観し、それらが現代の日本経済に与えた影響を考える。2. 最も身近な経済である「日本経済」をテーマにして、具体的な経済問題とそれらへの経済学（特にマクロ経済学）的アプローチについて勉強する。3. 現実の日本経済についての理解を深めるとともに、「歴史」と「現実」を十分に認識した上で、「理論」を現実経済を分析するためのツールとして用いることの大切さを勉強していく。4. 可能であれば、現代の日本経済がかかえているさまざまな問題についての解決策についても考察する。／検索キーワード 二重経済、失われた10年、人口減少、少子高齢化

●授業の一般目標 1. まず、日本の経済学部の学生として最低限必要な日本及び日本経済に関する知識を身につける。2. 「印象」「雰囲気」あるいは「噂」といったものではなくて、具体的なデータやその分析に基づいた実体経済の見方を身につける。3. 経済理論によって現実を説明できるかどうかを考え、理論の有用性と同時にその限界についてもきちんと把握した上で、現実経済について議論するための基礎を固める。

●授業の計画（全体）最初に、日本経済の現状・特徴を他の先進諸国との比較を通して明らかにしていきます。次に、現在の日本経済の構造（制度的特徴）や政策のあり方に大きな影響を与えた「戦後」の経済発展及びその過程での経済政策について少し詳しく取り上げます。最後に、日本が現在直面しているさまざまな問題をいくつか取り上げて具体的に考察したいと考えています。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション・国際比較からみた日本経済
- 第 2 回 項目 戦後占領期の日本経済
- 第 3 回 項目 高度経済成長
- 第 4 回 項目 低成長期の日本経済
- 第 5 回 項目 バブル経済から「失われた10年」へ
- 第 6 回 項目 高貯蓄率の光
- 第 7 回 項目 高貯蓄率の影
- 第 8 回 項目 産業政策の特徴
- 第 9 回 項目 財政投融资と公社・公団の役割
- 第 10 回 項目 金融政策の光と影
- 第 11 回 項目 護送船団方式
- 第 12 回 項目 二重経済とは何か？
- 第 13 回 項目 歪んだ二重経済
- 第 14 回 項目 日本経済の将来
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合）学期末試験・レポート・出席等を総合して成績を評価する。

●教科書・参考書 教科書：特になし／参考書：1. 宮崎 勇・本庄 真 著『日本経済図説 第三版』（岩波新書）2. 宮崎 勇・田谷 禎三 著『世界経済図説 第二版』（岩波新書）

●メッセージ 日本のGDPは？一人当たりGDPは？経済成長率は？国民負担率は？等々、日本経済に関する基礎的なことを聞かれて答えられないのは、経済学部の学生として恥ずかしいことだと思いませんか？一緒に勉強しましょう。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：nakamura@econ.kobe-u.ac.jp

開設科目	産業組織論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	箱田昌平				

●授業の概要 本授業は、価格理論（ミクロ経済学）の応用分野である産業組織論を通じて、産業と企業について理論的・実証的に理解することが目的である。企業の戦略と企業間競争を通じて、ミクロとマクロの間にある産業のダイナミズムを明らかにしてゆきたい。／検索キーワード 企業、産業、企業間競争、効率性

●授業の一般目標 伝統的な産業組織論から新しい産業組織論を理解して、日本の産業組織の特色を解明する。この日本の経済システムと日本の競争力及びその変化すべき方向について明らかにする。

●授業の計画（全体） 授業中に小テストを何回か行う。小テストの理解の程度を見ながら、授業の方向を変更することもある。この授業を受講したいと思っている人は、4月から「企業」「産業」に関する新聞記事のスクラップをつくっておくと理解が容易である。なお、自動車産業について具体的例示が多い。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計画と市場機能
- 第 2 回 項目 s-c-p パラダイム
- 第 3 回 項目 諸学派の系譜
- 第 4 回 項目 市場集中と一般集中
- 第 5 回 項目 寡占と価格
- 第 6 回 項目 参入と戦略
- 第 7 回 項目 利潤と市場成果
- 第 8 回 項目 広告と非価格競争
- 第 9 回 項目 RPM と流通系列化
- 第 10 回 項目 再販品と流通問題
- 第 11 回 項目 コングロマリットと多角化
- 第 12 回 項目 独占と社会的費用
- 第 13 回 項目 日本の独禁政策
- 第 14 回 項目 新産業創出とクラスター計画
- 第 15 回 項目 テスト（記述式）

●成績評価方法（総合） 小テストと最終テストで評価する。なお、最終テストはユニークな提案、指摘を高く評価する。

●教科書・参考書 教科書：新庄浩二『産業組織論』新版、有斐閣

●メッセージ 授業中に新聞のスクラップをもとに質問・議論が欲しい。

●備考 集中授業

開設科目	金融経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	兵藤 隆				

●**授業の概要** この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としています。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明しうるのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えています。もちろん、金融に関する理論ですから、その土台となるマクロ経済学やミクロ経済学の知識および数学的分析手法をどうしても避けて通ることはできません。よって、それらのツールを用いることに抵抗感がある学生にはお薦めできません。さらに、自発的・積極的に取り組むことを強く要求します。できるだけ平易に説明をする予定ですし、Eメールでも随時質問を受け付けています。「金融理論」に触れることによって、金融システム改革のあるべき姿および来るべき未来の社会が少しずつ見えてくるのではないのでしょうか。／検索キーワード 金融, 貨幣, 銀行

●**授業の一般目標** 毎日の新聞を読みながら、これからの金融システムの動向について自らのビジョンを構築することができるようになることを目標とします。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 貨幣と金融
- 第 3 回 項目 金融機関と銀行業
- 第 4 回 項目 企業・消費者と金融
- 第 5 回 項目 金融市場と金融資産
- 第 6 回 項目 管理通貨と中央銀行
- 第 7 回 項目 景気変動と金融活動
- 第 8 回 項目 中間テスト 1
- 第 9 回 項目 変貌する金融機関経営
- 第 10 回 項目 国債膨張下の財政と金融
- 第 11 回 項目 金融政策の展開
- 第 12 回 項目 金融行政の転換
- 第 13 回 項目 総まとめ
- 第 14 回 項目 中間テスト 2
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 中間試験 [30 %] 学期末試験 [70 %] 質問などによる講義参加意欲 [+α] 全体で 60 %以上のポイントを獲得した学生に単位を認定します。

●**教科書・参考書** 教科書：現代金融論, 川波洋一・上川孝夫／編, 有斐閣, 2004 年

●**メッセージ** この講義用のメーリングリストを運営します。質問や要望など遠慮なく寄せてください。

●**連絡先・オフィスアワー** thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融システム論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	貞木展生				

- 授業の概要 わが国では、「金融革新」が主張され、「金融制度」が大幅に変革してきている。たとえば、銀行業と証券業の間に存在していた「垣根」が徐々に除去されてきている。また、郵便局が郵政公社へと変革し、更には、保険業の他の分野との境界線が薄れて、金融関連業界は「相互乗り入れ」をして、「金融の自由化」が形式的に完成の域へ到達しようとしている。それではわが国の金融システムはどこへ行くのであろうか。「間接金融方式」の金融システムを特徴とするわが国の金融システムはどのようなのであろうか。「直接金融方式」への転換はどのようなになるのであろうか。「金融政策」による効果をどのようにして評価すればよいのであろうか。戦後のわが国の金融システムの推移を「資金循環勘定」を通じて実証的に検討するとともに、金融システムの変革が金融政策の効果へどのような影響をもたらすのであろうかという理論的な検討をする。
- 授業の一般目標 マクロ経済学の一般的な理解の下に、LM 曲線の意義を再検討する。「直接金融方式」の下での LM 曲線と「間接金融方式」の下での LM 曲線は異なるのであろうか、それとも同種と考えてよいのであろうか。この検討をするために、「資金循環勘定」の説明を通じて、金融システムの実証的分析を展開する。それは戦後の日本経済の展開過程の説明になるであろう。すなわち、高度経済成長期、ニクソンショックとオイルショックによる低迷期、バブル経済の展開と崩壊、それに伴うデフレ経済の進行、これらの典型的な事態を金融の側面から検討する。特に 80 年代以降の「金融革新の進行」には特別な注目が必要であろう。「所得倍増計画」、「人為的低金利政策」、「総需要管理政策」、「所得政策」、「インフレターゲット論」等々、さまざまな経済政策が提示され、そして実施されてきた。すべてについて講義はできないが、必要に応じて理論的・実証的に説明したい。
- 授業の計画(全体) (1) マクロ経済学の復習:特に IS-LM 分析について (2) 「貨幣供給の外生性」と財政収支 (3) 「所得循環」と「資金循環」の意義 (4) 「資金循環勘定」の説明 (5) 資金循環の実証的分析:金融システムの実体 (6) 「金融政策」のあり方 (7) 日本経済の将来展望 これらの項目を講義する予定です。学生諸君の理解度に応じて講義の進捗速度は不定です。ノート講義をするので、しっかりメモをしてください。
- 成績評価方法(総合) 主として、期末テストにより評価する。
- 教科書・参考書 教科書: 『所得循環と資金循環』, 貞木展生, 日本経済評論社, 1999 年; 在庫が存在しない場合は、教科書を指定せず。
- メッセージ マクロ経済学についての知識があることを前提に講義をします。「資金循環勘定」のデータは、日本銀行の HP から入手できます。インターネットで確認してください。

開設科目	公共政策論 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	仲間瑞樹				

- 授業の概要 新聞を見れば社会保障、公債、課税をめぐる諸問題が毎日取り上げられています。この講義ではミクロ経済学、マクロ経済学を利用して公的年金、公債発行の経済効果、経済成長と政府の政策関係の3点について勉強します。／検索キーワード 年金の経済効果、公債の経済効果、経済成長と政策
- 授業の一般目標 ミクロ経済学・マクロ経済学を利用して、財政関連の問題を理論的に考えられるようにすること。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的知識を身につけていること。  
思考・判断の観点： ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を財政問題の分析のために利用できること。
- 授業の計画（全体） 講義ノートに従って講義します。 またパワーポイントなどを適宜利用します。  
更に宿題をやってもらい、提出してもらいます。
- 成績評価方法（総合） 宿題提出と前期末試験のみで評価。 出席は全く考慮しません。
- 教科書・参考書 参考書： 現代経済学入門 財政第2版, 井堀 利宏, 岩波書店, 2002年
- メッセージ 政府の政策へのミクロ経済学やマクロ経済学理論の応用に興味ある方、受講をお待ちしています。なおこの講義は「各論1」です。従って「財政学」の4単位を取得していなければ単位認定できません。また講義内容は数学を利用するため、意欲ある方でなければ長続きしない科目です。
- 連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本財政論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	仲間瑞樹				

●授業の概要 政府は日本の景気が回復しつつある、財政赤字にも目処をつけると言っていますが、景気も財政も厳しい状態です。それらは新聞・ニュースで見聞きますが、内容は専門用語が邪魔することもあってか、難しい印象を持つのではないのでしょうか。そこでこの講義では新聞・ニュースで見聞きする財政問題を理解するために必要な知識、考え方を講義します。

●授業の一般目標 新聞・ニュースで解説される財政関連のお話を理解できるようにすること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：講義で財政関連の用語や日本財政の姿を理解すること。 思考・判断の観点：日本財政の抱える問題が、将来の自分にどのように関係するか考えること。

●授業の計画（全体） 講義ノートに従って講義します。 なお講義に際してはパワーポイント、板書の双方を利用します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 項目日

●成績評価方法（総合） 中間試験と後期末試験の 2 回のみで評価。 出席は全く考慮しません。

●教科書・参考書 参考書： 図説 日本の財政（平成 1 6 年度版）, , 東洋経済新報社, 2004 年

●メッセージ ニュースで見聞きする日本財政、政治と財政の諸問題について興味のある方を歓迎します。また、これらの問題を経済学（特にミクロ経済学やマクロ経済学）の知識を利用して考えてみたい方も歓迎します。もちろん講義時間内の皆さんからの質問も受け付けます。

●連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	地域経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	吉村弘				

●授業の概要 問題意識を育て、出来るだけ具体的な作業を通じて「地域経済」を実感として把握し、地域経済を見る目を養う。したがって、問題提起を行うが、さらに自分で問題を見いだす訓練、また、身近なデータを自分で直接に扱うことによって、問題を理解し、他人に自分の理解を説明することに資する授業としたい。自分の古里を考えるきっかけにしたい。／検索キーワード 地域経済、都市経済、古里、地域活性化

●授業の一般目標 問題意識を育てる。自分で調べる実証性を身につける。自分の考えを形成する。自分の考えを他人に理解してもらう訓練をする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：地域経済についての考え方を学ぶ。思考・判断の観点：自分の考えを形成する。関心・意欲の観点：問題意識を育てる。態度の観点：自分で調べる実証精神を養う。技能・表現の観点：自分の考えを、人前で発表して、理解してもらう。その他の観点：何事にも、積極的に取り組む。

●授業の計画（全体） シラバスにそって、講義を行う。適宜、レポートを求める。新聞切り抜き帳を作る。レポートおよび新聞切り抜きについて、人の前で、発表する。発表について、ディスカッションする。新聞切り抜きとレポートを提出しておけば、自然に最終レポートができるようにしてあるので、日頃の作業をよくしておけば、楽しんでいるうちに、地域経済へのアプローチの仕方が身に付く。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 1. はじめに（講義のねらい、概要、注意事項など）、持続的経済発展における都市と産業の現代的意義 授業外指示 新聞切り抜きについて、注意事項を説明する。レポート提出について、その仕方及び予定を説明する。

第 2 回 項目 2. 地域経済発展の実態と背景（その 1）

第 3 回 項目 3. 地域経済発展の実態と背景（その 2）

第 4 回 項目 4. 地域経済と付加価値生産性（その 1）

第 5 回 項目 5. 地域経済と付加価値生産性（その 2）

第 6 回 項目 6. 経済発展と産業構造の傾向性（その 1）

第 7 回 項目 7. 経済発展と産業構造の傾向性（その 2）

第 8 回 項目 8. 地域における経済発展と産業構造（その 1）

第 9 回 項目 9. 地域における経済発展と産業構造（その 2）

第 10 回 項目 10. 経済発展・サービス経済化・都市（その 1）

第 11 回 項目 11. 経済発展・サービス経済化・都市（その 2）

第 12 回 項目 12. 市町村合併と地域（その 1）

第 13 回 項目 13. 市町村合併と地域（その 2）

第 14 回 項目 14. 市町村合併と地域（その 3）

第 15 回 項目 15. おわりに（地域経済と地域政策についての展望、残された課題）

●成績評価方法（総合）出席、レポート、新聞切り抜き帳、発表、ディスカッションなど日常の状況を重視する。いわゆる中間試験・期末試験は行わず、最終レポートに代える。出席が一定水準を満たさないものは、単位を認定しない。最終レポートを提出しないものは、単位を認定しない。成績評価について、詳しくは授業中に文書を配布する。

●教科書・参考書 教科書：資料は多量となるが、授業のとき配布する。／参考書：最適都市規模と市町村合併、吉村弘、東洋経済新報社、1999 年；地域政策の道標、吉村弘・他、ぎょうせい、2002 年；参考書は必要に応じて、示す。

- メッセージ レポートなど、データ収集処理の具体的な作業を通じて、地域経済への勘を養う。したがって、パソコンで作図作表をすることを、是非実行して欲しい。新聞等によって、問題意識を養って欲しい。レポートによって、授業外の作業を十分してもら う予定である。このような作業を重視する。また、図表資料を沢山配布するが、授 業に欠席すると、これら図表を見ても理解できない。以前に「資料が理解できない」という学生がいたので、面接してみると、出席が半分程度であった。これでは 理解できない。きめられた作業をしておれば、授業が終わったときには、きっと、何か、今まで無かったものを得ているでしょう。しかし、その作業をしない人は得 るところはないでしょう。日常の作業を重視します。
- 連絡先・オフィスアワー e-mail：yosimura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 12：50－14：10

開設科目	地域計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	佐藤俊雄				

●授業の概要 地域開発の動向を産業、都市機能、地域政策等の側面から分析すると共に、今後の地域開発のあり方について、都市空間、インフラ、環境、文化などの観点も加えて、紹介する。世界及び日本の地域開発の実例については、スライドなどによりビジュアルな紹介を行い、理解を深める。／検索キーワード 都市圏 都市機能 都市再生 国土計画

●授業の一般目標 (1) 都市・産業立地政策の動向を理解する。 (2) 都市圏や都市機能について理解する。 (3) 都市の再構築の考え方について理解する。 (4) 国土計画の考え方について理解する。 (5) 世界の地域開発の実例から文化的視点による都市政策の重要性を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 都市政策，産業立地政策の変遷について理解する。 2. 都市機能の内容と分析方法を理解する。 3. 都市再生の方法について理解する。 4. 国土計画の変遷について理解する。 思考・判断の観点： 1. 広域的な地域経営が必要であることが指摘できる。 2. 今日の都市再生の必要性が指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 現実の都市や地域の動向について関心を深め，現象・動向とその原因についての分析ができる。 態度の観点： 1. 自分が関わっている地域をより良くするために主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 1. 地域の動向について総合的な判断・評価ができる。

●授業の計画（全体） 我が国における都市と産業立地政策の動向を概観した後に，都市圏計画，都市の再構築，国土計画・広域計画について講義する。我が国と世界における地域開発の事例紹介については，スライドによるビジュアルな紹介であり，講義の間に挟んで行うこととする。講義は夏休み前後に集中講義として実施する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- |        |    |             |    |                                    |
|--------|----|-------------|----|------------------------------------|
| 第 1 回  | 項目 | オリエンテーション   | 内容 | 担当教員の紹介，授業の目標と進め方，シラバス説明，成績評価の方法   |
| 第 2 回  | 項目 | 産業立地政策      | 内容 | 産業構造の変遷，産業立地政策の変遷 授業記録 配付資料        |
| 第 3 回  | 項目 | 都市政策        | 内容 | 都市政策の変遷，都市型社会における都市政策の視点 授業記録 配付資料 |
| 第 4 回  | 項目 | 都市圏         | 内容 | 発展する地域と停滞する地域，都市圏の定義と階層性 授業記録 配付資料 |
| 第 5 回  | 項目 | 都市機能        | 内容 | 都市機能の分析方法，都市機能の階層性 授業記録 配付資料       |
| 第 6 回  | 項目 | 都市型産業       | 内容 | 都市型産業の主席，都市型産業の立地特性とニーズ 授業記録 配付資料  |
| 第 7 回  | 項目 | 都市構造の変化     | 内容 | 中心市街地の衰退，都心の役割 授業記録 配付資料           |
| 第 8 回  | 項目 | 都市再生        | 内容 | 都市再生の考え方，実例 授業記録 配付資料              |
| 第 9 回  | 項目 | 全国総合開発計画    | 内容 | 全国総合開発計画の変遷と効果 授業記録 配付資料           |
| 第 10 回 | 項目 | 国土計画        | 内容 | 高速道路整備，五全総 授業記録 配付資料               |
| 第 11 回 | 項目 | 瀬戸内海地域      | 内容 | 環境の修復と再生，地域経済の推移，将来像 授業記録 配付資料     |
| 第 12 回 | 項目 | 世界のリゾート都市   | 内容 | 地中海のリゾート地域の開発実例 授業記録 配付資料          |
| 第 13 回 | 項目 | 世界の大都市      | 内容 | 大都市における開発実例 授業記録 配付資料              |
| 第 14 回 | 項目 | 都市再開発プロジェクト | 内容 | 東京などでの都市再開発プロジェクトの実例 授業記録 配付資料     |
| 第 15 回 | 項目 | 欧州の都市再生     | 内容 | 都心再生と交通政策の実例 授業記録 配付資料             |

●成績評価方法（総合） 試験を実施し，それに基づき評価する。

●教科書・参考書 参考書： 都心再生と都市型産業の振興，社団法人 中国地方総合研究センター，社団法人 中国地方総合研究センター，2004 年； 広島都心の戦略・交通戦略，佐藤俊雄他，社団法人 中国地方総合研究センター，2002 年； 広島都心の改革と交通共生，広島都市圏ランドデザイン研究会，社団法人 中国地方総合研究センター，2002 年

●メッセージ 経済と都市機能をベースとして、都市計画や文化などの幅広い観点も含め、産業論と都市論を融合させた授業を行います。

●備考 集中授業

開設科目	地域福祉社会学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	鍋山祥子				

- 授業の概要 地域社会と福祉の関わりについて、高齢者福祉をテーマに考えていく。マスコミによって連日のように「高齢化の危機」が叫ばれている。では一体、高齢化とはわれわれの社会にどのような変化をもたらすのだろうか。本講義では、高齢者のおかれている現状とこれまでの日本の高齢者福祉政策の変遷とを明らかにし、今後「いかなる超高齢社会が目指されているのか」について考察を進める。その際、地域社会の役割変化に着目し、新たなコミュニティのあり方を考える。また、ジェンダー視点を有効な分析手段として使用するため、ジェンダー概念についても詳しく講義する。
- 授業の一般目標 1. 日本の高齢化状況と高齢者の生活を知る 2. 社会政策としての高齢者福祉の成立を理解する 3. 国家・市場・家族・地域と高齢者介護との関連について理解を深める 4. 現行の高齢者福祉政策に関する知識を得る 5. 自分の生きていく社会状況として高齢化を理解する
- 授業の計画(全体) 高齢化の状況・高齢者の生活・社会福祉の概念・福祉国家の成立・近代社会と高齢者観(尊厳死にみる個人と共同体)・日本における高齢者福祉の変遷・地域福祉の展開と動向・高齢者福祉と家族機能・高齢者福祉におけるNPO・高齢者介護とジェンダー・ボランティアと地域福祉・福祉ミックス論・公的介護保険制度・比較福祉国家論などのテーマを毎回設定する。授業では、統計データの提示によって状況の理解を促したり、視覚メディアも利用しながら思考を深めてもらう。
- 成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。
- 教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用せず、必要なデータ等についてはコピーを配布する。／参考書：授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した文献を随時提示する。
- メッセージ 社会の高齢化を「自分の問題」として、当事者意識を持ちながら受講をしてもらうことを望みます。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	経済デモクラシー	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	中尾訓生				

- 授業の概要 政治と市場経済の関連を講義する。国家と市場、民族、社会秩序、基本的人権がキーワードとなっている。近代市民社会の政治システムは市場と密接不可分である。統制経済と市場経済の違いを明らかにし、政治秩序に言及する。

開設科目	ジェンダー論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	鍋山祥子				

●授業の概要 ジェンダー (gender) とは、生物学的な性差を意味するセックス (sex) とは異なり、社会・文化的な性差を意味するもの。私たちは何故、身体的な性差によって当たり前のように、男なら「男らしく」、女なら「女らしく」振る舞っているのだろうか。そこに必然性はあるのか。また、広く社会における男女関係を規定している「性別役割分業」という考え方に、私たちの生き方はどこまでしぼられているのだろうか。本講義では、生活の様々な場面に織り込まれているジェンダー構造を可視的にすることを試み、ジェンダーが私たちの生活や選択に与える影響とその帰結を考察する。／検索キーワード ジェンダー、性別役割分業

●授業の一般目標 ジェンダー論 (授業) の目的 (1) ジェンダー構造とは何か?を知る (2) 自分のなかにあるジェンダー構造を意識化する。 (3) 日常生活 (社会) に潜むジェンダー構造を意識化する。 (4) ジェンダー構造が引き起こす社会問題について理解を深める。 (5) (応用として)「当たり前 (本質的なもの)」とされている様々なものが、実は社会的に作られた物 (社会制度) である、ということを理解する。以上を目標として授業をおこないます。価値観はひとそれぞれですが、その価値観がどのように社会によって創られ、その価値観が再生産されることによって、社会的にどのような問題が発生するのか、について考察・理解してもらおうのが、授業目標達成の最低ラインです。

●授業の計画 (全体) まず、「ジェンダー」とは何か?という基本的な問題意識を共有することから始める。そして、私たちが日常生活をおくっている社会のあらゆる場面に潜んでいる「ジェンダー」について明らかにし、その現状や問題点を自分自身の事柄として考えていく。また、ジェンダー視点を取り入れることで、具体的な日々の社会的経験が、さまざまな領域での「学問」として体系的に研究されてるということをよりリアルに感じてもらいたい。

●成績評価方法 (総合) 出席と課題提出、学期末試験 (授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可) による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート 30 % ・定期試験 70 % とする。

●教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用せず、必要なデータ・資料等についてはコピーを配布する。／参考書：授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した参考文献については適宜提示する。

●メッセージ 本講義は女性学と男性学両方の視点を含むものです。「当たり前」とされていることを「疑う」ことができる社会学的思考を基礎としています。

●連絡先・オフィスアワー E-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	経済史総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	木部和昭				

●授業の概要 本講義では、経済史の概念や方法論、理論などを総体的に取り上げながら、今日に至る経済発展の歴史を取り扱う。特に資本主義成立以前に関しては、主として史的唯物論の観点から見ていく。史的唯物論は、大局的に人類史を見通した最大の経済史理論であるが、近年、その有効性を疑問視したり、批判される点も少なくない。そこで本講義では、その基礎概念の理解とともに、史的唯物論の問題点や批判、新しい経済史の考え方などに関しても取り上げたい。また、近代以降に関しては、資本主義社会の歴史的分析を試みる。現在の我々が暮らす資本主義社会は、どの様に成立・発展し、どの様な特質を有し、そしてそれはどの様な方向に向かおうとしているのか、歴史的な視点から考察してみたい。／検索キーワード 経済史、世界史の発展段階、資本主義社会、史料批判

●授業の一般目標 1. 人類の歴史を経済的側面を中心に大局的に把握する。 2. 経済史を学ぶ上で必要な基本概念である史的唯物論の意義とその問題点、最近の新しい経済史の視角について理解する。 3. 資本主義社会の歴史的特徴を捉える。 4. 経済史を軸としつつ、政治史・文化史・社会史などとの関係についても考察する。 5. 経済史を学ぶ上で必要な方法論（史料批判等）について学ぶ。

●授業の計画（全体） 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。 2, 資本主義社会成立以前の歴史について、経済を基軸に概観する。 3, 資本主義社会の成立とその特質、変容について、歴史的に概観する。 4, 従来の経済史研究理論の問題点と新しい経済史研究の動向について取り上げる。 5, 経済史研究の基本的手法について取り上げる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回	項目	経済史学の特徴と課題	内容	目安として週 2 回分の内容
第 2 回	項目	経済史と史的唯物論		
第 3 回	項目	世界史の発展段階 (1)		
第 4 回	項目	世界史の発展段階 (2)		
第 5 回	項目	世界史の発展段階と日本		
第 6 回	項目	資本主義社会の歴史的特徴		
第 7 回	項目	資本主義社会の形成過程		
第 8 回	項目	資本主義社会の発展と変容		
第 9 回	項目	現代資本主義の歴史と未来像		
第 10 回	項目	史的唯物論の意義と問題点		
第 11 回	項目	新しい経済史の視点 (1)		
第 12 回	項目	新しい経済史の視点 (2)		
第 13 回	項目	経済史の諸問題（経済と戦争、経済と宗教など）		
第 14 回	項目	経済史研究と史料批判		
第 15 回	項目	試験		

●成績評価方法（総合）学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65 %、小レポート 20 %、出席 15 % により成績を評価する。ただし出席の悪い場合は、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

●教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。毎回単元毎に、アウトラインの資料プリントを配布する。／参考書：『経済史入門（新版）』、塩澤 君夫・近藤 哲生、有斐閣、1989 年；『一般経済史』、長岡新吉・石坂昭雄編著、ミネルヴァ書房、1983 年；この他の参考文献は、授業中、適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail；kibe@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	日本経済史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	木部和昭				

●授業の概要 本講義では、日本経済の歴史の中で、封建制から資本主義への移行期に該当する江戸時代（近世、17世紀～19世紀）について取り扱う。日本の近世社会は、幕藩体制という独特の構造を有する封建社会であったが、他方で、高度な商品経済や都市の発展、生産力の大幅な向上など、近代資本主義社会を準備する諸要素を多く内包した社会でもあった。本講義では、そうした近世社会の経済構造について、主として商品経済の展開を軸として取り扱う。その中でも特に、明治維新の主体となった長州藩（萩藩及び支藩）の経済状況について取り上げ、明治維新を展望しながら具体的に検討していきたい。／ 検索キーワード 日本経済史、日本近世史、封建制、海運史、幕末維新

●授業の一般目標 (1) 江戸時代の経済社会の特徴を理解する。(2) 日本における封建社会から近代資本主義社会への移行の過程を理解する。(3) 明治維新の主体勢力であった長州藩の経済構造を通じて、地域の歴史に関する理解を深める。

●授業の計画（全体） 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。2, 江戸時代は、現代資本主義社会の前段階に当たる封建制の時代であったが、この時代の特徴について生産・流通や市場構造の側面から総体的に取り上げる。3, 江戸時代の商品経済の発展について、海運史の側面から取り上げる。4, 幕末期の長州藩の経済状況について概観し、維新の原動力となった背景を考察する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近世期の経済史的な位置づけ
- 第 2 回 項目 封建制と日本の近世
- 第 3 回 項目 近世期の経済発展 (1) 広がる耕地と人口増大
- 第 4 回 項目 近世期の経済発展 (2) 領主権力の後退
- 第 5 回 項目 近世期の市場構造 (1) 幕藩制下の社会的分業と藩領域経済圏
- 第 6 回 項目 近世期の市場構造 (2) 三都＝中央市場の経済
- 第 7 回 項目 近世期の地域間循環構造
- 第 8 回 項目 鎖国と対外貿易
- 第 9 回 項目 近世後期における地方市場の発達～港町下関の発達～
- 第 10 回 項目 近世海運の発達 (1) 幕藩体制と海運業
- 第 11 回 項目 近世海運の発達 (2) 廻船活動の諸様相
- 第 12 回 項目 近世海運の発達 (3) 長州地域の海運業
- 第 13 回 項目 幕末期長州地域の経済状況
- 第 14 回 項目 明治維新への展望
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65 %、小レポート 20 %、出席 15 % により成績を評価する。ただし出席の悪い場合は、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

●教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。資料プリントを毎回配布する。／参考書：参考文献については、講義の中で適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋経済史 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古賀大介				

●授業の概要 本講義の名称は「西洋経済史」ですが、本講義は単に「西洋の経済の歴史」を紹介するものではありません。もっとも西洋（欧米）の話がメインとなりますが、本講義では、資本主義の発展の歴史をよりグローバルな視点から紹介していきたいと思ひます。また、歴史を手がかりに、長期的視点に立って、世界経済の今後や日本経済の将来について皆さんと一緒に考えてみたいと思ひます。／検索キーワード 資本主義・工業化・イギリス・多角的貿易決済機構・世界恐慌・ケインズ

●授業の一般目標 1. 現代の資本主義社会が、どのような歴史の変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。 2. 歴史(経済史)をツールとして、長期かつグローバルな視点から、資本主義の今後、日本経済の将来について展望する。

●授業の計画(全体) 第一週 オリエンテーション 第二週 世界経済を歴史的に把握する二つの理論 第三週 キリスト教と中世ヨーロッパ世界 第四週 産業資本家のご先祖様探し 第五週 世界で最初の工業化 第六週 世界に広がる工業化 第七週 100年前のグローバル経済 第八週 みなさんから寄せられた質問への答え 第九週 中間テスト 第十週 第一次世界大戦のインパクト 第十一週 世界恐慌とその克服 第十二週 高度成長と社会主義 第十三週 われわれはどこに向かうのか?—まともな代えて 第十四週 みなさんから寄せられた質問への答え その2 第十五週 期末テスト

●成績評価方法(総合) 定期試験100% (本講義では出席を欠格要件にしていません。ただし、出席者には最大30点の出席点を差し上げます。また毎回授業の終わりに出席表を配布し質問・コメントを書いていただくこととなりますが、これも加点の対象となります。まじめに全部出席し、いいコメント・質問を書けば、単位取得はおそらく難しくはないでしょう。)

●教科書・参考書 教科書: 授業ごとにプリントを配布します／参考書: 欧米経済史, 藤瀬浩司, 放送大学教育振興会, 2001年

●メッセージ 中間テスト前までの内容は、共通教育・西洋史(古賀)と重複するところがあります。(もっとも学部の授業なので、やや専門的になっています)昨年、抽選からまれて古賀の共通・西洋史を選択できなかった皆さんの受講を歓迎します。もちろん、昨年古賀の共通・西洋史を既に受講している人、今まで古賀の講義を取っていない方の受講も Great Welcome です。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 A208 電気がついているときはいつでもどうぞ

開設科目	労働経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	濱島清史				

●授業の概要 (1) 企業においてどのように昇進・昇給していくのかを概括し、その過程で如何にキャリア形成(技能の向上の仕方)が行われているのかを学ぶ。(2) いわゆる日本型雇用慣行(終身雇用制、年功序列型賃金、企業別組合など)に関して、一時期、もはや時代遅れであり、これからは成果主義、実力主義の時代であるといわれたが、最近ではむしろ成果主義より日本型の見直しがされてきている。この講義では、そのような社会通念に惑わされずに、統計や学説からもっと根拠のある議論を批判的に吟味する。(3) その他、少子高齢化問題、非正規雇用の増大、フリーターやニートなど若年雇用問題、女性労働、日系企業の海外進出、技能形成と労働組合の歴史的発展段階論などを学ぶ。／検索キーワード キャリア形成(技能形成)／日本的雇用慣行／歴史的発展段階論

●授業の一般目標 ○講義の目標 ・上記(1)を通じて、仕事の遣り甲斐や人生設計について参考となる情報を提供する。・上記(2)によって、社会通念とは異なった角度から把握できる視座を養う(勿論、主張の強制はしない)。・上記(3)を通じて、日本と世界の仕事社会のシステムを理解できるようにする。○授業の到達目標 ・日本型雇用慣行における長期に亘る仕事能力の向上という側面を理解すること。仕事においてはとりわけ変化への対応や現場におけるOJTが重要であることを理解することが目標である。本試験の前に模擬試験をレポートとして提出してもらう予定である。それを添削して返却し、本試験では一切持込不可で望んでもらう。この方式により、上記の内容に関して専門的知識も含めて正確に理解できるようになる。

●授業の計画(全体) ・板書、レジュメ、補足資料などを用いる。・テキストに沿って進めていく。テキスト全13章、講義全26回の予定なので、2回一組とし、主に1回目でテキストの概説、2回目でテキストの批判・吟味と補足を行なう。・大学設置基準では講義1時間に対して予習1時間、復習1時間を当てることとされている。従って、受講生は事前にテキストを読んできて、講義後には参考文献に当たるのが望ましい。・テキストを読むことによって、より内容理解が進む。単に講義を聴いているだけでは、例えどんな優れたベテランの講義であったとしても、十分な理解は覚束ないと思われるからである。・出席を毎回取る。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 講義の概要:「失業率5%の意味と大卒の就職状況」 内容 週2回の講義であるから、第1週目に第2週の前半の内容が実際には入ることに注意。
- 第2回 項目 序説「さまざまな労働者グループ」第1章「知的熟練」 内容 2回目はその補足(以下同様): 完全失業率と有効求人倍率、トヨタ生産方式(日本的雇用の一典型)
- 第3回 項目 第2章「大企業労働者のキャリア」; OJT(実務訓練)とOffJT(研修) 内容 OJTと人事労務管理(配置転換、昇給・昇格)
- 第4回 項目 第3章「大卒ホワイトカラーの人材開発」 内容 職能資格制度ならびに国家公務員のキャリア
- 第5回 項目 第4章「報酬 Pay 一年功賃金か」(年功序列型賃金体系) 内容 日本的雇用慣行ならびに号俸表
- 第6回 項目 第5章「長期雇用と解雇」(終身雇用制) 内容 失業問題と長期雇用制の普遍性の根拠(日米)
- 第7回 項目 第6章「現代の理論」: 人的資本論、内部労働市場論 内容 生活給思想と能力主義・成果主義
- 第8回 項目 第7章「中小企業労働者」 内容 ヴェンチャー企業
- 第9回 項目 第8章「女性労働者」: パートタイム労働者・非正規労働者 内容 コンティンジェント・ワーカーとジェンダー論(フェミニズム)
- 第10回 項目 第9章「高年労働者」:(「出向・転籍」と高齢者問題) 内容 若年労働者失業問題とフリーター
- 第11回 項目 第10章「日本方式の海外通用性」: 日系企業と東南アジアの技能形成 内容 グローバリゼーション・日系企業と中国的雇用慣行

第12回 項目 第11章「働く場での労働組合」 内容 職業別組合(英国)・産別組合(米国)・東アジアの労組

第13回 項目 第12章「マクロの労働経済」:無制限労働供給(ルイス・モデル) 内容 失業と賃金の理論

第14回 項目 第13章「基礎理論と段階論」:労使関係論の歴史理論 内容 宇野段階論とアジア政労使関係論

第15回

- 成績評価方法(総合) 主にレポート(模擬試験)、本試験、それと出席。定期試験(中間・期末試験)▽テストについて・試験は、用語と論述形式。・用語は、例えば、終身雇用制、年功序列型賃金体系、企業別労働組合などを問い、その基本的な意味を1行ほどで説明させるもの。・論述は、多分、日本の雇用慣行とは何かというのが一つ。もう一つは、大卒ホワイトカラーの人材開発、女性労働、フリーター、パートタイム労働など非正規雇用、高齢者雇用、グローバリゼーション下における日本的経営の国際通用性、などいくつか問題を挙げ、その中から選択して1題答える形式のもの。・成績は、日本の雇用慣行に関していえば・可…通念的な内容を書いている場合。・良…テキストの内容の理解が示されている場合・優…テキストの内容の問題点が指摘されており、批判も展開されている場合・(注)テキスト持込可なので、それを上手くまとめれば良は取れる筈である。ただし、限られた時間内でまとめるためには、事前によく読んで自分で要約を作っておかないと十分なものには仕上がらないであろう。・(注)テキストの問題点と批判の展開は、講義中に説明するので、講義にさえ出て内容をある程度理解していれば、十分に取れるような基準に設定するつもりである。・50点 小テスト・授業内レポート・出席票が質問・意見票を兼ねるので、講義の終わりに講義内容の整理と捉えなおしができるように工夫する。宿題・授業外レポート▽レポートについて・レポート課題は、(1)テキストのテーマに沿った内容、あるいは(2)就職希望等の業界・企業について調べたものとする。(1)はそのまま試験勉強につながる。・冬休み明けに提出。・論理的な思考能力と文章表現力を磨くことが、大学で学ぶことで将来最も貴重な財産となることを銘記すべし。25点 授業態度・授業への参加度・出席はポリシーとしては重視しない。大学の講義は主体的に出るものであって強制されて出るものではない。・だが、毎回出席を取る。これは山大学生の卒業率が全国平均に比べかなり低いので、講義に出席する習慣をつけさせ、できるだけ優をとって4年で卒業してほしいからである。ちなみに講義への出席とテストの成績はかなり相関関係がある。・出席票は質問用紙を兼ねる。・25点
- 教科書・参考書 教科書：大卒ホワイトカラーの人材開発, 小池和男編著, 東洋経済新報社, 1991年; 小池和男(1999)『仕事の経済学(第二版)』東洋経済新報社。
- メッセージ 知的好奇心を育みつつ、労働者としての権利意識や誇りの形成にも一助となり、かつ就職や社会に出てからも役立つような講義にできるだけ近づけたいと願っている。
- 連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

# 経営学科

開設科目	経営学総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	長谷川光圀				

●授業の概要 この講義は、企業の経営活動について包括的分析、即ち経営史と経営学史、会社形態、トップ組織と戦略決定、共同決定法、中間組織と管理決定、労務システム、生産システム、財務システム、販売システム、日米生産システムの比較、現場組織等の分析を試み、現代の我が国の企業が直面する問題について解析しうる能力を養うことにある。／検索キーワード 基礎知識の重視、会社形態、戦略とトップ組織、規模の経済、範囲の経済、情報の経済、社会的責任、

●授業の一般目標 経営学の基礎理論レベルの徹底的理解を重点目標にする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：経営学の基礎理論の理解に重点をおく。思考・判断の観点：基礎理論に沿って、問題を正しく分析し、説明できる。関心・意欲の観点：発言を求める。態度の観点：出席を100パーセントとし、質問を提出する。

●授業の計画（全体） 経営学の基礎知識の習得を目差す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学とは何か
- 第 2 回 項目 経営史の概説
- 第 3 回 項目 経営学史の概説：独・米・日の関係
- 第 4 回 項目 会社形態：合名会社の特質と限界
- 第 5 回 項目 会社形態：合資会社の特質と限界
- 第 6 回 項目 会社形態：有限会社の特質と課題
- 第 7 回 項目 会社形態：株式会社の特質と課題
- 第 8 回 項目 トップ組織と意思決定
- 第 9 回 項目 独のトップ組織と共同決定
- 第 10 回 項目 米のトップ組織と戦略決定
- 第 11 回 項目 日のトップ組織と戦略決定
- 第 12 回 項目 労務システム
- 第 13 回 項目 生産システム
- 第 14 回 項目 財務システム
- 第 15 回 項目 マーケティング論

●成績評価方法（総合） 定期試験を基本として、それに出席日数を加える。

●教科書・参考書 教科書：特に、指定しない。、、／参考書：その都度、紹介する。、、

●メッセージ この講義は、出席を重視し、課題の対する学習を義務とし、基礎知識の習得を学生のテーマとする。

開設科目	経営史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	古川澄明				

●授業の概要 歴史に学ばない者は、また現在を知らない。周知の名言です。いま私たちがどのようなビジネス社会に暮らしているかを認識することは、将来の就職先を選ぶ上でも、またビジネスの世界に身を置いて活躍する上でも、非常に重要なことでしょう。現代の企業社会の目まぐるしい変化が、身近には雇用構造の変化に伴う求人態様の変化となって現れています。そうした激変の波に飲み込まれて自分の進むべき進路を見失わないためにも、経営史、つまりビジネス・ヒストリー（Business History）に学ぶ意義は小さくないでしょう。アメリカのハーバード大学で20世紀中葉にビジネス・ヒストリーの教育研究体制が確立された背景には、そうした理由もあるように思います。半世紀を経て、国際ビジネスはますます全世界を巻き込み、各国間の時間・情報・移動の距離を縮め、生態系環境を激変させ、従来の社会を席卷するなかであって、みなさんが自分の進路を見失わないためにも、それに学ぶ意義は、よりいっそう大きくなっています。現在の世界経済を動かし社会の変化に大きな影響力を及ぼしている国際ビジネスの世界では、何が起きているのでしょうか。現在の国際ビジネスの実状に目を向け、その特徴を概観するなかで、国際ビジネスの進化のプロセスを歴史的視点から見つめ直すのが、この講義のテーマです。日本をはじめとする世界の企業・経営システムには、何が起きているのか。何が変化しつつあるのか。そもそも国際ビジネスを展開する企業は、いかなる状況下で歴史的に変貌してきたのか。またどこへ向かって更なる変貌を遂げようとしているのか。現代企業は、大企業だけでなく、中小企業を含めて、どのような方向へ歩もうとしているのか。そうした疑問を解き明かすために、企業と経営の歴史を遡り、現代企業・経営システムを生み出してきた歴史的プロセスを検討することにします。そして、国際ビジネスの更なる進化への方向を展望してみたいと思います。具体的な事例も、とくに自動車産業を中心に取り上げます。／検索キーワード 国際ビジネスの進化、現代企業の系譜

●授業の一般目標 (1) 現代国際ビジネスを展開する企業の事業展開や戦略について、何が問題になっているかを知る。(2) 現代企業が歴史的にどのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。(3) 現代企業の経営戦略と組織がどのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。(4) 現代企業のサバイバル競争とマネジメントの粗問題について、理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに現代企業とそのマネジメントの出現及び進化について、理解を深めること。思考・判断の観点：現代のマネジメントとはどのようなものか。それは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。関心・意欲の観点：企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。態度の観点：授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。技能・表現の観点：積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解を整理し、表明できることが望ましい。その他の観点：講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。

●授業の計画（全体）授業は、一応、以下のような内容を取り扱う予定ですが、状況に応じて、新しい話題やビデオ等を活用した情報等も提供しますので、必ずしも、下記のプログラム通りではありません。1. 現代企業と国際ビジネス (1) 国際ビジネスの実状と歴史的進化のプロセス (2) 現代国際ビジネスと企業をどのように理解すべきか 2. 現代企業の誕生と進化の歴史的プロセス (3) 現代企業誕生への遡源 (4) 現代企業誕生と市場拡大 (5) 新産業の出現と新ビジネス (6) 巨大企業の出現と企業システムの変化 (7) 経営学と経営者 (8) 戦争、革命、恐慌、体制転換と企業 (9) イノベーションとビジネス (10) イノベーションとビッグ・ビジネス誕生 (11) 科学技術と企業 (12) 特許と大企業 (13) 企業の組織的研究開発 (14) 国際技術移転 3. 経営戦略の進化

と組織 4. 市場とマーケティング 5. 経営組織の形成と進化 6. 労務管理の発達と進化 7. 財務管理の発達と進化 8. 経営理念と企業カルチャー

- 成績評価方法 (総合) 期末試験実施 (自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。
- 教科書・参考書 教科書：とくに指定しない。受講ノートを取る。／参考書：その都度、授業の中で、支持する。
- メッセージ グローバル・ビジネスの現状と歴史に関心を持ち、自分がかかるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。
- 連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、随時。



開設科目	新事業創造論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	井上芳郎				

●授業の概要 ベンチャー企業や新規事業を経営するうえで必要不可欠なビジネス・プランを作成する 為に必要な知識を講義と実習を通して紹介する。具体的には 1. ビジネス・プラン作成 に必要な経営理論の講義、2. ビジネス・プラン作成実習、3. 生徒によるビジネス・プランのプレゼンテーションと評価、を行う。なお、本授業は一月あたり 1～2 回開講（1 回の授業時間は 2～3 コマ）である。具体的な日程は別途連絡する。受講希望者はあらかじめ確認しておくこと。／検索キーワード 創業、ベンチャー、新事業、事業計画、ビジネス・プラン

●授業の一般目標 1. ビジネス・プラン作成に必要な経営理論を理解していること。 2. 経営理論を使いながら、自ら考えたアイデアをもとにビジネス・プランを作成する とともに、その内容を第 3 者に発表して理解させることができること。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 経営理論の概要を知る。 思考・判断の観点： 経営理論からビジネス・プランを作成できる。 関心・意欲の観点： 社会環境の変化からビジネス・チャンスを見つけられる。 態度の観点： 主体的に環境要因の変化を捉えたうえで、自らの意志で種々の意志決定を行っていくという態度。 技能・表現の観点： 自らの考えを表現するために必要な技能を駆使できること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 経営理論 (1)

第 3 回 項目 経営理論 (2)

第 4 回 項目 ビジネス・アイデアの考え方

第 5 回 項目 ビジネス・アイデアの発表 (1) 授業外指示 事前にアイデアを考えておくこと。

第 6 回 項目 ビジネス・アイデアの発表 (2)

第 7 回 項目 ビジネス・プラン作成方法

第 8 回 項目 ケース・スタディと実習 (1) 内容 原則 グループ単位でプランを考える

第 9 回 項目 ケース・スタディと実習 (2) 内容 原則 グループ単位でプランを考える

第 10 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション (1) 内容 グループ単位で発表

第 11 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション (2) 内容 グループ単位で発表

第 12 回 項目 ビジネス・プランの修正 (1)

第 13 回 項目 ビジネス・プランの修正 (2)

第 14 回 項目 最終プレゼンテーション

第 15 回 項目 まとめ講義

●成績評価方法 (総合) 1. 出席 2. 授業での発表・質問 3. ビジネス・アイデアの内容 4. ビジネス・プランの内容

●教科書・参考書 教科書： 小さな会社のビジネス・プラン, 井上芳郎, 東洋経済新報社, 2003 年／ 参考書： ビジネスプランの作り方, 青山幸男、井上芳郎他, 中経出版, 2000 年

●メッセージ この授業では、自分でビジネスアイデアを考え、それを計画にまとまる作業を行います。したがって、皆さん自身の「やる気」がないと、授業についてこれません。欠席はもちろんのこと、授業時間以外の努力を惜しんだり、授業中の議論に参加しない学生には、単位を出しません。その点を十分に踏まえた上で、履修するか否かを判断してください。なお、この授業は毎週開講されるわけではなく、1 回あたり 2 コマと 30 分程度の授業を 6 回実施する予定です。月 1 回、場合によって月 1～2 回のペースで開講します。受講希望者は第 1 回目の授業に必ず出席し、授業実施方法等（開講日の確認を含む）を十分理解したうえで受講するようにしてください。

開設科目	労務管理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	庄村長				

●授業の概要 一般に企業や組織体はヒト・モノ・カネから構成されるが、ヒトのみが事業活動を自発的、能動的に展開することができる。労務管理論は、企業や組織体がこのヒトすなわち労働力=人的資源をどのように雇用し、活用して、事業活動を行い、組織目標を達成するか、そしてその過程を通して労働者の欲求はどのように満たされるか、こうしたヒトに関わる人事労務の基本問題を日本の実情にふれつつ考察する。

●授業の一般目標 講義内容を通して、人事労務管理・人的資源管理の基礎知識の習得、及び、日本の人事労務管理の実際とそこでの問題について理解を深めることを基本目標とする。

●授業の計画(全体) 全体の授業計画としては、前半を基本的には「人事労務管理の総論部分」として、後半の「各論部分」の前提となるような基本事項を取り上げ、後半で「人事労務管理の各論部分(個別の問題領域)」を取り上げる予定。なお、最初の授業時間に本年度の講義のアウトライン(講義の目的、構成、進め方、テキスト・参考書、試験等)について説明する。

●授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 人事労務の概念
- 第 2 回 項目 1. 人事労務の概念(続)
- 第 3 回 項目 2. 人事労務の発展
- 第 4 回 項目 3. 日本の企業と経営者 (1) 民間大企業と経営者
- 第 5 回 項目 3. 日本の企業と経営者 (2) 中小企業 (3) 公共部門
- 第 6 回 項目 4. 日本の労働者と労働組合
- 第 7 回 項目 5. 人事労務の組織
- 第 8 回 項目 6. 人事労務の基本問題 (I) (1) 採用管理
- 第 9 回 項目 6. 人事労務の基本問題 (I) (1) 採用管理(続)
- 第 10 回 項目 6. 人事労務の基本問題 (I) (2) 労働時間の管理
- 第 11 回 項目 6. 人事労務の基本問題 (I) (3) 雇用調整
- 第 12 回 項目 7. 人事労務の基本問題 (II) (1) 賃金額 (2) 形態
- 第 13 回 項目 7. 人事労務の基本問題 (II) (3) 賃金体系の管理
- 第 14 回 項目 7. 人事労務の基本問題 (II) (4) 付加給付の管理
- 第 15 回 項目 7. 人事労務の基本問題 (II) (5) 人事考課

●成績評価方法(総合) 中間試験 25%、期末試験 60%、小テスト(出席を兼ねる) 15%

●教科書・参考書 教科書: 次の書を基本参考書としてテキストなみに活用・参照する予定です。『現代日本の労務管理(第2版)』、白井泰四郎、東洋経済新報社、1992年。/ 参考書: 新しい人事労務管理(新版)、佐藤博樹・他、有斐閣、2003年; 人事管理入門、今野浩一郎・他、日本経済新聞社、2002年

●メッセージ 本年度の授業では、最初の何回かをまず「採用管理」の問題にあて、近年の企業の採用活動や就職活動の動向について、基本的なところを紹介・説明する予定です。

●連絡先・オフィスアワー 最初の授業時間に示す予定。

開設科目	財務管理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	城下賢吾				

●教科書・参考書 教科書：市場のアノマリーと行動ファイナンス, 城下賢吾, 千倉書房, 2002 年

開設科目	国際経営論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	有村貞則				

●授業の概要 この授業では、なぜ企業が国際化するのか、国際化によって生じる経営問題など、国際経営の基本的理論を修得するとともに、欧米の企業に比べて、日本企業は、国際経営という点でどのような特徴や課題を有しているのかを知ることを目的としています。そして、それらの知識をもとに今後のあるべき国際経営の姿を考えていきます。

●授業の一般目標 国際経営の基礎理論修得、および日本企業の国際化の現状と課題を理解すること

●授業の計画（全体） I 国際化の理論 II 日本企業の国際化の現状と課題

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方や講義内容の説明
- 第 2 回 項目 企業のグローバル化の現状把握
- 第 3 回 項目 国際貿易
- 第 4 回 項目 ハイマーの対外事業活動理論
- 第 5 回 項目 ハイマーの対外事業活動理論
- 第 6 回 項目 ハイマーの対外事業活動理論
- 第 7 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル地論
- 第 8 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル理論
- 第 9 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル理論
- 第 10 回 項目 多国籍企業の組織構図
- 第 11 回 項目 多国籍企業の組織構造
- 第 12 回 項目 多国籍企業の組織構造
- 第 13 回 項目 トランスナショナル企業
- 第 14 回 項目 トランスナショナル企業
- 第 15 回 項目 グローバル戦略の理論
- 第 16 回 項目 日本企業の多国籍化の歴史
- 第 17 回 項目 日本企業の多国籍化の課題
- 第 18 回 項目 海外派遣者管理について
- 第 19 回 項目 海外派遣者管理について
- 第 20 回 項目 海外派遣者管理について
- 第 21 回 項目 地域統括本社について
- 第 22 回 項目 地域統括本社について
- 第 23 回 項目 研究開発のグローバル化
- 第 24 回 項目 研究開発のグローバル化
- 第 25 回 項目 研究開発のグローバル化
- 第 26 回 項目 異文化経営
- 第 27 回 項目 ダイバーシティマネジメント
- 第 28 回 項目 ダイバーシティマネジメント
- 第 29 回 項目 ダイバーシティマネジメント
- 第 30 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）出席、期末テスト

●教科書・参考書 教科書：特になし／参考書：授業の内容に応じて、適時紹介します。

開設科目	投資決定論 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	佐々木一郎				

●授業の概要 金融資産には、リスクの低い預貯金から、リスクの高い株式やデリバティブまで、さまざまな種類があります。ペイオフが解禁される前の社会では、大きな儲けを望まなければ（銀行預金の低い利息を我慢すれば）、銀行に預金することで元利は100%保護され、投資リスクから財産を完全に守ることができました。しかし、ペイオフが解禁されたのちの現在では、銀行預金すらも、安全とはいえなくなりました。100%安全といえる資産がなくなった現在、リスクを避けたくても避けることは難しいため、リスクと向き合わざるを得ません。そこで重要となってくるのは、各金融資産のリスクとリターンの特性への理解を深め、リスクとうまく向き合うことだと思います。本講義では、そのための基礎知識について、学習していきます。なお、国民年金は純粋な意味での金融資産ではないですが、老後の資産形成をめぐる国民年金への関心が高まってきています。そこで、国民年金を金融資産として見立てたときの魅力はどの程度あるのか、かりに魅力がなければ加入しなくて本当によいのか、加入しない場合の老後はどうなるのか、などの問題についても検討します。

●授業の一般目標 投資に関する基礎知識を身につけることです。できるだけ分かりやすく解説し、難しい数式等はありません。

●授業の計画（全体）（投資の基礎知識） 1 投資の目的 2 貨幣の時間価値 3 投資のリスクとリターン 4 金融商品の種類と商品内容（1）－預貯金・債券－ 5 金融商品の種類と商品内容（2）－株式・デリバティブ－ 6 個別資産のリスクとリターン 7 ポートフォリオのリスク低減効果 （投資分析） 1 債券投資分析 2 株式投資分析 3 デリバティブ－先物・オプション・スワップ－ 4 ポートフォリオの管理 （老後の資産形成と国民年金） 1 国民年金の未加入問題 2 国民年金の損得計算・投資評価 3 国民年金未加入者の老後実態、未来予想図 （全体） 1 まとめ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 証券と投資 内容 証券の役割
- 第 2 回 項目 現在価値と将来価値 内容 利子率の役割
- 第 3 回 項目 投資のリスクとリターン
- 第 4 回 項目 単一銘柄への集中投資 内容 集中投資の危険性
- 第 5 回 項目 複数銘柄への分散投資 内容 ポートフォリオのリスク軽減効果
- 第 6 回 項目 銀行預金選択のポイント：どの銀行にするか 内容 銀行経営の安定性と、預金利率の関係
- 第 7 回 項目 債券選択のポイント 内容 社債と格付け
- 第 8 回 項目 株式選択のポイント 内容 割安銘柄は存在するか
- 第 9 回 項目 金融派生商品 (1) 内容 先物・スワップ
- 第 10 回 項目 金融派生商品 (2) 内容 オプション
- 第 11 回 項目 投資戦略 (1) 内容 アクティブ運用
- 第 12 回 項目 投資戦略 (2) 内容 パッシブ運用
- 第 13 回 項目 国民年金の損得計算・投資評価 内容 国民年金の未加入問題
- 第 14 回 項目 国民年金未加入者の老後実態 内容 国民年金未加入者の未来予想図
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）出席状況や小レポートの提出などにより、総合的に評価します。小テスト・授業内レポート等（50%）、出席（40%）、授業態度・授業への参加度（10%）。

●教科書・参考書 教科書：入門証券論, 榊原茂樹・城下賢吾ほか, 有斐閣, 2000 年

●メッセージ 投資の問題について、自分なりの決定を行えるようになることを目指しましょう。

●連絡先・オフィスアワー E メールアドレス： ic-sasa@hue.ac.jp

開設科目	投資決定論2	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	城下 賢吾				

- 授業の概要 証券市場の制度と理論についての講義を行います。
- 授業の一般目標 経済新聞欄の証券に関する事項の理解を目指します。
- 授業の計画（全体） 株式市場、債券市場、デリバティブ市場の制度、理論 ファイナンスと心理の基礎  
理論 証券市場の最近のトピック
- 成績評価方法（総合） 定期試験、小テスト、レポート、株式投資ゲーム
- 教科書・参考書 教科書：入門証券論（改訂版）、榊原・城下他、有斐閣、2005年
- メッセージ 日頃から新聞に目を通してください。

開設科目	経営工学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	橋本寛				

- 授業の概要 PERT、最短経路問題、流量問題などのネットワークで表現される計画問題を取り上げ、それらの解法と応用について平易に解説する。
- 授業の一般目標 PERT、最短経路問題、流量問題などの基本的なネットワーク計画問題を理解するとともにそのアルゴリズムの考え方について学ぶ。
- 授業の計画（全体） PERT（作業の先行関係、最早開始時刻、最遅終了時刻、総余裕、独立余裕、クリティカルパス、作業時間の見積、プロジェクトの完了確率など）、最短経路問題（反復解法、行列演算、Warshallの方法など）、流量問題（最大流量、最小カット、解法など）
- 成績評価方法（総合） 期末試験による。
- 教科書・参考書 教科書： 使用しない。
- メッセージ 出席して理解するのが能率的
- 連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	情報処理論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	成富敬				

- 授業の概要 経営科学におけるいろいろな問題をとりあげ、数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する。
- 授業の一般目標 経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する。
- 授業の計画（全体） 1. データの処理と分析 2. 最適化 3. 在庫管理 4. 需要予測 5. 意思決定 6. コンピュータによる問題解決
- 成績評価方法（総合） 試験（75 %）と出席（25 %）で評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 資料を配布する。
- メッセージ 情報科学の単位を修得しているかまたはプログラミングの基礎を習得していること。



開設科目	情報システム論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	成富敬				

- 授業の概要 情報システムは単なる情報処理システムではなく、人間 - 機械系にとって情報の収集・処理・伝達・利用さらには情報の創造をも可能ならしめるものである。本講義では、情報システムの人的側面と機械的側面との両面について論じ、さらに、情報社会における情報システムの役割についても考察する。また、実際の情報システムの構築をとおして、情報システムに対する理解を深める。
- 授業の一般目標 情報システムの人的側面と機械的側面、あるいは、情報社会における情報システムの役割について理解する。また、実際の情報システムを構築するための基礎的事項を理解する。
- 成績評価方法 (総合) 試験 (75 %) と出席 (25 %) で評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 資料を配布する。
- メッセージ 情報科学の単位を修得しているかまたはプログラミングの基礎を習得していること。

開設科目	会計学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	山下訓				

●授業の概要 今年の会計学は、通常の講義形式で行います。講義でカバーする範囲は、いわゆる日商2級と1級の中間程度の商業簿記・会計学の領域と簡単な経営分析とです。同僚の先生から「財務諸表を見ても、学生は利益が何処にあるのか、分からない。」という意見を聞きます。この講義を履修する人の多くは簿記検定を受検するわけではないでしょうから、財務会計のエッセンスを理解する手助けになるような講義を行います。進度は皆さんの理解や興味に応じて柔軟に変更していきませんが、講義では次回の講義内容に関連するテキストの箇所を伝え、それを読んできていることを前提にお話ししていきます。また、必要に応じて問題演習を行います。／検索キーワード 財務会計、財務分析、商業簿記

●授業の一般目標 上でも述べたように、講義内容は主としていわゆる日商2級と1級との中間レベルの財務会計と財務指標です。簿記の学習によって、受講生の皆さんはすでにある程度仕訳を行うことができるようになっているはずですから、会計学ではそれらの仕訳の背後にはどのような企業活動があるのか、また一つ一つの勘定や仕訳にはどのような意味があるのかを理解してもらいます。また、正確に取引を集計したり、財務諸表が作れるようになったとしても、それをどう使うかを知らなければ宝の持ち腐れになってしまいます。したがって、簡単な財務分析の基礎を实践でき、企業の特徴を財務面から知ることができるようになってもらいたいと思います。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 株式会社の基本的な会計問題を指摘できる。2. 与えられた条件に沿って正確な会計測定を行うことができる。3. キャッシュフローと損益の関係を説明できる。4. 基本的な財務比率の計算方法とその意義を説明できる。思考・判断の観点：1. 代替的な会計処理法から、企業の置かれた状況に照らし合わせて最適のものを選択できる。2. 財務分析の結果を企業の経営戦略等と照らし合わせ、企業の現状分析・将来予測を行うことができる。

●授業の計画（全体） 下に示すテキストに従って、最初に企業活動と会計数値の対応関係について講義し、その後に個別論点（棚卸資産会計、固定資産会計など）について説明していきます。その後に、今年は成熟企業と成長企業で財務数値がどのように異なるか、また異業種間で財務数値はどのように異なるかを、有価証券報告書を利用して検討していきます。皆さんには財務分析の際に、指示した企業のHPもしくはEDINETという有価証券報告書閲覧システムから有価証券報告書をダウンロードしてもらう必要があります。

●成績評価方法（総合） 評価は中間テストと期末テストの二回のテストの合計点で行う予定です。また、中間テストの結果多くの方が苦手だと判断できる箇所があれば、それについてレポートを課し、評価に加える予定です。

●教科書・参考書 教科書：財務会計（第5版）、広瀬義州、中央経済社、2005年；広瀬義州先生の本は第5版が4月に出版。第4版でも少ししか変わっていないので問題ありません。3800円とやや高めですが、当分使えるでしょうし、アメリカの会計学の長所を取り入れており、分かりやすい本です。また、あらゆる資格試験にも対応でき、更に会計を勉強する人は持っておいていい本でしょう。／参考書：会計の論理、笠井昭次、税務経理協会、2000年；財務諸表論の考え方（第3版）、田中弘、税務経理協会、2004年；笠井昭次先生の本は授業のバックボーンです。田中弘先生の本は、留学生にも薦めている、ふりがなが付いた簡単な入門書です。会計を知らない人向けにも書いてあり、分からなくなった時に読むといいでしょう。

●メッセージ この講義は、受講生の皆さんがすでに簿記1を履修していることを前提とします。

●連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 在室中はいつでもご質問にお答えします（火・水・木）。

開設科目	情報会計論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	篠原淳				

- 授業の概要 会計学を取得したものを対象としており、授業内容は上級会計学である。授業内容は受講者の意向を踏まえ、知らせる。

開設科目	会計監査1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	吉水佐知子				

●授業の概要 現在の監査の中心である財務諸表監査が生成されることになった歴史的背景を学習するとともに、財務諸表監査の監査計画段階から監査報告書発行までの一連の監査手続について理解をする。

●授業の一般目標 会計監査の用語の習熟、監査契約の締結、監査計画の策定から報告書作成・発行までの流れを理解するとともに外部監査人としての公認会計士の社会的役割についても理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：財務諸表監査で用いられている専門用語についての説明ができる。

●授業の計画（全体）財務諸表監査の生成の歴史、監査人の適格性について学習した後、監査実施のプロセス（監査計画、監査手続、監査報告書）の順に授業を進めていきます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 財務諸表監査の枠組み 内容 財務諸表監査の意義

第 2 回 項目 財務諸表監査の生成と発展 内容 財務諸表監査の生成と発展及び日本における財務諸表監査制度の発展

第 3 回 項目 監査の目的と監査人の適格性 内容 二重責任の原則及び公認会計士法及び規律規則に基づく監査人の独立性等

第 4 回 項目 監査計画 内容 監査契約の締結から、監査計画の策定

第 5 回 項目 リスク・アプローチ 内容 リスクアプローチの解説

第 6 回 項目 内部統制 内容 COSO の内部統制についての説明

第 7 回 項目 試査とサンプリング 内容 試査とは

第 8 回 項目 監査要点と監査手続 内容 6つの監査要点及び合理的な基礎を得るための監査手続

第 9 回 項目 監査調書 内容 作成目的及び作成要件

第 10 回 項目 監査証拠 内容 監査証拠と合理的な監査証拠等

第 11 回 項目 合理的保証 内容 監査基準における保証の意味及び合理的な保証の意味すること等

第 12 回 項目 実質的判断 内容 平成 14 年の監査基準改訂で明示された実質的判断とは及び実質的判断と監査人の責任

第 13 回 項目 重要性の判断 内容 監査上の重要性とは。重要性の判断が適用される監査の局面とは

第 14 回 項目 監査報告書 1 内容 証券取引法監査及び商法特例法監査の下における監査報告書様式の理解

第 15 回 項目 監査報告書 2 内容 監査報告書の種類

●成績評価方法（総合）成績評価は試験が 70%、出席が 30%。

●教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ、八田進二（編著）、同文館出版、2004 年／参考書：監査小六法、日本公認会計士協会編、中央経済社、2005 年；参考書等に関しては、必要に応じ授業においてお知らせします。

●メッセージ 監査の対象は財務諸表であるため、貸借対照表、損益計算書及びキャッシュフロー計算書等の基本財務諸表の知識があることが前提となります。したがって、最低、簿記 1 又は会計学を履修していることが必要です。

●連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	会計監査2	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	吉水佐知子				

- 授業の概要 監査に関して基礎的な知識があることを前提に授業は進められます。授業の中心は、会計監査論1で取り上げなかった、現代監査の課題、その他の監査関連問題（内部監査、監査役監査等）や監査の国際的な動向等になります。
- 授業の一般目標 国際的な動向を踏まえ、現代監査が抱えている問題について理解すること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：財務諸表監査の他、内部監査や監査役監査についても理解すること及び現代監査の問題点の把握を行うこと。
- 授業の計画（全体） 会計監査論1で監査手続の一連の流れを理解していることを前提に、会計監査論2においては、その周辺問題を取り上げることになります。授業内容は、主に、1) 中間監査、2) 内部監査、3) 監査役監査、4) 監査の国際的動向（国際監査基準、米国監査基準）、5) 現代監査の課題の順に進行していく予定です。
- 成績評価方法（総合） 成績の評価方法は、出席30%と成績（期末試験のみ）70%です。
- 教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ、八田進二編著、同文館出版／参考書：必要に応じて授業中にお知らせします。
- メッセージ 会計監査論1を履修後に履修してください。
- 連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	簿記1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	野村弘				

●授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。

●授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎を作ることであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは
- 第2回 項目 取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第3回 項目 試算表・商品売買記帳方法取引運賃および発送費の記帳方法
- 第4回 項目 取引運賃および発送費の記帳方法、手付金
- 第5回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第6回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第7回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第8回 項目 主要簿および補助簿（売掛金元帳から）・伝票会計
- 第9回 項目 決算の流れ・決算整理仕訳（売上原価の計算）
- 第10回 項目 英米式決算法・精算表
- 第11回 項目 その他の決算整理（貸倒、減価償却）
- 第12回 項目 その他の決算整理（固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越）
- 第13回 項目 その他の決算整理（費用および収益の繰延・見越、消耗品）
- 第14回 項目 その他の決算整理（現金過不足、有価証券、引出金）
- 第15回 項目 財務諸表（P/L・B/S）
- 第16回 項目 補助日
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

●成績評価方法（総合）試験 80%、出席 20%

●教科書・参考書 教科書：ALFA, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005年

開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	篠原淳				

- 授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。
- 授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎を築くことであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。
- 授業の計画(全体) <第1週>簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは <第2週>取引・仕訳・勘定口座への記入方法 <第3週>試算表・商品売買記帳方法取引運賃および発送費の記帳方法 <第4週>取引運賃および発送費の記帳方法、手付金 <第5週>現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法 <第6週>手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法 <第7週>その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿 <第8週>主要簿および補助簿(売掛金元帳から)・伝票会計 <第9週>決算の流れ・決整理仕訳(売上原価の計算) <第10週>英米式決算法・精算表 <第11週>その他の決算整理(貸倒、減価償却) <第12週>その他の決算整理(固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越) <第13週>その他の決算整理(費用および収益の繰延・見越、消耗品) <第14週>その他の決算整理(現金過不足、有価証券、引出金) <第15週>財務諸表(P/L・B/S) <第16週>補助日
- 成績評価方法(総合) 試験 80%、出席 20%
- 教科書・参考書 教科書: ALFA, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005年
- メッセージ この授業は、経Iの前期単位未取得者及び経IIを対象としている。

開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	野村弘				

●授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。

●授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎を作ることであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは
- 第 2 回 項目 取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表・商品売買取帳方法取引運賃および発送費の記帳方法
- 第 4 回 項目 取引運賃および発送費の記帳方法、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿（売掛金元帳から）・伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ・決算整理仕訳（売上原価の計算）
- 第 10 回 項目 英米式決算法・精算表
- 第 11 回 項目 その他の決算整理（貸倒、減価償却）
- 第 12 回 項目 その他の決算整理（固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越）
- 第 13 回 項目 その他の決算整理（費用および収益の繰延・見越、消耗品）
- 第 14 回 項目 その他の決算整理（現金過不足、有価証券、引出金）
- 第 15 回 項目 財務諸表 (P/L・B/S)
- 第 16 回 項目 補助日
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

●成績評価方法 (総合) 試験 80%、出席 20%

●教科書・参考書 教科書：ALFA, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年



開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	野村弘				

●授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。

●授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎を作ることであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは
- 第 2 回 項目 取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表・商品売買取帳方法取引運賃および発送費の記帳方法
- 第 4 回 項目 取引運賃および発送費の記帳方法、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿（売掛金元帳から）・伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ・決算整理仕訳（売上原価の計算）
- 第 10 回 項目 英米式決算法・精算表
- 第 11 回 項目 その他の決算整理（貸倒、減価償却）
- 第 12 回 項目 その他の決算整理（固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越）
- 第 13 回 項目 その他の決算整理（費用および収益の繰延・見越、消耗品）
- 第 14 回 項目 その他の決算整理（現金過不足、有価証券、引出金）
- 第 15 回 項目 財務諸表 (P/L・B/S)
- 第 16 回 項目 補助日
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

●成績評価方法 (総合) 試験 80%、出席 20%

●教科書・参考書 教科書：ALFA, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	簿記2	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	吉水 佐知子				

●授業の概要 この授業では、簿記1で学習した複式簿記を基礎として、日商簿記2級レベルの授業を行います。

●授業の一般目標 日商簿記2級（商業簿記）を理解し、精算表の作成ができるようになること。

●授業の計画（全体） 主な授業内容は、1）有価証券、手形、特殊商品販売、2）株式会社会計（資本、未処分利益、社債、税金）、3）決算（決算整理仕訳、精算表）です。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記一巡の手続
- 第 2 回 項目 現金預金取引
- 第 3 回 項目 有価証券取引
- 第 4 回 項目 債権債務取引・手形取引
- 第 5 回 項目 引当金取引
- 第 6 回 項目 商品売買取引・特殊商品売買取引
- 第 7 回 項目 固定資産取引
- 第 8 回 項目 損益取引
- 第 9 回 項目 中間試験
- 第 10 回 項目 会社の設立・増資
- 第 11 回 項目 合併
- 第 12 回 項目 社債
- 第 13 回 項目 税金
- 第 14 回 項目 決算（決算整理）
- 第 15 回 項目 決算（精算表）

●成績評価方法（総合） 成績の評価は、中間試験と期末試験で行う。

●教科書・参考書 教科書：新検定簿記講義2級 商業簿記, 中央経済社／参考書：授業の中でお知らせします。

●メッセージ 日商簿記3級を理解していることを前提として授業が進められます。したがって、簿記1を履修後に履修してください。

●連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	工業簿記1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	中田範夫				

●授業の概要 日商簿記検定試験2級程度の授業を行う。

●授業の一般目標 日商簿記検定試験2級が合格できるレベルを目指す。

●授業の計画(全体) テキストに従って授業を進める。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 工業簿記の基礎知識
- 第2回 項目 材料費の計算と記帳
- 第3回 項目 労務費の計算と記帳
- 第4回 項目 経費の計算と記帳製造間接費の計算と記帳
- 第5回 項目 部門別計算
- 第6回 項目 個別原価計算
- 第7回 項目 作業屑総合原価計算
- 第8回 項目 単純総合原価計算工程別総合原価計算
- 第9回 項目 組別総合原価計算等級別総合原価計算
- 第10回 項目 副産物の計算と記帳連産品
- 第11回 項目 減損と仕損の処理
- 第12回 項目 製品の受払と営業費製造原価報告書と財務諸表
- 第13回 項目 標準原価計算
- 第14回 項目 直接原価計算損益分岐点分析
- 第15回 項目 原価予測の方法本社工場会計

●成績評価方法(総合) 期末試験と出席を評価する。

●教科書・参考書 教科書：教科書・2級工業簿記, 岩崎 勇, 一橋出版, 2002年

●連絡先・オフィスアワー 電話：933-5556(研究室) オフィスアワー：授業中に伝えます

開設科目	商業簿記 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	松尾篤				

- 授業の概要 税理士試験の簿記論を行います。この商業簿記 A と工業簿記 A とは一体で運営されますので、履修には充分注意して下さい。また、職業会計人コースの必修科目です。内容は工業簿記 A を参照のこと。

開設科目	工業簿記論 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	松尾篤				

●授業の概要 税理士試験の簿記論を行います。税理士試験における出題は主に商業簿記からの出題となっており「仕訳帳への記入」「元帳への勘定記入」「試算表の作成」「財務諸表の作成」といった内容を学習します。なお、この工業簿記 A は商業簿記 A と一体で運営されますので、履修には充分注意して下さい。また、職業会計人コースの必修科目です。

●授業の一般目標 税理士試験、簿記論の基礎的な内容をマスターし、最終的には簿記論の合格を目指します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記一巡（営業手続、決算手続）
- 第 2 回 項目 簿記一巡（開始手続、財務諸表）、現金預金
- 第 3 回 項目 現金預金（小口現金、当座預金、銀行勘定調整表）
- 第 4 回 項目 債権債務（約手、為手、特殊手形）
- 第 5 回 項目 固定資産（取得原価の決定、減価償却）
- 第 6 回 項目 固定資産（減価償却の過年度修正、臨時償却、売却 等）
- 第 7 回 項目 確認テスト 1
- 第 8 回 項目 引当金（貸倒引当金、貸倒れ）
- 第 9 回 項目 退職給付会計（退職給付債務、給付費用）
- 第 10 回 項目 退職給付会計（未認識）
- 第 11 回 項目 有価証券（分類、取得と売却 等）
- 第 12 回 項目 有価証券（期末評価）商品売買（記帳方法、値引、返品、割戻、割引）
- 第 13 回 項目 商品売買（財表、原価率、利益率、期末評価 等）
- 第 14 回 項目 確認テスト 2
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) 試験 60 %、出席 20 %、確認テスト 20 %

●教科書・参考書 教科書：簿記論一般テキスト、チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	財務会計論 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	熊野紗桐				

●授業の概要 企業の利害関係者へ報告書として作成する財務諸表の考え方（理論）や具体的な作成方法・手続（計算）を学ぶのが財務諸表です。理論では企業会計原則を中心に会計原理を、計算では商法などの法令に準拠した財務諸表の作成を学習します。なお、この財務会計 A は原価計算 A と一体で運営されますので、履修には充分注意して下さい。また、職業会計人コースの必修科目です。

●授業の一般目標 税理士試験、財務諸表論の基礎的な内容をマスターし、最終的には財務諸表論の合格を目指します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 損益計算書の雛形・注記
- 第 2 回 項目 有形固定資産
- 第 3 回 項目 売上原価の計算、棚卸資産、売上・仕入の控除項目
- 第 4 回 項目 引当金 I
- 第 5 回 項目 有価証券 I
- 第 6 回 項目 無形固定資産、繰延資産、見越・繰延、税金 I
- 第 7 回 項目 確認テスト 1
- 第 8 回 項目 貸借対照表の雛形、現金預金
- 第 9 回 項目 資産・負債の分類
- 第 10 回 項目 有価証券 II、引当金 II（表示）
- 第 11 回 項目 評価勘定、親会社、子会社に対する債権債務、税金 II
- 第 12 回 項目 貸倒懸念債権、破産更正債権
- 第 13 回 項目 利益処分案、損失処理案
- 第 14 回 項目 確認テスト 2
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） 試験 60 %、出席 20 %、確認テスト 20 %

●教科書・参考書 教科書：財務諸表論一般テキスト、チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	原価計算 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	熊野紗桐				

- 授業の概要 税理士試験の財務諸表論を行います。この原価計算 A は財務会計論 A と一体で運営されますので、履修には充分注意して下さい。また、職業会計人コースの必修科目です。内容は財務会計論 A を参照してください。

開設科目	簿記論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	8 単位	開設期	後期
担当教員	未定				



開設科目	財務諸表論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	8 単位	開設期	後期
担当教員	未定				

開設科目	消費税法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	小林多恵子				

●授業の概要 消費税は、商品の販売や建物賃借などの、お店が取引を行った場合に課される国税です。消費税にはこれらの取引の代金に5%が上乗せされますが、中には消費税が上乗せされないような取引もあります。その見分ける基準を中心に学習します。この消費税法は職業会計人コースの税務専攻の必修科目です。

●授業の一般目標 税理士試験、消費税法の基礎的な内容をマスターし、最終的には消費税法の合格を目指します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 消費税法の概要
- 第 2 回 項目 課税の対象
- 第 3 回 項目 非課税、輸出免税
- 第 4 回 項目 資産の譲渡等の時期、控除対象仕入税額 I、課税仕入の範囲
- 第 5 回 項目 課税仕入の範囲、課税仕入等の時期
- 第 6 回 項目 売上返還、貸倒
- 第 7 回 項目 確認テスト 1、中間納付税額の計算
- 第 8 回 項目 課税標準及び税率 I
- 第 9 回 項目 課税標準及び税率 II
- 第 10 回 項目 課税売上割合の計算
- 第 11 回 項目 控除対象仕入税額 II
- 第 12 回 項目 仕入返還、引取還付
- 第 13 回 項目 納付義務の免除、基準期間がない法人の特例
- 第 14 回 項目 確認テスト 2
- 第 15 回

●成績評価方法(総合) 試験 60%、出席 20%、確認テスト 20%

●教科書・参考書 教科書：消費税法一般テキスト、チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	管理会計論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	藤田 智丈				

- 授業の概要** 企業の存在意義は、消費者に満足ある価値を提供することでお金を稼ぐことにあります。企業の目的がお金を稼ぐことである以上、企業のあらゆる活動は利益獲得に貢献するものでなければなりません。管理会計では、企業の運営がどのような仕組みで行われるべきなのか、よりよい目的達成を実現するためには従業員をどのように動機付けしていくべきなのか、といったことを学習します。
- 授業の一般目標** 管理会計の内容は大きく2種類に分かれます。一つは、全社の共通目標である利益獲得を実現するために、どのようなマネジメントの仕組みを構築し運営していくか、実際に業務を担う従業員のやる気を引き出すためにどのように動機付けしていくか、といったマネジメントに関する内容。もう一つは、経営者や管理者の意志決定、従業員の業務の遂行等の具体的な課題に対して、会計情報を適切に作成し利用することに関する内容です。これらの内容について、基本的な考え方を理解し、会計的な分析をできるようになることを目標とします。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：** 管理会計の基礎となる考え方、分析手法を身につけること。 思考・判断の観点： 皆さんが普段は客として利用している店やサービスは、どのようなことを考えて動いているのか、どのような要素にコストをかけているのかといった、身の回りにあるビジネスを考えることができるようになること。また、会計情報を用いて事例分析をできるようになること。
- 授業の計画（全体）** まず、管理会計の基礎となる利益計画や予算管理から始めます。それから、現代のビジネスでは必須の戦略の視点から管理会計を詳しく見ていきます。具体的には、B S Cや原価企画、A B C / A B Mといったマネジメント手法を対象とします。また、意志決定のための分析として、資源配分や投資決定等の課題についての分析をします。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験、小テストまたは課題レポート、出席により評価します。
- 教科書・参考書** 教科書：（予定）管理会計・入門 新版（有斐閣アルマ）、浅田孝幸 他, 有斐閣, 2005年；教科書は変更する可能性があります。初回の授業時に正式に連絡しますので、事前には買わないでください。／参考書： 1. 櫻井通晴『管理会計（第三版）』同文館出版,2004年、 2. 加登豊『管理会計入門（日経文庫）』日本経済新聞社,1999年

開設科目	原価計算論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	中田 範夫				

- 授業の概要 日商簿記検定試験 1 級原価計算程度の内容を講義する。
- 授業の一般目標 原価計算には財務会計目的と管理会計目的との 2 つがあるが、前者の財務会計目的のための原価計算をテキストの内容に従いながら説明する。
- 授業の計画(全体) 1. 原価の概念と原価計算の目的 2. 制度的原価計算と特殊原価調査ならびに原価概念 3. 費目別原価計算 4. 部門別原価計算 5. 個別原価計算 6. 単純総合原価計算 7. 工程別原価計算(累積法) 8. 工程別原価計算(非累積法) 9. 組別総合原価計算 10. 等級別原価計算 11. 連産品の原価計算 12. 標準原価計算(勘定記入の方法) 13. 標準原価計算(差異分析-直接費) 14. 標準原価計算(差異分析-間接費) 15. 直接原価計算 16. 活動基準原価計算 17. ライフサイクル・コストニング
- 成績評価方法(総合) 期末試験と出席により評価する。
- 教科書・参考書 教科書: 後に指示する。
- メッセージ 原価計算は君が思ってるほど難しくない。この際、一気に攻略しよう。

開設科目	流通論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	藤田健				

●授業の概要 生産と消費の懸隔を架橋する流通は、近年、大きな変革期を迎えている。コンビニエンス・ストアの台頭、大手スーパー・百貨店の不振や倒産、中小卸売業の淘汰、零細小売業の減少、メーカーの流通系列化の揺らぎ、流通の情報化など、流通は日々変化し続け複雑さを増している。そこで本講義では、近年激しく変化する流通現象への関心を高めるとともに、現実を理解するための理論的な考え方を学ぶ。／検索キーワード 流通, 商業, マーケティング

●授業の一般目標 1. 流通論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解できるようになる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：流通論の体系と個別理論を理解する。 関心・意欲の観点：流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。

●授業の計画（全体） 1. 流通の実態 2. 流通の役割 3. 分析アプローチを学ぶ 4. 流通フローの分析

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション：流通の分析視角 内容 流通論の講義概要, 分析視角を学ぶ
- 第 2 回 項目 流通の実態 内容 ケース（1）, ケース（2）
- 第 3 回 項目 流通の実態 内容 ケース（3）, ビデオ学習
- 第 4 回 項目 生産と消費の懸隔 内容 流通の社会的役割は何か
- 第 5 回 項目 商人の存立根拠 内容 なぜ商人が存在するのか
- 第 6 回 項目 流通へのアプローチ（1） 内容 機能別アプローチと商品別アプローチ
- 第 7 回 項目 流通へのアプローチ（2） 内容 行動システム・アプローチと流通成果
- 第 8 回 項目 前半の復習 内容 ケース（4）, ビデオ学習
- 第 9 回 項目 商流の分析（1） 内容 取引コストの経済学, 継続的取引
- 第 10 回 項目 商流の分析（2） 内容 戦略的提携, 協力・信頼関係の形成
- 第 11 回 項目 商流の分析（3） 内容 垂直的流通システム, マーケティング
- 第 12 回 項目 商流の分析（4） 内容 マーケティング・チャネルの構築と維持
- 第 13 回 項目 物流と情報流の分析 内容 ロジスティクスと情報技術
- 第 14 回 項目 後半の復習 内容 ビデオ学習
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の復習

●成績評価方法（総合） 期末試験（70 %）, レポート（20 %）, 出席（10 %）

●教科書・参考書 教科書：現代流通, 矢作敏行, 有斐閣アルマ, 1996 年／参考書：現代商業学, 高嶋克義, 有斐閣アルマ, 2002 年

●メッセージ 授業中の私語は厳禁です。

●連絡先・オフィスアワー A 棟 3 階 306 研究室

開設科目	産業技術論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柳田卓爾				

- 授業の概要 「問題意識を持つ」、「問いを立てる」とはどのようなことなのか？について、企業経営、産業技術に関する事例を扱ったケースブックを利用して、考えていく。問題解決法、どうすればよいのか？といった「答えを求める」作業は、ほとんどない授業である。
- 授業の一般目標 「問いかけることの意味」について関心を持ち、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 原則として、1回の授業で、ひとつのケースを用いて学習する。1回の授業は、(1) 課題作成、(2) ケースの簡単な解説、(3) 議論、(4) まとめ、といった流れになる。受講生は全員、毎回、ひとつのケースを予習してくることが求められる。ケースは、次のようなものを予定している。新技術の構想と開発 「長距離高速電車」の発展過程 製品イノベーションを導く戦略の一貫性 ソニーの家庭用VTR 開発 商品開発の追求と組織革新 シャープの液晶事業 市場からのイノベーション 秋葉原と家電産業の「第二の産業分水嶺」 地場産業からのイノベーション ディスコのメカトロニクス技術開発 成熟市場におけるイノベーション 花王「アタック」の開発 ソフトのイノベーション 任天堂のディファクト・スタンダード形成とソフト開発 異業種からのイノベーション カシオのデジタル・カメラ (QV-10) 開発
- 成績評価方法（総合） 平常点 40 %、レポート 30 %、試験 30 %で成績を評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『ケースブック日本企業の経営行動 3 イノベーションと技術蓄積』, 伊丹、加護野、宮本、米倉, 有斐閣, 1998 年
- メッセージ どうすれば企業経営は成功するのか？なぜその商品はヒットしたのか？といった問いに対する答えは、ほとんど検討しない。これらの答えを知りたいと考えている受講生の期待に応える授業ではない。そうではなくて、企業経営の成功の秘訣を考えることに、そもそもどんな意味があるのか？ヒット商品の秘密を知ることの価値は、いったいどこにあるのか？といった、「問うことの意味」について、受講生と一緒に考えていく授業にしていきたい。 また、初回授業に、「必ず」出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	保険論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	石田成則				

- 授業の概要 保険の基礎理論として、保険構造論と保険市場論を講義する。保険構造論では、まず、その根幹を成す原理・原則と特殊技術、さらに付保危険の要件を理解する。つぎに、保険価格＝保険料率の決定過程を付保危険の分類と関連づけ、それにより、保険の本質的機能である、危険評価機能と危険分散機能を理解する。最後に、保険の機能を現実に則して理解するために、保険類似制度と保険の分類について学ぶ。保険市場論では、保険市場の需要・供給分析のために、保険商品の財・サービスとしての特徴ならびに、リスク資産の取引市場としての特殊性を考える。
- 授業の一般目標 リスクマネジメントの手法として、回避や予防などのリスクコントロールと保有や転嫁・保険などのリスクファイナンスの基礎知識を習得した後に、家計と企業におけるリスク管理のベストプラクティスについて深い洞察をえる。こうした知識を、企業におけるリスク管理者や中小企業診断などの資格取得にも結びつける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： リスクコントロールとリスクファイナンスの基礎知識を習得すること。それに基づく、家計と企業におけるリスク管理のベストプラクティスへの理解をえること。 思考・判断の観点： 家計と企業におけるリスクについて、各部面でのリスク特定化とその具体的測定が出来ること。出来ればその際には、キャッシュフローへの影響も分析できる能力獲得を目標とする。 態度の観点： 授業への積極的な出席
- 授業の計画（全体） 食品事故、交通事故など日常生活を取り巻くリスク、テロや財務破綻など企業経営を取り巻く危険・リスクについて分かり易く説明します。こうした危険に対処するためのリスクマネジメント手法について、リスクコントロールとリスクファイナンスに分けてお話しします。後者の中核をなす保険制度について、その構造や社会的機能などを詳細に学びます。さらに、保険の種類を概説した後、高齢社会でその役割が注目されている社会保険について、現状と問題点を詳しく解説します。
- 成績評価方法（総合） 期末試験
- 教科書・参考書 教科書： 自由競争時代の生命保険経営, 石田重森・石田成則, 東洋経済新報社, 1997 年

開設科目	社会保険論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	石田成則				

- 授業の概要** 高齢社会における年金・医療・介護などの諸問題を幅広く学習する。世代間の順送りの扶養・助け合いシステムである公的年金制度では、高齢化に伴いとくに若い勤労者の保険料負担が高騰している。こうした事態は若年世代の可処分所得の伸びを抑え、また企業の労働コストを押し上げることで、わが国の経済活力に悪影響を及ぼしている。そこで、各制度を解説しその現状を統計資料を用いて確認しながら、その解決策を考えていく。
- 授業の一般目標** 高齢社会における社会保険の役割や財政問題を学ぶことで、生活保障における公私役割分担や、望ましい市場と組織の機能について習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：** 各種の社会保険の制度理解 **思考・判断の観点：** 社会保険における権利性や契約性について洞察をえる。
- 授業の計画（全体）** 21世紀に入り、わが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感が醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革・財政再建のなかで、国家財政による社会保障・社会保険は縮小または見直しの機運にある。また、‘公から私へ’生活保障の役割が移譲され、私的保障が公的保障を補っていく方向にあるが、市場原理を活用した私的保障が適正に機能するためには、市場環境の整備が条件となる。自己責任に基づく生活保障では、民間保険を中心とした経済的保障策や各種金融商品の知識・情報が不可欠である。また、こうした情報を理解するための投資教育も必須となる。さらに、金融商品にまつわる不正や詐欺行為から自己防衛するためには、金融消費者の保護を目的とした公的な仕組みを理解しておく必要もある。そこで、ライフ・サイクルに伴う生活リスクを整理し、合理的な生活保障のあり方について考えていく。とくに、福祉ミックス論に基づいて、社会保障・社会保険と、企業の福利厚生・民間保険の役割分担について学習する。また、民間保険や各種金融商品に関する情報を分かりやすく解説することで、賢い金融消費者を目指すとともに、社会人としての自己責任意識を涵養していく。
- 成績評価方法（総合）** 期末のレポート提出
- メッセージ** 授業に積極的に参加して下さい。授業に関連する新聞・雑誌記事にはなるべく多く目を通していただくことが望ましい。



# 国際経済学科

開設科目	国際経済学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	田淵太一				

●授業の概要 国際経済学の基礎理論を修得する。標準的な貿易理論に重点をおく。ミクロ・マクロ経済学などと同様、国際経済学の修得にも、概念の理解ばかりでなくトレーニングが必要である点に留意されたい。

●授業の一般目標 標準的な貿易理論を学習し、その理論を用いれば何を説明できるのかを理解する。国際経済について関心を持ち、主体的に考えることができる。

●授業の計画(全体) 1. リカード・モデル 2. 特殊要素モデル 3. ヘクシャー＝オリーン・モデル 4. 交易条件 5. 規模の経済・不完全競争と国際貿易 6. まとめ

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 リカード・モデル 1
- 第 3 回 項目 リカード・モデル 2
- 第 4 回 項目 リカード・モデル 3
- 第 5 回 項目 特殊要素モデル 1
- 第 6 回 項目 ヘクシャー＝オ 特殊要素モデル 2
- 第 7 回 項目 ヘクシャー＝オ リーン・モデル 1
- 第 8 回 項目 リーン・モデル 2
- 第 9 回 項目 ヘクシャー＝オ リーン・モデル 3
- 第 10 回 項目 ヘクシャー＝オ 交易条件 1
- 第 11 回 項目 ヘクシャー＝オ 交易条件 2
- 第 12 回 項目 独占的競争モデル 1
- 第 13 回 項目 独占的競争モデル 2
- 第 14 回 項目 独占的競争モデル 3
- 第 15 回 項目 貿易理論のまとめ

●成績評価方法(総合) 定期試験(60%)と授業中の小テスト(40%)の合計で判定する。チーニング・アシスタントの補助が得られる場合は、小テストを毎回行なう。

●教科書・参考書 教科書：クルグマン・オブズフェルド著『国際経済 理論と政策 第3版 I 国際貿易』新世社、1996年。

●メッセージ 単位認定は厳しく行ないます。ただ出席して座っているだけでは単位は取れません。講義中の出入りや私語・携帯電話については、見つけ次第、厳しく対処します。

開設科目	貿易論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田淵太一				

●授業の概要 「国際経済学」で学習した主流派貿易理論は、以下の点で現実の世界経済の特徴を把握するものになり得ていない。1. ミクロ・マクロの2分法に従い、ミクロ理論としての貿易理論では貨幣・為替レート・資本移動が無視される。2. 各国がおかれた歴史的・政治的制約が無視され、抽象的で対等な2国がつねにモデルの基礎におかれる。この授業では逆にこれらの要因を重視すればどのような貿易理論が展開できるかを考察する。

●授業の一般目標 現実の世界経済の動向や学説史を踏まえながら、前期に国際経済学で学んだ主流派の貿易理論にたいするアンチ・テーゼを提示します。

●授業の計画(全体) 1. 「リカード・モデル」とオリジナルのリカード理論の対比 2. W・A・ルイスの理論 3. 比較優位論は現実の世界経済の分析に有効か

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード 1
- 第 2 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード 2
- 第 3 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード 3
- 第 4 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード 4
- 第 5 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易 1
- 第 6 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易 2
- 第 7 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易 3
- 第 8 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易 4
- 第 9 回 項目 貿易理論と為替レート 1
- 第 10 回 項目 貿易理論と為替レート 2
- 第 11 回 項目 貿易理論と為替レート 3
- 第 12 回 項目 貿易理論と資本移動 1
- 第 13 回 項目 貿易理論と資本移動 2
- 第 14 回 項目 貿易理論と資本移動 3
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法(総合) おもに学期末試験により評価する。副次的に日常的な学習姿勢等の評価も加える。試験は論述式で、理解に力点を置いた問題を出題する。試験 90%, 授業態度・授業への参加度 10%。

●メッセージ 既存の理論を頭から信じ込みトレーニングに明け暮れて丸暗記するだけが「勉強」ではありません。教室でともに考え、新鮮な驚きを味わって下さい。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは後期開始後に発表します。

開設科目	貿易政策論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤原貞雄				

●授業の概要 WTO（世界貿易機構）は、1995年、先進国、開発途上国が自国の利害を絡ませながら産みの苦しみを経てつくり出した国際機関である。現代の国際通商のルールはWTOが定めている。講義は、基本的にそのルール（協定の条文）について解説する。／検索キーワード WTO、GATT、ガット、セーフガード

●授業の一般目標 現代世界の通商の国際的仕組みであるWTOについて基本的知識を得る

●授業の到達目標／知識・理解の観点：WTOに関する基本的知識 思考・判断の観点：WTOの目標とルールに照らして、現実の国際通商摩擦に関して、自己の主張を持つ 関心・意欲の観点：現実の問題に対する活き活きとした関心を持つ 態度の観点：出席、質問の積極性

●授業の計画（全体）WTOの目的、制度、運営の仕組み、いくつかの基本協定について基本的な理解を得るために、テキストを配布して、その内容を学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 ガイダンス：WTOの組織と運営

第2回 項目 DS B：紛争解決のための仕組みと組織

第3回 項目 関税の仕組み

第4回 項目 農業貿易と農業保護政策

第5回 項目 セーフガード措置

第6回 項目 日本の暫定セーフガード措置発動：ねぎ・しいたけ・畳表問題

第7回 項目 ダumpingと反ダumping措置

第8回 項目 補助金と相殺措置

第9回 項目 貿易に関連する投資措置

第10回 項目 貿易の技術的障害

第11回 項目 サービス貿易とGATS

第12回 項目 知的財産権とTRIPS

第13回 項目 中国のWTOと移行措置

第14回 項目 WTOの新ラウンド

第15回 項目 試験

●成績評価方法（総合）試験50%（知識・理解の程度）、レポート50%（思考・判断、関心・意欲の程度）、質問回数と質問内容（関心・意欲、態度の観点）から講義への積極性を判断し加点する。

●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：不公正貿易報告書（各年度版）、経済産業省、経済産業調査会、2002年

●メッセージ 条文の解説が多いので、退屈な講義になると思うが、関心のある学生にとっては、一層進んだ勉強にとって便利であろう。

開設科目	国際金融論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	豊 嘉哲				

●授業の概要 国際金融に関わる理論を説明すると同時に、通貨危機など、国際金融に関する重大事件を解説する。／検索キーワード 国際収支、為替レート、資本移動

●授業の一般目標 (1) 国際金融に関する理論を理解する。(2)90 年代に続発した通貨危機がなぜ生じたかを説明できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国際金融に関する理論を理解している。思考・判断の観点：授業で取り上げたトピックについて、自分の意見を論理的に述べるができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際収支 1
- 第 3 回 項目 国際収支 2
- 第 4 回 項目 外国為替
- 第 5 回 項目 購買力平価モデル
- 第 6 回 項目 金利平価モデル
- 第 7 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル
- 第 8 回 項目 ヨーロッパ通貨 統合 1
- 第 9 回 項目 ヨーロッパ通貨 統合 2
- 第 10 回 項目 戦後の国際通貨 体制 1
- 第 11 回 項目 戦後の国際通貨 体制 2
- 第 12 回 項目 戦後の国際通貨 体制 3
- 第 13 回 項目 発展途上国の通貨危機 1
- 第 14 回 項目 発展途上国の通貨危機 2
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) 定期試験 (70 %) とレポート (30 %) で判断する。

●教科書・参考書 教科書：新版 国際金融論, 尾上修悟 編, ミネルヴァ書房, 2003 年

開設科目	外国為替論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	稲益米男				
<p>●授業の概要 1) 初めて外国為替を学ぶ学生の道案内役として2年生レベルで分かり易く講義する。2) 為替の原理・山口から外国に送金する方法・輸出入代金の決済方法・外貨両替時の適用相場・為替リスクの回避法など実務に即応したテーマについて時事問題を事例にして外国為替の基礎をマスターする。／検索キーワード 海外旅行・海外送金・貿易取引・為替相場</p> <p>●授業の一般目標 外国為替をマスターすることにより、国際ビジネス関連記事を面白く読め、授業と実務との繋がりを把握することによって自己啓発を深める。実務直結型の授業を通じて企業が求めるものを明確にし、それに適応する人材を育成する</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：海外送金・貿易代金決済を説明出来る。思考・判断の観点：為替相場・為替リスクの回避を理解できる。関心・意欲の観点：国際取引の関連記事を理解できる。</p> <p>●授業の計画(全体) 1) 為替の歴史は通貨の歴史、為替制度の変遷から為替制度を理解する。2) 外国為替と内国為替を比較し外国為替の特徴を把握する。3) 為替相場の体系から相場の種類を理解する。4) 送金為替と取立為替の相違点から為替の流れを掴む。5) 外国為替取引と信用状の仕組から貿易代金決済の実務を学ぶ。6) 直物為替と先物為替を利用して為替リスクの回避方法を把握する。7) このような授業を通じて国際ビジネスに通用する知識を醸成し、企業の今に接近して臨場感を体験する。</p> <p>●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方 授業外指示 シラバスを見ておくこと 授業記録 資料配布</p> <p>第2回 項目 外国為替制度の変遷 内容 固定相場から変動相場へ 授業外指示 参考：プレトンウッズ体制 授業記録 資料1</p> <p>第3回 項目 為替とは 内容 現金を移動せず送金できる</p> <p>第4回 項目 内国為替の原理 内容 外為銀行と中央銀行の機能</p> <p>第5回 項目 内国為替と外国為替 内容 共通点と相違点</p> <p>第6回 項目 外国為替の特徴 内容 外為法の適用・為替相場の存在 授業記録 資料2・3</p> <p>第7回 項目 外国為替の形態 内容 送金為替と取立為替</p> <p>第8回 項目 貿易為替(取立為替)の流れ 内容 信用状と為替手形による代金決済 授業記録 資料4・5・5-2</p> <p>第9回 項目 外国為替銀行の役割 内容 銀行業務を通じて国際業務を学ぶ</p> <p>第10回 項目 外国為替市場 内容 対顧客市場と銀行間市場との関係</p> <p>第11回 項目 外国為替相場 内容 相場の体系 授業外指示 新聞の外国為替相場欄を読む・銀行揭示の相場表を見る</p> <p>第12回 項目 直物相場と先物相場 内容 為替売買契約と現物受渡し時点が異なる</p> <p>第13回 項目 為替リスクの回避法 I 内容 先物外為の予約などリスク回避法を学ぶ 授業外指示 実務上の重要な業務である、新聞の先物外為欄を読む</p> <p>第14回 項目 為替リスクの回避法 II 内容 通貨オプションなど リスク回避法を学ぶ 授業記録 資料6</p> <p>第15回 項目 テスト</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期テスト・出席などを総合して判定する、4回以上欠席者は失格。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：外国為替の基礎, 式場正昭 著, 経済法令研究会／参考書：外国為替の実務用語辞典 岡垣憲尚著 2,200円 金融図書コンサルタント社 外国為替の仕組 岡垣憲尚著 1,400円 総合法令社</p>					

開設科目	国際通貨機構論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田淵太一				

●授業の概要 現在，米国のドルを基軸通貨とする国際通貨体制は動揺し，これまでドル体制を支えてきた中東・アジア諸国もユーロに軸心を移しつつある。国際通貨体制が今後どのような展開を見せるかは，世界経済にとって最重要の問題となっている。こうした現状を理解し，将来を展望するために，19世紀の金本位制から戦間期の通貨体制の動揺，戦後のブレトンウッズ体制，変動相場制，欧州通貨統合，途上国にとっての通貨問題等を考察する。

●授業の一般目標 世界経済にとって最重要である国際通貨体制の問題を理解すること。

●授業の計画（全体） テキストを用いず，配布プリント，口述・板書，映像資料で講義を行なう。

●成績評価方法（総合） 論述式の定期試験 90%，通常点 10%。

●教科書・参考書 参考書：必要に応じて指示する。

●連絡先・オフィスアワー 授業開始時に発表する。

開設科目	国際投資論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤原貞雄				

●授業の概要 国際投資は、直接投資と間接投資からなっている。本講義で対象とするのは直接投資であり、しかも日本の直接投資である。講義は、日本の直接投資を企業レベルと、産業レベルと国民経済レベルで取り上げて、焦点となっている諸問題について解説する。

●授業の一般目標 最初に日本を対象にとりあげ、国際投資に関する基本的な知識を身につける。次に自動車産業を対象にとりあげ、産業、また企業レベルの国際投資活動について基本的知識を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国際投資について、また自動車産業の国際投資についての基本的知識を身につける。 思考・判断の観点：報道される国際投資に関わる問題について、自分の意見をもてるようになる 関心・意欲の観点：進んで、特定の国や特定の産業についての国際投資について調べたり、資料を集めて、比較的長いレポートが書ける。 態度の観点：授業に出席し、質問したり自分の意見を言えるようになる。

●授業の計画（全体） 国際投資の基本的知識、日本の国際投資の基本的知識、自動車産業の国際活動の基本的知識を身につける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス (1)：国際投資と国際直接投資
- 第 2 回 項目 ガイダンス (2)：国際投資と国際直接投資
- 第 3 回 項目 日本の国際直接投資の現状 (1)
- 第 4 回 項目 日本の国際直接投資の現状 (2)
- 第 5 回 項目 日本の国際直接投資の現状 (3)
- 第 6 回 項目 日本の国際直接投資の現状 (4)
- 第 7 回 項目 日本の国際直接投資の現状 (5)
- 第 8 回 項目 産業とグローバルネットワーク (1)
- 第 9 回 項目 産業とグローバルネットワーク (2)
- 第 10 回 項目 日本自動車産業とグローバルネットワーク (1)
- 第 11 回 項目 日本自動車産業とグローバルネットワーク (1)
- 第 12 回 項目 日本自動車産業とグローバルネットワーク (2)
- 第 13 回 項目 日本自動車産業とグローバルネットワーク (3)
- 第 14 回 項目 日本自動車産業とグローバルネットワーク (4)
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法 (総合) 試験 (知識・理解の観点) 50 %、レポート (思考・判断、意欲、関心の観点) 50 %。これに質問回数・内容 (意欲、関心、態度の観点) によって加点することがある。

●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：詳しい参考文献一覧を最初の授業時に配布する。



開設科目	貿易実務	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	上羽博人				

●授業の概要 日本経済は深く貿易に依存しているが、そこには煩雑な貿易実務がある。現在、貿易実務は貿易体制の変化、交通手段の発達、経済のグローバル化にともない、簡素化、世界共通化の方向にある。本講義では、物品を国際間で円滑に取引、移動させるために必要な貿易実務の基礎知識、実務能力を習得する。／検索キーワード INCOTERMS 信用状 通関 船荷証券 海上保険

●授業の一般目標 (1) 貿易実務に関する国際条約、国際ルールの理解 (2) 貿易手続（輸出・輸入）の理解 (3) 貿易書類（船積書類、通関関係書類）作成の能力習得

●授業の到達目標／知識・理解の観点：貿易手続の実態を理解し、貿易実務全体の流れが説明できる。  
思考・判断の観点：貨物の種類ごとになる貿易実務を適切に行なう能力を習得する。関心・意欲の観点：国際取引に興味を持つとともに、貿易実務に関する資格試験（貿易検定、通関士試験）に挑戦する。態度の観点：記載なし

●授業の計画（全体）日本の貿易の実態、貿易実務の全体構造、それぞれの実務の内容を順番に説明し、最終的に各自が基本的な実務（船積書類、通関関係書類の作成）ができるように実習を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 貿易取引の概要 内容 日本の貿易、貿易管理、貿易実務の概要（輸出、輸入） 授業外指示 最近の貿易関係の事故、事件の資料を読んでおく。

第 2 回 項目 1 売買交渉、契約 2 貿易条件（INCOTERMS など） 内容 見積り、契約成立、個別取引条件、一般取引条件、国際取引法 など

第 3 回 項目 決済と外国為替（信用状統一規則） 内容 荷為替手形決済（信用状、D/P、D/A） 送金決済、為替リスクなど

第 4 回 項目 貿易管理と通関 内容 関税関係法令、他法令、輸出入通関手続きなど

第 5 回 項目 輸送手段の選択と船積手続き 内容 輸送手段の特性・運賃、船積み書類、国際・国内運送関係法、総物流費用 など

第 6 回 項目 貿易のリスク・マネジメント 内容 運送責任、貨物保険、貿易保険、貿易クレーム処理など

第 7 回 項目 貿易実務 内容 船積書類、通関関係書類の作成

第 8 回 項目 試験 内容 船積書類、通関関係書類の作成

●成績評価方法（総合）・貿易実務の内容は幅広く複雑であるため、欠席すると分からなくなります。このため、授業態度や授業への参加度、出席も重視します。・成績は試験、授業態度や授業への参加度、出席など総合的に評価します。試験（講義の最後の日に行います）＝約 60% 授業態度や授業への参加度、出席＝約 40%

●教科書・参考書 教科書：最新改訂版 貿易実務 ハンドブック（第 3 版）、日本貿易実務検定協会（編）、中央書院、2003 年／参考書：1 ひとりで学べる通関士試験、朝比奈高一、菊池文司、ナツメ社、2003 年 2 入門の入門、貿易のしくみ、梶原昭次、日本実業出版社、2003 年

●メッセージ ・将来、貿易、国際物流関係へ就職希望のある方、通関士試験、貿易検定を受験される予定の方には、役立つ講義になります。

●連絡先・オフィスアワー weber@yokohama-pc.ac.jp

●備考 集中授業

開設科目	現代日本社会事情	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	河野 笙子				

●授業の概要 現代日本に特徴的な社会的・経済的重要問題を、新聞や雑誌等の記事を通して様々な角度から取り上げます。テーマ別に編集された切り抜き記事コピー集の読解を中心に授業を進め、他国、他地域との比較文化論的な観点からの掘り下げも行います。／検索キーワード 時事日本語、現代日本社会、現代日本経済

●授業の一般目標 (1) 経済学部で学ぶ外国人留学生に必要な基礎的経済知識・社会常識を身に付ける。(2) 時事日本語に対する読解力を身に付ける。(3) 時事問題に対する分析力を養う。(4) 現代日本社会に対する理解と認識を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 時事日本語の読解が出来る。 2. 取り上げられたテーマについての説明が出来る。 思考・判断の観点： 1. 時事問題の背景や問題点について自分の意見が言える。 関心・意欲の観点： 1. 現代社会で起きている様々な問題に関心を持つ。 態度の観点： 1. 時事問題について問題意識をもって考えることが出来る。 技能・表現の観点： 1. 時事問題についての論述が日本語で出来る。

●授業の計画(全体) 選ばれた15のテーマについて、主要記事の読解を中心に学んでいく。コピー集に主要記事と一緒に収められている関連記事も取り上げながら講義を進め、内容について質疑応答形式で基本的な理解が出来ているかどうかの確認をした後に意見発表や意見交換、話し合い等を行う。一方的な講義ではなく、受講者自身が自由に話す時間を出来るだけ多く設けたい。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 グローバル文化 社会とナショナリズム 内容 異文化理解と外国人問題
- 第 2 回 項目 若者問題 内容 自立と雇用の問題
- 第 3 回 項目 ワークシェアリング 内容 労働の分かち合い
- 第 4 回 項目 サービス残業 内容 過労社会の実態
- 第 5 回 項目 日本型雇用慣行と成果主義 内容 過渡期の日本型雇用慣行
- 第 6 回 項目 ペイオフ&地域通貨 内容 貨幣経済と私たちの生活
- 第 7 回 項目 経済学と環境問題 内容 環境問題と経済発展
- 第 8 回 項目 リサイクル 内容 家電・自動車・PC 再生
- 第 9 回 項目 コンビニ社会 内容 変貌する消費社会
- 第 10 回 項目 IT 革命 内容 IT の功罪
- 第 11 回 項目 肖像権・著作権 内容 権利の侵害と保護
- 第 12 回 項目 セーフガード 内容 緊急輸入制限措置と自由貿易
- 第 13 回 項目 民営化問題 内容 郵政民営化
- 第 14 回 項目 裁判員制度 内容 司法制度改革
- 第 15 回 項目 個人情報保護とメディア規制法 内容 基本的人権と情報公開のあり方

●成績評価方法(総合) 出席率、授業への参加度、期末レポートを合わせて行う。

●教科書・参考書 教科書：初回に手作りの切り抜き記事コピー集を配布します。

●メッセージ 留学生の皆さんの学生生活が順調に進み、有意義で実り多いものとなるよう、多方面から支えていきたいと思っています。個別の質問や相談にも最大限応じるつもりですから、気軽にC103(留学生指導室)に来てください。待っています。

●連絡先・オフィスアワー k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話：933-5562 研究室：経済学部C103  
3 オフィスアワー：木曜日14時30分～16時

開設科目	国際情報処理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	澤 喜司郎				

- 授業の概要 本講義は、ベーシック (BASIC) のプログラミングについて学習し、コンピュータをほとんど触ったことのない学生を受講の対象としています。「今どき、ベーシックって時代遅れだろう」「表計算ソフトで十分だ」と思われるかもしれませんが、今だからこそベーシックなのです。それは、現在ではコンピュータの性能が非常に良くなり、かつてはベーシックでは時間がかかりすぎて出来なかった計算や処理も、今ではいとも簡単に出来るようになりました。また、表計算ソフトを利用する場合に入力する数式はベーシックとほとんど同じで、ベーシックをマスターすることによって表計算ソフトの利用が容易になるばかりか、表計算ソフトでは出来ないこともベーシックでは簡単に出来ます。さらに、ベーシックのプログラムを作ることによって、ものごとを体系だてて考える思考力が養われます。ここに、プログラミングを学習する大きな意義があります。本講義では、コンピュータ・グラフィクスを中心に学習し、コンピュータ・ゲームの製作を行います。
- 授業の一般目標 コンピュータ・グラフィクスのテクニックを中心に学習し、オリジナルのコンピュータ・ゲームの製作を行います。
- 授業の計画 (全体) 1. 四角形や三角形の描画と着色 2. 繰り返し処理と図形の自動描画 3. 円と楕円の描画 4. 破線と曲線の描画 5. 色の合成 6. キー操作による図形の移動 7. 時計の利用、など
- 成績評価方法 (総合) 作品 100 %
- 教科書・参考書 教科書： BASIC プログラミング超入門, 澤 喜司郎, 成山堂書店, 1998 年
- メッセージ コンピュータは慣れることが最も大切です。講義時間外にも進んでコンピュータに接する時間を確保できる学生の受講を希望します。

開設科目	国際情報処理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 本講義は、ベーシック (BASIC) のプログラミングについて学習し、コンピュータをほとんど触ったことのない学生を受講の対象としています。「今どき、ベーシックって時代遅れだろう」「表計算ソフトで十分だ」と思われるかもしれませんが、今だからこそベーシックなのです。それは、現在ではコンピュータの性能が非常に良くなり、かつてはベーシックでは時間がかかりすぎて出来なかった計算や処理も、今ではいとも簡単に出来るようになりました。また、表計算ソフトを利用する場合に入力する数式はベーシックとほとんど同じで、ベーシックをマスターすることによって表計算ソフトの利用が容易になるばかりか、表計算ソフトでは出来ないこともベーシックでは簡単に出来ます。さらに、ベーシックのプログラムを作ることによって、ものごとを体系だてて考える思考力が養われます。ここに、プログラミングを学習する大きな意義があります。本講義では、コンピュータ・グラフィクスを中心に学習し、コンピュータ・ゲームの製作を行います。
- 授業の一般目標** コンピュータ・グラフィクスのテクニックを中心に学習し、オリジナルのコンピュータ・ゲームの製作を行います。
- 授業の計画 (全体)** 1. 四角形や三角形の描画と着色 2. 繰り返し処理と図形の自動描画 3. 円と楕円の描画 4. 破線と曲線の描画 5. 色の合成 6. キー操作による図形の移動 7. 時計の利用、など
- 成績評価方法 (総合)** 作品 100 %
- 教科書・参考書** 教科書： BASIC プログラミング超入門, 澤 喜司郎, 成山堂書店, 1998 年
- メッセージ** コンピュータは慣れることが最も大切です。講義時間外にも進んでコンピュータに接する時間を確保できる学生の受講を希望します。

開設科目	国際関係論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	大林洋五				

- 授業の計画（全体）（1）「社会主義世界体制」の崩壊＝東西対立の終焉と、新しい世界秩序への模索 ○ 東西対立のための組織の変容 - NATO, EEC (→ EC → EU) ○ 旧社会主義諸国の、「再生への苦闘」 ○ 「社会主義市場経済」論 ○ 残された東西対立 - 朝鮮半島 etc. （2）南北問題 - 発展途上国 vs. 先進工業国 ○ 旧植民地・従属国 vs. 宗主国からの変容 ○ 領土、国防、貿易、金融、資源、環境、……問題での基本的対立 （3）エスニック対立 ○ 宗教、言語、民族、部族、人種…… ○ 国際関係と国内のエスニック対立 （4）紛争解決の方法 - 平和的、協力による ○ 戦争と平和、国際機関の役割 （5）「抑止力」とはなにか ○ 「戦わずして勝つ」、「戦わずして敵を拒む」 ○ 「抑止」か？「促進」か？ （6）軍備競争と軍備縮小（軍縮） ○ 部分的軍縮と全面的軍縮「軍備撤廃」 （7）軍事同盟 - その目的と効果 ○ 中立主義 （8）「世界国家」の理念と批判 ○ 世界帝国 - 恒久平和か、世界支配か ○ 世界連邦の運動 （9）異なった価値観への寛容 ○ 内政不干涉と国際協力

開設科目	現代世界経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	河野真治				

●授業の概要 世界経済の諸問題を理解する。特に 90 年代以降の問題に焦点を当てるが、その理解の前提となる戦後の世界経済の流れについても概観する。問題の多様性からして、「深さ」よりも「広さ」を追求する。世界経済は、個々の国民経済の寄せ集めではない。世界経済全体にとって重要な問題がテーマとして選ばれる。個々の国民経済が問題となるのは、世界経済との関連の中においてである。

●授業の一般目標 現代世界経済の基礎的諸問題について理解する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 講義の課題と戦後世界経済の概観
- 第 2 回 項目 2 21 世紀の世界経済
- 第 3 回 項目 3 アメリカ経済の位置
- 第 4 回 項目 4 EU 統合の現在
- 第 5 回 項目 5 90 年代の日本経済
- 第 6 回 項目 6 アジア経済の発展
- 第 7 回 項目 7 WTO と地域主義
- 第 8 回 項目 8 直接投資と国際分業の変化
- 第 9 回 項目 9 ドルと国際通貨体制
- 第 10 回 項目 10 援助と経済発展
- 第 11 回 項目 11 人口爆発
- 第 12 回 項目 12 地球環境問題
- 第 13 回 項目 13 世界の富と貧困
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) 毎回行う小レポート (60 %)、期末テスト (40 %) で評価する。小レポートに出席点はありません。

●教科書・参考書 参考書：現代世界経済をとらえる (Ver.4) , 松村、他, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	世界システム論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	河野眞治				

●授業の概要 近代資本主義世界を「世界システム」（これは固有名詞）として捉える考え方を批判、検討する。授業は、国際経済学や資本主義に関しての一定の知識を前提とする。

●授業の一般目標 「世界システム論」を理解すること。

●授業の計画（全体） 受講者が少ない場合、講義とゼミ形式を混ぜ合わせて行う。受講者が多い場合には、講義の途中で1－2回受講者のレポート発表の場を設ける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 システムとは何か
- 第 2 回 項目 世界システムとは何か
- 第 3 回 項目 従属学派の世界システム論（1）
- 第 4 回 項目 従属学派の世界システム論（2）
- 第 5 回 項目 従属学派の世界システム論（3）
- 第 6 回 項目 ウォーラーステインの世界システム論（1）
- 第 7 回 項目 ウォーラーステインの世界システム論（2）
- 第 8 回 項目 ウォーラーステインの世界システム論（3）
- 第 9 回 項目 不等価交換論（1）
- 第 10 回 項目 不等価交換論（2）
- 第 11 回 項目 世界システム論批判（1）
- 第 12 回 項目 世界システム論批判（2）
- 第 13 回 項目 21 世紀の「世界システム」
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） 毎回の小レポート（60%）、テーマ・レポート3回（40%）で評価する。

●教科書・参考書 参考書：1 回目の講義で紹介する。

開設科目	国際協力論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古賀武陽				

- 授業の概要 国際協力とは何か、誰が、誰に対して、なぜ、どのように行うのか・・・日々の時事問題に遭遇するたびにこのような疑問にとらわれることが多いだろう。わが国は経済大国として 1991 年以降、政府開発援助（ODA）の援助額は世界最大となったが、2001 年以降減少している。こうした事実を背景に、国際協力を巡る諸問題を学習する。／検索キーワード 国際開発、産業発展、人道支援
- 授業の一般目標 戦後、賠償金の支払いからわが国の国際協力の足取りをたどりながら、ODA の枠組みから、日本企業による海外直接投資の持つ国際協力的側面までを学習する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：国際協力に関わる機関、国際協定、専門用語の理解を深める。  
思考・判断の観点：国際協力の背後にある貧困と紛争の構図に対する理解を深める。関心・意欲の観点：国際協力に携わる青年海外協力隊、NGO、NPO などの活動を理解し、できるところから参画しようという意欲に結びつける。態度の観点：世界の貧困を歴史的に把握する。技能・表現の観点：自分の言葉で国際協力について話せるようになる。
- 授業の計画（全体） 1. 時事問題における国際協力の種々相 2. わが国の国際協力の変遷・・・コロombo・プランから 50 年 3. わが国の国際協力と国際社会・・・ODA 大綱の基本理念 4. 日本企業による海外直接投資の開発貢献 5. 日系企業の国際協力・・・技術協力と人材育成
- 成績評価方法（総合）国際協力に関わる問題に対して総合的な理解を得ることを評価の基本とする。
- 教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：「国際開発学」（渡邊利夫編 東洋経済新報社）、「社会開発論」（佐藤誠編 有信堂）、「開発学を学ぶ人のために」（菊地京子編 世界思想社）
- メッセージ イラク人道支援問題は改めて国際協力について考えさせる契機となった。現実問題を見つめることから学習を始めたい。
- 連絡先・オフィスアワー e-mail: kogatake@c-able.ne.jp



開設科目	国際理解論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	マルク・レール				

●授業の概要 この講義では、国際理解とマスメディアの関係について分析する。マスメディアは「外国」のイメージをどう伝えているのか、国際社会の中で、マスメディアがどんな役割を果たしているのか、私たちはマスメディアをどう利用すれば、国際事情をもっと正確に理解できるか、などについて解説する。

●授業の一般目標 マスメディアが描く「外国」のイメージを多面的・批判的に分析することによって、もっと正確なイメージを形成する。外国に関する情報をもっと有効に送受信する能力を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：マスメディアが描く「外国」のイメージとその動機を理解する。  
 思考・判断の観点：マスメディアが描く「外国」のイメージについて批判的に判断する。 関心・意欲の観点：マスメディアの有効な利用によって、もっと正確な「外国イメージ」を得たい意欲を示す。

●授業の計画（全体） 毎回、国外内の沢山の事例を参照しながら、理論的と実証的にメディアの描く「外国」のイメージについて解説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 入門 内容 講義テーマへの入門

第 2 回 項目 マスメディアの効果 内容 マスメディア学における効果論の解説

第 3 回 項目 人間とマスメディア 1 内容 人間とマスメディアの関係を歴史的・社会的に解説する

第 4 回 項目 人間とマスメディア 2 内容 人間とマスメディアの関係を歴史的・社会的に解説する

第 5 回 項目 プリント・メディアと国際理解 1 内容 プリント・メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 6 回 項目 プリント・メディアと国際理解 2 内容 プリント・メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 7 回 項目 プリント・メディアと国際理解 3 内容 プリント・メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 8 回 項目 プリント・メディアと国際理解 4 内容 プリント・メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 9 回 項目 放送メディアと国際理解 1 内容 放送メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 10 回 項目 放送メディアと国際理解 2 内容 放送メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 11 回 項目 放送メディアと国際理解 3 内容 放送メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 12 回 項目 放送メディアと国際理解 4 内容 放送メディアが描く「外国」のイメージを分析する

第 13 回 項目 インターネットと国際理解 内容 インターネット時代における「外国」のイメージ形成の特徴について解説する。

第 14 回 項目 日本文化論とマスメディア 内容 マスメディアの中の日本文化論と「日本」のイメージ形成に関して検証する。

第 15 回 項目 総括 内容 授業の総括。

●成績評価方法（総合） 出席（欠格条件）、小テスト（60%）、レポート（40%）。

●メッセージ この授業で、海外のマスメディアの事例が沢山登場するので、高度な英語理解能力（読み取り、聞き取り）が求められる。

●連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際地域統合	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尹春志				

●授業の概要 いまや世界的な潮流となっている地域統合の最も先進的な形態をもつヨーロッパの統合について以下の各分野にわたって検討する。(1) 地域統合の理念と理論、(2) 通貨協力と統一通貨ユーロ、(3) 共通農業政策、(4) 地域政策、(5) EU の中東欧への拡大。／検索キーワード 検索キーワード  
Keywords ヨーロッパ統合、通貨協力、ユーロ、共通農業政策、地域政策、EU 拡大

●授業の一般目標 ヨーロッパ諸国は、ヨーロッパ共同体 (EC) / ヨーロッパ連合 (EU) という超国家機関の下で経済統合だけでなく、様々な分野にわたって協力関係を構築してきた。そして昨年 5 月、既存の 15 カ国に加え新たに中東欧 10 カ国が加盟し、世界最大の経済圏となった。ヨーロッパの国々は、なぜ地域統合という道を選択したのか、国家を超える枠組みのなかで彼らは何を目指し、どのような社会を構築しようとしているのか。本講義では、いまや世界のスーパーパワーの一つとなった EU の試みについて理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ヨーロッパで試みられている様々な試みについて理解を深める。  
思考・判断の観点： 国家や国民という既成の思考の枠組みを超えた社会建設のあり方について学ぶ。

●授業の計画 (全体) 上記のテーマを 2 回から 3 回の講義で検討する。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 講義の概要と目的の説明
- 第 2 回 項目 国際地域統合の理論 (1)
- 第 3 回 項目 国際地域統合の理論 (2)
- 第 4 回 項目 ヨーロッパ統合の理念
- 第 5 回
- 第 6 回 項目 ヨーロッパ通貨協力 (1)
- 第 7 回 項目 ヨーロッパ通貨協力 (2)
- 第 8 回 項目 統一通貨ユーロ
- 第 9 回 項目 共通農業政策 (1)
- 第 10 回 項目 共通農業政策 (2)
- 第 11 回 項目 地域政策
- 第 12 回
- 第 13 回 項目 中東欧への拡大 (1)
- 第 14 回 項目 中東欧への拡大 (2)
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) 特に出席はとらず、4 回の課題レポートで成績を評価する。定期試験は行わない。

●教科書・参考書 教科書： 特に指定せず、プリント類を配布する。 / 参考書： 現代ヨーロッパ経済論, 田中素香編, 有斐閣; 経済統合のパワーゲーム, , 文春新書; 適宜、必要に応じて提示する。

開設科目	経済発展論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	松井範惇				

●授業の概要 経済発展に関する主要なトピックについて学びます。途上国の経済成長、開発、貧困、工業化、農業発展、国際的側面、援助などについて研究する。特に、貧困、飢餓、飢饉について、それらの関係・原因・対策などについて総合的に考え、理論的な考察を行う。また、この授業では、単なる講義形式はとらず、出席者（つまり受講者）全員が、読み、書き、考え、討論に参加し、小試験を受けることによって、自ら考え、学ぶ態度を身につける、ことを目指す。自分の考えを発表し、読んだことをまとめて書く作業・能力は、一生 極めて大事です。／検索キーワード 開発、農業、工業化、貧困、飢餓、飢饉、アジア・アフリカ

●授業の一般目標 開発途上国の諸問題について、自分で考えられるよう、より一層興味を持てるようにします。

●授業の計画（全体） 1. 序、貧困、開発、飢餓 2. 人口 3. 緑の革命 4. 工業発展 1 5. 工業発展 2 6. 貿易と F D I 7. 飢饉の本質 8. 飢饉の理論：気候と人口、エンタイトルメント・アプローチ 9. 天然資源、開発、政府 10. 戦争、国際関係 11. 中国 12. ODA 13. アジア経済危機 14. アジア経済の新動態 15. まとめ

●成績評価方法（総合） 出席：10%、小試験（2）：25%、25%、期末試験（または、プロジェクト）40%

●教科書・参考書 教科書：開発経済学入門、渡辺利夫、東洋経済新報社、2001年；飢饉の理論、デブロー、東洋経済新報社、1999年

●メッセージ 発展途上国のことについて好奇心の旺盛な人、学ぶことを学びたい人、大歓迎ですから、しっかりついてきて下さい。

●連絡先・オフィスアワー 933 - 5530 npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際環境保全論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳 禮俊				

●**授業の概要** 18 世紀の産業革命以来，ヨーロッパを中心とした工業先進国は技術革新によって，工業生産性の向上を可能にし，驚異的な経済発展をもたらした。この産業革命は伝統的な自給自足の農業社会を，財貨に対する需要拡大を引き起こした工業化社会へと変換させ，人々に多大な富と豊かな生活様式を可能にした。それゆえ，発展途上国にとって，工業化は経済発展を加速させ，生活水準を向上させるために，最も有効な手段の一つだと考えられている。しかしながら，多くの発展途上国では，工業化過程の離陸段階では，環境保全のための政策的努力はしばしば無視され，キャッチアップを優先する産業政策は，汚染集約型化学工業を優先して推進されるために，社会資本では産業基盤を優先して，生活基盤を軽視する傾向にある。環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は，様々な公害・環境問題を引き起こした。一方，地球規模の環境問題の拡大に伴って，国際協力による緩和への道を探ることは人類共通の課題になりつつある。特に，地球温暖化問題に関する国際的取組みは，科学的知見の集積をふまえて，1980 年代に国際政治問題化して以来，集約的に行なわれてきたが，発展途上国の義務に関しては，なかなか合意が得られない。しかしながら，今後，発展途上国，特にアジア地域が急速な経済発展に伴う二酸化炭素の排出量を急増させると予想されることから考えても，途上国も，「持続的な開発を損なわない範囲で，地球温暖化の抑制に向けて努力しなければならない。

●**授業の一般目標** 本授業は「気候変動」に関する国際環境保全の政策を中心に論ずることにしたい。そのねらいは，受講者における「国際公民」の意識と義務を認識させると共に，国際環境保全の重要性をアピールする。

●**授業の計画（全体）**（1）圧縮型工業化と爆発的都市化（2）加速するモータリゼーション（3）広がる環境汚染と健康被害（4）問われる生物多様性の保全と利用（5）地球規模の環境問題と地球サミット（6）気候変動枠組条約（7）国際環境保全の課題と展望

●**成績評価方法（総合）** 成績評価は基本的に，出席（40％），質問表の記入状況（30％）と試験（30％）で行う。ただし，合格基準点に達していない受講者に対して，救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

●**教科書・参考書** 教科書：アジア環境白書 1997/98，日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」，東洋経済新報社，1997 年；アジア環境白書 2000/01，日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」，東洋経済新報社，2000 年

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部 C226 室 電話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	開発とジェンダー	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	横田伸子				

●授業の概要 経済のグローバル化の進展とともに、開発途上国でも経済開発のために女性が労働市場へ引っぱり出されるようになった。しかし、女性は男性と同じ労働をするのではなく、ここでも男女の性別役割分業が成り立った。すなわち、女性は家事に加えて、家族の生活を維持するための無報酬労働や、男性の正規の労働に対して「補助的な」低賃金労働に従事することで、開発途上国の「開発」を支えてきたと言えよう。本講義では、このような「ジェンダー」の視角から、女性が「開発」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題をとらえ直したい。／検索キーワード 開発, ジェンダー, 性別役割分業, 女性の労働力化, グローバリゼーション

●授業の一般目標 「ジェンダー」の視角から、開発途上国において女性が「開発」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題をとらえ直すことを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1.「ジェンダー」という概念を正しく理解する。 2.「開発」における女性の動員のされ方や役割について正しく理解する。 思考・判断の観点： 1.「ジェンダー」概念を用いて、「開発」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活や一般社会にひそむ「ジェンダー構造」について意識的に知ろうとする。 態度の観点： 1. 講義に対して質問や自分の意見を提示するなど講義に積極的に参加する。 技能・表現の観点： 1.「ジェンダー」概念を用いて、「開発」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明し、叙述できる。

●授業の計画（全体） 1.「ジェンダー」という概念の説明 2.「近代家族」の形成とグローバリゼーション 3. 国際連合の女性政策の展開過程－「開発」と女性 4. 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ 5. 日本における女性労働と社会政策

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「ジェンダー」という概念 (1) 内容 「ジェンダー」という概念の新しさ と意義について説明する
- 第 2 回 項目 「ジェンダー」という概念 (2) 内容 「ジェンダー」という概念の新しさ と意義について説明する。
- 第 3 回 項目 「近代家族」の形成とグローバリゼーション (1) 内容 産業革命以来の「近代」家族の形成と意味について論じる
- 第 4 回 項目 「近代家族」の形成とグローバリゼーション (2) 内容 戦後フォーディズム体制の下での「近代家族」体制の強化と福祉国家について論じる。
- 第 5 回 項目 「近代家族」の崩壊とグローバリゼーション 内容 グローバリゼーションの進展の中で、「近代家族」体制＝男性稼ぎ主型家族がどのようにして崩れていっているのか、それとともに福祉国家体制がいかに後退しているのかについて論じる。
- 第 6 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(1) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかに巻き込まれてきたのかを歴史的に見る。
- 第 7 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(2) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかに巻き込まれてきたのかを歴史的に見る。
- 第 8 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(3) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかに巻き込まれてきたのかを歴史的に見る。

- 第 9 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(4) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかにかき込まれてきたのかを歴史的に見る。
- 第 10 回 項目 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ (1) 内容 発展途上国の開発に女性がいかにかき込まれ、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例にとりてに見てみる。
- 第 11 回 項目 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ (2) 内容 発展途上国の開発に女性がいかにかき込まれ、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例にとりてに見てみる。
- 第 12 回 項目 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ (3) 内容 発展途上国の開発に女性がいかにかき込まれ、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例にとりてに見てみる。
- 第 13 回 項目 日本における女性労働と社会政策 (1) 内容 日本における女性の就業の特徴（パートタイム労働や M 字型曲線など）について論じる。
- 第 14 回 項目 日本における女性労働と社会政策 (2) 内容 日本における女性の働き方を特徴づける社会政策、雇用政策に付いてみてみる。
- 第 15 回 項目 日本における女性労働と社会政策 (3) 内容 日本において「男女共同参画社会」を実現するにはどうしたらよいかを考える。

●成績評価方法 (総合) 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験 60 %、授業への参加度 10 %、レポート 10 %、出席 20 %。

●教科書・参考書 参考書：開発とジェンダー, 大沢真理他編, 2002 年; 福祉国家とジェンダー, 大沢真理編, 明石書店, 2003 年; 男女共同参画社会を作る, 大沢真理, NHK ブックス, 2002 年; 後発工業国における女性労働と社会政策, 村上薫編, アジア経済研究所, 2002 年

●メッセージ 近年さかんになっている「ジェンダー」研究は、性別を超えて人間としての生き方を根本から問い直す学問です。「自分らしく生きる」とはどういうことなのかをこの授業を通じて一緒に考えてみませんか。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5559、研究室 A425、オフィスアワーはとくに設けませんが、質問等があるときは在否を確認の上訪ねてください。

開設科目	東アジア経済論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尹春志				

●授業の概要 「世界の工場」といわれる東アジアの経済発展・工業化について、その発展戦略の一般的特徴、発展パターン、そのなかでの多国籍企業の役割について講義を行う。講義では、まず、東アジアを一つの経済単位とみた全般的な特徴について考察し、この地域を構成するそれぞれの国家の多様な発展パターンに焦点を当てる。／検索キーワード 東アジア、輸出志向工業化、生産ネットワーク、多国籍企業

●授業の一般目標 東アジア経済の発展の経路および構造を学ぶなかで、日本経済が、いかにしてこの地域に深く関与し、東アジアが日本にとっていかに重要な地域であるかについて理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：特定の地域の経済構造を理解する上で必要な経済指標や経済概念について学ぶ。思考・判断の観点：一般的な教科書に書かれている理論をしっかりと見に付けるとともにそれを批判的に見る視角を養う。関心・意欲の観点：いま暮らしている日本という国の経済が他の諸国と深く結びついていることを知り、世界経済に目を向ける契機にする。

●授業の計画（全体） まず、通常のアジア経済、東アジア経済についてのテキストに書かれているこの地域の経済発展の特徴について概説する。次に、東アジアを構成する諸国の経済構造を個別に見るのではなく、東アジアを一つの分析単位とした発展パターンについて理解を深める。そして、日系多国籍企業の活動実態をみるなかで、この地域に経済発展と日本経済とのかかわりについて考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 授業全体の概要と目的の説明 参考文献などの説明
- 第 2 回 項目 東アジアの経済発展の特徴（1）
- 第 3 回 項目 東アジアの経済発展の特徴（2）
- 第 4 回 項目 東アジアの発展パターン（1）
- 第 5 回 項目 東アジアの発展パターン（2）
- 第 6 回 項目 東アジアの発展パターン（3）
- 第 7 回 項目 日系多国籍企業の活動（1）
- 第 8 回 項目 日系多国籍企業の活動（2）
- 第 9 回 項目 米系多国籍企業の活動（1）
- 第 10 回 項目 米系多国籍企業の活動（2）
- 第 11 回 項目 アジア危機（1）
- 第 12 回 項目 アジア危機（2）
- 第 13 回 項目 アジア危機後の東アジア経済
- 第 14 回 項目 期末試験編
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） 特に出席はとらず、期末テストで評価する。

●教科書・参考書 教科書：教科書は特に指定せず、適宜プリントを配布する。／参考書：第一回目の授業で提示する。

開設科目	東アジア経済論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尹春志				

●授業の概要 東アジア経済論 I では、取り上げることでできなかった、東アジアにおける地域協力、地域主義の歴史と現状について検討する。特に、現在、進行中の日本を中心とした自由貿易／経済連携協定をめぐる動き焦点を当てる。／検索キーワード 東アジア経済、地域主義、APEC、ASEAN、自由貿易協定／経済連携協定

●授業の一般目標 東アジア経済論 I では、取り上げることでできなかった日本と東アジア諸国をめぐる政治経済的な関係を分析するのが、この講義の目的である。とりわけ、日本は、戦後一貫して東南アジア諸国を中心に経済協力関係を構築してきた。この講義では、こうした協力関係の歴史と現状について理解を深めることに主眼がある。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本が目指す東アジアとの地域協力とはどのようなものかについての理解を深める。思考・判断の観点：歴史的な観点から現状を見ていく視座を養う。関心・意欲の観点：「アジアのなかの日本」という目で日本について考える契機とする。

●授業の計画（全体） まず、日本が具体的に地域協力を発展させるまでの東アジア、とりわけ東南アジア諸国との歴史的関係について概説し、日本が中心になって展開してきた太平洋協力および APEC の基本的な考え方について解説する。加えて、東アジアの重要な国際機関である ASEAN の歴史と現状について検討する。そして、現在、日本が推進している東アジア諸国との自由貿易／経済連携協定と金融協力の意義について検討する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 インTRODakション 内容 授業の概要と目的の説明

第 2 回 項目 日本・東アジア関係前史（1）

第 3 回 項目 日本・東アジア関係前史（2）

第 4 回 項目 日本の太平洋協力運動（1）

第 5 回 項目 日本の太平洋協力運動（2）

第 6 回 項目 ASEAN の歴史と現状（1）

第 7 回 項目 ASEAN の歴史と現状（2）

第 8 回 項目 日本の自由貿易協定戦略（1）

第 9 回 項目 日本の自由貿易協定戦略（2）

第 10 回 項目 日本の自由貿易協定戦略（3）

第 11 回 項目 東アジア地域協力の枠組み

第 12 回 項目 東アジア地域主義の可能性（1）

第 13 回 項目 東アジア地域主義の可能性（2）

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合） 特に出席はとらず、3 回の課題レポートと 1 回の授業内レポートによって評価する。定期試験は行わない。

●教科書・参考書 教科書：特に指定せず、適宜プリント類を配布する。／参考書：必要に応じて提示する。

●メッセージ 受講制限はないが、前期に東アジア経済論 I を受講していることが望ましい。



開設科目	韓国経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	横田伸子				

●授業の概要 1. 第2次世界大戦後の世界資本主義体制の構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾が「東アジアの奇跡」とよばれる高度成長を遂げた。本講義では、1960年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、国内的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていく。とくに、開発政策を通じて強力な国家が果たした役割と、その結果、韓国経済・社会の構造がいかに関わったかについて注目したい。2. 1997年の東アジア経済危機を契機に、韓国でも急速に経済構造改革が進められている。中でも、労働政策、金融改革、財閥改革などを具体的に取り上げて、韓国経済の構造がどのように変わったのかについて考えたい。3. 朝鮮半島における韓国と北朝鮮の関係について、国際政治、国際経済などの様々な側面から見ていく。／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、アジア経済危機、北朝鮮、ジェンダー、福祉戦略

●授業の一般目標 1. 韓国の経済発展メカニズムについて考える 2. 韓国の経済構造改革について考える。3. 韓国と北朝鮮の関係について、国際政治や国際経済などの様々な側面から見てみる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に理解する。2. 韓国の経済構造改革について体系だてて理解する。3. 朝鮮半島情勢について国際関係の脈絡の中で理解する。 思考・判断の観点： 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に説明できる。2. 韓国の経済構造改革について体系だてて説明できる。3. 朝鮮半島情勢について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 経済だけでなく、日常的に韓国の政治、文化、歴史や社会について関心を持つ。 態度の観点： 1. 本講義に対して質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。 技能・表現の観点： 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に叙述できる。2. 韓国の経済構造改革について体系だてて叙述できる。3. 朝鮮半島情勢について論理的に叙述できる。

●授業の計画（全体） 1. 韓国経済を見る視角。2. 韓国経済の発展メカニズムについての分析。3. 韓国の経済構造改革と経済構造の変化。4. 国際関係の中での北朝鮮の情勢。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 韓国経済を見る視角 内容 韓国の経済発展を様々な立場の経済学者がどのように見てきたのか
- 第2回 項目 韓国の農地改革と農村開発 内容 韓国の経済開発の始発点で、韓国の農地改革が農村開発及び経済発展にどのような役割を果たしたかを見る。
- 第3回 項目 1950年代の韓国経済 内容 高度経済成長の前段階の1950年代に発展の前提条件がどのように形成されたかを見る。
- 第4回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(1) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第5回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(2) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第6回 項目 農村開発とセマウル運動(1) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件を、セマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させた。その展開過程を跡づける。
- 第7回 項目 農村開発とセマウル運動(2) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件を、セマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させた。その展開過程を跡づける。
- 第8回 項目 「韓国型」重化学工業化(1) 内容 韓国においてなぜ、重化学工業化が可能であったのか？「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。
- 第9回 項目 「韓国型」重化学工業化(2) 内容 韓国においてなぜ、重化学工業化が可能であったのか？「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。

- 第10回 項目 韓国の都市化と労働市場 内容 1970年代の韓国の経済発展の原動力となった「低賃金」労働者の実態を浮き彫りにする。
- 第11回 項目 労働者大闘争と労働市場の構造変化 内容 韓国の労働経済史上の画期となった1987年の「労働者大闘争」以前と以後の労働者のあり方を主に労働市場構造の分析を通じてみていく。
- 第12回 項目 IMF経済危機と経済改革(1)-金融システムの改革 内容 アジアの経済危機以降の経済構造改革の中の金融改革の実態を分析する。
- 第13回 項目 IMF経済危機と経済改革(2)-財閥改革と市民運動 内容 アジアの経済危機以降の経済構造改革の中の財閥改革の実態を考察する。同時に、これに大きな影響を与えた「参与連帯」をはじめとする市民運動の動きも見ていく。
- 第14回 項目 IMF経済危機と経済改革(3)-労働市場の柔軟化政策 内容 アジアの経済危機以降の労働市場の柔軟化政策の中で労働者の状態がどのように変わったのかについてみていきたい。
- 第15回 項目 北朝鮮の進路と韓国の選択 内容 めまぐるしく変わる朝鮮半島情勢を、北朝鮮の動きに注目しつつ、国際関係の中でとらえる。

●成績評価方法(総合) 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験60%、レポート10%、授業への参加度10%、出席20%。

●教科書・参考書 参考書：韓国の経済, 隅谷三喜男, 岩波書店, 1976年; 韓国の工業化—発展の構図, 服部民夫, アジア経済研究所, 1987年; NIES—世界システムと開発—, 平川均, 同文館, 1992年; 韓国・先進国経済論, 深川由紀子, 日本経済新聞社, 1997年; 東アジアの福祉戦略, 大沢真理編, ミネルヴァ書房, 2004年

●メッセージ 最近、「韓流」とよばれる韓国ブームが日本だけでなく、東アジア全体に広がっていますが、そのパワーやダイナミクスの源を皆さんと一緒に探りたいと思います。

●連絡先・オフィスアワー E-mail ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp. 電話番号083-933-5559, 研究室A425. オフィスアワーはとくに設けません。質問等があるときは、在否を確認の上、研究室を訪ねてください。

開設科目	華僑経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳 禮俊				

●授業の概要 アジアを中心に居を構えている華人は、その居住国での総人口に占める割合は少ないにもかかわらず、経済面では圧倒的な支配力を持っている。華人企業の多くは様々な分野に跨るコングロマリットにまで成長している。特に近年、華人企業は対外投資や企業買収を活性化させるなどの方法で、その授業をグローバルに展開し、アジア経済、そして国際経済の発展にますます大きな役割を果たすようになってきている。このことは華人が既に無視できない経済勢力にまで成長し、華人経済抜きではアジア、そして国際経済を語れなくなったことを示唆しているが、経済の頂点にたつ華人社会は現在新たな事業を展開しながら、国際社会への更なる貢献を模索しているところである。

●授業の一般目標 本授業はアジアにおける華僑の経済活動を中心に分析しながら、アジアにおける開発途上国の環境問題を視野に取入れ、従来欧米先進諸国が主導してきた「東洋経済」、「環境保全」の限界と問題点を指摘し、東洋的、特に中国社会における「老荘思想」、そして日本の「和道」から出発し、東洋社会に適した経済発展のアプローチと環境意識を考案することにした。その目的は、「老荘思想」をもつ「華人ネットワーク」と「和道」を論ずる日本社会をリンクさせ、東洋独自のアプローチで、新たなアジア経済秩序作りと地球規模の環境問題解決に向けた提案を考案し、理論を構築することにした。

●授業の計画(全体) (1) 華僑経済発展過程の考察 (2) アジアにおける華僑経済活動の現状 (3) アジアにおける工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 (4) 華僑経済の位置付け及びその展望 (5) 地球規模の環境問題解決における華人の役割、可能性及びその展望

●成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に、出席(40%)、質問表の記入状況(30%)と試験(30%)で行う。ただし、合格基準点に達していない受講者に対して、救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

●連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部C226室 電話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	台湾経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳 禮俊				

- 授業の概要 戦後台湾は目覚ましい経済発展を成し遂げている。特に 1980 年代の初頭から、台湾、韓国、香港、シンガポールなどの 4 カ国・地域はアジア NIE s の姿で、世界経済の舞台に登場して以来、それぞれの経済発展と政治の動きは世界の人々の注目を集めた。そしてアジア NIE s の内、台湾の工業化、都市化による経済成長のパターンは「発展途上国の模範」といわれているが、発展途上諸国の工業化における経済政策に大きな示唆を示している。しかし、18 世紀産業革命以降、欧米先進工業諸国は急激な技術革新及び工業化の成果を享受しながら、自然環境変化による莫大な被害を経験してきた。この背景に 1960 年代後半から、環境保全運動は盛んに行なわれているが、この時期はちょうどアジア NIE s 工業化の離陸期であり、欧米先進諸国から工業化による経済豊かさの情報のみを取り入れ、環境問題をほぼ無視した状態で工業化、都市化を進んできた。その影響はそれぞれの国・地域によって、多少時間のずれはあるが、1980 年代を中心にアジア諸国の環境問題は浮上しているが、台湾も例外ではない。
- 授業の一般目標 本授業では戦前、戦後台湾経済発展の軌跡を辿りながら、台湾の工業化及び都市化が特徴を纏め、それに伴う環境・エネルギー問題を中心に分析し、従来の新古典派などの成長理論と異なる視点をを用いて、新たな開発経済学の研究領域を模索する。そして授業のねらいは「環境に優しい経済発展」のモデルを考察することにした。
- 授業の計画（全体）（1）戦前、戦後台湾の経済発展過程の考察（2）戦前、戦後台湾の工業化、都市化の考察（3）工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察（4）諸学派の「成長理論」及び「台湾モデル」の考察
- 成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、質問表の記入状況（30%）と試験（30%）で行う。ただし、合格基準点に達していない受講者に対して、救済措置として課題レポートを要求する場合がある。
- メッセージ 気軽に授業に来てください。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 C226 室 電話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	東アジア社会	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	李海峰				

●授業の概要 中国は 1980 年から計画経済に市場経済システムを導入し、急速に経済の高度成長を遂げました。このような経済改革は壮大な社会的変革となった。この改革遂行は経済政策に直接関わる制度のみならず、国民生活、家族制度、価値観、政治、階級など社会全体が再編成されている。市場経済の発展に伴って、社会構造がどのように変化し、大衆消費社会がどのように形成しているのか、統計データ、社会調査などの資料を通して分析、考察する。／検索キーワード 中国経済と日本、東アジア社会経済、構造変化、

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済改革——計画経済から市場経済への移行
- 第 2 回 項目 欧米、日本など先進国から技術、市場システムの導入
- 第 3 回 項目 経済の発展と生活水準の上昇
- 第 4 回 項目 消費生活と商業環境の変化
- 第 5 回 項目 情報環境の発達と社会経済の変貌
- 第 6 回 項目 欧米、日本、中国の大衆消費社会の比較
- 第 7 回 項目 都市・農村間、地域間、階層間格差の拡大
- 第 8 回 項目 政策と人口動態
- 第 9 回 項目 農村の開発と郷鎮企業
- 第 10 回 項目 中国の社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 11 回 項目 経済発展とエネルギー、インフラ整備
- 第 12 回 項目 開発と環境汚染
- 第 13 回 項目 中国の社会経済発展とアジアの構造変化
- 第 14 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 15 回 項目 世界市場環境と東アジア社会

●メッセージ 充実しておもしろい知的な道を探求しましょう、一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、

開設科目	中国経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	李海峰				

- 授業の概要 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的に良好なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。／検索キーワード 中国経済、東アジア社会
- 授業の一般目標 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。
- 授業の計画（全体） 1. 社会主義計画経済期の経済成果 計画経済体制の確立、第1次5カ年計画の成功、自力更生政策のもとでの経済成長 2. 社会主義計画経済期の挫折と模索 大躍進による経済後退、文化大革命期の停滞、分権的経済体制への模索 3. 改革開放路線の展開 農村改革—万元戸の誕生、経済特区の設置、外国資本の導入、社会主義商品経済の提唱 4. 改革期の経済成長 地域経済の隆盛、高速成長から安定成長へ、アジア経済危機の防波堤、世界の工場へ 5. 経済体制の根本的な転換 国有企業の改革、株式制の導入、財政税制金融制度の改革、社会主義市場経済への転換 6. 21世紀に向けて 成長はいつまで続く、西部大開発とWTO加盟、世界大国の夢と現実
- メッセージ よくノートをとって、必ず整理しておくように。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つように。

開設科目	現代中国論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	大林洋五				

●授業の概要 授業のねらい及び概要 1. 世界一の消費財生産・輸出国となり、高度成長を続けている中国の大きな可能性と危険性を分析する。とくに隣国・日本にとっての中国の”重さ”を考える。2. 現代中国の特色を大国、発展途上国、”社会主義市場経済”の三つの特色に整理して考える。3. 先進工業国、グローバル経済への発展のための課題と障害を考える。／検索キーワード 中国、アジア、発展途上国、国際関係

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 世界の中の中国、日本にとっての中国 近代以降の「潜在敵国」アメリカ、ロシア、中国
- 第 2 回 項目 人口―労働力、潜在市場 面積―広い平地（長い輸送路） 資源―豊かな埋蔵（開発費用）
- 第 3 回 項目 古い文明―（近隣の尊敬と歴史的「大国主義」への警戒） 多様な生活（漢民族の中でも）、少数民族
- 第 4 回 項目 半封建社会・半植民地の近代、開発の遅れ
- 第 5 回 項目 社会主義化の成果とマイナス面（1949―78）
- 第 6 回 項目 社会主義化の成果とマイナス面（続）
- 第 7 回 項目 ”改革・開放”の成果、”社会主義市場経済”の意味（1979以降）
- 第 8 回 項目 ”改革・開放”の成果、”社会主義市場経済”の意味（1979以降）（続）
- 第 9 回 項目 今後の課題―経済成長それ自体から 外国資本・外国技術・外国市場（外国原料半製品）への依存エネルギー、交通などの制約
- 第 10 回 項目 今後の課題―民主主義への軟着陸は可能か
- 第 11 回 項目 辺境と少数民族と周辺国家
- 第 12 回 項目 台湾問題、香港問題 結論―民主主義の意味
- 第 13 回 項目 試験（7月21日）（小論文）
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） 期末の筆記試験による

●教科書・参考書 教科書：記入なし。,, ; 使用しない。／参考書：記入なし。,, ; 中国の地図を用意してほしい。

●メッセージ 大きな隣人を理解しよう。

●連絡先・オフィスアワー 自宅 083-924-9638（FAXによる質問歓迎）

開設科目	中国工業論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳建平				

- 授業の概要 中国において、近代的工業体系が形成され、発展を遂げたのは、新中国が成立した後になってからだといわれる。近代化の実現＝工業化の達成がかなり長期にわたって、中国の国家目標とされてきたといっても過言ではない。本講義では、中国の近代工業の発展の各段階を振り返り、通時的共時的比較を通して、今日の中国工業の到達点とその直面する諸問題について検討し、その将来を展望する。／検索キーワード 中国、中国経済
- 授業の一般目標 工業化、社会主義工業化、重工業優先発展戦略などについて理解し、その成果と問題点についても説明できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：中国の工業化の戦略、発展経路について理解できること。思考・判断の観点：中国が重工業化路線を選択した理由を理解でき、その経緯を説明できること。関心・意欲の観点：最新の中国の産業や社会に関する情報を収集すること。
- 授業の計画（全体）（１）工業化の初期段階――社会主義中国成立前の中国工業（２）重工業優先の工業化政策――計画経済期の中国工業（３）改革開放後の工業発展――重工業優先発展戦略の転換（４）モノづくり大国を目指して――２１世紀中国工業の展望
- 成績評価方法（総合）定期試験を中心に成績判定をする。
- 教科書・参考書 教科書：テキストを使用しない。
- メッセージ 出席を怠らず、よくノートを整理しておくように。



# 観光政策学科

開設科目	観光概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	河村誠治				

●授業の概要 今日観光は大衆観光と言え、それは、産業革命以降の資本主義の発展によるところの大衆の生存費以上の所得獲得、余暇時間の増大などとともに、供給サイドの物的・技術的条件である交通・運輸業、宿泊業などからなる観光産業の発展、および観光活動の商品化によるところが大きい。本講義では、産業革命が大衆観光の醸成に果たした歴史的意義から始め、観光の定義や概念把握が時代や場所により異なることを示し、次に今日観光の主体・客体・媒体の関係、国際観光と国内観光の関係、観光および観光産業の効果などを原理的に説明する。そしてその説明が世界標準に近いものであるように、国民経済計算体系 SNA の付属勘定としてのツーリズム・サテライト・アカウントを視野に入れた、今日の国際機関における観光の取扱いについて概説する。最後に、観光を肯定したところの持続可能な観光開発について述べ、全体を取りまとめる。世界、東アジア、そしてわが国の観光の現況や動向についても、各講義でできるだけ触れていくようにする。

●授業の一般目標 本講義は、観光をする者(観光の需要者)の享楽のために、観光スポットや遊びの方法などを紹介していくというような観光概論ではない。将来的には、(1)観光経済の性質や特徴に関するマクロ経済的研究、(2)観光の需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(3)観光産業の投資や収益性に関する事業化研究(フィージビリティ・スタディー: feasibility study)、(4)観光行政や観光資源開発に関する政策的研究などを視野に入れたもので、そのために必要な観光(経済)の基礎的な概念、専門用語、分析手法を理解するとともに、脱工業社会に突入した世界、東アジア、そしてわが国の経済・社会の現況や動向を、観光・サービスという視点から語れるようにする。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 大衆観光の基本概念を説明できる。観光分野の基本的な専門用語を、識別できる。世界、東アジア、そしてわが国の観光の現状と動向に関心を寄せるようになる。思考・判断の観点: 現実の大衆観光を、第一者、第二者、第三者の観点から分析し、それらの関係を総合的に捉えることができるようになる。関心・意欲の観点: 大衆観光をリードする観光産業やそれを指導する政府の経済活動に対する関心を高める。

●授業の計画(全体) テキストや講義ノートをもとに授業をするが、現実的な資料を提供することによって補足する。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光の歴史・階級性 内容 観光の主役と目的
- 第 2 回 項目 産業革命と観光 内容 大衆観光成立への物的(技術的)・価値的条件
- 第 3 回 項目 観光の諸定義(1) 内容 観光の概念把握のあゆみ
- 第 4 回 項目 観光の諸定義(2) 内容 観光の類似用語と定義づけ
- 第 5 回 項目 大衆観光の主体・客体・媒体(1) 内容 観光客・観光資源・観光産業の関係(1)
- 第 6 回 項目 大衆観光の主体・客体・媒体(2) 内容 観光客・観光資源・観光産業の関係(2)
- 第 7 回 項目 観光および観光産業の多重性 内容 観光および観光産業の各種効果
- 第 8 回 項目 サービス業としての観光産業 内容 観光における生産的労働と不生産的労働
- 第 9 回 項目 観光産業のスマイル 内容 観光産業のたてまえと本音
- 第 10 回 項目 観光の商品化と地場産業 内容 観光による地域振興
- 第 11 回 項目 国際観光と国内観光 内容 観光の経済的把握
- 第 12 回 項目 国際機関における観光の取扱い 内容 観光の国際的定義
- 第 13 回 項目 持続可能な観光開発(1) 内容 観光資源開発と観光開発
- 第 14 回 項目 持続可能な観光開発(2) 内容 観光開発のありかた
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 100%。出席 = 欠格条件。注1. 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。出席を点数化しないが、出席率が3分の2を下回る学生に

については期末試験の受験資格を与えない。出席カードは授業途中に配布し、授業終了10分前に回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。注2. 試験について。中間試験と期末試験を実施する。配点は、中間試験が30点、期末試験が70点とする。中間試験は、15回目の授業時間に行い、期末試験は、通常の試験期間に行う。両方の試験ともテキスト等の持ち込み不可。注3. 以上の点について変更があれば、授業時間中に公表するので注意のこと。

- 教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004年；観光概論<第4版>, 交通公社教育開発, (株)交通公社教育開発, 1999年／参考書：その都度適宜示す。
- メッセージ 教科書は2冊となるが、両教科書ともに「観光経済政策総論」などでも教科書とするので購読されたい。

開設科目	観光経済学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	河村誠治				

●授業の概要 観光経済学は、経済学の諸理論をベースにしながらも、経済学の周辺領域の学問も織りまぜながら、観光活動に見られる経済的に特異な諸々の現象や矛盾を分析し研究し、観光経済の発展を「観光公害」などの理由から否定するのではなく、その発展のための条件やその法則性を探ろうとする応用経済学である。本講義では、観光経済の細胞とも言える観光商品を分析した後で、観光商品の需給関係、観光商品の価格、観光商品の消費、観光投資、観光収入とその分配と、ミクロからマクロまでの観光経済の領域全般についての原理を説明する。

●授業の一般目標 観光経済の研究、具体的には (1) 観光経済の性質や特徴に関するマクロ経済的研究、(2) 観光の需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(3) 観光産業の投資や収益性に関する事業化研究(フィージビリティ・スタディー: feasibility study)、(4) 観光行政や観光資源開発に関する政策的研究などを行なう上での基本的な知識・理解を教授し、思考・判断、関心・意欲を育む。

●授業の到達目標／知識・理解の観点: 観光経済の基本概念を説明でき、その基本的な専門用語を識別できる。思考・判断の観点: 観光経済を、主にミクロ経済学、マクロ経済学、および政治経済学などに基づいて分析し、観光経済を多面的にかつ重層的に捉えることができるようになる。関心・意欲の観点: 大衆観光をリードする観光産業や観光を指導する政府の経済活動、観光による地域経済の振興、ひいては国民経済の発展に対する関心を高める。

●授業の計画(全体) テキストや講義ノートをもとに授業をする。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光商品 (1) 内容 観光商品の概念と本質
- 第 2 回 項目 観光商品 (2) 内容 観光商品の特徴
- 第 3 回 項目 観光商品の需要 (1) 内容 観光需要の意義と影響要因
- 第 4 回 項目 観光商品の需要 (2) 内容 観光需要の法則と弾力性
- 第 5 回 項目 観光商品の供給 内容 観光供給の概念と価格弾力性
- 第 6 回 項目 観光商品の需給関係 内容 需給均衡の理論と現実
- 第 7 回 項目 観光価格 (1) 内容 観光価格の概要、決定メカニズム、設定目標
- 第 8 回 項目 観光価格 (2) 内容 観光価格の具体的設定法と観光商品の差別価格戦略
- 第 9 回 項目 観光消費 (1) 内容 観光消費の概念と観光消費の構造
- 第 10 回 項目 観光消費 (2) 内容 観光消費者の行動理論
- 第 11 回 項目 観光消費 (3) 内容 観光消費額の推計方法
- 第 12 回 項目 観光収入とその分配 (1) 内容 観光収入の概念、旅行会社の意義
- 第 13 回 項目 観光収入とその分配 (2) 内容 観光の経済波及効果—観光乗数理論
- 第 14 回 項目 観光収入とその分配 (3) 内容 観光収入の域外流出—漏出とそれへの対応
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 100%。出席 = 欠格条件。注1. 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。出席を点数化しないが、出席率が3分の2を下回る学生については期末試験の受験資格を与えない。出席カードは授業途中に配布し、授業終了10分前に回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。注2. 試験について。中間試験と期末試験を実施する。配点は、中間試験が30点、期末試験が70点とする。中間試験は、15回目の授業時間に行い、期末試験は、通常の試験期間に行う。両方の試験ともテキスト等の持ち込み不可。注3. 以上の点について変更があれば、授業時間中に公表する。

●教科書・参考書 教科書: 観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004年 / 参考書: その都度適宜示す。

●メッセージ 教科書は「観光経済政策総論」などでも教科書とするので購読されたい。

開設科目	観光と環境	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	朝日幸代				

●授業の概要 観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間が作りだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴がある。これら資本に対する経済学理論による捉え方を講義する。さらに観光資源となる文化資本の価値や自然環境および環境問題の保全政策を理解する内容を提示した上で、日本国内および海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を紹介する。講義は講義ノートのプリントと資料によってすすめる予定である。

●授業の一般目標 観光資源の属する様々な資本を理解し、経済学の外部性の観点で環境を捉えること、さらに環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：外部性を理解し、環境問題を説明できる。また、文化資源や自然環境資源を理解する。環境政策の観光への適用事例を説明できる。思考・判断の観点：環境問題の解決策や観光政策で必要とされる要素について自分の意見を述べることができる。関心・意欲の観点：日常生活の環境問題や環境政策、さらに現在の観光の状況、環境政策に関心をもつ。

●授業の計画（全体） 経済活動と資源および資本の定義と役割を解説した上で、外部性の考え方を示す。次に文化資本と環境について個々に解説した上で、環境資源としての考え方やコンセプトを示し、近年のエコツーリズムなどの事例を紹介する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済活動と資源
- 第 2 回 項目 資本の定義と役割
- 第 3 回 項目 外部性の考え方（1）
- 第 4 回 項目 外部性の考え方（2）
- 第 5 回 項目 環境と経済の持続可能性
- 第 6 回 項目 環境政策の考え方（1） 内容 直接規制
- 第 7 回 項目 環境政策の考え方（2） 内容 四日市公害の事例紹介
- 第 8 回 項目 文化的な財・サービスの経済的評価 内容 美術館の事例
- 第 9 回 項目 文化資本と持続可能性
- 第 10 回 項目 文化遺産の経済的側面
- 第 11 回 項目 観光資源の考え方
- 第 12 回 項目 観光デザインの要素
- 第 13 回 項目 新しい観光のコンセプト 内容 環境保全型の観光
- 第 14 回 項目 エコツーリズム 内容 ドイツのフライブルクの事例、オーストラリア環境研修
- 第 15 回 項目 環境再生における新たな発展 内容 水俣公害の負の遺産をプラスにする戦略

●成績評価方法（総合） 期末試験または期末試験にかわるレポート試験＝70～100%未満 小テスト／授業内レポート＝30%未満 宿題／授業外レポート＝30%未満 授業態度や授業への参加度＝30%未満

●教科書・参考書 参考書：公共経済学入門，西垣泰幸 編著，八千代出版，2003年；文化経済学入門，デイビット・スロスビー，日本経済新聞社，2003年；観光マーケティングー理論と実際ー，長谷政弘，同文館，1998年；都市再生を考える，植田和弘他，岩波書店，2004年

開設科目	観光コミュニケーション	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	宮崎充保				

●授業の概要 この科目の基本は「コミュニケーション」です。それに「観光」が冠されています。この授業では、コミュニケーションの基本と実践を学習して、それが、観光に関するコミュニケーションであることを学びます。「観光」は物見遊山で見聞を広めたり日常から脱却して非日常を経験するなかで自己回復を図ることを考えがちですが、これは「観光する＝訪れる」側の論理です。楽しく思い出深く、土地の人情まで触れることができれば満点でしょう。しかし、「観光させる＝受け容れる」側の論理を考えなければなりません。そこには学科の理念にあるとおり、“自国文化（＝地元文化）と異文化理解、まちづくり、景観や環境、観光産業（ホスピタリティ）”など、考えたら際限なく、言語コミュニケーションを支えとして人と文化が出会うことが基本になります。／検索キーワード 観光、コミュニケーション、プレゼンテーション

●授業の一般目標 ・キャッチボールにたとえられる“コミュニケーション”することは何か、その基本と基礎を学び、それを実践へ向ける。 ・この“コミュニケーション”に観光を加えたとき、コミュニケーションの形態はどうなるか、それを学び実践へ向ける。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 言語に関する諸相を理解し、実践態勢へ向ける 地域文化に関する知識の収集をして理解する 思考・判断の観点： 異文化（外国文化とは限らない）の人間と、ある設定された状況のもとで、どのようなコミュニケーション運営をしたらよいかの判断力をつける 関心・意欲の観点： 自分にないもの、自分が知らないものへの高い関心を持つ 自分にあるもの、自分が知っているものへの愛着と尊敬を持つ 態度の観点： 関心、愛着、尊敬の次元をさらに高める そのために、調査や探求を日常から心がける 技能・表現の観点： 要領を得た、まとまりのある言語表現ができるようになる その他の観点： 人間、土地にまつわる諸相を好きになる

●授業の計画（全体） 授業ではまず、コミュニケーションについて学びます。コミュニケーションは伝えようとするを相手に伝達することです。相手には理解あるいは何らかの反応が生まれるようになることです。これに観光をかぶせて、観光地の発掘、発掘した観光地の歴史文化、観光企画、現地における観光産業（ホテル、土産店など）、観光ガイドに必要なコミュニケーションをプレゼンテーションによって進めます。 この科目の授業は初めて行われます。受講者のやりたいこと、やらなければならないことをリサーチしながら、上記の項目を取り入れながら、人に伝えるだけの話の種を持つような授業を考えています。したがって、週配当は未定とします。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション1 内容 コミュニケーションについて
- 第 2 回 項目 イン트로ダクション2 内容 コミュニケーションについて
- 第 3 回 項目 イン트로ダクション3 内容 コミュニケーションについて 今後の授業について
- 第 4 回 項目 プレゼンテーションに向けて1 内容 プレゼンテーションの仕方 ハンドアウトの書き方
- 第 5 回 項目 プレゼンテーションに向けて2 内容 同上
- 第 6 回 項目 プレゼンテーション1 内容 テーマ別
- 第 7 回 項目 プレゼンテーション2 内容 テーマ別
- 第 8 回 項目 プレゼンテーション3 内容 テーマ別
- 第 9 回 項目 プレゼンテーション4 内容 テーマ別
- 第 10 回 項目 プレゼンテーション5 内容 テーマ別
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション6 内容 テーマ別
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション7 内容 テーマ別
- 第 13 回 項目 プレゼンテーション8 内容 テーマ別
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

- 成績評価方法 (総合) ・出席を重視する。欠席を3回以上すると不合格になる。以下の4点を最も重視して評価する。 ・プレゼンテーションのためのフィールドワークの報告書(レポート) ・プレゼンテーションのための必要な形式のハンドアウト ・プレゼンテーション ・プレゼンテーションに対するアセスメント
- 教科書・参考書 教科書：当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのとき知らせる。
- メッセージ 想像力をぎりぎりまで働かせてください。そして、それをどのように形にして表現するかを考えてください。また、言葉に大きな興味を持ってください。これらが億劫な人は初めからこの授業は履修しないでください。
- 連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	異文化コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	鴨川 啓信・武本 ティモシー				

●授業の概要 この授業は、二名の教員により、主としてコミュニケーション理論と異文化表象について講義・演習を行う。武本担当の授業の狙いは、他文化との言語的や非言語的コミュニケーション方式の違いや、その結果生じてくるコミュニケーションの問題について考えることである。30分以内の講義の後、他の学生と組んで日本語や英語で話しあうことによって、示されている文化差の実感を図る。ロールプレイングのような実験によって、異文化体験をさせる。インターネットを通して、オンライン実験や異文化人と交流する。鴨川担当は、旅行記やエッセイ等、異文化との接触を描いた文章や映像を受容し、そこから異文化理解に関する問題を考察する。

●授業の一般目標 武本担当授業の目標： 1) 対人コミュニケーションにおける文化の差をより意識する。 2) 日本文化や他文化の世界観の違いを意識する。 3) 日本人のアイデンティティーやコミュニケーションの特徴を意識する。 鴨川担当授業の目標： 異文化理解やその障害の例を知ること。また、妨げの要因を自分なりに特定し、障害を抑える術を考案することを通して、この主題についての理解を深めること。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 異文化コミュニケーションの諸理論についての知識（武本担当分）  
技能・表現の観点： 文化の違いや異文化コミュニケーション問題について英語で話せる能力（武本担当分）

●授業の計画（全体） 武本担当分 1. 文化とコミュニケーションの定義 2. 非言語的コミュニケーション（表情） 3. 自己主張の違い：遠慮と謙遜と自己高揚 4. ヴィジュアル文化の解読 5. 文化と空間とコミュニケーション 6. 文化と時間とコミュニケーション 7. 異文化コミュニケーション壁：差別 鴨川担当分 7週で、異文化理解/誤解の事例を幾つか見ていき、それぞれについて受講者自身の意見形成の演習を行う。

●成績評価方法（総合） 武本担当授業では、学期末試験50%、カード得点評価法による平常点50% 鴨川担当授業では、発表等での授業参加状況・課題の提出状況(1/2)、レポート(1/2)で評価する。授業全体では、上記の評価を総合して成績を出す。

●メッセージ 「異文化コミュニケーション論」は実習的な科目でもあるので、出席は重要。（武本）

●連絡先・オフィスアワー 武本： 「いつでも <http://eigodaigaku.com> のチャットルームや携帯電話にも転送される [timothy@nihonbunka.com](mailto:timothy@nihonbunka.com) まで」 鴨川： 研究室: 経済 A207 / e-mail: [kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	情報メディア論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	マルク・レール				

●授業の概要 主要の従来のマスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）とインターネットの歴史的発展、現在の特徴と可能性について解説する。

●授業の一般目標 受講者のメディア・リテラシー・レベルを高める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：マス・メディアの仕組みを理解する。思考・判断の観点：それぞれのマスメディアの特徴と可能性について判断が出来る。関心・意欲の観点：もっと積極的にマス・メディアの「素顔」を調べる。態度の観点：日ごろ、マス・メディアの情報行動を疑問視する。

●授業の計画（全体）理論的分析と実例に基づいて、新聞、放送、インターネットの歴史的発展や現在の特徴と可能性を明らかにする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーション学入門 内容 コミュニケーションの仕組みと「メディア」の関係。
- 第 2 回 項目 メディア研究入門 内容 メディア研究の分野とその特徴、研究テーマ、方法論。
- 第 3 回 項目 新聞の歴史的発展 — ドイツ 内容 ドイツの新聞の歴史的発展とその中に見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 4 回 項目 新聞の歴史的発展 — 日本 内容 日本の新聞の歴史的発展とその中に見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 5 回 項目 新聞市場の特徴 I 内容 部数データを中心に現在の日本の新聞市場の特徴の解説。
- 第 6 回 項目 新聞市場の特徴 II 内容 欧米と日本の新聞市場の比較。
- 第 7 回 項目 放送メディアの歴史的発展 — 米国 内容 米国の放送の歴史的発展とその中に見るメディア・ソフトの解説。
- 第 8 回 項目 放送メディアの歴史的発展 — 日本 内容 日本の放送の歴史的発展とその中に見るメディア・ソフトの解説。
- 第 9 回 項目 放送市場の特徴 I 内容 放送ビジネスの現状の解説と国際比較。
- 第 10 回 項目 放送市場の特徴 II 内容 II 他チャンネル化とソフトの関係の解説。
- 第 11 回 項目 テレビ番組に見る社会変化 内容 社会変化 主にアメリカの代表的なテレビ番組の分析。
- 第 12 回 項目 マスメディアとしてのマルチメディア I 内容 マルチメディアの発展と現状に関する解説。
- 第 13 回 項目 マスメディアとしてのマルチメディア II 内容 マスメディアとしてのインターネットの分析。
- 第 14 回 項目 マスメディアの将来像 内容 メディアは同変わっていくか、そしてどのメディアが生き残るかを検討。
- 第 15 回 項目 総括・試験 内容 授業で学んだことをどう生かせるかを考える。期末試験を実施。

●成績評価方法（総合）小テストを講義期間中に 6 回実施（計 60 %）。期末試験を最後の授業内に実施（30 分程度、40 %）。

●連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	リーディング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	宮崎充保				

●授業の概要 読むこともコミュニケーションです。この授業ではそのつもりで、英語を読むということがどういうコミュニケーションであるか、そのためには、英語をどのように読んだらよいか、読めるようになるためにはどのようにしたらよいかを扱います。読むことは、決して暗い孤独な行為ではないこと、読めば自分の外の世界、内面の世界が広がる楽しみがあることを体験する授業を考えます。そして、その楽しみを、プレゼンテーションという形式を取って参加者に知らせます。プレゼンテーションは読む人の世界の広がりを示してくれます。そして、グループで議論をして、学生中心の授業形態を取ります。／検索キーワード 和訳抜きで英語を読む・プレゼンテーション・ハンドアウト

●授業の一般目標 ・読むための語彙力をつける。 ・読むための文構造の理解を深める。 ・和訳を通さないで読む習慣を付ける。 ・プレゼンテーションの仕方を知る。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点：語彙力を高める。コミュニケーションに必要な基本的な文構造（文法）を再学習する。 思考・判断の観点：何がテーマか、まず大筋を組み立てる。テーマを支える人物や出来事、周りの状況についての的確に掴み取る。 関心・意欲の観点：扱う文章のテーマについて関心を持ち、自分の世界とどう関わるかを考え、議論する。 態度の観点：できるだけ多くのものを英語で読み、英語に接する機会を増やすような学習習慣を形成する。 技能・表現の観点：読んだ話を自分なりに組み立てなおし、筋道立てて人に伝える（プレゼンテーション）。

●授業の計画（全体） ・まず、授業担当者によるプレゼンテーションのやり方を示す。（プレゼンテーションそのものを行うのではない。含まれる要素を示して、構成を考えてもらう。） ・受講者の人数によるが、複数のグループに分けて、グループによるプレゼンテーションとディスカッションを選んだ文章に関して行う。 ・1グループは2週間かけて、選んだ文章の読み方、読むときの英語にかかわる留意点、文章から発されているメッセージを発表してもらう。その際、プレゼンテーションに用いるハンドアウトを用意する。 ・話題とプレゼンテーションの展開によっては、担当者によるフィードバックが必要なので、決まりきった進み方をするわけではない。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- |        |    |                   |                  |                                    |   |
|--------|----|-------------------|------------------|------------------------------------|---|
| 第 1 回  | 項目 | イントロダクション         | プレゼンテーションへ——その 1 | 内容                                 | 授業の進め方 英語を読むとは？ プレゼンテーションについて 授業外指示 It Can't Happen Here（教科書 pp.20-23）を予習してくる |
| 第 2 回  | 項目 | プレゼンテーションへ——その 2  | 内容               | 実践しながらプレゼンテーションをする構成要素の紹介          |   |
| 第 3 回  | 項目 | プレゼンテーションへ——その 3  | 内容               | 実践しながらプレゼンテーションをする構成要素の紹介——読んで話し合う |   |
| 第 4 回  | 項目 | プレゼンテーション 1——その 1 | 内容               | 授業参加者がえらんだ話をもとにプレゼンテーション（以下同じ）     |   |
| 第 5 回  | 項目 | プレゼンテーション 1——その 2 |                  |                                    |   |
| 第 6 回  | 項目 | プレゼンテーション 2——その 1 |                  |                                    |   |
| 第 7 回  | 項目 | プレゼンテーション 2——その 2 |                  |                                    |   |
| 第 8 回  | 項目 | プレゼンテーション 3——その 1 |                  |                                    |   |
| 第 9 回  | 項目 | プレゼンテーション 3——その 2 |                  |                                    |   |
| 第 10 回 | 項目 | プレゼンテーション 4——その 1 |                  |                                    |   |
| 第 11 回 | 項目 | プレゼンテーション 4——その 2 |                  |                                    |   |
| 第 12 回 | 項目 | プレゼンテーション 5——その 1 |                  |                                    |   |
| 第 13 回 | 項目 | プレゼンテーション 5——その 2 |                  |                                    |   |
| 第 14 回 | 項目 | プレゼンテーション 6——その 1 |                  |                                    |   |

第 15 回 項目 プレゼンテーション 6——その 2

- 成績評価方法 (総合) ・プレゼンテーション・ハンドアウトの評価 ・授業への参加度 ・出席—— 4 回以上欠席したら不可とする ・学期試験
- 教科書・参考書 教科書： Chicken Soup for the Soul, Canfield, J. & Hansen, M.V., Health Communications, Inc., 1993 年
- メッセージ ・英英辞典を多用してください。 ・中途半端に受講する人はこの授業は遠慮してください。

開設科目	ライティング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	鴨川 啓信				

- 授業の概要 この授業では、自分の考え等まとまった内容を英語で表現するために、ただ単文を完成させるだけではなく、複数の文を繋げ、並べて段落を、また段落を並べて文章を作成する術を学習・演習する。
- 授業の一般目標 文の繋げ方、段落の構成、論の展開等を学び、まとまった内容を英語で表現できるようになることを目標とする。
- 授業の計画（全体） 使用するテキストに従い、1 週 1 チャプターの進度で学習する。各章の内容は以下の通り。 1. Connecting Sentences, 2. Using Words to Connect Ideas, 3. Parallel Constructions, 4. Using Modifiers, 5. Parts of Paragraphs, 6. Types of Organization, 7. Topic Sentences, 8. Pre-Writing Steps, 9. Emphasis, 10. Figures of Speech, 11. Making Your Writing More Concrete, 12. Writing about Time 各回の授業の進め方の詳細は、初回の授業で説明する。尚、授業の性質上、毎回予習や課題を課すこととなるので、受講者は必ずやってくること。
- 成績評価方法（総合） 授業参加度＋課題提出状況＋学期末課題、で評価する。それぞれの配分は授業内で提示する。
- 教科書・参考書 教科書： The ABCs of Writing Strategies, S. Kathleen Kitao, 英宝社, 2005 年
- 連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	リスニング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	正宗聡				

●授業の概要 ストーリーのある教材を毎回部分に分けて用いて、リスニング力の強化を目指す。／検索キーワード 音

●授業の一般目標 実際の音の崩れについて、多少なりとも慣れる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 音の崩れ方のパターンを少しでも多く習得する。

●授業の計画（全体） どの回も、ただただ教材を聞き続ける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イン트로ダクション

第 2 回 項目 演習 1

第 3 回 項目 演習 2（以下、最後の回まで演習を続ける。）

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合） 授業中の参加度と、（これは筆記試験になるかと思われるが）定期試験の点数。

●教科書・参考書 教科書：プリント配布する。／参考書：なし。

●メッセージ 出席をきちんとしてください。

●連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	文法（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	鴨川 啓信				

- 授業の概要 多くの人が文法を意識するのは、長くて複雑な英文に出会ったとき、または自分で英語の文を作るときだと思われる。この授業では、動詞の様々な使い方を中心に、主な文法事項の整理と問題による練習を通して、長文読解と英文作成のための基礎となる英文法の知識の習得を目指す。
- 授業の一般目標 英文法における基本的な項目を理解し、基礎的な英語力の向上を目指す。 複雑な英文の意味を正しく理解するため、そして考えを適切な英文で表すために必要な文法知識を身に付ける。
- 授業の計画（全体） 授業で取り上げる主な項目は以下の通り。 「動詞の基礎」・「受動態」・「準動詞」・「時制と仮定法」・「助動詞」・「接続詞」・「関係詞」 なお週単位の計画は、初回の授業にて連絡する。
- 成績評価方法（総合） 授業への参加状況・課題の提出状況（20）、小テスト（30）、定期試験（50）により評価する。〔（ ）内の数字は、おおよその割合を示す。〕
- 教科書・参考書 教科書： 教材は授業時にプリントで配布する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武本 ティモシー				

- 授業の概要** この授業の目的は、「English Speaking」及び武本担当の経済英語を履修していない学生のため、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。／検索キーワード 英語を話す、コミュニケーション、自己表現
- 授業の一般目標** (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。 関心・意欲の観点： 1. 授業内の活動やWBT 課題（授業外の課題）に積極的に取り組む。 態度の観点： 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。 技能・表現の観点： 1. 身近なことがらについて流ちょうに話せる力を身につける。
- 授業の計画（全体）** まだ教科書が完成していないので、完成した時点で掲示なり第1回目の授業で、授業計画は発表されます。
- 成績評価方法（総合）** ・2回以上（欠席届による公欠を含フクむ）欠席した学生の成績は不可となる。
  - ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる（2回課題を提出しなかった場合は不可となる）。
  - ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A) 授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B) WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：武本ティモシー著、『English Speaking』という教科書。
- メッセージ** 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておらずに自分の可能性に挑戦してみてください。
- 連絡先**・オフィスアワー tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階,HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。



開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	アラン・クリスト				

- 授業の概要 General ways and means of oral communication in English will be studied.
- 授業の一般目標 In this class it is expected that the students will improve upon their spoken English skills drawing upon their latent English knowledge as well as new vocabulary and speaking styles.
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： Students must be able to explain terms in easy to understand English. 関心・意欲の観点： Students must want to communicate with others in English. 態度の観点： Students must be able to work in groups of students and not be shy about expressing themselves
- 授業の計画（全体） Every week different topics of conversation will be covered.
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 Greetings and Talking about Yourself 内容 WH-Questions Simple present tense
  - 第 2 回 項目 Describing things 内容 Simple present Yes/No questions
  - 第 3 回 項目 Asking for and giving directions 内容 Prepositions of location
  - 第 4 回 項目 Expressing thanks and shopping 内容 Numbers and ordinal numbers
  - 第 5 回 項目 Offering help; making requests 内容 Counters
  - 第 6 回 項目 Talking about routines 内容 Adverbs of frequency
  - 第 7 回 項目 Interviewing someone 内容 Simple present; WH-questions
  - 第 8 回 項目 Telling time 内容 WH-questions; "usually"
  - 第 9 回 項目 Describing people 内容 Present progressive tense
  - 第 10 回 項目 Describing present states 内容 Simple present and adjectives
  - 第 11 回 項目 Asking for opinions 内容 "better than" singular and plural nouns
  - 第 12 回 項目 Giving reasons and opinions 内容 Likes and dislikes; preferences
  - 第 13 回 項目 Talking about past events 内容 Simple past and present perfect tenses
  - 第 14 回 項目 Making comparisons 内容 Comparatives
  - 第 15 回 項目 Talking about the weather 内容 more work with adjectives
- 成績評価方法（総合） Class Participation 40 % Homework 20 % Periodic Quizzes 20 % Final Test 20 % Students who are absent for 5 class periods will automatically fail.
- 教科書・参考書 教科書： Speaking First, Vivey, P,

開設科目	ビジネス英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古賀武陽				

- 授業の概要 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。／  
検索キーワード ビジネス英語、国際ビジネス、e-mail
- 授業の一般目標 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。 思考・判断の観点： ビジネス文書の背後（ビジネス環境、社内事情など）を正しく理解する。 関心・意欲の観点： 国際ビジネスへの関心を高める。 態度の観点： 国際理解力を高める。 技能・表現の観点： 英語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。
- 授業の計画（全体） 教科書のビジネスシーンの進行に沿って、特に「読む」「書く」スキルを重点的に学ぶ。また、適宜タイムリーな記事をプリントで読み最新のビジネス情報を学ぶ。
- 成績評価方法（総合） 発想力および表現力の両面でスキルが着床しているかどうかの評価のポイントとなる。
- 教科書・参考書 教科書：“ Business as Usual ”(成美堂)／ 参考書： Japan Times などの英字紙企業の英語版 Home page
- メッセージ グローバル・マインドをもって世界を見よう！
- 連絡先・オフィスアワー kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	ビジネス英語会話	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古賀武陽				

- 授業の概要 グローバル化時代に活躍するビジネス・パーソンが、将来のビジネス・シーンにおいて求められるコミュニケーション能力を養成するために会話に主力を置いたトレーニングをおこなう。／検索キーワード コミュニケーション能力、国際ビジネス、プレゼンテーション
- 授業の一般目標 日本企業の国際関連部門で働く、外資系企業を目指す、海外駐在をしたい、などといった将来の夢を実現するためには異文化理解力、コミュニケーション能力、国際マナー、グローバルな発想などが求められる。授業では、グループ毎に設立した仮想企業をベースにそれぞれの役職を決め、事業内容に応じたテレフォン・カンパセーション、プレゼンテーションなどをおこない、リアルな会話能力を取得することを目標とする。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ビジネス社会で使用される語彙、会社の組織や基本的な行動に対して理解する。 思考・判断の観点： 英語的な発話を日本語発想との違いについて理解できる。自己紹介ができる。 関心・意欲の観点： 実際に使われる英語会話を学習することにより英語に対する関心を高め、興味を刺激する。 態度の観点： 大きな声で明瞭に話すというトレーニングを通じて、コミュニケーション能力の高度化を目指す。日本人同士で英語を話すことに慣れるようになる。 技能・表現の観点： 必要なことを臆せず英語にして話せる習慣を形成する。 その他の観点： 日常的に英語に触れる習慣を身につける。
- 授業の計画（全体） 授業では、毎回 chain practice により相互の会話をおこなうことからスタートする。次に5名のグループにより仮想企業を設立し、self-introduction, corporate presentation, product representation, telephone conversation, business negotiation などを行なう。
- 教科書・参考書 教科書： 適宜 print を配布する。／ 参考書： Japan Times, Wall Street Journal などのビジネス関連記事をできるだけ読むように。
- メッセージ 毎回の授業が成績評価の土俵であることを認識していただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	ビジネス・ライティング	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	アラン・クリスト				

- 授業の概要 Writing in English and other forms of English within a business context will be emphasized.
- 授業の一般目標 By placing themselves in hypothetical business situations, students will be able to write using E-mail in English appropriate to various office situations.
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： The forms and conventions of business correspondence, mainly by Email will be studied. 態度の観点： The more that students are willing to stretch their knowledge of English and unburden themselves of the fear of making mistakes, the better their English will progress. 技能・表現の観点： Personal expression in differing business situations will be maximized.
- 授業の計画（全体） Each week different types of business correspondence will be covered and students will submit weekly their weekly homework via E-mail.
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 Introducing business E-Mail 内容 Class introduction 授業外指示 About Yourself
  - 第 2 回 項目 Letter of Application 内容 Email at Work: chapters 1 and 2 授業外指示 Cover Letter 授業記録 (describing jobs)
  - 第 3 回 項目 Requesting Information 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Letter of Inquiry 授業記録 (conference talk)
  - 第 4 回 項目 Requesting Information cont. 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Second Letter of Inquiry 授業記録 (facts and figures)
  - 第 5 回 項目 In house correspondances 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Short Memo 授業記録 (personal profiles)
  - 第 6 回 項目 In house correspondances cont. 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Long memo 授業記録 (company overview)
  - 第 7 回 項目 Negotiating 内容 Email at Work: chapter 5 授業外指示 Counter Offer 授業記録 (telephoning)
  - 第 8 回 項目 Giving information 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Sales Letter 授業記録 (product detail)
  - 第 9 回 項目 Giving Information cont. 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Second Sales Letter 授業記録 (organizing an event)
  - 第 10 回 項目 Expressing dissatisfaction 内容 Email at Work: chapter 7 授業外指示 Complaint Letter 授業記録 (checking progress)
  - 第 11 回 項目 Dissatisfied Customers 内容 Email at Work: chapter 8 授業外指示 Apology Letter 授業記録 (dealing with complaints)
  - 第 12 回 項目 Delinquent Accounts 内容 Email at Work: chapter 9 授業外指示 Collection Letter 授業記録 (solving a problem)
  - 第 13 回 項目 Sales letters and responses 内容 Email at Work: chapter 10 授業外指示 Answering a Letter of Inquiry 授業記録 (making predictions)
  - 第 14 回 項目 Written letter form 内容 handout 授業記録 (arrangements)
  - 第 15 回 項目 Comprehensive Review
- 成績評価方法（総合） Grades will be based on the following: Weekly Homework 40 % Final Test 40 % Class Participation 20 %
- 教科書・参考書 教科書： Email at Work, Schneer, David, ; Quick Work, Hollett, Vicki,

開設科目	現代経済英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	正宗聡				

●授業の概要 担当講師は経済学の専門ではないため、いくらかでも経済に関係した本を読み進めることによって、経済そのものではなく、経済を取り巻く文化的な、思想的な状況について知識を深めることを大きな目標にし、同時に英語で書かれた文章の読解力も少しでもアップさせる。／検索キーワード なし

●授業の一般目標 1 ポストモダニズムについて学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 今後、経済学を専門的に勉強する際にも（わずかにせよ）役立つ知識の習得。

●授業の計画（全体） 毎回、共通して、1 ページ分を取り扱う。必ず予習をしてきてください。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イン트로ダクション

第 2 回 項目 演習 1（以下、最後の回まで同様に演習を続ける。）

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合） 授業態度＋定期試験

●教科書・参考書 教科書： なし（毎回、プリントを配布します）／参考書： なし

●メッセージ やや難解な文章を扱いますが、ゆっくり読み進めていきましょう。

●連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	時事英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古賀武陽				

- 授業の概要 2005年度は、時事英語に対する知識と能力を高め、あわせて国際的視野を広げる。／検索キーワード 時事英語、時事問題、国際問題、メディア
- 授業の一般目標 英字新聞、英文雑誌などからタイムリーな記事を選び、政治・経済・社会など種類のニュース記事の構造、特性、語彙などを学習することにより、時事問題への関心と理解を高める。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：見出しの文法、用語などを学び、英字紙誌を正確に読めるようになる。思考・判断の観点：英語発想の特徴をつかむ。関心・意欲の観点：時事問題、国際問題などに対する関心を高める。態度の観点：英字紙に教材として親しむことにより日本語新聞を読む習慣を身につけたい。技能・表現の観点：独特な記事表現を理解できるようにする。
- 授業の計画（全体）政治、社会、ビジネスなどの各種記事を読む。英語としての解釈にとどまらず、それぞれの時事問題の内容について理解するために、記事を要約できるようにトレーニングする。また、授業ではグループ毎に分かれてテーマに関して意見交換を行なう。
- 成績評価方法（総合）英文記事を正しく理解し、内容を確実に自分のものにできているかどうかの評価のポイントになる。
- 教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：日本語新聞をよく読み、時事問題の基本を理解しておくこと。
- メッセージ 新聞を日常的に読む習慣をつけること。
- 連絡先・オフィスアワー kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	原書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	正宗聡				

- 授業の概要 英語で書かれた専門書を読む。／検索キーワード なし
- 授業の一般目標 映画についての専門書（英語）を購読し、映画を観ることについての基礎的なアプローチを習得する。そのことを通じて、専門書の英語についてのアプローチ法も身につくはずである。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：映画についての基礎的な知識を習得する。専門書の英語のスタイルに慣れる。
- 授業の計画（全体） 毎回、割り当てたページを読み進めていく。同時に、そこで取り上げられている映画のシーンをみる。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 イントロダクション
  - 第 2 回 項目 ヒッチコック
  - 第 3 回 項目 ヒッチコック
  - 第 4 回 項目 ヒッチコック
  - 第 5 回 項目 ヒッチコック
  - 第 6 回 項目 ヒッチコック
  - 第 7 回 項目 ウェルズ
  - 第 8 回 項目 ウェルズ
  - 第 9 回 項目 ウェルズ
  - 第 10 回 項目 ウェルズ
  - 第 11 回 項目 ウェルズ
  - 第 12 回 項目 ルノワール
  - 第 13 回 項目 ルノワール
  - 第 14 回 項目 ルノワール
  - 第 15 回 項目 まとめ
- 成績評価方法（総合） 出席＋レポート
- 教科書・参考書 教科書： 毎回、プリント配布する。／参考書： なし
- メッセージ 授業外にも映画を観る作業を課しますので、そのつもりでいてください。
- 連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	原書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	正宗聡				

- 授業の概要 前期の原書講読と同様、英語で書かれた専門書（映画）を読む。
- 授業の一般目標 映画学についての基礎的な知識を習得するとともに、専門書の英語を読む作業の訓練を重ねる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：映画学についての基礎知識ならびに専門書の英語のスタイルに慣れる。
- 授業の計画（全体） 毎回、割り当てた担当者に使用本の特定の部分を要約してもらおう。もちろん、該当場面については実際の作品を見る。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 イン트로ダクション
  - 第 2 回 項目 ヒッチコック
  - 第 3 回 項目 ヒッチコック
  - 第 4 回 項目 ヒッチコック
  - 第 5 回 項目 ヒッチコック
  - 第 6 回 項目 ヒッチコック
  - 第 7 回 項目 ウェルズ
  - 第 8 回 項目 ウェルズ
  - 第 9 回 項目 ウェルズ
  - 第 10 回 項目 ウェルズ
  - 第 11 回 項目 ウェルズ
  - 第 12 回 項目 ルノワール
  - 第 13 回 項目 ルノワール
  - 第 14 回 項目 ルノワール
  - 第 15 回 項目 ルノワール
- 成績評価方法（総合） レポート＋授業への参加度
- 教科書・参考書 教科書：毎回コピー配布する。／参考書：なし
- メッセージ 英語で書かれた本を読むことだけでなく、実際に何本か映画作品を観て頂きますので、そのつもりでいてください。
- 連絡先・オフィスアワー 未定



開設科目	観光英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	宮崎充保・鴨川啓信・武本ティモシー				

- 授業の概要** この授業では、観光に関連する様々な英語の運用法を学習する。特に観光旅行のための情報収集、観光スポットの宣伝、観光客の受け入れの3つの状況を設定し、それぞれ局面で必要とされる英語表現や用法を学ぶ。具体的には、1) 英語で提示されている既存の観光地の情報に実際に触れ、その表現上の特徴を検証する。2) 特定の土地(今年度は「山口」)の歴史や自然から、より身近な事物まで観光地としての魅力を(再)発見し、それを宣伝する演習を行う。3) 観光客を迎えて、観光地の案内やホテル等での応対にふさわしい英語を学習・訓練する。
- 授業の一般目標** 特定の土地の観光資源を開発・宣伝し、観光客の受け入れ・案内を英語で行うことができるようになるのが、最終的な目標である。そのために、1) 英語による情報収集力の向上、2) 対象を適切に説明できる英語力の訓練、3) 観光客に「歓待の心(hospitality)」を伝える英語、好感を与える英語の修得を目指す。
- 授業の計画(全体)** この授業は開講初年度であるため、クラスの状況や学生の要望等により、以下の計画が変更されることもある。1) 観光地の情報収集と表現法の学習、2) 観光地の魅力の(再)認識と宣伝の実習、3) 客を迎えるのにふさわしい英語の運用実習、を4・5回ずつ行う。(上記の3つの内容は、それぞれ別の教員が担当する。)
- 成績評価方法(総合)** 発表等の授業参加状況・授業中の態度による評価(1/3)、宿題・自習課題(WBT形式で提示されることもある)での評価(1/3)、小テストやレポートでの評価(1/3)、を合わせて成績を出す。尚、この授業全体を通して4回以上の欠席をした者には単位を出すことはできない。
- 連絡先・オフィスアワー** 宮崎 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp 武本 e-mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp 鴨川 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山根和明				

●授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。◇すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。◇学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。／検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

●授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－2 実施

●成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

●教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体／参考書：基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

●メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

●連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山根和明				

●授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。◇すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。◇学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え競い合えるのもこのクラスの特色である。／検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

●授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－2 実施

●成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

●教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体／参考書：基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

●メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！

●連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 500	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山根和明				

●授業の概要 TOEIC400 点以上が受講要件。原則としては 500 点未満の学生だが、受講日、時間の関係で受講できない 600～700 めざす学生の受講も可能。500 点は履歴書にかけるとの最低ラインだ。がんばろう！  
◇すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。◇学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。／検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

●授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント＋テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント＋テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント＋テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－ 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－ 2 実施

●成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

●教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体／参考書：基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

●メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

●連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 500	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山根和明				

●授業の概要 TOEIC400 点以上が受講要件。原則としては 500 点未満の学生だが、受講日、時間の関係で受講できない 600～700 めざす学生の受講も可能。500 点は履歴書にかけるとの最低ラインだ。がんばろう！  
◇すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。◇学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。／検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

●授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント＋テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント＋テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント＋テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－ 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－ 2 実施

●成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

●教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体／参考書：基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

●メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

●連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山根和明				

●授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400～500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。◇すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。◇学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。／検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

●授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－2 実施

●成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

●教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体／参考書：基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

●メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

●連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山根和明				

●授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400～500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。◇すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。◇学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。／検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

●授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）－2 実施

●成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

●教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体／参考書：基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

●メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

●連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	ビジネスドイツ語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	マルク・レール				

- 授業の概要 マスメディア（新聞、雑誌、インターネット）を使って、ドイツ語でドイツのビジネス・ニュースを読む。
- 授業の一般目標 継続的にドイツ語でビジネス・ニュースを読むことによって、専門用語の知識を増やす。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：ドイツ語のビジネス用語、ビジネス関連の文書を理解する。 関心・意欲の観点：ドイツの経済に興味を持つ。
- 授業の計画（全体） 毎回、いろんなメディアのビジネス・ニュースをドイツ語で読む。
- 成績評価方法（総合） 授業参加と宿題。
- 連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	ビジネス韓国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	桂林春				

- 授業の概要 ハングルのビジネスレターを中心に、韓国経済の時事問題を取り入れながら韓国の文化にも触れていきます。そして今韓国で使われている '現代韓国語' を用いたビジネス会話を通時、正確な発音と文章の表現を学びます。
- 授業の一般目標 ハングルビジネスレターの理解と韓国語での商談能力を身につけることです。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ハングルビジネスレターが説明できる。ビジネス会話が理解できる。 思考・判断の観点： 日本語と異なる表現に触れ、物事に複眼的な考察ができる。 関心・意欲の観点： ハングルを通じ韓国への関心を抱く。 態度の観点： 隣国への興味が行動で実践することに寄与できる（旅行・語学研修など）。 技能・表現の観点： ハングルビジネスレターの簡単な文章が作れる。ハングルビジネス会話の意志表現ができる。
- 教科書・参考書 教科書： 資料配布／ 参考書： 授業中紹介

開設科目	ビジネス韓国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	桂林春				

- 授業の概要 ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。
- 授業の一般目標 ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。 思考・判断の観点： ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。 関心・意欲の観点： ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。 態度の観点： ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。 技能・表現の観点： ビジネスハンゲル I のシラバスを見てください。
- 教科書・参考書 教科書： 資料配布／ 参考書： 授業中紹介

開設科目	コミュニケーション中国語（口語 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田梅				
<p>●授業の概要 本授業は初級中国語を終了、もしくはそれに準ずるレベルの学生を対象とするクラスで、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかも知れないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。／検索キーワード 中国会話、コミュニケーション</p> <p>●授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。</p> <p>●授業の計画（全体） 第一回 【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価など説明する レベル確認の練習をして、その後テキスト、授業計画、参考書を定める。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバス、など説明、レベル確認の練習をする</p> <p>第 2 回</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>●成績評価方法（総合） 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間小テストを行う。4、最後に試験を実施する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：学生全般のレベルなどによって、一回目の授業ガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 研究 1 号館（3 1 1）tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00～18:00</p>					

開設科目	コミュニケーション中国語（口語II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田梅				

- 授業の概要 前期に続けて通年のクラスである。発音、語彙、文法などの整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかもしれないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。／検索キーワード 中国会話、コミュニケーション
- 授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法できる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分に理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。
- 授業の計画（全体）前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。
- 成績評価方法（総合）1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間テストを行う。4、最後に試験を実施する。
- メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習（会話）も履修するのが望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー 研究一号館（3 1 1）tian@yamaguchi-uac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00～ 18:00

開設科目	コミュニケーション中国語（閲読II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	齊藤匡史				

- 授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語能力を基礎に、中国語の総合的運用能力を養成することを目的とする。うち閲読は、中国語の文の構成、語法を再確認しながら、より複雑な表現、まとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高めることを目的とする。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。
- 授業の一般目標 基本的語法、表現、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的な語法を習得する。 思考・判断の観点： 中国語の語彙、表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 読みこなすだけでなく、内容から中国理解に関心を持つ。 態度の観点： 積極的に質問し、疑問点を解決する。 あたられた課題をこなす。
- 授業の計画（全体） まず簡単な文章を読み解き、中国語の文の構成、語法を再確認する。さらにまとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高める。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。
- 成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進捗度、定期試験の成績により総合的に評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。
- メッセージ これは前年度の閲読Iの続きである。中国語をマスターしたいという熱意のある学生を歓迎する。自分の能力がどの程度かを測る中国語コミュニケーション能力検定試験にぜひ挑戦して欲しい。
- 連絡先・オフィスアワー 商品資料館2階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時

開設科目	コミュニケーション中国語（閲読 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	齊藤匡史				

- 授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語能力を基礎に、中国語の総合的運用能力を養成することを目的とする。うち閲読は、中国語の文の構成、語法を再確認しながら、より複雑な表現、まとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高めることを目的とする。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。
- 授業の一般目標 基本的語法、表現、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 基本的な語法を習得する。 思考・判断の観点： 中国語の語彙、表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 読みこなすだけでなく、内容から中国理解に関心を持つ。 態度の観点： 積極的に質問し、疑問点を解決する。 あたられた課題をこなす。
- 授業の計画（全体） まず簡単な文章を読み解き、中国語の文の構成、語法を再確認する。さらにまとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高める。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。
- 成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進捗度、定期試験の成績により総合的に評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。
- メッセージ 中国語をマスターしたいという熱意のある学生を歓迎する。自分の能力がどの程度かを測る中国語コミュニケーション能力検定試験にぜひ挑戦して欲しい。
- 連絡先・オフィスアワー 商品資料館 2 階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時

開設科目	コミュニケーション中国語（閲読II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	齊藤匡史				
<p>●授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語能力を基礎に、中国語の総合的運用能力を養成することを目的とする。うち閲読は、中国語の文の構成、語法を再確認しながら、より複雑な表現、まとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高めることを目的とする。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。</p> <p>●授業の一般目標 基本的語法、表現、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的な語法を習得する。 思考・判断の観点： 中国語の語彙、表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 読みこなすだけでなく、内容から中国理解に関心を持つ。 態度の観点： 積極的に質問し、疑問点を解決する。 あたられた課題をこなす。</p> <p>●授業の計画（全体） まず簡単な文章を読み解き、中国語の文の構成、語法を再確認する。さらにまとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高める。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。</p> <p>●成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進捗度、定期試験の成績により総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 中国語をマスターしたいという熱意のある学生を歓迎する。自分の能力がどの程度かを測る中国語コミュニケーション能力検定試験にぜひ挑戦して欲しい。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 商品資料館2階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時</p>					

開設科目	コミュニケーション中国語（聴写 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	梁雷				
<p>●授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつけない。この聴写 I は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。／検索キーワード コミュニケーション 中国語</p> <p>●授業の一般目標 共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。</p> <p>●授業の計画（全体） 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。ビデオなどを適当に使う。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：一回目の授業ガイダンス時に指示。／参考書：クラウン中日辞典（小型版），三省堂</p> <p>●メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・a/b を修得したものに限り。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は、通年履修が望ましい。</p>					



開設科目	コミュニケーション中国語（聴写 II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	梁雷				
<p>●授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。前期に引き続き、より実用的な教材を使い、より高度な聞き分け能力を身につけるためのトレーニングを行う。言葉の文化的な背景についても適当説明する。／検索キーワード コミュニケーション 中国語</p> <p>●授業の一般目標 共通教育で修得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。</p> <p>●授業の計画（全体） 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。ビデオなどを適当に使う。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：初回授業で指示する。／参考書：クラウン中日辞典（小型版）, , 三省堂</p> <p>●メッセージ 共通教育の中国語初級1・2・を修得したものに限る。コミュニケーション中国語3科目の I・II は通年、履修が望ましい。</p>					

開設科目	ビジネス中国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳鳳展				

●授業の概要 引き合いからクレームまでの各商取引の段階で使われる商談について、輸出入の実務の仕組みや手続きを説明しながら解説していく。

●授業の一般目標 1. 各商取引の段階で出てくる専門語を覚える。そして各商談の意味、内容を理解できるようにする。 2. 貿易実務の仕組みや手順を知る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方。成績評価の方法等。

第 2 回 内容 引き合いに関する商談。

第 3 回 内容 引き合いに関する商談。

第 4 回 項目 国際貿易の常用価格用語について。内容 F.O.B 価格 授業記録 ノート講義（ノートの用意をしてくること）

第 5 回 項目 国際貿易の常用価格用語について。内容 CIF 価格、CSF 価格 授業記録（ノートの用意をしてくること）

第 6 回 項目 報価 内容 offer に関する商談。

第 7 回 項目 報価 内容 同上

第 8 回 項目 価格争議 I 内容 価格の交渉に関する商談。

第 9 回 項目 同上 内容 同上

第 10 回 項目 価格争議 II 内容 同上

第 11 回 項目 同上 内容 同上

第 12 回 項目 訂貨 内容 商品注文に関する商談。

第 13 回 項目 同上 内容 同上

第 14 回 項目 折 内容 割引交渉に関する商談。

第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 1. 期末試験の成績による。（評価割合 100%） 2. 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

●教科書・参考書 教科書：ビジネス中国語 500 （北京外交出版社）（最初の授業の日に教室で販売する）

開設科目	ビジネス中国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳鳳展				

●授業の概要 前期のビジネス中国語 I の続きの授業です。この授業は支払い方式から船積みに到るまでの各商取引の段階で使われる商談について、輸出入の実務の仕組みや手続を説明しながら解説していきます。

●授業の一般目標 1. 各商取引の段階で出てくる専門語を覚える。そして各商談の意味・内容を理解できるようにする。2. 貿易実務の仕組みや手続を知る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 国際貿易における商品代金の決済方式について 内容 送金払いの方法。授業記録 ノート講義があるのでノートの用意をすること。

第 2 回 項目 同上 内容 送金払いの方法。授業記録 同上

第 3 回 項目 同上 内容 信用状決済 授業記録 同上

第 4 回 項目 款方式（一） 内容 支払いに関する商談。

第 5 回 項目 同上 内容 同上

第 6 回 項目 同上 内容 同上

第 7 回 項目 款方式（二） 内容 同上

第 8 回 項目 同上 内容 同上

第 9 回 項目 同上 内容 同上

第 10 回 項目 交貨日期 内容 荷渡し期日に関する商談。

第 11 回 項目 同上 内容 同上

第 12 回 項目 装運条件 内容 船積みに関する商談。

第 13 回 項目 同上 内容 同上

第 14 回 項目 同上 内容 同上

第 15 回 項目 試験 内容 期末試験です。

●成績評価方法 (総合) 1. 期末試験の成績による。(評価割合 100%) 2. 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

●教科書・参考書 教科書：ビジネス中国語 500 (北京外交出版社)

開設科目	中国語実用文	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田梅				

●授業の概要 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・訳文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。（授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。）  
／検索キーワード 中国語、短文、作文

●授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、作文で正確の表現能力を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用語、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

●授業の計画（全体） 第一回【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価などを説明する レベル確認の練習をして、それによってテキスト、参考書を決める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 本授業の説明と 受講生の中国語 レベルをチェックする。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合） 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：一回目受講生の中国語レベルの練習チェックによって決める。

●メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。

●連絡先・オフィスアワー 研究 1 号館（311） tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00—18:00

開設科目	時事中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	齊藤匡史				

- 授業の一般目標 中国語メディアから発信される情報をつかむ基礎的な語学能力を養成するとともに、その内容から社会的文化的背景を理解し、基本的な中国情報を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 基本的な語法、語彙を理解し、メディア情報独特の表現・文型を習得する。 思考・判断の観点： 問題意識をもって情報を分析する。 関心・意欲の観点： 中国、日本、世界の情勢に積極的に関心を寄せる。 態度の観点： 授業に積極的に参加し、与えられた課題をこなす。
- 授業の計画（全体） まず基本情報の理解と文例による文型表現、語法の理解を進める。さらに最新情報を比較的まとまった文章から学び、読解力、内容理解を向上させ、問題意識をもって情報を分析する態度を養成する。
- 成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進歩度、定期試験の成績により総合的に評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。
- メッセージ 中国を取り巻く情勢は、いまや日本に大きな影響を及ぼすようになった。ぜひこの授業から中国を見る視点を培って欲しい。
- 連絡先・オフィスアワー 商品資料館2階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時

# 経済法学科

開設科目	法学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	有田謙司				

- 授業の概要 この講義は、法律の各専門科目を学ぶ上で不可欠である法律に関する基本的用語・概念、例えば、憲法と法律、公法、私法、社会法、訴訟法、民事・刑事裁判等の意味と関連について等を受講者が理解できるように、法学の基本的な考え方、概念等について、説明する。
- 授業の一般目標 受講者が、法学の基本的な考え方、概念等について理解することを目標とする。
- 授業の計画（全体） 権利、人権、裁判、公法、私法、社会法、法的責任、犯罪と平罰、男女共同参画
- 成績評価方法（総合） 定期試験（70 %）と小テスト（30 %）で評価する。3回以上欠席した者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書： ライフステージと法第4版, 副田隆重他, 有斐閣, 2004年 / 参考書： 授業時間中に適宜指示する
- メッセージ 六法を持参すること。

開設科目	法学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柳澤旭				

- 授業の概要 法学における重要かつ基本的な概念・原則などを理解するとともに、社会生活上生起している法律的な問題につき、関心をもち、様々な意見・考え方を理解し、解決策を考える。
- メッセージ 当然のことであるが、授業に出席しない者ほど成績は悪い。



開設科目	法学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平中貫一				

- 授業の概要 基盤科目の一つとして、主に民法総則を扱う。／検索キーワード 民法
- 授業の一般目標 民法総則の基礎的知識の修得
- 授業の計画（全体） 1 はじめに 2 権利の主体 3 法律行為 4 時効 5 その他

開設科目	法学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	三間地光宏				

●授業の概要 (i) この講義は、「法学 I」と並ぶ経済法学科の基盤科目である。この講義と「法学 I」とを履修することにより、本学部の専門科目として開講されているさまざまな法律科目を履修するために必要な基礎知識を修得することになる。(ii) 具体的には民法総則の初歩を学習する。

●授業の一般目標 民法総則が扱う諸制度について理解すること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：民法総則が扱う諸制度・諸概念を理解すること。思考・判断の観点：具体的事例に法を当てはめて結論を導き出せるようになること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 ガイダンス 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 2 回 項目 民法の位置づけ、法源、法の解釈、教科書を読む上での注意点 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 3 回 項目 民法の基本原則、私権行使についての原則 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 4 回 項目 権利能力、行為能力 (1) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 5 回 項目 行為能力 (2) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 6 回 項目 法人 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 7 回 項目 法律行為 (1) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 8 回 項目 法律行為 (2) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 9 回 項目 法律行為 (3)、無効と取消 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 10 回 項目 条件と期限、代理 (1) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 11 回 項目 代理 (2) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 12 回 項目 期間、時効 (1) 授業外指示 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。

第 13 回 項目 時効 (2)、物

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法 (総合) 期末試験による。なお、次の二点に注意されたい。(1) 4 回以上欠席した者には期末試験の受験資格を認めない(受験しても不合格となる)。(2) この授業では毎回課題を出す が、課題をやって来てない場合には欠席扱いになる(課題について受講者に答えてもらいながら授業を行うため)。

●教科書・参考書 教科書：いまのところ永田=松本=松岡『民法入門・総則 [第 2 版]』(有斐閣、2000 年)を使用する予定であるが、品切等の理由で変更になることもありうる。正式にどの本を使用するかは第 1 回目の授業の際に説明する。／参考書：内田貴『民法 I 総則・物権総論 [第 2 版] 補訂版』(東京大学出版会、2000 年)

- メッセージ 受講の際には必ず六法を持参すること。なお六法の選び方については第1回目の授業の際に説明する。
- 連絡先・オフィスアワー メール・アドレスは講義の際に配布するプリントに記載する。オフィスアワーは現時点では未定。

開設科目	憲法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	柳井健一				

- 授業の概要 近代憲法の一般理論を踏まえながら、日本国憲法をめぐるさまざまな論点についての理解を目的とした講義を行う。なお、本講義において中心的な対象となるのは憲法学のうち、憲法総論および人権総論の部分である。
- 授業の一般目標 憲法学の起訴にかかわる事柄について全般的な理解をする
- 教科書・参考書 教科書： 芦部信喜 高橋和之補訂 憲法〔第三版〕 岩波書店 2002年

開設科目	人権論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	立山紘毅				

●授業の概要 日本国憲法が規定する人権規定について、その原理原則と実態を学習する。

開設科目	契約法（民法Ⅰ）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	三間地光宏				

- 授業の概要 この講義では契約に関する民法上のルールを学習する。一般に大学における民法教育は民法典の変成に従って民法総則・物権・債権総論・債権各論・親族相続の五部分に分けて行われているが、本学では教育的配慮から民法の諸規定を機能的観点から再編成して教えている。そのためこの講義では、債権各論中の「契約」（＝民法第三編第二章）の部分のほかに民法総則と債権総論の一部（「債権の効力」の部分）をも学習することになる。
- 授業の一般目標 契約に関する民法上のルールを理解すること。
- 授業の計画（全体） 第一部 1 契約の成立について 2 履行がなされない場合について 3 契約の効力が否定される場合について 第二部 1 贈与 2 売買 3 消費貸借・使用貸借・賃貸借 4 雇用・請負・委任
- 成績評価方法（総合） 期末試験による。
- 教科書・参考書 教科書：未定。／参考書：未定。
- メッセージ 受講の際には必ず六法を持参すること。

開設科目	土地法（民法Ⅱ）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	西澤希久男				

- 授業の概要 物権法について学習する。
- 授業の一般目標 未定。
- 授業の計画（全体） 未定。
- 成績評価方法（総合） 未定。
- 教科書・参考書 教科書： 未定。／ 参考書： 未定。
- 備考 集中授業

開設科目	責任法（民法Ⅳ）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	平中貫一				

- 授業の概要 民事責任（不法行為及び債務不履行）に関する法を学ぶ。
- 授業の一般目標 民事責任に関する体系的知識の修得。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：民事責任に関する体系的知識の修得。 思考・判断の観点：民事責任に関する体系的知識の修得。
- 授業の計画（全体） 1 責任法とは何か（意義、歴史及び諸制度との比較） 2 行為論 3 権利論 4 過失論 5 損害論
- 成績評価方法（総合） 期末試験による。
- 教科書・参考書 教科書：未定。／参考書：未定。



開設科目	家族法（民法 V）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	藪本知二				

●授業の概要 市民社会の基礎法である民法の第 4 編親族・第 5 編相続および家事事件の紛争解決手続に関する基礎的なルールを概説する。講義では法解釈（判例の展開に充分留意する）が中心となるが、できる限り法社会学的観点と比較法的観点もとりいれる。また、法の抽象的・理論的な知識が具体的な問題解決にどのようにつながるかを理解するために、また法的思考様式になれしむために、随時、問題を提起し、それに対する解答を求める。

●授業の一般目標 親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、家事事件の解決への法的過程を理解する。

●授業の計画（全体） 親族法については親族法総論（親族法の基礎理論）と各論とに分けて講義する。親族法各論は、関係法と保護法とに分けて、夫婦法、親子法および狭義の親族法について概説する。また、相続法についても相続法総論と各論とに分けて講義する。相続法各論では、財産法の原理に指導される遺言法および親族法の原理に指導される無遺言相続法（法定相続）について概説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 親族法序説 内容 家族法の基本構造と基本原則
- 第 2 回 項目 夫婦法 (1) 内容 婚姻の成立
- 第 3 回 項目 夫婦法 (2) 内容 婚姻の効力
- 第 4 回 項目 夫婦法 (3) 内容 配偶者間の財産関係
- 第 5 回 項目 夫婦法 (4) 内容 婚姻関係の取消・解消
- 第 6 回 項目 夫婦法 (5) 内容 離婚の効果
- 第 7 回 項目 親子法 (1) 内容 実親子関係
- 第 8 回 項目 親子法 (2) 内容 養子関係
- 第 9 回 項目 親子法 (3) 内容 親権と子どもの権利
- 第 10 回 項目 狭義の親族法 内容 後見および扶養
- 第 11 回 項目 相続法序説 内容 相続法の基礎原則、基本構造
- 第 12 回 項目 法定相続法 (1) 内容 相続人、相続分
- 第 13 回 項目 法定相続法 (2) 内容 遺産分割、相続人の不存在
- 第 14 回 項目 遺言相続法 内容 遺言、遺留分
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合）成績は期末試験と授業中に行う小テスト等とで評価する。

●教科書・参考書 教科書：テキストは用いないが、参考書等で予習・復習を行ってください。授業に際してはプリントを配布する。／参考書：家族法，二宮周平，新世社，1999 年；内田貴，民法（補訂版），東京大学出版会，2004 年

●メッセージ 六法を持参して受講すること。

開設科目	刑法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	安里 全勝				

- 授業の概要 未定。
- 授業の一般目標 未定。
- 授業の計画（全体） 未定。
- 成績評価方法（総合） 未定。
- 教科書・参考書 教科書： 未定。／ 参考書： 未定。

開設科目	刑法各論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山本光英				

●授業の概要 刑法各論の中心課題は、刑法典上の各犯罪類型についての個別的検討を行うことにある。その際重要であるのは、当該犯罪の「保護法益」は何かということをおきつつ、その犯罪の類型的特徴を把握して、個々の問題解決を心がけるということである。各論の犯罪類型の体系化に際しては、保護法益を分類基準として、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の三者に区分されることが一般的である。本学のカリキュラムでは、刑法各論が「各論 I」と「各論 II」に二分されているので、講学上の便宜から、各論 I では個人的法益に関する罪、各論 II では社会的法益に関する罪と国家的法益に関する罪を学習する。／検索キーワード 保護法益

●授業の一般目標 各犯罪の類型的特徴を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：各犯罪類型の基本的特徴と基本的概念を理解する。思考・判断の観点：刑法的思考力、条文の解釈力を身につける。関心・意欲の観点：社会に生起する犯罪に関心をもつ。態度の観点：授業に積極的に参加しているか。技能・表現の観点：自己の主張を適切に文章で表現できるか。

●授業の計画（全体） 刑法各論の学習の仕方を学び、各犯罪類型の特徴と基本的概念を学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 刑法各論の課題と学び方
- 第 2 回 項目 生命に関する罪 内容 殺人・自殺関与
- 第 3 回 項目 身体に関する罪 内容 傷害、傷害致死、同時傷害、暴行
- 第 4 回 項目 墮胎に関する罪 内容 胎児傷害、自己墮胎、業務上墮胎など
- 第 5 回 項目 遺棄の罪 内容 単純遺棄、保護責任者遺棄、不保護、轆き逃げ
- 第 6 回 項目 自由に関する罪 内容 脅迫、逮捕・監禁、略取・誘拐
- 第 7 回 項目 性的自由に関する罪 内容 強姦、強制わいせつなど
- 第 8 回 項目 傷害の故意
- 第 9 回 項目 暴行の概念
- 第 10 回 項目 私生活の平穏に関する罪 内容 住居侵入、不退去
- 第 11 回 項目 名誉・信用に関する罪 内容 名誉毀損・信用毀損
- 第 12 回 項目 財産に関する罪（1） 内容 窃盗、強盗
- 第 13 回 項目 財産に関する罪（2） 内容 詐欺、横領
- 第 14 回 項目 ひき逃げと保護責任者遺棄罪・殺人罪 内容 不真正不作為犯、単純遺棄、保護責任者遺棄、殺人
- 第 15 回 項目 定期試験

●成績評価方法（総合） 期末試験（80％）、出席点（20％）で評価する。授業態度の悪さは減点の対象とする。

●教科書・参考書 教科書：刑法概説各論〔第三版〕、大塚仁、有斐閣、1996年／参考書：ジュリスト別冊「刑法判例百選II各論〔第5版〕」、芝原・西田・山口編、有斐閣、2003年；ケイスメソッド刑法各論、船山・清水・中村編、不磨書房、2003年

●メッセージ 市販の六法を持参すること。厳格な履修条件はありませんが、各犯罪類型の法解釈にあたっては刑法総論上の知識が必要になるので、受講生は刑法総論を履修していることが望ましい。また、刑法各論 I と各論 II を一体のものとして履修することを強く希望します。

開設科目	刑法各論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山本光英				

- 授業の概要 刑法各論の中心課題は、刑法典上の各犯罪類型についての個別的検討を行うことにある。その際重要であるのは、当該犯罪の「保護法益」は何かということをおきつつ、その犯罪の類型的特点を把握して、個々の問題解決を心がけるということである。各論の犯罪類型の体系化に際しては、保護法益を分類基準として、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の三者に区分されのが一般的である。本講義では、刑法各則における社会的法益に関する罪、国家的法益に関する罪について学ぶことになる。
- 授業の一般目標 刑法各側の学習の仕方を身につけるとともに、刑法各則における社会的法益に関する罪、および国家的法益に関する罪について、その各犯罪類型の特徴を学びつつ、刑法学的な論理的思考力を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：刑法各側の各犯罪類型の特徴を理解しているか。思考・判断の観点：刑法学的な論理的思考力を身につけているか。関心・意欲の観点：社会に生起する犯罪の事象に関心があるか。積極的に授業に参加しているか。態度の観点：真摯な態度で授業に臨んでいるか。技能・表現の観点：自己の主張を文章で適切に表現できるか。
- 授業の計画（全体） 社会的法益に関する罪、国家的法益に関する罪について、その重要な犯罪類型と基本概念について学ぶ。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 刑法各論の学び方 内容 刑法典の体裁、基本用語
  - 第 2 回 項目 多衆犯 内容 騒乱、多衆不解散
  - 第 3 回 項目 放火の罪 内容 放火、延焼、放火予備、公共の危険
  - 第 4 回 項目 交通に関する罪 内容 往来妨害、往来危険
  - 第 5 回 項目 通貨偽造 内容 通貨偽造・変造、偽造通貨行使
  - 第 6 回 項目 文書偽造（1） 内容 公文書偽造・私文書偽造、有形偽造・無形偽装、虚偽文書行使
  - 第 7 回 項目 文書偽造（2） 内容 コピーの偽造
  - 第 8 回 項目 風俗に関する罪 内容 強姦・猥褻、賭博、死体遺棄・損壊
  - 第 9 回 項目 国家の存立に関する罪 内容 内乱、外患など
  - 第 10 回 項目 国家の作用に関する罪 内容 公務執行妨害、職務強要
  - 第 11 回 項目 逃走の罪 内容 単純逃走、加重逃走、逃走援助
  - 第 12 回 項目 司法作用に関する罪 内容 犯人蔵匿・犯人隠避、証拠隠滅、証人威迫、偽証、誣告
  - 第 13 回 項目 職権濫用の罪 内容 職権濫用、特別公務員職権濫用、特別公務員暴行凌虐
  - 第 14 回 項目 賄賂の罪 内容 単純収賄・受託収賄、事前収賄・事後収賄、加重収賄、第三者供賄、斡旋収賄
  - 第 15 回 項目 定期試験
- 成績評価方法（総合） 定期試験（80％）、出席点（20％）で評価する。授業態度の悪い場合は減点の対象とする。
- 教科書・参考書 教科書：「刑法概説各論〔第三版〕」、大塚仁、有斐閣、1996年／参考書：別冊ジュリスト「刑法判例百選 II 各論〔第五版〕」、芝原・西田・山口編、有斐閣、2003年；「ケイスメソッド刑法各論」、船山・清水・中村編、不磨書房、2003年
- メッセージ 市販の六法を持参すること。厳格な履修条件はありませんが、各犯罪類型の法解釈にあたっては刑法総論上の知識が必要になるので、受講生は刑法総論を履修していることが望ましい。また、刑法各論 I と各論 II を一体のものとして履修することを強く希望します。

開設科目	刑事訴訟法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	山本光英				

●授業の概要 犯罪に対する捜査手続、裁判手続における被疑者・被告人の人権の保障と憲法・刑事訴訟法その他の関連法規との関連を理解する。刑事訴訟手続における原則・概念・問題点を理解する。講義形式で行う。なお、適宜、日常生活上生起する刑事事件の意味・問題点を指摘し、理解を深めるつもりである。／検索キーワード 人権の保障、適正手続

●授業の一般目標 犯罪の発生から捜査、公判、判決に至るまでの流れと、刑事訴訟の理念、基本的な概念、原則を理解しつつ法学的な論理的思考力を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：刑事訴訟の流れと、刑事訴訟の理念、基本的な概念・原則を理解しているか。思考・判断の観点：刑事訴訟の理念と現実とを一致させるにはどうすべきかを考えることができるか。論理的な思考力が身に付いているか。関心・意欲の観点：社会に生起する刑事事件に関心をもっているか。態度の観点：真摯な態度で授業に臨んでいるか。技能・表現の観点：自己の主張を文章で適切に表現できるか。

●授業の計画（全体） 犯罪の発生から、捜査、訴追、公判、判決に至るまでの流れを理解し、刑事訴訟の理念、基本的な概念・原則を理解する。刑事事件の処理の流れに沿って学習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 刑事訴訟法の学び方、刑事訴訟の流れ 内容 刑事訴訟の全体の流れの概要
- 第 2 回 項目 訴追の方式 内容 糺問主義と弾劾主義。陪審制・参審制・裁判員制度など
- 第 3 回 項目 捜査の端緒 内容 告訴、告発、請求、自首など
- 第 4 回 項目 任意捜査と強制捜査 内容 強制処分法定主義など
- 第 5 回 項目 逮捕 内容 逮捕の種類と方式と意義
- 第 6 回 項目 勾留 内容 勾留の方式と意義
- 第 7 回 項目 逮捕・勾留と弁護権 内容 接見の意義と制限
- 第 8 回 項目 取調べ（1） 内容 被疑者の取調べ
- 第 9 回 項目 取調べ（2） 内容 参考人・被告人の取調べ
- 第 10 回 項目 取調べ（3） 内容 ポリグラフ・テスト、麻酔分析など
- 第 11 回 項目 捜索・押収（1） 内容 令状による捜索・押収検証・鑑定処分
- 第 12 回 項目 捜索・押収（2） 内容 無令状の捜索・押収・検証
- 第 13 回 項目 違法収集証拠排除法則 内容 自白法則との関連
- 第 14 回 項目 公訴権の濫用 内容 不当な起訴・不起訴の抑制
- 第 15 回 項目 証拠開示 内容 証拠開示の必要性和時期・範囲
- 第 16 回 項目 公判の基本原則 内容 弾劾主義、当事者主義など
- 第 17 回 項目 公判に関与する者、裁判所の管轄 内容 裁判官・検察官・弁護人の役割、場所的管轄・事物管轄
- 第 18 回 項目 公判の流れ 内容 公訴の提起、公判期日の手続など
- 第 19 回 項目 公訴事実と訴因 内容 公訴事実・訴因の概念、訴因の変更
- 第 20 回 項目 推定と挙証責任 内容 無罪の推定、挙証責任の概念、立証の程度と範囲
- 第 21 回 項目 黙秘権 内容 黙秘権の意義と範囲、自己負罪拒否特権
- 第 22 回 項目 自白法則 内容 自白の意義、自白の任意性
- 第 23 回 項目 伝聞法則（1） 内容 伝聞の概念、伝聞法則の意義
- 第 24 回 項目 伝聞法則（2） 内容 伝聞法則の例外
- 第 25 回 項目 補強法則 内容 補強法則の意義、共犯者の自白と補強法則
- 第 26 回 項目 証拠法上の用語 内容 証拠の意義と種類、証拠能力、証明力、証人適格など
- 第 27 回 項目 裁判 内容 裁判の概念と種類、裁判の構成、裁判の種類裁判の確定など

第 28 回 項目 裁判の効力 内容 二重危険の禁止、一事不再理

第 29 回 項目 上訴 内容 上訴制度のあり方、不利益変更の禁止、控訴、上告

第 30 回 項目 定期試験

- 成績評価方法(総合) 定期試験(80%)と出席点(20%)で評価する。授業態度の悪い場合は減点の対象とする。
- 教科書・参考書 教科書:「刑事訴訟法〔新版補訂〕」, 渥美東洋, 有斐閣, 2003年; 適宜、レジュメを配布する。/ 参考書: ジュリスト別冊「刑事訴訟法判例百選〔第七版〕」, 平野・松尾ほか編, 有斐閣, 1998年
- メッセージ 犯罪が起こってから捜査・裁判・判決確定に至るまでの流れと、その時々の問題点をよく理解する。我々の身近な問題であることを理解し、関心をもつこと。交通事故など諸君の生活にも関係する法領域である。

開設科目	企業法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	平野充好				

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業法と商法と民法の関係
- 第 2 回 項目 会社法の現代化について（1）
- 第 3 回 項目 会社法の現代化について（2）
- 第 4 回 項目 企業法の特徴
- 第 5 回 項目 商慣習法と普通取引約款
- 第 6 回 項目 商人概念と商行為概念
- 第 7 回 項目 商号
- 第 8 回 項目 名板貸人の責任と外観法理
- 第 9 回 項目 支配人の権限
- 第 10 回 項目 所業使用人
- 第 11 回 項目 商業登記
- 第 12 回 項目 営業譲渡
- 第 13 回 項目 商業帳簿
- 第 14 回 項目 会計帳簿
- 第 15 回 項目 商法総則のまとめ
- 第 16 回 項目 商行為法とは何か
- 第 17 回 項目 再度商行為概念を学ぶ
- 第 18 回 項目 商行為の特徴
- 第 19 回 項目 商行為の代理
- 第 20 回 項目 商事債権
- 第 21 回 項目 フランチャイズ契約
- 第 22 回 項目 特定商取引法
- 第 23 回 項目 匿名組合
- 第 24 回 項目 運送取次商
- 第 25 回 項目 運送契約と宅配便
- 第 26 回 項目 高価品の特則、運送人の責任
- 第 27 回 項目 貨物引換証、乗車券と有価証券
- 第 28 回 項目 荷渡指図書
- 第 29 回 項目 場屋営業
- 第 30 回 項目 まとめ

開設科目	会社法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	一ノ澤直人				

●授業の概要 企業組織形態を規整する法として、商法中の会社、有限会社、特に株式会社に関する法規制を中心に講義を進める。会社法への基本的理解を踏まえ、最新の判例、さらには会社法が抱える現代的な課題を扱いたい。とくに会社法は近時の改正において大きくその内容を変えてきており、それら改正の意義が理解できるような講義をめざす。加えて、現在改正作業が進められている会社法の現代化についても講義の中でふれていきたい。／検索キーワード 企業法、会社法

●授業の一般目標 講義のねらいとしては、会社法上の全体構造・機能、および個々の制度・規定の意味を基本的に理解し、個々人が会社法の諸問題に対し論理的な思考ができるようにすることにある。

●授業の計画（全体） 会社法の諸制度の基本的理解を目的とするため、基本的事項を会社法の全体構造から概観し、その中で各規定の趣旨を明確にしていきたい。その上で、会社法上重要な問題について、近時の判例、改正の動向にふれながら検討していきたい。さらに会社法の制度の変化について、検討していくためいくつかのテーマに絞って、会社法を横断的に探求していきたい。主な講義テーマとしては以下を予定している。また受講生の状況に応じて講義の進度を調整する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 会社法とは？
- 第 3 回 項目 会社の意義（1）
- 第 4 回 項目 会社の意義（2）
- 第 5 回 項目 株式会社の規整 形態・株式会社の設立（1）
- 第 6 回 項目 株式会社の設立（2）
- 第 7 回 項目 株式制度（1）
- 第 8 回 項目 株式制度（2）
- 第 9 回 項目 株式会社の機関（1）
- 第 10 回 項目 株式会社の機関（2）
- 第 11 回 項目 株式会社の機関（3）
- 第 12 回 項目 会社の計算・会社の資金調達 どのようになされるか？（1）
- 第 13 回 項目 会社の資金調達 どのようになされるか？（2）
- 第 14 回 項目 企業結合と会社法（1）
- 第 15 回 項目 企業結合と会社法（2）

●成績評価方法（総合） 授業目標の観点から、個々人が会社法上の全体構造、諸制度の機能の基本的な理解ができているか、会社法の諸問題に対し、理論的な思考ができるようになったかを基準に、試験によって判断する。なお、評価方法の詳細は最初の講義におけるガイダンスにおいて確認する。

●教科書・参考書 教科書：やさしい会社法第七版、丸山秀平、法学書院、2004年；ブリッジブック商法、永井和之編、信山社；会社法判例百選〔第六版〕、鴻常夫・落合誠一・江頭憲治郎・岩原紳作編、有斐閣；六法必携、自分の使いやすい六法を準備のこと。例えば『有斐閣判例六法』等。その他詳細は初回講義時のガイダンスにおいて説明する／参考書：株式会社・有限会社法、江頭憲治郎、有斐閣；会社法〔第三版〕、永井和之、有斐閣；その他、適宜講義において紹介を行う。

●メッセージ 会社法に関心があり、積極的に参加できる者を対象とする。本講は民法、商法の理解を前提に講義を進めるので、既に民法関連科目、企業法総論が履修済みであることが望ましい。自己の履修計画に沿って無理のない参加を望む。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワー等初回講義時のガイダンスにおいて説明する。



開設科目	有価証券法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	中村美紀子				

●授業の概要 本講義では、有価証券の一種である手形および小切手を規制する手形法および小切手法を取り扱います。その中でもわが国取引界で重要な地位を占める約束手形を中心に据えます。手形および小切手は企業取引の決済手段であり企業活動に重要な制度ですが、近年、これらを巡る大きな紛争も目立たなくなってきたと言われていています。その重要性の減少があるのかもしれませんが、しかしながら、依然として手形や小切手は取引界で発行されていますし、その基礎知識の修得は企業実務では避けて通れないことでしょう。本講義では、技術的な性格から複雑な法律関係が発生する手形および小切手について、その法制度の仕組みおよび実際の働きについて概説することとします。／検索キーワード 有価証券、手形法、小切手法、約束手形、為替手形、小切手

●授業の一般目標 受講生が手形法および小切手法制度の仕組みおよび実際の働きについて理解し、手形および小切手をめぐる経済的状况を把握し、法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。入門編から入り、受講生の理解度に合わせた進度を設定し、中・上級編にまで考察を深めていきたいと思ひます。

●授業の計画（全体） 週前半の1コマを講義形式、後半1コマを演習スタイルとして進めます。各週のテーマについて前半で概説します。その際、教科書、参考資料等を使用し、視聴覚教材等も活用する場合があります。そして後半では該当する判例について受講生によるまとめと報告を課します（一回につき2・3人に分担）。この報告を定期試験の受験資格とします。出席はムードルシステムで管理します。出席者に毎回パスワードを発行しますので、パソコンからアクセスしてください。その際、当日の内容のまとめを課します。ただアクセスするだけでなく、まとめを適切に行って初めて評価点となります。なお、以下の授業計画は講義の全体の流れを示しています。受講生の学習の進度に合わせて講義実施週の調整もあり得ます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション～有価証券法概論
- 第 2 回 項目 手形・小切手の法律関係の概要
- 第 3 回 項目 手形行為および小切手行為
- 第 4 回 項目 約束手形の記載事項
- 第 5 回 項目 白地手形
- 第 6 回 項目 約束手形の振出の意義および性質
- 第 7 回 項目 約束手形の振出人の署名
- 第 8 回 項目 約束手形の裏書の意義および方式
- 第 9 回 項目 約束手形の裏書の効力
- 第 10 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (1)
- 第 11 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (2)
- 第 12 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (3)
- 第 13 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (4)
- 第 14 回 項目 約束手形の支払・遡求・手形保証等
- 第 15 回 項目 為替手形・小切手

●成績評価方法（総合） 定期試験の評価割合は 50 %、毎回のまとめ問題の評価割合 20 %、受講生の報告・発表の評価割合 30 %。

●教科書・参考書 教科書：手形小切手判例百選（第6版）、落合誠一＝神田秀樹、有斐閣、2004年／参考書：最新手形法小切手法（4訂版）、田邊光政、中央経済社、2000年；要論手形小切手法（第3版）、後藤紀一、信山社出版、1998年；手形法・小切手法、前田庸、有斐閣、1999年；金融手形小切手法（新版）、関俊彦、商事法務研究会、2003年；リーガルマインド手形法・小切手法（第2版）、弥永真生、有斐閣、2001年

●メッセージ 授業では六法必携、試験に持込等は認めません。

●連絡先・オフィスアワー 研究室C棟227、オフィスアワー火曜日 10:20—11:50

開設科目	海商法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	野口夕子				

●授業の概要 本講で取り扱う海商法分野では、経済・国際事情の変遷や航海業の飛躍的な発展によって大きく変貌を遂げており、特に船舶を用いた海上物品運送には様々な法的展開が包含されております。そこで、ここでは、海上物品運送契約を中心に、それを規整する海商法および国際海上物品運送法について講義を進めていきます。／検索キーワード 海商法、国際海上物品運送法、海上物品運送契約、国際取引

●授業の一般目標 海上物品運送契約は、海商法および国際海上物品運送法に規整されております。したがって、本講では、海上物品運送契約と、海商法および国際海上物品運送法に関する基礎知識の修得を目標とします。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：海商法および国際海上物品運送法が、海上物品運送契約との関係からどのような目的で制定されているのかを、特に海商法と国際海上物品運送法との関係を理解したうえで、説明できる。思考・判断の観点：海上物品運送契約から起こりうる様々な紛争に対し、法的知識を踏まえ、どのように対処すべきかを考えていくことができる。関心・意欲の観点：決して身近な法分野とはいえませんが、国際社会といわれる現代社会のなかで、海商法および国際海上物品運送法がどのような役割を担っているのかについて、常に関心を持つことができる。

●授業の計画（全体）海商法の体系を理解することを目的に、以下の授業計画（授業単位）に示す項目について講義を行っていきます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス—受講にあたって— 内容 授業の目標と進め方、成績評価方法
- 第 2 回 項目 海商法の意義 内容 海商法の制定目的を説明する
- 第 3 回 項目 海上企業の物的組織—船舶— 内容 海商法上の船舶について説明する
- 第 4 回 項目 海上企業の人的組織 (1) 内容 海上企業主体について説明する
- 第 5 回 項目 海上企業の人的組織 (2) 内容 海上企業主体の補助者について説明する
- 第 6 回 項目 海上物品運送契約の意義と種類
- 第 7 回 項目 船荷証券とは？(1) 内容 海上物品運送契約における船荷証券の役割について説明する
- 第 8 回 項目 船荷証券とは？(2)
- 第 9 回 項目 海上物品運送契約の履行
- 第 10 回 項目 海上物品運送契約の終了
- 第 11 回 項目 海上物品運送人の責任
- 第 12 回 項目 共同海損
- 第 13 回 項目 船舶衝突
- 第 14 回 項目 海難救助
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）講義中に実施する小テストおよびレポート等の課題への取り組み方、学年末試験によって総合的に評価します。

●教科書・参考書 教科書：教科書は、特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布いたします。／参考書：海商法，中村眞澄，成文堂，1990 年；注解 国際海上物品運送法，戸田修三＝中村眞澄，青林書院，1997 年；商法（保険・海商）判例百選〔第二版〕，鴻＝竹内＝江頭編，有斐閣；上記文献を参考書として挙げておきますが、その他講義中に随時指示します。

●連絡先・オフィスアワー yuko@jus.kindai.ac.jp

●備考 集中授業

開設科目	知的財産権法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	木村友久				

●授業の概要 本授業は、取引社会における知的財産権の重要性・全体像・個別知的財産権の解釈や取り扱い実務について概説する。知的財産権は、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分される。知的財産権法では、これら三類型を通して、全体像・保護客体・特許侵害訴訟における発明の同一性判断や意匠等の類否判断・法定通常実施権概念などについて、法解釈と実務対応能力形成の両側面に配慮した講義を行う。更に、職務発明の対価額算定などのタイムリーな話題も適宜講義で取り扱う。</ /検索キーワード 特許、プログラムの保護、特許要件、特許発明の技術範囲、均等論、用尽説、特許電子図書館

●授業の一般目標 (1) 知的財産権の重要性を認識するとともに、その全体像を理解する。(2) 製品等の開発販売過程で創作される知的財産について、保護客体・侵害訴訟における同一性や類否判断・法定通常実施権概等の法解釈手法を理解するとともに、初歩的実務対応能力を修得する。(3) 営業上の信用が化体されている知的財産について、保護客体・侵害訴訟における類否判断・法定通常実施権概等の法解釈手法を理解するとともに、初歩的実務対応能力を修得する。(4) 思想または感情の創作物に関わる知的財産について、保護客体・侵害訴訟における同一性や類比判断・契約等の法解釈手法を理解するとともに、初歩的実務対応能力を修得する。(5) 職務発明の対価額算定など、知的財産権に関するタイムリーな情報を的確に取得すして理解する能力を修得する。

●授業の到達目標／ 技能・表現の観点： 特許情報に代表される知的財産情報の検索実務能力が形成されたか。

●授業の計画（全体） 第1回 知的財産保護法制の全体概要説明、情報通信技術の進展と知的財産権制  
第2回 発明概念、新規性、新規性喪失の例外、進歩性、先願等 第3回 特許等データベースの全体像把握、パトリス、特許電子図書館 第4回 直接侵害、損害額の算定 第5回 特許発明の技術的範囲同一性判断と均等論第6回 国内用尽、真正商品の並行輸入 第7回 国内用尽、真正商品の並行輸入 第8回 特許権の制約、法定通常実施権、利用抵触関係 第9回 明細書の解釈およびソフトウェアの特許表現の実際 第10回 意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断 第11回 商標登録の積極的要件と消極的要件、商標の類否判断 第12回 不正競争行為、営業秘密、パブリシティの権利 第13回 著作物の定義と種類及び著作権と著作者人格権 第14回 著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権、公衆送信権等 第15回 著作隣接権概説、実演家の権利、放送事業者の権利

●成績評価方法（総合） (1) 授業の中で、特許情報のレポート、商標実務系レポート、知的財産判例報告レポートの三種類のレポート提出を実施する。(2) 最後に定期試験を実施する。(3) レポート等の提出が一回でも未提出の者と、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書： 産業財産権標準テキスト「特許編」, 特許庁編, 発明協会； 産業財産権標準テキスト「流通編」, 特許庁編, 発明協会； 産業財産権標準テキスト「意匠編」, 特許庁編, 発明協会； 産業財産権標準テキスト「商標編」, 特許庁編, 発明協会； 上記4冊は無償配布／ 参考書： 特許の知識, 竹田和彦, ダイヤモンド社, 2001年； 商標法50講（有斐閣双書）, 紋谷暢男, 有斐閣； 著作権判例百選（別冊ジュリスト）, 斉藤博・半田正夫編, 有斐閣； 著作権法概説, 半田正夫, 一粒社； 著作権法概説, 田村善之, 有斐閣

●メッセージ 特許侵害訴訟の理解を行うとともに特許情報の検索とデータベース化も行います。基本的は講義形式ですが数時間はパソコンを利用した実習を行います。

●連絡先・オフィスアワー t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：工学部旧電気電子棟1階 内線9909

開設科目	雇用関係法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	柳澤旭				

- 授業の概要** 日本型雇用慣行が変容しつつあるといわれるわが国においては、年功的処遇が崩れ、成績・成果主義の処遇が拡大しつつある。終身雇用慣行や、人事、福利厚生のある方も大きく変容しつつある。本講義は、そうしたわが国における雇用関係の変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。／検索キーワード 労働契約、労働基準法、非典型雇用、雇用保障、労働争訟
- 授業の一般目標** 本講義は、わが国における雇用関係に変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 労働法とは、労働契約、労働契約の締結と終了、就業規則、賃金・一時金・退職金、労働時間・休暇、人事異動、経営再編と労働契約の変動、就業規律と懲戒、雇用保障政策、安全衛生・災害補償、均等待遇・雇用における平等、非典型雇用、年少労働者・女性労働者、職業生活と家庭生活の両立、労働争訟・紛争処理
- 成績評価方法（総合）** 定期試験と授業時間内に行う小テストの成績による。小テストは2回行うが、いつ行うか分からないので、予習と復習をきちんとしておくこと。
- 教科書・参考書** 教科書：労働法エッセンシャル第3版, 清正寛・菊池高志編, 有斐閣, 2003年／参考書：授業中に適宜指示する。
- メッセージ** 教科書および六法を必ず持参すること。六法は、できるだけ労働法令の多く収録されたものにする。
- 連絡先・オフィスアワー** 講義内容に関する質問は、適宜受ける。ただし、事前に連絡してくること。  
arita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民事訴訟法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	上田和義				

- 授業の概要 民法・商法その他私法は、社会生活や事業を営む上での事実上の行為規範となっていますが、最終的には、裁判規範として民事裁判でその内容が実現されます。つまり、実体法が理解できていたとしても、裁判の手続きや仕組みが分かっていなければ、実体法も本当に理解できたことになりません。そこで、本講義では、民事訴訟法の全体的な構造と、社会的に多く利用される実体法の適用を中心に、実際の訴訟などで直面するであろう問題を取り上げていきます。
- 授業の一般目標 一般社会生活や事業を営む上で必要な民事訴訟制度の全体構造と、訴訟提起時に直面するであろう問題点を理解することを目標とします。
- 授業の計画（全体） 本講義は週1回、通年で行います。1 講義項目 民事訴訟の意義／裁判所・当事者／訴えの提起／訴訟要件／訴訟の審理／証拠調べ・証明／訴訟の終了／複数請求訴訟／多数当事者／上訴・再審 2 講義方法 テキスト・参考文献を参照しながら、口述により行います。また、実務的な資料をできるだけ配布します。
- 成績評価方法（総合） 出欠は毎回とります。全講義回数の60%未満を欠格とします。前期も試験を行う場合があります。
- 教科書・参考書 教科書： 民事訴訟法入門、林屋礼二ほか、有斐閣双書、1999年 六法は必ず携行して下さい。／ 参考書： ケーススタディ新民事訴訟法、小林秀之、日本評論社、1998年

開設科目	行政法 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	上杉信敬				

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 行政と行政法
- 第 2 回 項目 行政法学、歴史と現状
- 第 3 回 項目 行政法の法源
- 第 4 回 項目 法治主義
- 第 5 回 項目 行政立法
- 第 6 回 項目 行政行為
- 第 7 回 項目 行政行為
- 第 8 回 項目 行政契約、行政指導
- 第 9 回 項目 行政計画
- 第 10 回 項目 行政上の義務履行確保
- 第 11 回 項目 行政上の義務履行確保、即時強制、行政調査
- 第 12 回 項目 行政手続
- 第 13 回 項目 行政公開

開設科目	行政法Ⅱ（行政救済法）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	石龍潭				

●授業の概要 現代福祉国家は、我々の日常生活のすみずみにまで行政が関係してくるが、そうした行政の働きの過程で我々の権利や利益が違法に侵害されたとしたら、どうするか。それが行政救済法の問題である。その意味で行政救済法は、行政法の総仕上げという意味をもつ。この講座では、まず、行政、行政法といった基礎概念を再確認した上で、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。

●授業の一般目標 具体的な事例を行政法の立場から分析し、行政争訟および国家補償の問題となった場合にどういう解決が可能かを、説明できるようになることを目標とする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 行政・行政法の 意味
- 第 2 回 項目 行政救済法の体系
- 第 3 回 項目 行政争訟の種類・内容
- 第 4 回 項目 行政不服申し立て (1)
- 第 5 回 項目 行政不服申し立て (2)
- 第 6 回 項目 行政事件訴訟 (1)
- 第 7 回 項目 行政事件訴訟 (2)
- 第 8 回 項目 行政事件訴訟 (3)
- 第 9 回 項目 国家補償の種類・内容
- 第 10 回 項目 国家賠償訴訟 (1)
- 第 11 回 項目 国家賠償訴訟 (2)
- 第 12 回 項目 国家賠償訴訟 (3)
- 第 13 回 項目 損失補償
- 第 14 回 項目 その他の行政救済
- 第 15 回 項目 これからの行政救済のあり方

●成績評価方法 (総合) 論述試験 70%、小テスト 20%、出席 10%。

●教科書・参考書 教科書：テキスト、参考書は追って指示する。参考資料は必要に応じプリント形式で配布する。

●メッセージ 日頃から新聞の政治・行政欄や社会面に関心を寄せていることが望ましい。



開設科目	地方自治法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	石龍潭				

●授業の概要 地方自治は“民主主義の学校”と言われるくらいに、民主主義社会に不可欠の要素をなし、とりわけ近時のわが国では、地方分権の潮流によって地方自治の重要性は高まるばかりである。しかし、この潮流は、いわゆる“受け皿”論としての市町村合併推進とワンセットにされ、広域行政推進論の下で権限と仕事量の委譲はあっても財源の手当てに乏しいなど、多くの構造的な問題をかかえている。この講義では、こうした地方自治のありかたを、法の目を通して考えてみる。／検索キーワード 地方自治、地方分権、市町村合併、三割自治、民主主義

●授業の一般目標 地方自治制度の基本的な枠組みを理解し、具体的な問題に通りの説明、分析ができる能力を身につけさせる。

●教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。

●メッセージ 「小テスト」は「出席チェック」の際に行うので、一セットと考えて欲しい。

開設科目	政治学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	渡辺 幹雄				

●授業の概要 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学（国際関係を含む）のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

●授業の一般目標 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念（キーワード）の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：政治学の基本問題や概念を幅広く理解できる。思考・判断の観点：さまざまな概念の論理的な関係を述べるができる。関心・意欲の観点：政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。態度の観点：規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

●授業の計画（全体） まず、政治学は何を対象とする学問なのかを明らかにした上で、古代から現代にいたるまで、その変遷をたどってゆく。中盤からは主として20世紀以降の政治理論に焦点を合わせ、受講者が現代の政治現象に広く応答できるように心がける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目【項目】オリエンテーション 内容【内容】担当教員の紹介、政治とは何か、さまざまなアプローチについて 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目【項目】政治とは何か（1） 内容【内容】古代アテナイ、ローマにおける政治——政治的自由と共和主義——
- 第3回 項目【項目】政治とは何か（2） 内容【内容】中世キリスト教世界における政治——「神の国」とキリスト教国家——
- 第4回 項目【項目】政治とは何か（3） 内容【内容】近代政治学の誕生——ルネサンスと社会契約説——
- 第5回 項目【項目】政治とは何か（4） 内容【内容】現代政治理論——リベラリズムと共和主義——
- 第6回 項目【項目】20世紀の政治学（1） 内容【内容】政治科学の勃興——その時代・哲学的背景を含む——
- 第7回 項目【項目】20世紀の政治学（2） 内容【内容】政治科学の発展——さまざまな理論展開の紹介——
- 第8回 項目【項目】20世紀の政治学（3） 内容【内容】規範理論の再生——J・ロールズの正義論を中心に——
- 第9回 項目【項目】20世紀の政治学（4） 内容【内容】今日の規範的政治学——ロールズ以降の展開を追う——
- 第10回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（1） 内容【内容】さまざまなリベラリズム批判
- 第11回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（2） 内容【内容】ポストモダンへの転回
- 第12回 項目【項目】国際関係論（1） 内容【内容】国際政治の萌芽——政治史的な考察——
- 第13回 項目【項目】国際関係論（2） 内容【内容】さまざまな思想と理論——その政策への影響——

第 14 回 項目【項目】政治学 全般についての 総括 内容【内容】これま での講義内容の レビューとま  
とめ

第 15 回 項目【項目】前期末 試験 内容【内容】論述筆 記試験

- 成績評価方法 (総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。
- 教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。／ 参考書： 講義中に適宜指示する。
- メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。なお、本講義は 4 単位科目 であるので、各  
回は各週に相当する。したがって、各回の授業項目・内容 は、それぞれ各週 2 回にわたって講義する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	情報法学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	立山紘毅				

●授業の概要 情報化社会を法的な観点から捉える。

開設科目	税法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	青 達朗				

- 授業の概要 この科目は、総論ないし入門ですが、出発点は到達点でもあります。難解で分量の多い税法の全体像を俯瞰するためには、進行も早く、講義を受ける側の基礎体力が必要です。民法や簿記等を学習済みか、並行して学習することが必要不可欠です。
- 授業の一般目標 租税の基本原則の理解と、租税手続法や租税実体法の基礎的知識（基本の基本）の習得を目標にします。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 税法上の用語を確実に習得する。 思考・判断の観点： 税法的な思考の枠組みを身につける。 関心・意欲の観点： 経済現象と税の関係を意識する。
- 授業の計画（全体） 租税論、租税体系、国税通則法、所得税法等の実体税法の概略という順序で進みます。
- 成績評価方法（総合） 出席状況と試験で評価する。出席を重視（35%）します。
- 教科書・参考書 教科書： 税法入門第4版, 金子 宏ほか, 有斐閣, 2000年；プリント配布
- メッセージ この授業は、税法という難解で巨大な山の麓から歩き始めるところです。一步一步着実に進むことが大切です。
- 連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	企業課税法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	青 達朗				

- 授業の概要 講義では、企業が経済活動していくうえで、最も重要とされる法律の一つである法人税法を中心に、企業課税関係法規の基本的なルールを学んでいきます。重要なところは、裁判例など事例研究を交え授業を進めていきます。
- 授業の一般目標 法人税の所得の計算構造、益金と損金に関する別段の定め の概略を、理解すること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的な用語の理解。企業会計と税法の相違。 思考・判断の観点： 税法上何が問題なのかを理解すること。 関心・意欲の観点： 経済現象と税法との結合。
- 授業の計画（全体） 前半の6回程度迄は、法人税法の概略を講義し、後半は判例等の検討を主体とする。
- 成績評価方法（総合） 出席状況、提出されたレポートの内容を総合して評価します。
- 教科書・参考書 教科書： 法人税の計算と理論, 井上久弥他, 税務研究会, 2005年； プリント配布
- メッセージ 授業は、初日から最終日までの、一つ一つの積み重ねで構成されます。そのため、いちど授業を休むと、後のリカバリーが非常に困難になります。租税法の最高の参考書は、日本経済新聞の記事とインターネット上の情報です。毎日チェックすることが、税法を理解する早道です。「企業課税法」の履修は「税法総論」の履修を条件とします。「税法総論」を履修していない方は、授業の内容が全く理解できません。
- 連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

# 演習I

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	柳田卓爾				

●授業の概要 前期は、テキストを利用して、経営学科のゼミとしてこれだけは最低限、理解しておいて欲しい事例と理論を勉強する。上記の勉強は、次の点に注意しながら行っていく。(1) レジュメの書き方 文章を通じて、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学ぶ。(2) 報告 (プレゼンテーション) および議論 口頭での対話を通じて、自分の考えや言いたいを相手に伝えることを学ぶ。また、相手の考えや言いたいこと (文章、対話の両方を通じて) を正しく理解しようとするというスタンスを学ぶ。(3) 報告書作成 ゼミでの議論を通じて、学んだことと学べなかったこと (残された課題) とを明確にすることを学ぶ。報告担当者は、事前にレジュメを準備して (1)、ゼミで報告 (プレゼンテーション) する (2)。報告の次の週に、ゼミでの議論のまとめとして報告書を提出し (3)、復習を行う。後期は、テキストを利用しながら、みんなの身近にある商品の生い立ちや歴史等について学ぶ。実際にひとつの商品を選んで、調査・研究を行っていく。調査・研究の方法についても学んでいく。テキストは、紙コップ、ラーメン、ファーストフード、大八車、ユニットバス、紙袋、ロボット、シャープペンシル、ブランコ、カラー映画、パソコン等々の日用品約 90 点の生い立ちや歴史を、一つにつき 2~3 ページにまとめたものである。

●授業の一般目標 経営学科のゼミ生として必要な基本的ツールを習得する。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 1 章 企業 を起こす スカ イマークエアラ インズ社の設立
- 第 2 回 項目 第 2 章 私企 業の形態 わが 国電気通信産業 の曙に見る
- 第 3 回 項目 第 3 章 現代 企業の発生 ロ ックフェラーと スタンダード・ オイル
- 第 4 回 項目 第 4 章 環 境・戦略・組織 フォードと GM
- 第 5 回 項目 第 5 章 新し い事業の創造 ヤマト運輸の宅 配便事業
- 第 6 回 項目 第 6 章 いか に競争するか マクドナルドと モスバーガー
- 第 7 回 項目 第 7 章 事業 の再構成と資源 配分 東芝の選 択経営
- 第 8 回 項目 第 8 章 M & A と 外部資源の利用 ソニーのコロ ンビア映画会社 買収
- 第 9 回 項目 第 12 章 日本 的経営とは何だ ったのか 高度 成長期の日立製 作所
- 第 10 回 項目 第 13 章 企業 の知識体系 シャープの製品開 発マネジメント
- 第 11 回 項目 第 14 章 市場 に対応するネッ トワーク型組織 製販一体化を めざす花王の組 織変革
- 第 12 回 項目 第 15 章 企業 のカルチャーを 変える アサヒ ビールの組織活 性化
- 第 13 回 項目 第 16 章 会社 は誰のものか ピケンズ対小糸 製作所問題から
- 第 14 回 項目 第 17 章 ビジ ネスの倫理性 不正表示牛乳の 代償
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) 前期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジュメ、報告 (プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。

●教科書・参考書 教科書：『ケースに学ぶ経営学』、東北大学経営学グループ、有斐閣ブックス、1998 年；  
：『20 世紀をつくった日用品ゼム・クリップからプレハブまで』、柏木博、晶文堂、1988 年

●メッセージ この演習 I は、2 年生を対象としています。募集人数は 12 名です。積極的にゼミ活動を盛り上げていてくれる人を希望します。3 年次以降に、ゼミ合宿を 予定しています。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 C220



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	田淵太一				

- 授業の概要** この10年間は、米国発グローバリズムが世界の政治経済を席卷し、これまで別の秩序のもとに運営されてきた各地域の社会に浸透した時代でした。今後、このグローバリズムが勢いを増し、世界経済はますます市場原理に一元化されるのか、あるいはグローバリズムに対抗する原理が現れるのかは、私たちの経済や生活を大きく左右する重要な問題です。このゼミナールでは、世界経済全体から各国・各地域、さらには身近な問題まで、グローバリズムとそれへの対抗という視点から考察してゆきます。
- 授業の一般目標** 2年次には、ディベート（討論）と読書能力・調査能力の養成に集中します。
- 授業の計画（全体）** 5月いっぱいをめどに教科書を読了します。その後、希望するテーマごとに3名ずつのグループを作ります。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。
- 成績評価方法（総合）** 報告・討論等、ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度50%、受講者の発表50%。
- 教科書・参考書** 教科書：私物化される世界, J・ジグレル, 阪急コミュニケーションズ, 2004年
- メッセージ** 授業を聞いたり練習問題を解いたりするばかりが大学の勉強ではありません。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。「勉強」のイメージを変えてください。2, 3年次に、ゼミナール大会（学内・全国）に参加します。年に1～2回の合宿を行うことも考えています。ゼミを学生生活の中心にすえて積極参加して下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	中田範夫				

- 授業の概要** 管理会計分野の演習です。企業会計は財務会計分野と管理会計分野に区分できます。前者は商法や商法計算規則に基づいた処理をすることによって財務諸表を作成します。損益計算書、貸借対照表、およびキャッシュフロー計算書を財務諸表と言います。これに対して、管理会計は経営管理者が各種の意思決定と業績評価のために利用するための情報作成を任務とします。企業の業務計画に基づいて予算を編成したり、新規の設備投資を海外に行うなどの意思決定ならびに各セグメントや個人の会社への貢献を評価し報酬に反映させたりします。
- 授業の一般目標** まず、企業会計全般についての幅広い知識を身につけ、次の段階で、管理会計、原価計算についての知識を習得することを目標とする。
- 授業の計画 (全体)** 授業はテキストを決めて、学生に順番に報告してもらおう。報告する学生がレジュメを準備することは当然であるが、それ以外の学生も事前に報告者に対して質問を提出することを義務とする。
- 成績評価方法 (総合)** 授業への出席、報告、各種ゼミ行事への参加度などを総合的に見て判断する。
- 教科書・参考書** 教科書：後日決める。
- メッセージ** 積極的な学生を希望します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：電話番号9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	橋本寛				

- 授業の概要 集団における意思決定の基礎理論について考察を行う。
- 授業の一般目標 集団における意思決定理論の初歩的概念、手法、モデルなどについて学ぶ。
- 授業の計画 (全体) 各人に下記のテキストを割り当てて読む。テキストの内容は GDSS、グループウェア、各種問題解決法 (ブレインストーミング、KJ 法、ISM、DEMATEL など)、投票方式、投票のパラドックス、アロウの定理、ゲームの理論、混合戦略、非ゼロ和ゲーム、提携と配分、AHP など。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 説明
- 第 2 回 項目 準備
- 第 3 回 項目 準備
- 第 4 回 項目 準備
- 第 5 回 項目 準備
- 第 6 回 項目 第 1 章
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

- 成績評価方法 (総合) 出席、レポート、発表などによる。
- 教科書・参考書 教科書：意思決定支援とグループウェア, 宇井, 共立出版; 定価 2400 円
- メッセージ 出席を重視する。
- 連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 観光と旅行をテーマに研究をします。 観光・旅行の意義については、以下のように言えます。私たちは日常さまざまな機会に旅行に出かけ、生活の潤いを体験しています。日帰りレクリエーション、国内の宿泊観光旅行、海外旅行等は今や国民生活に欠かせないものとして定着し、その重要性も増加しています。このことは、今後の生活の中で特に重点を置きたい分野として「レジャー・余暇活動」をあげている国民が多いことから明らかです。 また、観光は国民一人一人が充実した時間を過ごし、「ゆとり」と「潤い」を実感できる生活を実現する上で大きな役割を果たすとともに、自然・歴史・文化等に関してさまざまな体験や地域との交流がなされる過程で地域の文化、経済活動を活性化させ、地域振興に大きく寄与するといわれています。さらに、国際観光は国民レベルでの直接の見聞による国際交流を通して諸外国との相互理解を増進し、友好と信頼に基づく国際社会を実現する上で大きな意義を有しています。
- 授業の一般目標** 観光と旅行に関する基礎知識の習得と、観光と旅行の現状について理解します。
- 授業の計画（全体）** 観光と旅行に関しての理論研究や実証研究などを行います。 前期には下記の書物等を輪読し、観光と旅行に関する基礎知識の習得と、観光・旅行の現状について学びます。後期には、各自の興味あるテーマを一つ選び、それについての文献調査などを行い、その成果を報告します。 また、観光と旅行というテーマは、非常に多くの領域を含みますので、グループ研究として数人が共同で同じテーマに取り組み、役割分担を行って研究することも可能です。研究テーマとしては、交通や旅行はもちろん、地域および郷土の文化、歴史、神話、芸能、祭り、食文化（グルメ）、遺跡、神社仏閣、温泉、自然・環境、民族（県民）性、人工構築物なども研究テーマになります。
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は、出席（30点）、報告（70点）によって行います。
- 教科書・参考書** 教科書：『観光白書』（平成16年版）、国土交通省編、財務省印刷局、2004年
- メッセージ** 国内や海外への調査旅行に出かけますので、少々の旅行費用が必要になりますが、観光と旅行を研究するゼミですから、知恵を出し合って安価な調査旅行を実現します。また、ゼミ参加者は4月までにパスポートを取得しておいて下さい。 旅行の好きな人、乗り物の好きな人、温泉の好きな人、食べることが大好きな人、グルメな人、勉強の好きな人を大歓迎します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	古川澄明				

- 授業の概要 研究内容・方法** (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査(今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化—輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジア—香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争—相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態—フグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス—養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。(a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く ゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。／検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。
- 授業の一般目標** (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点:** 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。思考・判断の観点: 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。関心・意欲の観点: ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。態度の観点: 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。技能・表現の観点: PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。その他の観点: ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるとというのが、ゼミの原則である。
- 授業の計画(全体)** 大きくは、前期と後期にわけて、2年生は研究のための基礎勉強を行う。とくにケーススタディを行いながら、実践的に経営学の知識を学ぶ。
- 成績評価方法(総合)** 総合的に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書: 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。
- メッセージ** 古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力、文書能力、報告書をまとめる能力、プレゼンテーション能力、コンピュータ活用能力などを養うことを目標として、2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は、大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では、これまでに習得した、あるいは習得しつ

つある経営学 や会計学の知識を投入することになり，必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして，独創的な卒論をまとめ，ハードカバ

- 連絡先・オフィスアワー 随時に、連絡・訪問可。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	マルク・レール				

- 授業の概要 マス・コミュニケーションとマスメディアの国際比較。／検索キーワード マスメディア、新聞、放送、インターネット、メディア・リテラシー
- 授業の一般目標 外国と日本のマスメディアを比較・分析することによって、メディア・リテラシー・レベルを上げる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：メディアの特徴を理解する。 思考・判断の観点：メディアの有効な利用について判断する。 関心・意欲の観点：メディアをもっと積極的に利用する。
- 授業の計画（全体） インターネットやデジタル・メディアが話題になっている現在、マス・コミュニケーション全体、そして従来のマスメディアを見直す必要がある。この授業では、基本的にグループ・ワークで、幅広くマス・コミュニケーションとマスメディアの諸現象を調べて、日本のメディアと欧米のメディアを比較する。主な課題は次の通りである。 1) マス・コミュニケーション理論 2) 従来のマスメディアの歴史的発展 3) 従来のマスメディアの現状と課題 4) メディアとメディア市場の国際比較 5) マスメディアとしてのマルチメディア 6) マスメディアとしてのインターネットの可能性と問題点
- 成績評価方法 (総合) ゼミへの出席、グループ発表とレポート。
- メッセージ 授業でマスメディアの国際比較（主に英語圏）を行うので、高いレベルの英語理解力（読み取り能力と聞き取り能力）が求められる。メディアやメディア市場の仕組みに関心を持って、英語または第二外国語のドイツ語をいかしたい学生を大歓迎する。
- 連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	兵藤隆				

●授業の概要 金融経済に関する基礎的な理論を学習しながら、デフレや不況からの脱却のために何を成すべきかを論理的に考察する。／検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

●授業の一般目標 金融システムの変貌とデフレ脱却のための手段について研究し、そのための情報収集やディベートの方法について学習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 教科書の指定も
- 第 2 回 項目 新聞記事の読み方
- 第 3 回 項目 教科書の読み方とまとめ方
- 第 4 回 項目 プレゼンテーションのやり方
- 第 5 回 項目 プレゼンテーションの技術向上のために
- 第 6 回 項目 情報処理機器（PC）の使用について
- 第 7 回 項目 メールアドレスの取得
- 第 8 回 項目 ホームページの閲覧、情報収集のやり方
- 第 9 回 項目 ワープロ、表計算、プレゼンアプリケーションの使い方
- 第 10 回 項目 メーリングリストへの参加
- 第 11 回 項目 討論大会のためのテーマ設定
- 第 12 回 項目 討論大会のための論文作成準備
- 第 13 回 項目 討論大会のためのディベート訓練
- 第 14 回 項目 プロジェクト応募のための企画書づくり
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 演習中のパフォーマンス、アピール、ディベート能力などを評価する。

●メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/thyodo>) を参照のこと。できるだけ、受動的に「教わる」のではなく、自ら「学ぶ」意欲のある学生の参加を望む。

●連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	木部和昭				

●授業の概要 近代日本経済史研究 ～明治・大正・昭和期の日本経済の分析～ 本演習では、明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。内容としては特に、各人の身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析してもらおう。主な対象としては、山口県の地域経済を歴史的に分析する事を考えているが、各人の興味関心に応じて、必ずしもこれに限定するわけではない。最終的には、資料を用いて具体的な分析を行い、教科書に出てくる経済史とは異なった新たな歴史像を自ら発見してもらいたい。大学で勉強する歴史は高校までの日本史・世界史と異なり、単に知識を暗記するだけの学問ではない。自らが歴史を解明し、分析するという点に興味を持つ学生の受講を歓迎する。／検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

●授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。

●授業の計画(全体) (1) 前半は下記のテキストの輪読を通じて、近代日本経済史の基礎知識、論点を学習する。(2) 後半は、各人の興味関心に基づいた研究論文を読み、各人の研究課題設定の一助としたい。また、論文講読を通じて、経済史研究の手法、論文の書き方などについても学習する。(3) 日本経済史の実証的研究に必要な不可欠なものに、資料の調査・分析がある。本演習では、上記と平行して、戦前期の資料講読を行い、調査・分析の基本的手法を習得する。戦前の文献・法令・新聞などは、現在とは全く異なる文語・旧字体で書かれているが、慣れれば同じ日本語なのでそんなに難しくはない。また、興味のある学生がいれば、江戸～明治時代の古文書(筆で書かれた史料)解読も行いたい。その際、なるべく多くの原史料に触れる機会を得るため、山口県文書館などの資料保存機関へ調査に出かける。(4) 夏休みには、卒業論文への前段階として、レポートを課す。これは、自分の研究課題についての模索の第一歩となる。後半には、このレポートをもとにした報告も行ってもらおう。※2年次には特に(1)(3)を重点的に学習する。

●成績評価方法(総合) 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノート提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

●教科書・参考書 教科書：『近代日本経済史要覧(第2版)』、安藤良雄 編、東京大学出版会、1979年；『概説近代日本経済史(第2版)』、三和良一、東京大学出版会、2002年／参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

●メッセージ ・3年後の卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。 ・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。 ・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	三間地光宏				

- 授業の概要 「演習 I」と「演習 II」とを履修することで民法全体をしっかりと理解できるようにする。「演習 I」では民法総則の復習をした後、家族法と債権法を取り上げる予定である。ただし学習の順序など詳細については受講者と相談のうえで決めたい。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 民法の基礎知識を身に付ける。 思考・判断の観点： 法的思考を身につける。 関心・意欲の観点： 毎回のテーマについて予習・復習をする。 わからないことについては積極的に質問する。 態度の観点： 毎回のテーマについて予習・復習をする。 積極的に発言する。 技能・表現の観点： 報告・質疑応答を適切に行う。
- 教科書・参考書 教科書： 未定。／ 参考書： 未定。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	平中 貫一				

- 授業の概要 民法学の基礎として主に民法総則を学ぶ。／検索キーワード 民法
- 授業の一般目標 民法学の基礎の修得

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	陳禮俊				

- 授業の概要** 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。
- 授業の一般目標** 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。
- 授業の計画（全体）** 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判－賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。
- 教科書・参考書** 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書1997/98、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、1997年；アジア環境白書2000/01、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年／参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。
- メッセージ** 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部C226室 電話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	有村貞則				

- 授業の概要 この演習では、企業経営の実態を把握する上で有益な経営分析、とくに財務分析手法を学習し、それをもとに代表的な日本企業や欧米のグローバル企業の経営状態を比較検討します。
- 授業の一般目標 1. 財務諸表データを用いた経営分析手法の習得。 2. これらの手法を用いて実際の企業の業績を分析。 3. 分析結果、およびその他の情報をもとに企業間の優劣を判断。
- 授業の計画 (全体) 指定テキストの各章ごとに進める。
- 成績評価方法 (総合) 出席点と毎回の授業で行う復習小テスト。
- 教科書・参考書 教科書：経営分析入門, 森田松太郎, 日本経済新聞社, 2002 年
- 連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	藤井大司郎				

●授業の概要 公共経済論に根ざす財政理論を学びつつ、わが国の財政とこれを取りまく公共部門の諸問題を学ぶゼミナールである。

●授業の一般目標 財政学の基礎理論を理科し、現実の財政現象に幅広く通ずる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 混合経済における公共部門 内容 政府の経済的役割 政府とは何か、誰なのか
- 第 2 回 項目 混合経済における公共部門 内容 公共経済学的な考え方 経済学者間での意見の不一致
- 第 3 回 項目 市場の効率性 内容 競争市場のみえざる手 厚生経済学とパレート効率性
- 第 4 回 項目 市場の効率性 内容 経済効率性の分析
- 第 5 回 項目 市場の失敗 内容 所有権と契約の実施 市場の失敗と政府の役割
- 第 6 回 項目 市場の失敗 内容 所得再分配とメリット財 政府の役割についての二つの分析方法
- 第 7 回 項目 効率と公平 内容 効率と分配のトレードオフ 社会選択の分析
- 第 8 回 項目 効率と公平 内容 社会選択の実際 社会選択の三つのアプローチ
- 第 9 回 項目 効率と公平 内容 不平等を測る他の尺度
- 第 10 回 項目 公共財と公的に供給される私的財 内容 公共財 公的に供給される私的財
- 第 11 回 項目 公共財と公的に供給される私的財 内容 公共財のための効率性の条件 公共財としての効率  
的政府
- 第 12 回 項目 公共選択 内容 資源配分の公的メカニズム 公共財水準を決定する代替的機構
- 第 13 回 項目 公共選択 内容 政治学と経済学
- 第 14 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 自然独占：私的財の公的生産 公共部門と民間部門での効率性の  
比較
- 第 15 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 公共部門での非効率性の原因 法人化

●教科書・参考書 教科書：公共経済学 第2版, J. E. スティグリッツ, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	塚田広人				

- 授業の概要 経済政策の基本的問題、特に分配ルールのあり方の研究 現在私たちの住んでいるこの社会は市場経済を基本的仕組みとする社会です。とくにそこでの分配ルールのあり方、枠組みと問題点を考えます。問題：失業がなく、正しい賃金が支払われ、弱者にやさしい社会とは？／検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性、福祉国家
- 授業の一般目標 経済政策の基本的問題、特に分配ルールのあり方の研究 現在私たちの住んでいるこの社会は市場経済を基本的仕組みとする社会です。とくにそこでの分配ルールのあり方、枠組みと問題点を考えます。問題：失業がなく、正しい賃金が支払われ、弱者にやさしい社会とは？
- 成績評価方法 (総合) 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)
- 教科書・参考書 教科書：社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂, 1998 年
- メッセージ 「読み、考え、議論する」楽しいゼミにしましょう。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：水曜 1時30分～3時00分 ただし、会議等で、下の時間がふさがることがあります。ほぼ毎日研究室にきていますので、質問等のある方は下記の時間以外でもいつでも来訪してください (A 棟 4 階、4 2 4 号室。) 電話：083 - 933-5558 E-mail：ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	寺地伸二				

- 授業の概要 テーマ：経済と社会の問題について、自分なりの考えをもつこと。
- 授業の一般目標 1, 経済や社会のさまざまな問題に対して興味をもってもらうと同時に、問題点の整理の仕方、発表の仕方なども学習していきます。2, グループ学習を通じて、自分なりの、ものの見方・考え方を身につけてもらいたいと思っています。
- 授業の計画(全体) 研究テーマは、最終的には、自分自身で自由に決めてもらって構いませんが、このゼミナールの第一段階は、下記のテキストを全員で輪読しながら、共通の問題について考えていくことです。(下記のテキストを使った場合は、会社の仕組みを通して日本型資本主義の問題を考えていきます)。このとき、新聞などで取り上げられている経済や社会のさまざまな問題に対して興味をもってもらうと同時に、問題点の整理の仕方、発表の仕方なども学習していきます。第二段階は、関心のあるテーマごとに分かれて、グループ発表を行うことにします。(ちなみに、いままで取り組んだテーマは、情報化社会、学力低下等の教育問題、リサイクル等の環境問題などを調べることでした。) このことを通じて、自分なりの、ものの見方・考え方を身につけてもらいたいと思っています。(この段階で希望者が多ければ、英会話の勉強も少し取り入れたいと思っています。) 第三段階は、卒業論文の作成に向けた、個別の研究発表が中心となります。
- 成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度(30%)、受講者の発表(30%)、出席(40%)
- 教科書・参考書 教科書：『会社はこれからどうなるか』, 岩井克人 [著], 平凡社, 2003 年
- メッセージ 勉強ばかりでなく(もちろん勉強が一番のハズですが・・・)、勉強以外のいろいろな活動にも積極的に取り組むような新ゼミ生の参加をお待ちしています。
- 連絡先・オフィスアワー なお、ニュージーランドの大学で現在研究員をしているため、ゼミナールの開始は帰国予定の 2005 年の 5 月下旬ごろからになる予定です。



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	仲間瑞樹				

- 授業の概要 前期は平成不況と女性そして男性をめぐる諸問題をとりあげる。後期は政府の経済政策と日本の経済、社会との関係についてとりあげる。／検索キーワード 女性と男性のあり方、社会・経済環境、市場経済と政府介入、資料・文章作成、ディベート技術
- 授業の一般目標 誰が聞いても、見てもわかりやすい発表、資料作成が出来るようにすること。社会的な問題、時事的な問題に対して、経済学の論理を適用できるようにすること。また社会的な問題、時事的な問題を自分自身の問題として想像できるようにすること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1年次で履修したミクロ・マクロ経済学の考え方を、現実の経済問題に適用している点。社会問題への興味、十分な理解があること。関心・意欲の観点：わかりやすい、相手の立場に立った発表となっている点。技能・表現の観点：わかりやすい日本語論文・資料を書けること。
- 授業の計画(全体) 3から4人のグループに分け、テキストを利用した発表、質疑応答、ディベートを繰り返す。資料作成、発表技術を出来るだけ高められる指導する。後期のスケジュールは、前期末に資料を配布し、説明をする。
- 成績評価方法(総合) 資料作成、発表技術、ディベートの参加具合、報告内容を評価対象とする。
- 教科書・参考書 教科書：入手すべきテキスト、参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。
- メッセージ 1年後にはある程度の発表、討論参加、経済学的な知識、文章、資料作成に対する自信がついているはずです。
- 連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	青 達朗				

- 授業の概要 税法の基礎知識の習得と問題処理能力の向上が目的です。難解な税法に取り組むための第一段階です。自分で考えることが重要です。
- 授業の一般目標 税法全般の概略的知識と社会現象への応用のための分析能力の醸成を目標とします。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 租税手続法と租税実体法の用語を理解し使用できる。 思考・判断の観点： 社会事象に対して、税務上の問題点を抽出できる。 関心・意欲の観点： 経済活動に関心を持ち、理解できる。
- 授業の計画（全体） 前期は、税法総論の補完的授業を中心として、後期は法人税の判例等の事例を中心に授業を進めていきます。
- 成績評価方法（総合） ゼミへの参加状況、発言、理解度等を総合的に評価します。
- 教科書・参考書 教科書： やさしい法人税, 福住豊, 大蔵財務協会, 2004 年； ケースブック租税法, 金子宏他, 弘文堂, 2004 年； プリント配布
- メッセージ 税法は難解ですが、この社会が難解であり、それを反映しているからです。学習の素材は無限です。それを拾えるか否かです。
- 連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	馬田哲次				

- 授業の概要 毎週読書レポートを提出し、およそ 1 月に 1 回の割合で発表する。
- 授業の一般目標 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。
  1. 幅広い教養を身に付けること。
  2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
  3. 企画力・創造力を高めること。
  4. プレゼンテーション能力を高めること。
  5. コミュニケーション能力を高めること。
  6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
  7. 判断力を高めること。
- 授業の計画 (全体) パワーポイントを用いて、プレゼンテーションを行う。
- 連絡先・オフィスアワー [umada@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:umada@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	濱島清史				

- 授業の概要** キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に年金・介護問題) を中心に進めていく。また それと関連するように、就職内定率が低迷する中、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは 2 年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。／検索キーワード キャリア形成、社会政策論、産業・企業・職業研究、プレゼンテーション・ディスカッション・ディベート、社会貢献。
- 授業の一般目標** 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。なお、労働経済論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。
- 授業の到達目標**／知識・理解の観点： キャリア形成、社会政策論 (特に年金・介護問題)、特定の産業・企業・職能 (職業) について、幅広く基礎的な知識を身につけ、認識を深めていく。思考・判断の観点： とりわけレポートによる論理的思考能力の涵養、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成。関心・意欲の観点： 自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。態度の観点： 人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取ること。さらに、積極的に自己アピールをしてもらいたい。ゼミで活発に討論して、自己主張してもらいたい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してもらいたい。技能・表現の観点： プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。その他の観点： 特に今年は、社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)
- 授業の計画 (全体)** キャリア形成ならびに社会政策論 (特に年金問題) に関して、テキストを輪読形式で進めていく。レポートは春休み明け、夏休み明け、冬休み明けにそれぞれ提出してもらうが、各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して節に分けてまとめる形式としたい。秋のゼミナール大会は一つの山場なので必ず出席してもらう。
- 成績評価方法 (総合)** 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。
- 教科書・参考書** 教科書： 大卒ホワイトカラーの人材開発, 小池和男編, 東洋経済新報社, 1991 年；日本の官僚人事システム, 稲継裕昭, 東洋経済新報社, 1996 年／参考書： マテリアル人事労務管理, 佐藤博樹+藤村博之+八代充史, 有斐閣, 2000 年；日本企業 理論と現実, 上井喜彦・野村正實, ミネルヴァ書房, 2000 年；上記以外は適宜指示する。
- メッセージ** 現場第一主義 何はともあれ、明るく楽しくやってみましょう。
- 連絡先・オフィスアワー** tel : 083 - 933 - 5521. E メール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	野村淳一				

- 授業の概要** 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学（計量経済学）を用いることを必要とします。演習 I ではブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。同時に教科書で修得した経済モデルを現実のマクロ経済データを用いて検証します。また、平行して各自の興味のある社会・経済問題について調査し、報告をしてもらいます。そうした作業を通して、2 年次終了までに自分の研究するテーマを選びます。
- 授業の一般目標** ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 標準的なマクロ経済理論を理解できている。 基本的な統計学の手法を修得している。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 関心・意欲の観点： 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 態度の観点： 事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。
- 授業の計画（全体）** 演習 I ではブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。同時に教科書で修得した経済モデルを現実のマクロ経済データを用いて検証します。また、平行して各自の興味のある社会・経済問題について調査し、報告をしてもらいます。そうした作業を通して、2 年次終了までに自分の研究するテーマを選びます。将来の進路を念頭に選んでいくのが適切かと思います。このような研究の性格上、パソコンの知識も必須です。各自でパソコンを購入することを強く推奨します。卒業論文作成前に、経済数学 I、ミクロ経済学 I、II とマクロ経済学 I、II、経済統計学、計量経済学 I、II の単位を取得することを期待します。一見非常に多くを学習するようですが、これらは互いに関連しており、ステップを省略しなければ、基本的な範囲の内容については、無理なく修得することが可能です。希望者ために、サブゼミとして経済数学とミクロ経済学の輪読をする予定です。初歩から積み上げていきますので、気軽な気持ちで臨んで下さい。
- 成績評価方法（総合）** 授業における態度（発表、質問等）と参加意欲により判定する（評価割合 100 %）。
- 教科書・参考書** 教科書： マクロ経済学（上）（下）、ブランチャール、東洋経済、1999 年／ 参考書： ミクロ経済学、武隈慎一、新世社、1999 年
- メッセージ** 私が指導できる範囲で考えると、経済学部を卒業した学生の武器は、数学を用いて論理的に社会事象を考察することができることだと思います。数学が苦手でもこの機会に少しでも自分のモノにしておこうという意欲を持った学生を希望します。私自身も数学が得意とは言えませんが、初歩の初歩から指導しますので、恐れず立ち向かって下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	李海峰				

●授業の概要 中国経済と日本および他のアジア諸国経済との関連を中心に分析し、将来を展望する。／検索キーワード 中国社会経済と日本、東アジア社会経済、国際化、

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計画経済から市場経済への転換
- 第 2 回 項目 中国経済の発展と東アジアの社会経済
- 第 3 回 項目 中国と ASEAN
- 第 4 回 項目 中国と香港・台湾
- 第 5 回 項目 中国の情報技術 産業の育成
- 第 6 回 項目 中国の自動車産業
- 第 7 回 項目 社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 8 回 項目 中国の金融システムの変革と現状
- 第 9 回 項目 中国の株式市場
- 第 10 回 項目 世界市場環境と中国
- 第 11 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 12 回 項目 消費生活から見た中国の社会経済変化
- 第 13 回 項目 地域的、階層的 格差の拡大
- 第 14 回 項目 開発と環境汚染
- 第 15 回 項目 社会経済についての調査を考える

●メッセージ 充実しておもしろい知的な道を探求しましょう、

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	中村美紀子				

- 授業の概要 本演習は、商法おもに会社法および手形法・小切手法を扱います。具体的には、会社法および手形法・小切手法の論点、関連する判例、時事的な問題等を題材に、報告者の報告および出席者全員での議論を通して、プレゼンテーションやディベートの素養を身に付けてもらいたいと思います。
- 授業の一般目標 会社法および手形法・小切手法の基礎を理解し、演習終了時には自らのテーマをもってもらいたいと考えます。その際履修生の自主性を最大限尊重します。
- 授業の計画（全体） 演習開始時に履修者と相談して決めたいと思います。
- 成績評価方法（総合） セミナーへの貢献度を重視します。履修生のセミナー全体に対する評価を30%の評価割合とします。
- 教科書・参考書 教科書：教材等はその都度配布します。／参考書：参考資料等はその都度配布します。
- メッセージ 演習において欠席が避けられない場合は事前に直接連絡することをルールとします。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室C棟227、オフィスアワー前期火曜日 10:20—11:50、後期火曜日 12:50—14:20。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	植村高久				

- 授業の概要 テーマ：現代日本の経済と社会 ゼミの目標は、この現代の日本の社会経済の特質を学び、多面的な関心を持てるようにすることである。1) 大学生生活に主体的に取り組んでゆける「テーマ」(何でも良い)を各自が見つけ、それに全力投入できるようにして、アクティブな大学生生活を送るよう支援する。2) 学習の面では、関心のあるテーマを自分で選び、継続して観察しつづけるようになることが重要である。／検索キーワード 日本経済、グローバル化、雇用不安、少子高齢化
- 授業の一般目標 日本経済だけでなく、現在の日本で生起している諸問題に対し、積極的に関心を持ち、問題を理解し、解決策を模索することができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：(知識・理解の水準)日本経済新聞を読める。経済・社会の様々な問題について一般的な了解ができる。思考・判断の観点：経済学的な思考法、社会科学の思考法を駆使できる。関心・意欲の観点：様々な事件や問題を自ら積極的に理解・解明しようとする。一つのテーマを継続的に追跡できる。態度の観点：自力で考える習慣が身に付く。
- 授業の計画(全体) 1) 1年間を通して1)テキストによる基礎知識の習得に努める。2)前期は「テーマプレゼンテーション」を中心とする。3)後期は、グループ分けを行い、テーマを割り振って、グループ学習と報告を行ってもらう。
- 教科書・参考書 教科書：別途指示する。
- メッセージ 1)モットーは「能力は求めないが、努力は求める」である。最初は難しいが、そのうち面白みが分かってくる。そこまで「努力」できる人を求める。2)自分でテーマを持って大学時代を過ごしたい人(まだテーマが見つからない人も含めて)向けである。3)相談等には出来る限り応じるから、気軽に研究室に来て欲しい。
- 連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail;uemura@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワーは掲示してあるが、常時来室可。



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	鍋山祥子				

●**授業の概要** 私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいかないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私のもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。演習 I の進め方は、4 年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず 2 年次（演習 I）には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます（社会学的思考の習得）。3 年次（演習 II）には、KJ 法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4 年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。

本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇気」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立（ワークライフバランス）・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。

●**授業の一般目標** 1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。（社会学的思考の習得） 2. レジューメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。（学習技術の習得） 3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。（研究テーマの探求）

●**授業の計画（全体）** 上記の目標 1・2 を達成するため、前期・後期を通じて、できるだけ多くの文献を読み合わせます。方法としては、毎回、決められた文献についてのグループによるレジューメ作成と報告をしてもらい、その後、報告内容についてゼミ全員での議論をおこないます。また、期末には、上記目標 3 についてのレポート提出を予定しています。

●**成績評価方法（総合）** 1. 授業内討論への参画度合（出席は欠格条件） 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。

●**教科書・参考書** 教科書：授業のはじめに数冊の文献を提示し、ゼミ員の希望を優先し決定します。

●**メッセージ** 私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探すという困難に挑む積極的姿勢が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気のできるゼミでありたいと思っています。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火・水曜日 10:00-11:00

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	柳澤旭				

- 授業の概要 日々の新聞記事の法律関係記事を見てその内容が理解できるようにする。
- 授業の一般目標 新聞記事の法律関係記事がどのような法律に関わり、どのような問題があるのか理解する。
- 授業の計画（全体） 新聞記事の法律関係に記事を見て、法律的出来事を六法に照らして理解できるようにする。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 法律記事の見方 内容 実際の法律関係記事が理解できること 授業外指示 新聞記事を読みスクラップする
  - 第 2 回 項目 憲法関係 内容 以下、同様 授業外指示 以下、同様
  - 第 3 回 項目 憲法関係
  - 第 4 回 項目 民法関係
  - 第 5 回 項目 民法関係
  - 第 6 回 項目 民法関係
  - 第 7 回 項目 刑法関係
  - 第 8 回 項目 刑法関係
  - 第 9 回 項目 労働法関係
  - 第 10 回 項目 労働法関係
  - 第 11 回 項目 社会保障法関係
  - 第 12 回 項目 社会保障法関係
  - 第 13 回 項目 行政法関係
  - 第 14 回 項目 訴訟法関係
  - 第 15 回 項目 まとめ
- 成績評価方法（総合） 日頃の学習における報告、討論をなによりも重視し、レポート等の表現力をみる。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	上杉信敬				

- 授業の概要 社会科学、法、行政法などの諸問題についてみんなで考えて深めていく事を目的とする。どのような内容、領域にするか、どのようなテキスト、参考書を使うかなどについては最初に協議して決める。また進めるペース、スケジュールについても同様である。
- メッセージ 積極的な参加を期待する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	成富敬				

- 授業の概要 「情報技術の新しい応用可能性」というテーマ、あるいは、各自が興味を持つテーマについて、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなう。
- 授業の一般目標 各自が興味を持つテーマについて、基礎的な知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなう。文献紹介や発表をとおして、文献を調査し、文献を批判的に読むことで問題点を発見する能力を養い、さらに問題点を解決し、得た成果をまとめ、人に理解してもらう能力を身につけることが目標です。
- 成績評価方法 (総合) 出席状況、発表状況などをもとに、評価します。なお、欠席の多い場合や発表回数が少ない場合、あるいは、発表時に無断欠席をした場合はペナルティを課します。
- メッセージ 発表中心の授業であり、発表の順番はかなり頻繁にまわって来ます。したがって、一回の発表が終わったら、次の発表の準備を始める必要があるでしょう。発表を重ねるなかから自分の研究テーマを見つけ、そのテーマについて深く掘り下げることが大切です。どこまで掘り下げられるかはみなさん次第です。 いろいろなことを知っている“頭のいい人”よりは、粘り強く考えられる“頭の強い人”を目指しましょう。現在考えられている情報技術の応用に“問題はないのか”、問題があるとすれば“そのための解決策は何か”、あるいは“新しい応用は考えられないか”について、じっくり考えてください。また、演習の場で人の発表を聞き、発表のポイントを理解し、さらに疑問点を見つけて、発表者に分かるように質問を組み立てる姿勢も大切です。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	横田伸子				

- 授業の概要 東アジア経済という枠組みの中で、韓国経済の発展を見ていきます。具体的には、今年度はジェンダーの視角を不可欠のものとして、韓国の労働問題と社会福祉について歴史的・総合的に見ていきます。
- 授業の一般目標 1. 上のテーマに沿って、多くの学術論文を読み、その内容を正確に理解すること。2. 資料やデータを自分で探し、それを的確に分析すること。3. 自らが分析・考察した結果を論理的に自己表現する力を身につけること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 韓国社会経済、東アジア社会経済についての文献を読んで理解することができる。2. 韓国社会経済、東アジア社会経済についての資料を探し、それを実証的に分析できる。 思考・判断の観点： 1. 与えられた課題について論理的に報告できる。2. 他人の報告や意見を的確に理解し、それに対し自分の意見を論理的に述べるができる。 関心・意欲の観点： 1. 授業外においても日常的に韓国社会経済・東アジア社会経済について関心を持ち、資料収集、読書などを心がける。2. 討論に積極的に参加する。 態度の観点： 1. 討論に積極的に参加し、全体の流れに沿った建設的な議論が行える。2 授業に毎回欠かさず出席する。 技能・表現の観点： 1 他人にわかりやすく、自分の言葉で論理的に報告・発表ができる。2 他人にわかりやすく、論理的に自分の意見を述べるができる。
- 授業の計画(全体) 各人の選択したテーマに沿って読むべきテキストを指示し、課題を与える。毎回その課題に対する報告発表を中心に討論を行う。
- 成績評価方法(総合) 1. 各人の課題に沿って王国を行い、その内容の論理的構成力、実証性、表現力、創造性などを総合的に評価する。2. 討論に積極的に参加し、論理的に議論を展開しているかを見る。3. 学期末に4000字程度のレポートの提出を義務づける。4. 年間を通じて5回以上欠席した場合には、単位を与えない。5. 内容別評価方法は、レポート30%、授業への参加度30%、発表30%、出席は欠格条件。
- 教科書・参考書 教科書：東アジアにおける福祉戦略, 大沢真理他, ミネルヴァ書房, 2004年; アジアのソーシャル・セーフティネット, 一橋大学経済研究所経済制度研究センター, 勁草書房, 2003年/ 参考書：比較のなかの福祉国家, 埋橋孝文他, ミネルヴァ書房, 2003年
- メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視します。演習では、事前の予習と活発な討論を期待します。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えています。授業だけでなく、コンパやソフトボール大会、合宿、インゼミ討論大会、ゼミ旅行などに積極的に取り組む意欲のある学生を歓迎します。
- 連絡先・オフィスアワー 内線番号：5559、e-mail：ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	尹春志				

- 授業の概要 経済のグローバル化が進行するなか、貧困の問題が深刻化している。この演習では、今日の貧困および開発（あるいは発展）をめぐる諸問題に焦点を当て、私たちが暮らす世界についての理解を少しでも深めることを目的とする。／検索キーワード 貧困、開発、発展、援助、国際協力
- 授業の一般目標 自分で調べ、考えをまとめ、そして討論する力を養うことに重点をおきます。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 開発経済学の基礎および開発と貧困をめぐる諸概念についての理解を深める。 思考・判断の観点： テーマに即して論理的に思考し、自分の意見をまとめる力を養う。  
関心・意欲の観点： 自ら問題を発見していく過程を重視する。 技能・表現の観点： 論理的な文章を作成し、話す力をみにつける。
- 授業の計画（全体） 開発や貧困をめぐるテキスト（本や論文）を題材に議論することはもちろん、個別テーマに即したグループ学習とその成果の発表も随時行う。その際、ゼミ内でのディベートや他大学との合同ゼミも企画する予定である。したがって、演習への参加や報告だけでなく、必要に応じて個別の課題が課されることになる。ゼミで取り上げる予定のテーマ 「開発経済学の基礎」、「貧困と食糧、農業問題」、「途上国における水問題」、「開発と援助」など。
- 成績評価方法 (総合) 演習への出席は、基本的に必須として以下の事項を成績評価の基準とする。演習への参加：40% 報告：30% ディベート：30%
- 教科書・参考書 教科書： 演習開始後の数回は、テキストとなる論文などを配布する。／参考書： 国連開発計画『人間開発報告』（各年版）

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	豊嘉哲				

●授業の概要 国際的な貿易交渉が行われる際、農業は常に対立要因となってきた。その構図は、途上国が先進国に対して農業部門の貿易障壁撤廃を要求するが、先進国はそれを拒否するというものである。なぜ先進国は農業の保護を継続するのかといった論点を中心に、農業と世界経済の関係について考えることが、この演習の目的である。

●授業の一般目標 農業という観点から、経済や貿易について自分の意見を述べるようになること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：農業に関連する経済や貿易がどのように行われているかを理解すること。思考・判断の観点：農業という観点から、経済や貿易について自分の意見を述べるようになること。関心・意欲の観点：積極的に演習に参加し、自分の意見を発表すること。

●授業の計画（全体）教科書の輪読と、グループでの研究発表。毎週、教科書に沿って、輪読と研究発表を進めていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 戦後の貿易体制と GATT
- 第 2 回 項目 農産物をめぐる戦後の国際関係
- 第 3 回 項目 WTO における農産物貿易体制 1
- 第 4 回 項目 WTO における農産物貿易体制 2
- 第 5 回 項目 先進国の農政転換 1
- 第 6 回 項目 先進国の農政転換 2
- 第 7 回 項目 第 7 週以降の内容は、学生の関心を参考に決定する。
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）出席が 50 %，授業中の発表が 50 %。

●教科書・参考書 教科書：WTO と世界農業, 村田武, 筑波書房, 2003 年

●メッセージ 積極的に自分の意見を述べる学生を歓迎します。

●連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	柳井健一				



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	一ノ澤直人				

●授業の概要 テーマ 商法の現代的な諸問題を研究する

●授業の一般目標 商法の現代的な諸問題を通して法的な思考方法を身につけることを目的とする。

●授業の計画(全体) 演習の目標を達成するため、前半は、商法とくに手形・小切手法、会社法の基礎的な事項を最初に確認し、演習後半で裁判例を素材にして討論研究を進めていきたい。演習の進め方は対話形式で基礎的な事項を確認していき、法的な思考が身に付いた段階で裁判例を素材に報告、討論を進めていく。対話形式、報告、討論を原則とすることで、自分で積極的に法的思考ができるようにしていきたい。この点期末に自ら積極的に法的に問題を探求できるようにするため、各自に小論文(ゼミ論)をまとめる機会をつくりたい。受講生の状況をみて演習の進度を調整する。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 報告準備について
- 第 3 回 項目 演習
- 第 4 回 項目 演習
- 第 5 回 項目 演習
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 演習
- 第 8 回 項目 演習
- 第 9 回 項目 演習
- 第 10 回 項目 演習
- 第 11 回 項目 演習
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 演習
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 演習
- 第 16 回 項目 演習
- 第 17 回 項目 演習
- 第 18 回 項目 演習
- 第 19 回 項目 演習
- 第 20 回 項目 演習
- 第 21 回 項目 演習
- 第 22 回 項目 演習
- 第 23 回 項目 演習
- 第 24 回 項目 演習
- 第 25 回 項目 演習
- 第 26 回 項目 ゼミ論について
- 第 27 回 項目 ゼミ論検討
- 第 28 回 項目 ゼミ論検討
- 第 29 回 項目 ゼミ論検討
- 第 30 回 項目 ゼミ論報告

●成績評価方法(総合) 日常の演習への参加の積極度、ゼミ論等によって評価する。自ら積極的に研究して問題点を見つけ、他者と討論ができるような法的思考が身につけられれば、問題がない。なお演習において発言をせず、もっぱら受け身の場合は、欠席扱いとする。

- 教科書・参考書 教科書：ブリッジブック商法, 永井和之編, 信山社；六法必携、『有斐閣判例六法』等、自分にあつたものを持参すること。／参考書：株式会社・有限会社法（第三版）, 江頭憲治郎, 有斐閣；図説 手形小切手法教室（最新版）, 加藤勝郎, 創成社；他の参考書等は適宜演習において連絡する。
- メッセージ 自分で問題意識をもって、商法を通じて法的な思考を身につけたいという人を希望する。なお、一方通行の講義を希望する場合は、本演習は向かない。積極的に研究し、討論に参加することが条件である。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	石 龍潭				

- 授業の概要 この授業では、主に具体的問題（判例）の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する（特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する）。報告には次の内容を含めるものとする。(1) 事実の概要 (2) 判決の要旨 (3) 簡単な評釈（学説、私見など）授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明するが、いずれにせよ、ただ聴くのではなく、レジュメ作成という作業を負担する（受講人数にもよるが、1人1回程度を目標としている）。しかし、負担は、自分の力を伸ばす絶好の機会でもある。オフィスアワー・その他 水曜日・金曜日の午後以外は研究室にいますので、質問等のある学生は、上記以外の時間にきてください。（研究室・A棟4階 408号室）

開設科目	会計学演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	吉水佐知子・山下訓・田中秀博				

- 授業の概要 この授業は、職業会計人コース生を対象に新設されたものです。大学は、正解がない問題に対し、様々な意見があることを踏まえ、何通りもの答えを探るところです。一方、資格試験は、正解を答えることが要求されます。この相反する二つのことに挑戦していきたいと思います。
- 成績評価方法 (総合) 評価は、出席 50 %と発表 50 %で行います。
- 教科書・参考書 教科書：後日連絡します。／参考書：授業の中で必要に応じお知らせします。
- メッセージ 経済学部の学生として当然求められるべき行動は要求します。

## 演習 II

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	田淵太一				

- 授業の概要 2 年次で身につけたディベート（討論）能力・読書能力・調査能力をもとに、今年度は 中国元に焦点を絞り、さらなる専門的知識・能力の養成を行います。
- 授業の一般目標 専門的知識の習得とならんで、ディベート（討論）と読書能力・調査能力の養成に集中します。
- 授業の計画（全体） 5 月いっぱいをめどに教科書を読了し、以後は中国元にかんする調査を 3 名ずつのグループに分かれて行います。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。1 2 月には京都 大学との討論会を予定しています。
- 成績評価方法（総合） 報告・討論等、ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度 50 %，受講者の発表 50 %。
- 教科書・参考書 教科書：私物化される世界，J・ジグラー，阪急コミュニケーションズ，2004 年
- メッセージ 3 年生は、ゼミ活動の中心学年です。悔いの残らないように完全燃焼しましょう！
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後発表します。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	松浦良行				

- 授業の概要 演習 II では、演習 I での学習を踏まえ、統計処理ソフトを利用してさらに進んだ企業分析を行います。また、財務数値の背後にある会計処理についても一通り学習します。
- 授業の一般目標 財務数値の導出プロセスの理解はもちろんですが、分析力とプレゼンテーション能力のさらなる向上を目標とします。
- 授業の計画 (全体) 皆さんの理解度や興味に応じて調整します。
- 成績評価方法 (総合) 出席と発表の準備態度等で評価します。
- 教科書・参考書 教科書：追って指示します。
- メッセージ 今年も頑張りましょう。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	立山紘毅				

- 授業の概要 演習 I での課題を引き継ぎ、憲法学の理論的な課題や、現実の憲法現象について多角的に検討します。その際、できるだけ演習参加者の興味や関心に引きつけて開講したいので、一見したところ、関係なさそうな課題であってもいいですから、参加を希望する人は毎日のニュースで報じられる出来事などを参考に、検討したい課題を準備しておいてください。



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	城下賢吾				

●教科書・参考書 教科書：入門証券論, 榊原・城下他, 有斐閣, 2000 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	河野眞治				

- 授業の概要 多国籍企業の理論と現実について学ぶ。／検索キーワード 多国籍企業
- 授業の一般目標 最近の直接投資の新しい理論について学び、日本企業の海外子会社について調査する。
- 授業の計画 (全体) 学生のレポート発表を中心に行う。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ゼミの運営方法について説明する。
  - 第 2 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 3 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 4 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 5 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 6 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 7 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 8 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 9 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 10 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 11 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 12 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 13 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 14 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
  - 第 15 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 成績評価方法 (総合) レポートと討論内容で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	橋本寛				

- 授業の概要 演習 I に引き続き、意思決定の基礎理論や問題解決法について考察を行う。
- 授業の一般目標 意思決定に関する基本的概念や基礎知識を学ぶ。
- 授業の計画 (全体) 意思決定の基礎的事項について以下のテキストを読みながら検討を行っていく。
- 成績評価方法 (総合) 出席、報告、レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：意思決定支援とグループウェア, 宇井, 共立出版
- 連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	野村淳一				

●**授業の概要** 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学（計量経済学）を用いることを必要とします。演習 II では、引き続きブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。同時に演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法（理論、統計、ソフトウェア）の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらいます。また、全国ゼミナール対抗討論大会へ参加するために、日本経済や経済統計に関する論文を作成し、論文作成に必要な知識を包括的に修得します。討論大会では、自分の主張をいかに効果的に発表するかを考えます。上記のような作業を通して、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終えます。

●**授業の一般目標** ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

●**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。関心・意欲の観点：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。態度の観点：事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。技能・表現の観点：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●**授業の計画（全体）** 演習 II では、引き続きブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強する。教科書の下巻からは、より複雑で包括的なモデルが展開されており、経済学の思考方法修得のための良い訓練となると考えられる。また、こうしたモデルを用いることによって、現実の経済問題への理解がより深まり、その解決策について考察することが可能となる。演習 II では、知識として得られた経済モデルを現実の経済問題へ適用し、その解決策について議論を深める。その際、出来るだけ現実の経済データに基づいた客観的で定量的な分析を心がける。また、演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法（理論、統計、ソフトウェア）の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらい、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終える。

●**成績評価方法（総合）** 授業における態度（発表、質問等）と参加意欲により判定する（評価割合 100 %）。

●**教科書・参考書** 教科書：『マクロ経済学』（上）（下）、ブランシャール、東洋経済、1999 年 / 参考書：『ミクロ経済学』、武隈慎一、新世社、1999 年

●**メッセージ** 数学を用いた厳密な論理構成は慣れないうちはかえって分かり難いという印象を持つと思いますが、前提条件や仮定を明示し、分析の限界を明らかにしながら論理を展開するという技能は、あらゆる分野で有効なものだと思います。自分の関心のあるテーマの先行研究を参考に、まずは慣れることから始めましょう。カラオケで泉谷しげるの唄を聴かされますが、耐えて下さい。ボウリングは 200 を目指しましょう。各種ゼミ行事（合宿、ソフトボール、飲み会、討論会など）に対応します。

●**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	澤 喜司郎				

- 授業の概要 文献調査と現地調査等を精力的に行い、データの収集と分析に基づいて、その成果を報告する。
- 授業の一般目標 データの分析能力を高め、同時に成果の報告に際してはパワーポイント等を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 授業の計画（全体）各自が設定したテーマについての研究成果の報告と討議を行う。
- 成績評価方法（総合） 研究報告 70 %、出席 30 %

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	長谷川光圀				

- 授業の概要 演習 II の受講対象者、3 年生で、経営学の基礎知識を理解している。そこで、個別問題について、発展的に学習し、各自の分担報告と意見交換を重視し、個別問題についての深い理解を目指したい。

授業の目標

演習 II は、専門教育の中間レベルと上級レベルの学習を目標にしている。／検索キーワード 最近の個別経営問題について、関心を持つこと

- 授業の一般目標 演習 II の前期は、国際経営の理論を取上げる。演習 II の後期では、社内分社制、ナレッジ管理、組織ネットワークを取り上げる。  
基本資料を用意し、各自に報告を義務付け、意見交換を求める。

- 授業の到達目標／知識・理解の観点：個別問題について、基本的理解と論点をプレゼンテーションできる。思考・判断の観点：個別問題について、アイデアを提案できる。態度の観点：演習 II は、全出席を前提とし、意見を表明できる。

- 授業の計画（全体）経営学の個別問題を取上げ、問題の正当な理解の仕方と議論の展開を身に付けるように、指導する。

- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回	項目	国際経営の展開	内容	バーノン基礎理論の理解
第 2 回	項目	国際経営の問題	内容	バーノン基礎理論の理解
第 3 回	項目	国際経営の展開	内容	ダニング基礎理論の理解
第 4 回	項目	国際経営の問題	内容	ダニング基礎理論の理解
第 5 回	項目	国際経営の展開	内容	ポーター基礎理論の理解
第 6 回	項目	国際経営の展開	内容	ポーター基礎理論の理解
第 7 回	項目	国際経営の展開	内容	ポーター基礎理論の理解
第 8 回	項目	国際経営の問題	内容	ポーター基礎理論の理解
第 9 回	項目	日本の国際経営の展開	内容	生産活動について
第 10 回	項目	日本の国際経営の展開	内容	人事活動について
第 11 回	項目	日本の国際経営の問題	内容	販売活動について
第 12 回	項目	日本の国内経営の展開	内容	社内分社制について
第 13 回	項目	日本の国内経営の展開	内容	社内分社制について
第 14 回	項目	日本の国内経営の展開	内容	ナレッジ管理について
第 15 回	項目	日本の国内経営の問題	内容	ナレッジ管理について

- 成績評価方法（総合）演習 II は、個別問題についての、知識・理解、思考・判断、態度の 3 点を重視し、評価をする。

- 教科書・参考書 教科書：企業の競争優位（高価なので非購入），，／参考書：その都度、紹介する。，，

- メッセージ 出席は、100パーセントであること。

- 連絡先・オフィスアワー 電話 5542、研究室長谷川、オフィスアワー水曜日

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	仲間瑞樹				

- 授業の概要 ただ現状を批判するだけのプレゼン、評論家風で他人事のようなプレゼンをすること、これが上手いプレゼンだと思いきっているプレゼンターがいます。しかし誰もそんなプレゼンを聞きたくありません。「だから何なの?」と感じるだけです。そこでこの演習では前向きな提案型プレゼンを出来るように、提案型プレゼンに必要な時事経済の知識、そしてパソコンを利用した経済分析を勉強します。
- 授業の一般目標 パソコンを利用した経済分析に慣れること。 時事経済の知識、パソコンによる分析の 2 本柱から、提案をとまなうプレゼンをすること。
- 授業の計画 (全体) 以下の 1 と 2 を隔週で実施。 1 : 時事経済に関する知識を蓄えるため、テキストを報告。その後質疑応答を受けつけ、長続きするディスカッションテーマによるディスカッションを実施。 2 : パソコンを利用した経済分析に必要な経済分析手法を教員が説明。その後、ゼミ生に実習してもらう。また宿題もやってもらう。
- 成績評価方法 (総合) 報告・ディスカッション参加度合い、宿題などから総合評価。
- 教科書・参考書 教科書： 別途指示する。
- メッセージ この演習はハードです。ディスカッションはまごまごしていたら、取り残されます。間違ってもつまずいてもいいから、とにかく何か話そう。パソコンによる経済分析はマスターすれば、いろんな場面 (卒論や就職後も) で使えます。
- 連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	古川澄明				

- 授業の概要** 授業の概要 研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査(今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 — 輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジア — 香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争 — 相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 — フグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス — 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。(a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く ゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。授業の目標 演習テーマ: 経済のグローバル化とローカル・ビジネスの挑戦 演習の目標: ローカルビジネスの調査研究と取り組むことで、調査研究に必要となる経済学や経営学の知識を自主的に積極的に学び、また同時に、そうした知識を調査研究に応用する。そうした調査研究活動を通じて、実践的に、経営学の知識を身に付けることにある。/検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。
- 授業の一般目標** (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。
- 授業の到達目標** / 知識・理解の観点: 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。思考・判断の観点: 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。関心・意欲の観点: ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。態度の観点: 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。技能・表現の観点: PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。その他の観点: ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるといのが、ゼミの原則である。
- 授業の計画(全体)** 前期: 上記テーマに関する業界について、広く基礎知識を得る。同時に、業界を捉える経営学の基礎知識を学ぶ。後期: 現実のビジネスの世界に足を運び、インタビューを実施し、業界の方々から実際の経営の実状を学び、それを経営学の知識習得にフィードバックさせる。積極的に経営学的知識を身に付けるために、報告書を作成する。
- 成績評価方法(総合)** ゼミテーマへの取り組み、積極性、協調性、議論への積極的参加などを総合的に判断して、評価する。



- 教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。
- メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。
- 連絡先・オフィスアワー 各自、随時に連絡・相談可。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	柏木芳美				

- 授業の概要 演習 I に引き続き、数式処理システム Mathematica を使いミクロ経済学、マクロ経済学を理解し、LaTeX を用いて各学期のまとめを作成する。
- 授業の一般目標 数式処理システム Mathematica の助けを借りて経済現象を理解すること。また、自分で理解し、その内容を人に話す (プレゼンテーション) の訓練も重要な目標である。
- 授業の計画 (全体) 通常の授業とは異なり、各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは、まず前回の復習をし、全体的な話の概略を説明し、次にテキストの個々の内容の説明をしながら全員でパソコンへの入力を行なう。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。全員がうまく入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は、レポーターの指示に従い作業をし、最後に質問またはレポーターの評価をする。
- 教科書・参考書 教科書： はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年
- メッセージ 遅刻欠席をしないように。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	石田成則				

- 授業の概要 演習 1 に同じ
- 授業の一般目標 演習 1 に同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 演習 1 に同じ 思考・判断の観点： 演習 1 に同じ 関心・意欲の観点： 演習 1 に同じ
- 授業の計画（全体） 演習 1 に同じ
- 成績評価方法 (総合) 演習 1 に同じ
- メッセージ 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	陳建平				

●授業の概要 中国の社会主義市場経済をめぐる諸問題およびグローバル化時代の中国経済の課題について勉強する。

●教科書・参考書 教科書：東アジア国際分業と中国, 木村福成・丸屋豊二郎・石川幸一, ジェトロ, 2002 年；  
日中関係の経済分析 空洞化論・中国脅威論の誤解, 伊藤元重, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3年次
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	兵藤隆				

●授業の概要 わが国の金融システムの今後について／検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

●授業の一般目標 演習の総仕上げとして、より一層のプレゼンテーション能力、およびディベート能力を高めることを目標とする。また、経済事象について、より理論的な考察ができるようにする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融システムの現状把握
- 第 3 回 項目 わが国の金融システムの問題点を探る
- 第 4 回 項目 変わり行く金融システムの将来展望
- 第 5 回 項目 基礎金融理論の理解
- 第 6 回 項目 基礎貨幣理論の理解
- 第 7 回 項目 グローバルな視点からみた金融システム
- 第 8 回 項目 世界各国の金融システムの特徴
- 第 9 回 項目 討論大会参加のためのテーマ設定
- 第 10 回 項目 討論大会参加のための論文作成
- 第 11 回 項目 論文作成のための資料収集方法の取得
- 第 12 回 項目 論文作成のための意見の集約
- 第 13 回 項目 ディベートの訓練
- 第 14 回 項目 ディベートの実践
- 第 15 回 項目 その他

●メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~thyodo>) を参照のこと。できるだけ、受動的に「教わる」のではなく、自ら「学ぶ」意欲のある学生の参加を望む。

●連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	木部和昭				

●授業の概要 演習 I に引き続き、近代日本経済史を学ぶ。具体的には「企業・人物から見た日本経済史」、「地域経済の歴史」を中心に取り扱う。また、史料の講読および分析も並行して進める。こうした取り組みの中から、次年度の卒業論文作成に向けて、自分なりの課題を見出していく。／検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

●授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を旨とする。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようになる。(4) 卒業論文に向けた自分なりの課題を見出す。

●授業の計画 (全体) (1) 前期は、昨年度に引き続き「企業・人物から見た日本経済史」の報告を中心に進める。(2) 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心に、史料講読を行う。(3) 今年も夏休みには課題を出す。テーマは「地域経済の歴史」で、各自の身近な地域を取り上げ、その経済・産業などの歴史を掘り起こしてもらおう。(4) 後期は、「地域経済の歴史」に関する各自のレポート報告を中心に進める。(5) 4 年生に向けて自分の取り組むべき課題を模索する。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「企業・人物から見た日本経済史」の報告 (前期)
- 第 2 回 項目 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心とした史料講読 (前期)
- 第 3 回 項目 夏休みの課題：レポート「地域経済の歴史」(夏期休業中)
- 第 4 回 項目 「地域経済の歴史」に関するレポート報告 (後期)
- 第 5 回 項目 卒業論文テーマの絞り込み (後期)
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外には、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

●教科書・参考書 教科書：演習 I で使用したテキストを今後も使用する。それ以外は適宜プリントで配布する。／参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

●メッセージ ・3 年の終わりには、就職活動等が忙しくなる。その前に、卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	有村貞則				

- 授業の概要 企業の海外進出の目的・動機、参入モード、親会社—子会社関係、海外派遣者の役割、グローバル戦略、グローバルマネジメントなど、国際経営に関する理論と実際を学ぶ。
- 授業の一般目標 1. 経営の国際化の理論や研究について学習。 2. 学生自身による調査にもどづいた事例研究
- 授業の計画 (全体) テキストの輪読を通してグローバル経営理論の習得と批判的検討を行います。また、その知識をもとに各自で関心のある企業の事例を発表してもらいます。
- 成績評価方法 (総合) 出席、授業に望む態度、および発表
- 教科書・参考書 参考書： 参考資料や論文を適時配布します
- 連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	渡邊幹雄				

- 授業の概要 現代リベラリズムの再検討／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。
- 授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。
- 授業の計画（全体） 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。
- 成績評価方法（総合） 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	中田範夫				

- 授業の概要 演習 1 に引き続き管理会計論の領域を研究する。2 年次に勉強したことを基礎とするので、少し専門的な内容を研究することになる。一般的な製造業やサービス産業では、活動基準原価計算、バランスト・スコア・カード、原価企画などが管理手法として用いられているので、それらの領域を研究することになる。また、最近のテーマとしては、環境会計や病院会計といった領域も研究領域として適切である。
- 授業の一般目標 4 年次に作成する卒業論文に関するテーマの基礎を作るための授業を行いたい。
- 授業の計画 (全体) テキストを決め順番に報告してもらおう。必ずしも全ゼミ生が統一的なテーマになる必要はなく、テーマごとに幾つかのグループに分かれて勉強しても構わない。
- 成績評価方法 (総合) 出席、報告、およびゼミ行事への参加度を見て、総体的に評価する。
- 教科書・参考書 教科書：現在し用意しているテキストを引き続き使用する。次に使用するテキストは、検討中である。
- 連絡先・オフィスアワー 連絡先：研究室；9 3 3－5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	中村美紀子				

- 授業の概要 本演習では、会社法の判例を扱います。予め割り当てられた判例について、報告者の報告にもとづき討論を行います。
- 授業の一般目標 就職活動および卒業論文に取り組むための準備として、(1)プレゼンテーションやディベートの能力に磨きをかけること、(2) 会社法について自らのテーマをもつことを目指します。その際履修生の自主性を最大限尊重します。
- 授業の計画（全体） 演習開始時に履修者と相談して決めたいと思います。
- 成績評価方法（総合） セミナーへの貢献度を重視します。履修生のセミナー全体に対する評価を30%の評価割合とします。
- 教科書・参考書 教科書： 演習開始時に履修者と相談して決めたいと思います。／ 参考書： 参考資料等はその都度配布します。
- メッセージ 演習において欠席が避けられない場合は事前に直接連絡することをルールとします。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室C棟227、オフィスアワー前期火曜日 10:20—11:50、後期火曜日 12:50—14:20。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	青 達朗				

- 授業の概要 税法の判例を中心に据えて、租税争訟法、租税実体法の具体的な適用場面を学習する。
- 授業の一般目標 社会現象に対して、税法上の問題がどのように交錯するのかを理解できるようにする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：税法の基礎知識は十分か、それを活用できるか。思考・判断の観点：経済事象に対して、税法的な問題意識を働かせられるか。関心・意欲の観点：経済活動全般に対する関心は高いか。
- 授業の計画（全体）税法の判例を、主体として、租税実体法と租税手続法の具体的な適用場面を学んでいきます。
- 成績評価方法（総合）ゼミへの出席状況、受講態度、問題意識などを重視して、総合的に評価します。
- 教科書・参考書 教科書：租税訴訟実務講座, 大野重国他, ぎょうせい, 2002 年；ケースブック租税法, 金子宏他, 弘文堂, 2004 年；プリント配布
- メッセージ ゼミには自覚的に参加することが大切です。成長を期待しています。
- 連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	藤田健				

- 授業の概要 卒業論文の作成に向けた研究を行う。前期は研究方法論や論文の書き方を学び、個人研究のテーマを決定する。後期は、個人研究で設定したテーマを研究し、輪番で報告する。
- 授業の一般目標 1. マーケティング・流通分野の既存研究を理解する。 2. 個人研究のテーマを設定し、意欲的に研究する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 研究関心領域の既存研究を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 積極的に研究を行い、その成果を報告する。 2. 積極的にディスカッションに参加する。
- 授業の計画（全体） 前期は、研究方法, 文献サーベイ, 論文の書き方を学ぶ。その上で、個人研究のテーマを設定する。 後期は、個人研究を行い、輪番で研究報告を行う。
- 成績評価方法 (総合) 研究報告 (30 %) , ディスカッションへの参加 (30 %) , 最終レポート (40 %)
- 教科書・参考書 教科書： 『知的複眼思考法』, 荻谷剛彦, 講談社 α 文庫, 2002 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	濱島清史				

- 授業の概要 キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に年金問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、就職内定率が低迷する中、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは3年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。なお、労働経済論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。／検索キーワード キャリア形成、人材育成、社会政策論、労働経済論、介護保険。
- 授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。このゼミ生はゼミの時間に結構発言するので、今年はそれよりレポート作成能力等を鍛えられたい。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：基礎的な知識をまだもっと身につけなければならないが、今年はさらに関連文献を読破していき、専門知識を培ってほしい。思考・判断の観点：レポートによる論理的思考能力をさらに向上させ、とりわけプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成を重視したい。関心・意欲の観点：自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。ある程度できてきているが、さらに飛躍的に発展していかなければならない。そのためには格段の努力に向けた意識改革が必要であろう。態度の観点：人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取る。さらに、積極的に自己アピールをしてほしい。ゼミで活発に討論して、自己主張してほしい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してほしい。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてほしい。その他の観点：特に今年は、社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)
- 授業の計画 (全体) 昨年、前期は民間企業のキャリア形成ならびに人事システムについて、後期は年金・介護保険問題に関してゼミナール大会全国大会を通して論文作成や討論を行ってきた。今年はその成果を踏まえて、まず前期は各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して研究を進めていき、さらに社会政策関連のテキストを輪読していきたい。秋のゼミナール大会全国大会を前半のヤマとし、それ以降は各自の関心に沿って論文集に編集することを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。
- 教科書・参考書 教科書：神野直彦・金子勝 (1999) 『「福祉政府」への提言』岩波書店。／参考書：適宜指示する。
- メッセージ 現場第一主義 さらに活発に議論を交え、活気とガッツのあるゼミにしていこう。
- 連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス：hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	植村高久				

- 授業の概要 I. テーマ 現代日本経済の歴史的考察 1.1980 年から 2005 年までの日本経済の現状を経済、産業、消費生活の面から分担して研究し、実状を把握することに努める。2. 各自が興味を持つ個別テーマを決めて、意識的に研究を進めていくことを中心にする。／検索キーワード 現代日本経済論、グローバル化、少子高齢化、雇用不安
- 授業の一般目標 現在の日本経済の状況について、概略説明できる。日本経済の問題点とその原因について、説明できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：日本経済の現状とさまざまな問題・解決法を簡潔に述べることができる。思考・判断の観点：様々な社会的選択肢の結果と意味を理解し、自己責任で選択肢を選ぶことができる。関心・意欲の観点：日本経済の特定の焦点的課題や特徴のうち 1 つまたは複数について、様々な主張や論点を積極的に理解しようとする。態度の観点：様々な問題を自力で理解し、自分の言葉で説明しようとする積極性を身につけること。
- 授業の計画 (全体) 1. 日経新聞を継続的に購読し、その中から継続的に 1 テーマを追跡して報告する「日経新聞を読む」を 1 年間行う。2. 前期は大きなテーマを扱うグループ学習を行い、輪番で報告してもらう。3. 後期は就職準備期にあたるので、進路等に関して各人の考えを述べてもらう「3 分間スピーチ」を行い、意見を交換する。
- 教科書・参考書 教科書：授業内で指示する。
- メッセージ テーマを持って大学生活を送ることが、中心的な課題です。それに向けて、精一杯頑張ること。
- 連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp 随時来室可です。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	柳澤旭				

- 授業の概要 社会保障法と労働法の関連を研究する。
- 授業の一般目標 社会保障法と労働法は共に社会法として共通するものはなにか具体的問題領域ごとに研究する。
- 教科書・参考書 教科書：エッセンシャル労働法第4版, 菊池・清正編, 有斐閣, 2003年；ジュリスト労働判例百選7版, , 有斐閣, 2003年
- メッセージ ゼミの場はしゃべることなので沈黙は欠席していると同様に扱います。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	有田謙司				

- 授業の概要 前期は、テキストに基づきながら、毎回、報告者がレポートを行い、その内容について議論をし、理解を深める。 後期は、前期で修得し深めた知識をもとに、具体的な裁判例や実務の動きについて、報告者がレポートを行い、その内容について議論する。 また、前期、後期いずれにおいても、何回かは、労働法や社会保障法に関連する本（新書くらいのもの）を読んでもらって、全員にレポートしてもらい、議論することも行う。／検索キーワード 労働法、社会保障法。
- 授業の一般目標 労働法および社会保障法の基礎知識の上に応用力を身につける
- 教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。／ 参考書： 開講時に指示する。
- メッセージ 冬休みが終わる頃までには、卒論のテーマが決まるようにして欲しい。



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	中尾訓生				

●授業の概要 演習 I に引き続き指導する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	平中貫一				

- 授業の概要 より専門的な民法学の学習を行う。
- 授業の一般目標 民法学に関する体系的知識の修得。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 体系性。 思考・判断の観点： 体系性。
- メッセージ 積極的な参加を期待する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	山下 訓				

●授業の概要 この演習は企業会計及び会計学、特に財務会計の演習です。但し、企業会計及び会計学では財務会計と管理会計との垣根が低くなり、広い分野を学ばなければなりません。この演習では、先ず企業会計及び会計学の理論を、次に日本及び欧米における歴史を学び、更に日米の財務諸表の使い方を学び、それらを踏まえて企業会計の現状に対する分析を行います。演習 2 では 演習 1 に引き続いて、その基礎を学びます。 会計学だけでなく、経済学でも法律学でも、どの分野でも大学の役割は、いわゆる読み書き 算盤をしっかりと教えることだと思います。おそらく今の読み書きには英語もパソコンも加わるでしょう。

●授業の一般目標 会計学分野に関して、自分で調べ、発表し、議論できるようになる。

●教科書・参考書 教科書： 後日、知らせる。

●メッセージ 経済学部生として当然求められる行動を求めます。

●連絡先・オフィスアワー yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	李 海峰				

●授業の概要 日本、アジア、国際経済がどのように変わっていくのでしょうか、社会経済理論と実証 研究を通して、検討します、／検索キーワード アジア社会経済、国際経済

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国社会と経済発展
- 第 2 回 項目 開発政策と開発戦略
- 第 3 回 項目 中国経済の統計分析
- 第 4 回 項目 所得格差と貧困問題
- 第 5 回 項目 開発と環境問題
- 第 6 回 項目 市場経済と消費社会の変動
- 第 7 回 項目 広告と消費者行動
- 第 8 回 項目 実態調査に基づく分析
- 第 9 回 項目 アンケート調査の基本
- 第 10 回 項目 アンケートのデータと集計
- 第 11 回 項目 グラフ表現と比率解析
- 第 12 回 項目 回帰分析
- 第 13 回 項目 数量化理論
- 第 14 回 項目 実習
- 第 15 回 項目 まとめ

●教科書・参考書 教科書：中国経済発展論, 中兼和津次, 有斐閣, 2002 年；中国の大衆消費社会, 李 海峰, ミネルヴァ書房, 2004 年；アンケートの調査、集計、解析, 内田治, 東京図書, 2003 年／参考書：社会調査, 森岡清志, 日本評論社, 2000 年；例解調査論, 佐井志道, 大学教育出版社, 2001 年；初法からの多変量統計, 三土修平, 日本評論社, 2000 年；社会経済学入門, 角田修一, 大月書店, 2003 年

●メッセージ 一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	松井範惇				

- 授業の概要 開発と国際協力に関して勉強する。特に、センの開発研究に対する様々な概念を学び、ケイパビリティ、ファンクショニング、エンタイトルメントなどを中心として、その応用を考える。さらに、各自のテーマをそれぞれ掘り下げて調査・研究してゆく。
- 授業の一般目標 読み、書く力を付けることを最大の目標とします。
- 授業の計画（全体）教科書と論文の輪読を通じて討論する部分と、各自の卒業論文作成のための研究を発表する部分とを毎週組み合わせる。
- 教科書・参考書 教科書：アマルテシア・センの世界, 絵所・山崎編著, 晃洋書房, 2004 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	山田正雄				

- 授業の概要 経済理論に関する研究
- 授業の一般目標 ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な分析方法を学ぶ。
- 授業の計画（全体） 基本的文献の輪読を通して経済学の分析方法を学び、その後各自が興味あるテーマを選択し、それに関して経済学的分析を行う。
- 成績評価方法 (総合) 報告および討論により成績を評価する。
- 教科書・参考書 教科書：ゼミ生と相談の上で決める。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	藤井大司郎				

●授業の概要 演習 1 の授業に引き続いて、スティグリッツ「公共経済学」を進めるが、いよいよ財政理論の研究は本格的となる。3 年次生となり、そのための基礎学力は身につけているはずであるから、報告の担当如何に拘らず、必ず事前にテキストをよく読み、必ず自分なりの解釈を授業にもってきて、討論を充実させてほしい。この勉強は、単に財政学という特定分野の知識を得るのみならず、諸君の内面に経済学部生としての知的存在証明を形成するものである。その達成のためには、毎回の授業そのものに緊張の糸を張って専念されたい。

●授業の一般目標 財政学という応用学を通じて、経済学理論のセンスを磨くこと。 財政現象の現実面を広く知ること。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最も重視する。 思考・判断の観点：かなり重要。 関心・意欲の観点：普通。 態度の観点：普通 技能・表現の観点：普通

●授業の計画 (全体) 公共選択、公的生産と官僚制度、外部性と環境問題、租税：入門、租税の帰着、租税と経済効率、最適課税

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公共選択 内容 資源配分の公的メカニズム、公共財水準を決定する代替的機構
- 第 2 回 項目 公共選択 内容 政治学と経済学
- 第 3 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 自然独占：私的財の公的生産、公共部門と民間部門での効率性の比較
- 第 4 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 公共部門での非効率性の原因、法人化、生産面における政府の役割に関するコンセンサスの形成
- 第 5 回 項目 外部性と環境問題 内容 外部性の問題、外部性の私的解決策
- 第 6 回 項目 外部性と環境問題 内容 外部性の公的解決策、環境保護と政府の役割の実際
- 第 7 回 項目 租税：入門 内容 背景、どのような租税制度にも望まれる五つの特徴
- 第 8 回 項目 租税：入門 内容 租税制度を選択するための一般的フレームワーク
- 第 9 回 項目 租税の帰着 内容 競争市場における租税の帰着、完全競争ではない場合の租税の帰着
- 第 10 回 項目 租税の帰着 内容 同等な租税、租税の帰着の分析に影響を及ぼすその他の諸要因
- 第 11 回 項目 租税と経済効率 内容 消費者によって負担される税の効果、資源配分上のゆがみの数量化
- 第 12 回 項目 租税と経済効率 内容 生産者によって負担される税の効果、貯蓄に対する課税
- 第 13 回 項目 租税と経済効率 内容 労働所得に対する課税、租税が労働供給に及ぼす効果の測定
- 第 14 回 項目 最適課税 内容 最適課税の二つの誤謬、最適課税とパレート効率的な課税
- 第 15 回 項目 最適課税 内容 差別的課税、生産者に対する課税

●教科書・参考書 教科書：公共経済学 第二版, J.E. スティグリッツ, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年次
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	馬田哲次				

●授業の概要 1. 毎週読書レポートを提出する。2. 各自月に1度、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。3. TOEIC で 500 点以上取る。

●授業の一般目標 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。  
1. 幅広い教養を身に付けること。2. 問題解決能力、分析能力を高めること。3. 企画力・創造力を高めること。4. プレゼンテーション能力を高めること。5. コミュニケーション能力（英語を含む）を高めること。6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。7. 判断力を高める。

●授業の計画（全体） 1. 毎週発表者を決めて、順にプレゼンテーションを行う。2. 半期に数回ディベートを行う。

●成績評価方法（総合）出席と演習時間の発表、提出レポート、TOEIC のスコア等で総合的に判断する。

●連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	塚田広人				

- 授業の概要 経済政策の基本的問題、特に分配ルールのあり方の研究 現在私たちの住んでいるこの社会は市場経済を基本的仕組みとする社会です。とくにそこでの分配ルールのあり方、枠組みと問題点を考えます。問題：失業がなく、正しい賃金が支払われ、弱者にやさしい社会とは？／検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性、福祉国家
- 授業の一般目標 経済政策の基本的問題、特に分配ルールのあり方の研究 現在私たちの住んでいるこの社会は市場経済を基本的仕組みとする社会です。とくにそこでの分配ルールのあり方、枠組みと問題点を考えます。問題：失業がなく、正しい賃金が支払われ、弱者にやさしい社会とは？
- 授業の計画（全体） 卒論研究を本格的に進めます。
- 成績評価方法 (総合) 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)
- 教科書・参考書 教科書：社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂, 1998 年
- メッセージ 「読み、考え、議論する」楽しいゼミにしましょう。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：水曜 1時30分～3時00分 ただし、会議等で、下の時間がふさがることがあります。ほぼ毎日研究室にきていますので、質問等のある方は下記の時間以外でもいつでも来訪してください (A 棟 4 階、4 2 4 号室。) 電話：083 - 933-5558 E-mail：ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	柳田卓爾				

●授業の概要 前期は、テキストを利用して、流通・マーケティングに関する論文を読む。これら論文の輪読を通じて、「問い」を立てるとはどのようなことかについて、みんなで議論する。後期に関しては、何をするかを、みんなで相談して決める。例年だと、卒業論文の準備に取り掛かっている。前期で学んだことを生かして、自分自身で見つけた卒業論文の「問い」を、他のみんなに理解できるような形のレポートにまとめていく。

●授業の一般目標 「問い」を立てるとはどのようなことか、を理解する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 流通系列化政策の歴史的展開—松下電器のチャンネル戦略 (第 1 章)
- 第 3 回 項目 総合スーパーの成立—ダイエーの台頭 (第 4 章)
- 第 4 回 項目 新業態としての食品スーパーの確立—関西スーパーマーケットのこだわり (第 5 章)
- 第 5 回 項目 専門チェーンの台頭—青山商事のビジネス・システム (第 6 章)
- 第 6 回 項目 ボランタリー・チェーンの再評価—経営交流の場としての日本洋服トップチェーン (第 7 章)
- 第 7 回 項目 進化するコンビニ・システム—セブン - イレブン・ジャパンの成功 (第 8 章)
- 第 8 回 項目 予備日
- 第 9 回 項目 流通システムの発展—変革を繰り返す花王 (第 9 章)
- 第 10 回 項目 大手メーカーと量販店間の「製販連携」の展開—P & G とウォルマートの協調と確執 (第 10 章)
- 第 11 回 項目 取引制度の革新—チャンネル戦略の完成をめざす味の素 (第 11 章)
- 第 12 回 項目 店頭基点のマーケティング—カルビーの成長 (第 12 章)
- 第 13 回 項目 チェーン化への卸売業者の適応戦略—菱食のロジスティクス戦略の展開 (第 13 章)
- 第 14 回 項目 クイック・レスポンス・システムの展開—アパレル産業の革新 (第 15 章)
- 第 15 回 項目 前期最終日

●成績評価方法 (総合) 前期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジュメ、報告 (プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。

●教科書・参考書 教科書：マーケティング革新の時代 4 営業・流通革新, 嶋口、竹内、片平、石井編, 有斐閣, 1998 年

●メッセージ 昨年度開講の演習 I に引き続いて勉強を進めていきます。去年は、大阪にて、他大学との夏合宿・合同ゼミ (研究発表大会) を行いました。本年度も実施する予定です (場所等の詳細は未定)。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	陳 禮俊				

- 授業の概要** 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。
- 授業の一般目標** 演習 I で習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読し討議する能力を高める。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点： 環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点： 環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点： 積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点： 経済学知識を応用する。 その他の観点： 他分野の知識との関連を探る。
- 授業の計画（全体）** ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し授業計画を立てる。
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は基本的に、出席（40 %）、課題レポート（30 %）と報告（30 %）で行う。
- メッセージ** 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部 C226 室 電 話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	武本 ティモシー				

- 授業の概要 文化心理学の研究をさらに深く検討し先行研究を発表してもらえながら、卒論に向かってゼミ生自身の研究プロジェクトを発足してもらふことにする。各人のテーマは、法・経済・観光などのなかから、他社会における現実問題に関わる関心のあるテーマを発見し 1) 文化心理の影響を考察 2) 調査・実験などの実証的研究を含む 卒論テーマを探索し話し合い、年末までに決定しましょう。／検索キーワード 文化・心理・研究・実証
- 授業の一般目標 文化心理学が提供している問題意識を養って、各自の関心テーマを見つけて卒論に向かつての下準備をし始めること 就職活動情報や就職活動技能についての情報を交換し、キャリアプランニングに取り込む 英語コミュニケーション技能を高める
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 文化心理学の先行研究について知ること 思考・判断の観点： 実証的研究の方法論の応用仕方を習得する 態度の観点： 自己呈示・自己主調への恐れを克服しようとする姿勢 技能・表現の観点： ペアのみならずゼミ全員に対して発言できるようになること
- 授業の計画（全体） ゼミ I で行った先行発表に加え、各自の研究発表も取り入れる。
- 成績評価方法 (総合) 参加 3 3 % 先行研究発表 3 3 % 独自研究発表 3 3 %
- メッセージ 休み中でもいつでも連絡してください。希望がありましたらお伝えください。
- 連絡先・オフィスアワー timothy@nihonbunka.com

# 卒業論文

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	有村貞則				

- 授業の概要 卒業論文指導
- 授業の一般目標 卒業論文の完成
- 授業の計画(全体) 最初に経営学に関連する卒業論文テーマを各自で設定。指導教官および他のゼミ生の意見を参考にテーマの修正、および卒論の構成を考えてもらい、その作業が済んだあとは、各章ごとの発表を順次行っていく。
- 成績評価方法(総合) 出席および完成した卒業論文の内容
- 教科書・参考書 参考書：資料収集方法のアドバイスをしますが、卒論ですので、各人で資料収集を行う責任があります。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	石田成則				

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	坂手恭介				



開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	庄村長				

- 授業の概要 演習Ⅰ・演習Ⅱでの研究・討議を基礎に、学生各自が、自分の研究テーマにそくして卒業論文作成のための研究と報告を重ね、最終的に卒業論文にまとめていく。
- 授業の一般目標 しっかりした卒業論文を仕上げること。
- 授業の計画(全体) 卒業論文作成のための研究と報告・討議及び卒業論文執筆の具体的な進め方については基本的には学生と相談しながら決めていきたいと考えているが、「しっかりした卒業論文を仕上げる」という基本目標の達成が実際に可能となるような進め方にしていきたいと考えている。
- 成績評価方法(総合) 研究報告及び卒業論文100%、(常に全員出席は前提)
- 連絡先・オフィスアワー 最初の授業時間に示す予定。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	城下賢吾				

- 授業の概要 これまでに蓄積した専門知識などを最大限活用して卒業論文の作成を行います。
- 授業の一般目標 子、孫、おい、めいなどに自慢できるような卒業論文の完成を目指します。
- 連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	成富敬				

- 授業の概要 卒業論文の作成を目標に、テーマの絞り込みと研究内容についての発表をおこなう。
- 授業の一般目標 卒業論文の作成。
- 成績評価方法(総合) 出席状況、発表状況および成果物などをもとに、評価します。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	橋本寛				

- 授業の概要 演習 I および演習 II における意思決定や社会的決定の基礎についての考察をもとにして卒業論文の作成に着手する。
- 授業の一般目標 卒業研究を行うとともに卒業論文の完成をめざす。
- 授業の計画(全体) 演習 II のときのテキストの残りを読むとともに、卒業論文作成のための準備をして順次作成作業を進める。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文、出席などによる。
- 教科書・参考書 教科書: 「きめ方」の論理, 佐伯, 東大出版会, 1980 年
- 連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	長谷川光圀				

●授業の概要 卒業論文は、大学生生活の総決算となる集大成である。基本的に学生が問題意識をもって、積極的に研究するのであるが、教員はそれを支援することにある。／検索キーワード 正しい専門知識の活用、論理性、展開の可能性

●授業の一般目標 卒業論文は、専門知識と論理の展開、思考力の深さ、さらに展開の可能性で評価されるが、本学部は伝統的に論文の水準が高いので、この水準を上回るように指導したい。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：専門知識の正しい理解と活用によって、論文が展開されているか。  
思考・判断の観点：研究問題について、論理的で深い思考を示しているか。 関心・意欲の観点：必読文献を十分にこなし、先達の研究を正しく理解し、自己の視点を展開しているか。

●授業の計画(全体) 各学生の卒業論文のテーマに沿って発表してもらう。二

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第2回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第3回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第4回 項目 各学生の論卒論テーマに沿った発表
- 第5回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第6回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第7回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第8回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第9回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第10回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第11回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第12回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第13回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第14回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第15回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表

●メッセージ 必読文献を十分に読む

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	藤田健				

- 授業の概要 卒業論文の完成に向けて、研究指導を行う。
- 授業の一般目標 1. 卒業論文を完成させる。 2.
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：自分の研究対象について知識を深める。 思考・判断の観点：問いに対して、論理的かつ説得的に説明する。 技能・表現の観点：論理的で読みやすい文章を作成する。
- 授業の計画（全体） 基本的に毎回、卒業論文の完成に向けた研究指導を行う。
- 成績評価方法（総合） 卒業論文（60％），研究報告（20％），ディスカッションへの参加度（20％）

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	古川澄明				

- 授業の概要 2年、3年の間に研究してきたテーマを卒業論文にまとめる。論文は、テーマ、内容及び方法の独創性を問われる。／検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。
- 授業の一般目標 オリジナリティのある卒業論文をしあげること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。思考・判断の観点：独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。関心・意欲の観点：ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。態度の観点：研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。技能・表現の観点：PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。その他の観点：ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるとというのが、ゼミの原則である。
- 授業の計画(全体) 論文の発表を中心にして、論文作成方法、内容、方法などを指導する。
- 成績評価方法(総合) 全体的に評価する。とくに積極性、プレゼンテーションの善し悪し、独創性を重視する。
- メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。
- 連絡先・オフィスアワー 各自、随時に連絡・相談可。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	松浦良行				

- 授業の概要 いよいよ卒論を作成します。これまでのように二人のグループで卒論を作成します。卒論の内容や期限は就職活動が大方終わった後に相談しましょう。
- 授業の計画(全体) 卒論の進行状況に応じて、柔軟に対応します。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文の内容で評価します。
- 教科書・参考書 教科書：特にありません。
- メッセージ 就職活動を早く終えて、胸を張って頑張ったと言える卒論を作りましょう。



開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	山下訓				

- 授業の概要 演習2に引き続き、卒業論文を作成する。
- 連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	山下訓				

- 授業の概要 演習2に引き続き、卒業論文を作成します。
- 授業の一般目標 会計学分野に関して、自分で調べ、発表し、議論できるようになる。
- 教科書・参考書 教科書：後日、知らせる。
- メッセージ 経済学部生として当然求められる行動を求めます。
- 連絡先・オフィスアワー yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線5518

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	植村高久				

- 授業の概要 相互に問題意識を交換しながら、卒業論文を作成するためのテーマ設定を行い、次に必要な文献の継続的講読を指導する。最後に、卒論の取りまとめ方についての指導を行い、以後は個別指導を通じて、各自の卒業論文の完成度を高める努力を促す。、問題意識の焦点化と
- 授業の一般目標 明確なテーマを持ち、首尾一貫して、必要な参考文献や関連領域の調査・検討を含む卒業論文を完成させること。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各テーマに必要な不可欠な内容や文献をフォローしていること。  
思考・判断の観点： 論文として全体が首尾一貫した主張をもつこと。 関心・意欲の観点： 各テーマについて、深い関心と積極的な自発的学習によって書かれていること。 技能・表現の観点： 文章作法を守っていることと卒業論文としての体裁及び読みやすさに配慮した表現となっていること。
- 授業の計画(全体) 7月までは適宜、問題関心に従った報告を行って貰い、テーマの確定に努める。夏休み中に基本的な文献や資料を渉猟しておくことは宿題である。10～11月は、草稿段階の論文を輪読検討する。12月は基本的に個別指導に努める。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文としての作品の完成度のみを評価基準とする。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	馬田哲次				

- 授業の概要 各自の卒業論文のテーマに沿って卒論の指導をする。
- 授業の一般目標 1. 問題設定とそれに対する答えを明確にすること。 2. 設定した問題についての調査を行い、その内容を整理すること。 3. 論理構造をきちんとしたピラミッド構造にすること。 4. 導入部を状況、複雑化、問題、答えの構造にすること。
- 授業の計画(全体) 原則として、一ヶ月に一度卒論のテーマに沿って発表を行う。4月から5月にかけて問題を設定し、10月までに、先行研究の調査等を行う。11月から12月にかけて、ピラミッド構造をつくり、1月の提出日までに仕上げる。
- 成績評価方法(総合) 卒論指導の出席、発表と出来上がった卒業論文等を総合的に判断する。
- 連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	柏木芳美				

- 授業の概要 演習 I, 演習 II で調べたことを自分でまとめて卒論とするための指導を行う。
- 授業の一般目標 卒論作成。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	木部和昭				

- 授業の概要** 近代日本経済史に関わる卒業論文作成のための指導を行う。最終的には各人の設定した課題にしたがって卒業論文をまとめる。
- 授業の一般目標** 1, 卒業論文作成のための課題を設定する(論文題目の決定)。2, 課題に関して史資料を収集・分析する。3, 自ら立てたテーマに従って卒業論文を完成させる。
- 授業の計画(全体)** (1)「地域経済の歴史」に関する研究論文、史料の講読を行う。(2) 各自の卒業論文に関する構想報告を行い、論文題目・テーマ等を決定する。(3) 各自の卒業論文の課題に関連した論文・史料等を講読する。(4) 各人の設定した課題に基づいて、卒業論文作成に向けた個別指導を行う。(5) 卒業論文提出後、口頭試問を行う。
- 成績評価方法(総合)** 卒業論文の内容および口頭試問(80%)、受講者による報告(15%)、授業への取組(5%)で成績を評価する。出席の悪い学生は、卒業論文指導を受講していない訳であるから、提出しても卒業論文を受理しない。
- 教科書・参考書** 教科書：特に指定しない。必要な場合は論文等を印刷して配布する。／参考書：各人の卒業論文のテーマにより、参考文献は多岐にわたる。これに関しては指導の過程で個別に紹介する。
- メッセージ** ・就職試験等で忙しくなると思われるため、早めに卒業論文に取り組んで欲しい。・欠席が多いと卒業論文を受理しない(=卒業できない)ので注意すること。・不十分な卒業論文については書き直しを要求する事がある。・就職試験等で休む場合は、事前連絡を忘れないこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	塚田広人				

- 授業の概要 各自、卒業論文の研究をする。2年生の終わりに設定したテーマに沿って行う。3年生時に行った成果を発展させる。／検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性（友愛性）
- 授業の一般目標 大学入学までと、それ以降現在まで身につけた多様な知識を使いこなし、自分の設定した問題をできるだけ深く考察する。
- 成績評価方法(総合) 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)
- メッセージ がんばりましょう。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail ht@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水：1時半-3時。ほかの時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	寺地伸二				

- 授業の概要 卒業論文の作成を目指す
- 授業の一般目標 卒業論文の作成を目指す
- 授業の計画(全体) 卒業論文作成のための指導を行う。
- 成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度(30%)、受講者の発表(30%)、出席(40%)



開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	中尾訓生				

●授業の概要 演習 II に引き続き、卒業論文を指導する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	仲間瑞樹				

- 授業の概要 3年次に卒論計画発表してもらったテーマに沿った卒論を作成し、途中経過を発表してもらう。また各自テーマ、発表内容について、ゼミ生からの質疑応答を受けつけ、各自の卒論にコメントを活かしてゆく。／検索キーワード 卒論作成、文章作成
- 授業の一般目標 自分が作成した！おれの、わたしの卒論と言えるような卒論を仕上げる。他のゼミ生が読んでも理解してもらえるような卒論を作成すること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：今まで経済学部で履修した各科目の知識を卒論に反映していること。思考・判断の観点：他人の受け売りではない、自分の考えを卒論に反映していること。技能・表現の観点：わかりやすい文章表現であること。
- 授業の計画(全体) 毎回、卒論発表者を割り当て、今、自分が何をしているのか発表すること。また自分が卒論作成で悩んでいること、どうしたらよいかわからないことを含めて話をしてもらう。それら発表をうけて、教員や他のゼミ生が自由にコメントをする。じっくり発表してもらいたいので、ゼミ1回あたり2から3名の発表者を予定している。
- 成績評価方法(総合) 卒論発表、資料作成、卒論そのものから評価する。
- 教科書・参考書 教科書：各自の卒論テーマに沿った参考文献を紹介する。
- メッセージ 皆さんにとって最後の仕上げの年です。いい年にしましょう。なお就職活動で忙しく、ゼミに参加できない場合、必ずメールで連絡を下さい。
- 連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	野村淳一				

- 授業の概要** 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学（計量経済学）を用いることを必要とします。卒業論文演習では、演習Ⅱの終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法（理論、統計、ソフトウェア）の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。論文作成が中心になるので、執筆中に出た疑問については随時質問に来ること。
- 授業の一般目標** ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 標準的なマクロ経済理論を理解できている。 基本的な統計学の手法を修得している。 自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 関心・意欲の観点： 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 態度の観点： 事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。
- 授業の計画（全体）** 卒業論文演習では、演習Ⅱの終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法（理論、統計、ソフトウェア）の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。夏休み中に合宿を行い、卒業論文の中間発表をしてもらいますので、不十分な点を自覚し、最終的な論文のイメージを固めましょう。12月までに論文を一通り仕上げ、提出前に必ず一度私のチェックを受けて下さい。必要な訂正・補足などを加え、卒業論文は完成となります。卒業論文提出後、3月前後に卒業論文報告会を行いますので、卒業論文で得られた結論、自分の主張について、効果的な発表が出来るように準備して下さい。
- 成績評価方法（総合）** 授業における態度（発表、質問等）と参加意欲により判定する（評価割合100%）。
- 教科書・参考書** 教科書： 卒業論文に関連する文献。
- メッセージ** 演習Ⅱでは、論文を共同作業として書いているので自分が十分に理解していなくても論文は完成しますが、卒業論文では全てを自分で書かなくてはなりません。完成後の全体のイメージを持ち、必要な準備を行って下さい。疑問点が出た場合は、遠慮なく研究室に来ること。卒業論文は大学生活の集大成ですので、自分の持っている能力を最大限に活かし、納得のできる論文を作成して下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける（講義中に指示）。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	濱島清史				

- 授業の概要** 3年次冬休み明けに出すレポートに基づいて、さらに各自の関心分野に基づいて、卒論を仕上げていく。卒論の基本も、これまでのレポートと同様に、各自の関心のある産業・企業・職能あるいは社会政策等について、はじめに(導入)―3節ほどの構成―おわりに(結語)と論理展開すること。／検索キーワード キャリア形成、産業・企業・職能研究、自己実現。
- 授業の一般目標** 卒論に関して、十分なレベルの論文をものにすること。授業の到達目標 卒論に関する到達目標は以下のとおりである。まず、先行研究のサーベイとして参考文献を最低50本くらいは読破していけるようになること。次に、テーマに関連する統計データから数値を入力して、数十枚のグラフを作成し、ファクト・ファインディングを行なえること。そういった文献や統計などの情報収集能力を高めること。そして、論文は自分の意見に沿って様々な論者の見解を引用していくように進めていくこと。その際、注釈を用いること。それから、ここは特に丹念に調べた、時間を費やして資料を作成したという‘売り’を作れるようにすること。最後に、主張は何なのか、一言で述べられることが望ましい。できれば、オリジナリティも求めたい。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみること。 思考・判断の観点： 論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。 関心・意欲の観点： 主体的に自己の専門を深めながら、あらゆる分野に関心を持つこと。 態度の観点： 主体性、自己啓発、生涯学習。生涯学習は単に一般教養でなく、自分の仕事、専門に関連することを中軸に据えること。 技能・表現の観点： プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。 その他の観点： リーダーシップも発揮すること。社会的貢献を志してもらいたい。
- 授業の計画(全体)** 卒論の指導を適宜行なっていく。基本的に、就職活動がなければ、週に一回はゼミに集って、情報交換や団欒をしてもらいたい。
- 成績評価方法(総合)** 主に卒論による。卒論の発表会も評価に入りうる。成績評価方法(観点別) 卒論において、課題と方法、先行研究サーベイの量と質、論理展開、統計データ分析、何が見出されたのか、オリジナリティ、今後の課題は何か?これらが自分の言葉で表現できているか?
- 教科書・参考書** 教科書： 適宜指示する。／ 参考書： 適宜指示する。
- メッセージ** 自己実現： になりたい自分になれますように。 になりたい自分になれますように。 満足のいく卒論が書けますように。
- 連絡先・オフィスアワー** : 083 - 933 - 5521。 Eメール・アドレス： hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	兵藤隆				

●授業の概要 卒業論文の作成／検索キーワード 卒業論文

●授業の一般目標 大学四年間の集大成としてふさわしい卒業論文を仕上げることを目標とする。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマ設定
- 第 2 回 項目 動機付け
- 第 3 回 項目 参考資料の収集
- 第 4 回 項目 途中経過報告
- 第 5 回 項目 結論の確認
- 第 6 回 項目 論文構成の発表
- 第 7 回 項目 論文構成の見直し
- 第 8 回 項目 途中経過報告
- 第 9 回 項目 結論の修正、および、確認
- 第 10 回 項目 完成度チェック
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法(総合) 論文と呼ぶにふさわしい内容かどうかを厳しくチェックする。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	吉村弘				
<p>●授業の概要 共同研究、卒論をつうじて、地域経済への理解を深め、地域経済についての自分の見解をもつことが出来るようにしたい。また、進路を自分で選択し、ゼミを通じて親睦を深める。</p> <p>●授業の一般目標 1. 卒論を作成する 2. 進路を選択する 3. 共同テーマを追求する 4. 親睦を深める</p> <p>●授業の到達目標／ 思考・判断の観点：進路について自分で判断して選択できる 関心・意欲の観点：日常の新聞記事に関心を持つ 技能・表現の観点：自分の考えを他人に的確に説明できる その他の観点：親睦を深める</p> <p>●授業の計画(全体) 前期は進路を中心に、卒論の準備を行い、後期は卒論作成特化する。全体を通じて共同研究を通じて親睦を深める。</p> <p>●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 進路及び卒論についての全体像 内容 昨年度の続きとして、卒論と進路について報告</p> <p>第2回 項目 進路及び卒論についての全体像</p> <p>第3回 項目 進路について基本的方向 内容 進路の方向性を検討</p> <p>第4回 項目 進路について基本的方向</p> <p>第5回 項目 進路について具体的展開 内容 進路の決定</p> <p>第6回 項目 進路について具体的展開</p> <p>第7回 項目 進路について具体的展開</p> <p>第8回 項目 卒論の方向性 内容 卒論のテーマを昨年度の成果を基に決定</p> <p>第9回 項目 卒論の方向性</p> <p>第10回 項目 卒論のテーマ</p> <p>第11回 項目 卒論のテーマ</p> <p>第12回 項目 卒論のテーマ</p> <p>第13回 項目 卒論の具体的報告 内容 卒論の作業</p> <p>第14回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第15回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第16回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第17回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第18回 項目 卒論の中間まとめ</p> <p>第19回 項目 卒論の中間まとめ</p> <p>第20回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第21回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第22回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第23回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第24回 項目 卒論の具体的報告</p> <p>第25回 項目 卒論の最終報告まとめ 内容 卒論のまとめ</p> <p>第26回 項目 卒論の最終報告まとめ</p> <p>第27回 項目 卒論の最終報告まとめ</p> <p>第28回 項目 卒論の最終報告まとめ</p> <p>第29回 項目 卒論発表会 内容 公開発表会</p> <p>第30回 項目 卒論発表会</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業態度と卒論を中心に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じて示す。</p>					

●メッセージ 今まで同様、メールにて重要メッセージを送りますので診てください。とくに進路について、自分で判断して、積極的にチャレンジしてください。

●連絡先・オフィスアワー yosimura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 12：50－14：10

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	山田正雄				

- 授業の概要 卒業論文作成のための報告及び指導。
- 授業の一般目標 卒業論文を作成し、経済学に関する理解を深める。
- 授業の計画(全体) 卒業論文のテーマを決定し、報告を重ねることによって、論文をまとめていく。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文の内容及びその報告により評価する。



開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	有田謙司				

- 授業の概要 卒業論文の作成へ向けて、各自がその準備として、論文のテーマに関する報告を行う。／検索キーワード 卒業論文
- 授業の一般目標 卒業論文の完成。
- 教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。／参考書：開講時に指示する。
- メッセージ 卒論の完成に向けてしっかりと準備を進めること。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	上杉信敬				

- 授業の概要 行政法に関する諸問題。すでに2年間行政法に関して学習してきた。その上に立って、その中から各自自分の興味を引くテーマを絞り込んでそれに関して深めていく。さらにそれと平行して、胸中の問題領域に関してさらに学習を深めていく。どのようなものに行うかは協議して決める。
- 授業の一般目標 4年間の学習を総括するつもりで、行政と法に関して、あるテーマに関して卒論にまとめ上げる。さらに他に人のテーマやその他行政法に関して一定の理解をもつ。ゼミ生間の交流も行う。
- 成績評価方法(総合) 年度末の提出論文の評価が大部分である。その他演習時の発表や出席状況。
- 教科書・参考書 教科書：ゼミの開始の際に相談して決める。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	立山紘毅				

- 授業の概要 演習 I 及び演習 II での研究を基礎として、そこですくいきれなかった問題や、さらに発展させた課題について、個別に、あるいは演習参加者との討論を通じて卒業論文の執筆につなげます。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	三間地光宏				

- 授業の概要 卒業論文を作成する
- 授業の一般目標 卒業論文を作成する
- 授業の到達目標／ その他の観点： 法学士の称号を与えられるに相応しい卒業論文をまとめること。
- 授業の計画(全体) 前期にテーマを選定し、後期は途中経過の報告を行う。
- 成績評価方法(総合) 提出された卒業論文により評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	柳井健一				

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	柳澤旭				

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	山本光英				

- 授業の概要 演習 I、演習 II で学んだことの総決算として、卒業論文を作成する。
- 授業の一般目標 卒業論文の作成。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 刑法学の基本的知識が身に付いているか。 思考・判断の観点： 刑法学的な論理的思考力が身に付いているか。 関心・意欲の観点： 関心を持ったテーマに意欲的に取り組んでいるか。 態度の観点： 授業に積極的に参加しているか。資料や情報の収集に積極的に取り組んでいるか。 技能・表現の観点： 自己の知識、主張を適切に表現できるか。
- 授業の計画(全体) 論文の書き方の概要を学び、各自が関心をもったテーマを卒業論文として完成させるまでの過程・なすべき事柄を説明しつつ、詳細については、適宜、受講生と相談しつつ指導する。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文の評価。出席。授業に対する意欲。
- 教科書・参考書 教科書： ケイスメソッド刑法総論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003年； ケイスメソッド刑法各論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003年； その他、授業の際、適宜指摘する。／ 参考書： 授業の際、適宜指摘する。
- メッセージ 法学徒としての大学生活の集大成として、記念にすべき卒業論文を作成すること。内容とともに努力・熱意が重要である。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	油納健一				

- 授業の概要 卒業論文の書き方を、個別に指導する。
- 授業の一般目標 問題を発見する(問題設定する)能力を身につける。その問題につき、判例・学説を自分で探しまとめる能力を身につける。3. 論文を構成する(論文の章立も含む)能力を身につける。4. 正確な日本語を書く能力を身につける。
- 授業の計画(全体) まず論文を提出してもらい、その後、個別に指導していく。
- 成績評価方法(総合) 1年間の努力の程度と、提出された卒業論文で評価する。
- メッセージ 就職活動が大変だからといって、卒業論文の勉強を怠るようなことがないように、頑張ってください。卒業論文を苦勞して書くことは法学の勉強になるだけでなく、日本語力や文章構成力なども十分に鍛えられるはずです。
- 連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	渡邊幹雄				

- 授業の概要 前年度までの成果を受けて、卒論を作成する。また、作成の指導をする。
- 授業の一般目標 卒論を完成させる。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	石 龍潭				

- 授業の概要 講義や演習などで学んできた知識の集大成として、卒業論文を作成する。論文の書き方の概要を学び、各自が関心を持ったテーマを卒業論文として完成させるまでの過程・注意事項などを説明しつつ、詳細については、適宜受講生と相談しながら指導する。具体的には、次の点から評価を行いたい。
- (1) 法律関係の基本的知識が身についているか。(2) 関心を持ったテーマに意欲的に取り組んでいるか。  
(3) 授業に積極的に参加しているか。(4) 自己の知識、主張を適切に表現できるか。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	青柳 達朗				

- 授業の概要 卒業論文の作成について必要な助言を行う。
- 授業の一般目標 学生の一本立ちを期待する、
- メッセージ 就職活動で大変でしょうが頑張ってください。
- 連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	河野眞治				

- 授業の概要 卒業論文を書き上げるために、テーマ設定、論文の書き方、資料の収集方法、などについて指導する。
- 授業の一般目標 立派な卒業論文を書くこと。
- 授業の計画(全体) 毎回卒業論文の中間報告を行う。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文の内容で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	澤喜司郎				

- 授業の概要 卒業論文の完成を目指して研究報告を行う。
- 授業の一般目標 卒業論文を完成する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	田淵太一				

- 授業の概要 卒業論文を完成させるまでの、テーマ設定、資料調査、執筆、修正の各段階を個別に指導する。
- 授業の一般目標 4年間の大学生活の集大成である卒業論文を完成させること。
- 授業の計画(全体) 各人の進路決定状況に合わせて個別に指導する。
- 成績評価方法(総合) 卒業論文で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	陳建平				

- 授業の概要 卒業論文の作成とそれに関連する学習
- 授業の一般目標 卒業論文の完成
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：卒業論文の作成法、卒業論文のテーマに関わる知識を有すること。  
思考・判断の観点：資料の収集、整理ができ、論理的思考能力を有すること。態度の観点：授業の出席、議論に積極的に参加すること。
- 授業の計画(全体) 卒業論文の完成を目標に研究や報告、討論を行う。
- 成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 40% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 60%
- 教科書・参考書 教科書：必要に応じて別途指定する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	藤原貞雄				

- 授業の概要 卒業予定学生の関心と卒業課題に合わせて、文献・調査・執筆の指導を行う。



開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	松井範惇				

- 授業の概要 これまでに、各自が決めた卒業論文の題目、章立て、節、文献研究、調査事項に沿って、それぞれ、研究、執筆を進めていく。全体で、または、個別に指導教員との懇談、発表、討論を通じて論文を完成させていく。
- 授業の一般目標 論理一貫した、面白い研究をし、新しい発見、その整理を通じて、論文を書くこと、発表することの楽しさを学んでいく。
- 授業の計画(全体) 毎週の討論。
- 成績評価方法(総合) 論文の完成度、論理一貫性、表現の明確さ。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	マルク・レール				

●授業の概要 卒業論文執筆のための指導である。

●授業の一般目標 1. 卒論執筆のための研究計画を立てる。 2. 研究発表と卒論執筆。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 自分の卒論テーマに必要な知識を取得する。 2. 論文の構造を理解する。 思考・判断の観点： 論文構成や内容について判断する。 関心・意欲の観点： 幅広く自分の研究テーマに関して調べる意欲を持つ。

●授業の計画（全体） 毎回、卒論執筆者による発表とディスカッション、そして執筆指導を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒論執筆入門
- 第 2 回 項目 引用の仕方
- 第 3 回 項目 研究発表
- 第 4 回 項目 研究発表
- 第 5 回 項目 研究発表
- 第 6 回 項目 研究発表
- 第 7 回 項目 研究発表
- 第 8 回 項目 研究発表
- 第 9 回 項目 研究発表
- 第 10 回 項目 研究発表
- 第 11 回 項目 研究発表
- 第 12 回 項目 研究発表
- 第 13 回 項目 研究発表
- 第 14 回 項目 研究発表
- 第 15 回 項目 総括

●連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	横田伸子				

- 授業の概要 卒業論文作成のための研究発表と指導
- 授業の一般目標 卒業論文の作成
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 卒業論文の作成に必要な文献・資料を探ることができる。 2. 卒業論文作成に必要な文献・資料を読んで理解することができる。 思考・判断の観点： 1. 卒業論文のテーマに沿った実証分析をすることができる。 関心・意欲の観点： 1. 卒業論文作成のために必要な文献・資料を主体的に・自主的に探そうという意欲がある。 態度の観点： 1. 卒業論文指導に毎回欠かさず出席する。 2. 卒業論文作成のための討論に積極的に参加する。 技能・表現の観点： 1. 卒業論文を正確な日本語で、論理的に叙述できる。
- 授業の計画(全体) 1. 前期中に卒業論文の第一回構成を提出し、概要報告を行う。 2. 秋合宿で卒業論文の第二回報告を行う。 3. 12月中旬までに卒業論文の初稿提出。 4. 1月に完成→提出。 5. 2月末までに最終修正を行い、様式を整え卒業論文集として製本。
- 成績評価方法(総合) 1. 主に卒業論文の内容によって評価を行う。 2. 年間を通じて5回以上欠席した場合には単位を与えない。
- メッセージ 4年間の勉強の成果を、余すところなく卒業論文に結実させてほしい。
- 連絡先・オフィスアワー ゼミナールの学生についてはとくにオフィスアワーを設けません。電話やメールなどで在否を確かめてから訪ねてきてください。内線) 5 5 5 9、E-mail) ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	李海峰				

●授業の概要 ・1年間をかけて卒業論文を作成する。 ・卒業論文の作成基本方法から論文の構成、まとめ方について指導する。 テーマ選定、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論／検索キーワード 卒業論文の作成、

●メッセージ おもしろい知的な道を探求しましょう！

## 教職に関する科目等

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	滝沢 潤				

●授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。／検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

●授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心を持ち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。

第 2 回 項目 教師をとりまく状況(1) 内容 教師と教育問題の変遷 授業外指示 教師をとりまく社会状況、教育改革の動向について、新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集しておくことが望ましい。

第 3 回 項目 教師をとりまく状況(2) 内容 教師と教育問題の変遷、家庭・地域との関係 授業外指示 同上

第 4 回 項目 教師をとりまく状況(3) 内容 現代の教育改革 授業外指示 同上

第 5 回 項目 教師をとりまく状況(4) 内容 現代の教育改革 授業外指示 同上

第 6 回 項目 教師の仕事 内容 教科、特別活動、生徒指導 授業外指示 教師の仕事、任用、研修等について新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集しておくことが望ましい。

第 7 回 項目 教員の任用と服務 授業外指示 同上

第 8 回 項目 教師の資質向上と研修 授業外指示 同上

第 9 回 項目 リーダーとしての教師

第 10 回 項目 <小テスト>、組織としての学校 授業外指示 小テストを実施するので、前回までの内容を復習しておくこと。

第 11 回 項目 学校・教室という空間 内容 かくれたカリキュラム、権力構造など

第 12 回 項目 学校の歴史と教師観の変遷

第 13 回 項目 教員養成の歴史と現行制度

第 14 回 項目 教職への進路選択と教員採用試験 授業外指示 期末試験の論述問題のテーマを提示するので、必ず出席すること。

第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

●教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	滝沢 潤				

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田 権一				

●授業の概要 「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としたヘルバルトの考えにあるように、教育実践効率化に向けて、受講者が、将来、教育現場で活躍する際に役立つように、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指名された受講者は、その時間のテーマについて、ノートをまとめ、考察した内容（ノートレポート）を提出することになる。／検索キーワード 教育, 心理学, 発達, 学習, 人格, 評価, 学級経営

●授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指す者として教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門としての立場から具体的に考える契機、文書表現の契機となることを目指す。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。思考・判断の観点：1. 教師の立場から判断でき、生徒の立場を把握できる。関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。技能・表現の観点：1. 身近な問題を文書表現できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回	項目	オリエンテーション	内容	教育心理学の定義	授業外指示	ノートレポートの書き方
第 2 回	項目	心理学研究法				
第 3 回	項目	被教育者について	内容	発達段階	ほか	
第 4 回	項目	家庭教育	内容	親子関係	ほか	
第 5 回	項目	学習	内容	学習の原理		
第 6 回	項目	学習	内容	VTR (学習の原理)		
第 7 回	項目	学習	内容	授業理論		
第 8 回	項目	人格	内容	生徒指導と人格理論		
第 9 回	項目	人格	内容	適応と防衛機制		
第 10 回	項目	人格	内容	VTR (スクールカウンセラー)		
第 11 回	項目	学級経営	内容	集団の理解		
第 12 回	項目	学級経営	内容	リーダーシップ		
第 13 回	項目	教育評価	内容	評価の意味と種類		
第 14 回	項目	教育評価	内容	指導要録		
第 15 回	項目	討論				

●成績評価方法 (総合) (1) 所定以上の出席状況 (欠格条件)、(2) レポート課題 (電子メールによる提出も可)、(3) 授業最後に実施するテスト結果。 これらを資料として評価する。

●教科書・参考書 教科書：心理学からみた教育の世界, 藤土圭三 (監) 堂野佐俊 他編, 北大路書房

●連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

●備考 集中授業



開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	滝沢 潤				

●授業の概要 日本の教育制度を規定する法令・規則について講義する。日本の教育・学習体系の基礎となっている生涯学習の概念と、学校教育制度について概観したあと、教育を受ける権利、教育課程、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。／検索キーワード 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

●授業の一般目標 (1) 日本の教育制度を規定する法規について基本的な知識を修得し、教育の各領域における法的な課題を理解する。(2) 教育に関わる諸問題について法的な観点から主体的に考えることができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：生涯学習、学校制度の要点を説明できる。教育制度を規定する様々な法令・規則について説明できる。思考・判断の観点：教育問題について法的な観点から検討することができる。関心・意欲の観点：教育問題について関心をもち、法的な観点から主体的に考えることができる。態度の観点：教育問題について法的な観点から、論理的、協調的な議論ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション 内容 教育と法律 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 生涯学習の概念と意義 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 3 回 項目 日本の学校教育制度 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（1） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（2） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規（1） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規（2） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（1） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（2） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 10 回 項目 <小テスト> 教育職員の職務と法規（1） 授業外指示 小テストを実施するので、前回までの内容を復習しておくこと。教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規（2） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規（1） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規（2） 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合）（1）授業の中で小テストを行う。（2）授業内容についてのレポートを提出する。（3）最終回に期末試験を行う。

●教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規, 田代直人, ミネルヴァ書房, 2003 年／参考書：適宜指示する。

●メッセージ 教科書を必ず購入すること。

開設科目	教育方法学（教育課程、情報機器及び教材を含む。）	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	岸 光城				
<p>●授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。／検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程</p> <p>●授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：各指導方法がイメージできる。思考・判断の観点：本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。関心・意欲の観点：学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。態度の観点：将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目「教育」とはなにか 内容 林竹二「授業巡礼」の視聴</p> <p>第 2 回 項目 学校教育作用の構造 内容「教授」と「教育」のバランスと協同</p> <p>第 3 回 項目 高等学校教育課程の基本</p> <p>第 4 回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」の基本と実例</p> <p>第 5 回 項目 授業形態と指導方法 I 内容 一斉授業</p> <p>第 6 回 項目 授業形態と指導方法 II 内容 小集団指導</p> <p>第 7 回 項目 授業形態と指導方法 III 内容 個別指導</p> <p>第 8 回 項目 授業形態と指導方法 IV 内容 録画授業の視聴</p> <p>第 9 回 項目「総合的な学習の時間」の意義、実践事例</p> <p>第 10 回 項目 教育機器の活用</p> <p>第 11 回 項目 現代教育方法理論 I 内容 デューイの問題 解決思考論</p> <p>第 12 回 項目 現代教育方法理論 II 内容 デューイの教育方法論</p> <p>第 13 回 項目 現代教育方法理論 III 内容 ブルーナーの教育方法論</p> <p>第 14 回 項目 現代教育方法理論 IV 内容 ブルーナーの教育課程論、学習意欲論</p> <p>第 15 回 項目 試験</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート (数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：随時紹介する</p> <p>●メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校 (中学校) の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)</p>					

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	外山英昭				

●授業の概要 イラク戦争をとりあげ、9. 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。／検索キーワード 平和教育 国際平和 イラク戦争 日本の役割 憲法 9 条

●授業の一般目標 1. 9. 1 1 以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2. 独自の立場から、「イラク戦争」を取り上げ、国際平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： イラク戦争、日本の役割について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： イラク戦争、日本の役割について独自の意見をまとめ、討論することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 イラク戦争をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 イラク戦争をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 イラク戦争に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 日本の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 日本の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）授業態度や授業への参加度 = 20～40 % 受講者の発表（プレゼンテーション）や授業内での制作作業（作品） = 40～60 %

●教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。／参考書： 当面なし

●連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	商業科教育法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	古堤一三				

- 授業の概要 「商業科教育法」という言葉の中の「商業科」の「科」は「教科」を意味する言葉です。学校教育の中で「教科」とは何か、教科「商業」はどのような分野を対象とし、またそれはどのような内容を含むのか。教科「商業」の各分野について、主として、明治期以降の我が国の社会性や歴史性をも考慮の上に、高等学校における教科「商業」教育の専門性の意味するところを踏まえながら、その内容とあわせて教師に求められる指導のあり方を学習する。／検索キーワード 教科、科目、学科、教科「商業」、教科「商業」の各分野及び専門性
- 授業の一般目標 1. 学校教育改善の動きの中で、その目指すところを的確に把握し、教育の現場にも幅広く対応できるよう配慮しながら、教科教育のあり方についての認識を深め、あわせて人格の向上への意欲を涵養する。 2. 平成11年3月告示の「高等学校学習指導要領」は、教科「商業」の目標について、前年7月の教育課程審議会によって示された「経済の国際化やサービス化の進展に対応する観点から、ビジネス教育の視点を明確にする」とした「商業の改善の基本方針」を踏まえ、「商業教育のねらいを、継続教育を視野に置いた専門性の基礎・基本の教育に重点を移す」とした大幅な改定を見たが、生涯学習の視点を踏まえた「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」の理解とあわせて教職の使命と特殊性についての自覚を促す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 適切な判断を導く上で必要な基礎・基本の知識を身に付けている。 思考・判断の観点： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 関心・意欲の観点： 1. 新たな未経験・未知の分野の学習に対し積極的な取り組みの姿勢がある。 態度の観点： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。 技能・表現の観点： 1. 課題のまとめに際して、適切・有効な図表などの作成・挿入ができる。
- 授業の計画(全体) 主として、1. 学校教育と教科 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 3. 教科教育と教育法 4. 学習計画と教育実践及び評価 5. 教員の使命と教職の特殊性・専門性などの内容を取り上げて授業を進めるが、この他に宿題・授業外レポートとして「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」の学習指導案を作成し、提出する。教科書の内容について理解に不安がある場合には申し出てください。
- 成績評価方法(総合) 1. 学期末試験・提出物で評価する(定期試験: 100 x 2/3, 宿題・授業外レポート: 100 x 1/3)。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約3%以内での加減調整を行う。
- 教科書・参考書 教科書： 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。／参考書： 吉野 弘一著『商業科教育法』2003年、高等学校学習指導要領、同解説、検定教科書
- メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2年次以降がのぞましい。

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	杉山 直子				

●授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深める。さらに、特別活動の実践のあり方についての理論を学び、方法を考察する。／検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

●授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。  
思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの傾向 内容 昨今の教育問題や子どもたちの問題 授業外指示 身のまわりにいる子どもや、本・ニュースなどで子どもについて情報を得る。
- 第 3 回 項目 子どもを取り巻く環境の変化 内容 様々な環境の変化と子ども
- 第 4 回 項目 現代の子どもたちの発達 内容 環境と子どもたちの発達の問題
- 第 5 回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。
- 第 6 回 項目 教育の必要性 内容 ヒトから人間への教育 授業外指示 子どもの発達と教育について、関係性を考える機会を持つ。
- 第 7 回 項目 人間の発達 内容 人間の発達の原動力
- 第 8 回 項目 人間の発達と教育 内容 発達を促す教育のあり方
- 第 9 回 項目 教育の目的と方法 内容 個としての発達と社会性の発達
- 第 10 回 項目 学校教育とは 内容 学校教育について思考し、討議する。
- 第 11 回 項目 訓育と教科外活動 内容 学校教育における訓育の意義
- 第 12 回 項目 特別活動の目的 内容 学習指導要領の解説 授業外指示 中学校学習指導要領に目を通す。
- 第 13 回 項目 特別活動の内容 内容 学習指導要領の解説
- 第 14 回 項目 特別活動の方法 内容 特別活動の方法原理の解釈
- 第 15 回 項目 集団活動の体験 内容 個と集団の発達に向けての集団活動

●成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。 (2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書： 特になし／参考書： 印刷物を資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

●メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	赤羽潔				

●授業の概要 今日、学校の児童生徒をめぐる現状は日々大きく変化している。その中で、中学・高校生の思春期から青年期にかけての発達課題に、教師は、また学校はどのように向かい合えばよいのかを探る。一方では、理論的にその視点や方法、原理的構造を学ぶ。他方で、実践記録の分析を通してそれらを探る。可能な限り、グループ学習、グループ間討論を組み立ててその内容を共同で探ると共に、対話・討論・討議の実践的力をも養うことを課題とする。／検索キーワード 生徒指導、生活指導、発達、文化、子ども、教師

●授業の一般目標 1. 「生徒指導」「生活指導」概念の問いなおしをする。 2. 学びを通して、コミュニケーションの実践的能力を培う。 3. 子どもとともに拓く「生徒指導・生活指導実践」とは何かを考えていく。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：生徒指導の基本理念・基本概念・基本方略を理解すること。 思考・判断の観点：自らの言葉で「生徒指導・生活指導」について発言・論述できること。 関心・意欲の観点：授業中に様々な課題に積極的に呼応できること。 発言・記述・グループ討議等。 態度の観点：積極的に考え、交流、発表すべく行動表現すること。 技能・表現の観点：発言・記述・討論への参加。 その他の観点：「探求的授業を共同で創る」という視点から、遅刻せず出席すること。

●授業の計画（全体） 1. 今日の学校の現状 (1) 「生徒指導・生活指導」で連想すること、その体験。 (2) 現代の小学校の現状 その課題 (3) 現代の中学校の現状とその課題 (4) 現代の高等学校の現状とその課題 2. 思春期のこころとからだ…実践記録から 3. 生徒指導の苦悩と可能性 4. 生徒指導の基本理念の理解とその問い直し 5. 生徒指導の実際—子どもと話す、子どもの声を聞く 6. 学校教育相談—スクールカウンセリングから見えてくるもの

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎概念を問う 内容 「生徒指導」と「生活指導」のちがい 授業外指示 テキスト p 97-103 の通読
- 第 2 回 項目 概念の基本を問う 内容 体験世界にこめられた基本とズレ 授業外指示 以下、適宜、予め読んでおく部分についての指示を出す
- 第 3 回 項目 「教育」の本質と「生徒指導」 内容 集団の教育力について考える 授業外指示 以下、適宜、小論/小レポートを課す
- 第 4 回 項目 子どもの発達の筋道と教育の課題 内容 個人の発達と集団の発展の関係について考える
- 第 5 回 項目 人格形成過程を支える社会的なちから 内容 集団の教育力の再生の道を考える
- 第 6 回 項目 リーダーとは何か 内容 リーダーとフォロアーの関係について考える
- 第 7 回 項目 私的集団；共感と同調 内容 互いに認め合う関係の中に込められた未来への可能性と閉塞性について考える
- 第 8 回 項目 対話・討論・討議と自分づくりの道 内容 対話・討論・討議のような言語的關係にこめられた可能性と限界性を考える
- 第 9 回 項目 中学校 1 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 10 回 項目 中学校 2 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 11 回 項目 中学校 3 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 12 回 項目 高校 1 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。

- 第 13 回 項目 高校 2 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押し  
さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 14 回 項目 高校 3 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押し  
さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 授業内容にかかわる論述試験を行う
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

- 成績評価方法 (総合) (1) 講義中に小論課題等を課す。(2) グループ討論のまとめをの提出を求める。(3) 特定テーマについて、A-4 一枚のレポートを課す。(4) 最後に試験を実施する。(5) 場合によっては、口述試験を行う。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位は与えない。
- 教科書・参考書 教科書：教育学を学ぶ, 柴田義松, 学文社, 2000 年; テキストに加えて、適宜プリントを配布する。/ 参考書：少年期不在, 竹内常一, 青木書店, 1998 年; 20 歳の精神に, 赤羽潔, 川島書店, 2002 年
- メッセージ 教師の仕事は、生徒の可能性と対話すること。そこを目指して学ぶということは、自己の可能性と対話すること。それは、楽しいチャレンジである。その過程を、限られた時間ではあるが共同創造したい。
- 連絡先・オフィスアワー akabane@yamaguchi-pu.ac.jp

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	田邊敏明				

- 授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、非行など、さまざまな問題に直面している。そこに生きる子どもたちにどのように寄り添っていけば、彼らの心が育っていくかを考え、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。／検索キーワード 子どもに対する「支えと引き上げ」
- 授業の一般目標 学校にうまく適応できず、どのような進路を選択すればよいか迷っている子どもたちに対し、教師としてどのようにサポートしていけばよいだろうか。自分なりのイメージが湧くような講義にしたい。子どもそれぞれがもっている問題も置かれている状況も違うので、個々のケースに対応できるような教育相談のセンスを養いたい。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： いろいろな子どもの見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題をいかに子どもに克服させるかが基本となる。そのためには、教師が子どもを「支え」かつ「引き上げる」ことを同時に自らせめぎ合うことが必要である。さらに基本的な心理療法の知識については修得したい。 思考・判断の観点： 個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点： 評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った深い見方ができるようになりたい。
- 授業の計画（全体） 子どもの個性の伸張と社会の成員としての資格をいかにうまく融合させて身につけるかが、子どもの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるかを、詳しく解説していく。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
  - 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 ―問題となっていること―
  - 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
  - 第 4 回 項目 教育相談における 「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い―
  - 第 5 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
  - 第 6 回 項目 スクールカウンセリングのあり方 ―小学校編―
  - 第 7 回 項目 スクールカウンセリングのあり方 ―中学校編―
  - 第 8 回 項目 現代の子どもにおける「キレル」ということ
  - 第 9 回 項目 スクールカウンセリングのあり方 ―高等学校編―
  - 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 ―不登校―
  - 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 ―非行―
  - 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 ―軽度発達障害―
  - 第 13 回 項目 教育相談における心理検査 1 ―検査とは―
  - 第 14 回 項目 教育相談における心理検査 2 ―検査の用い方―
  - 第 15 回 項目 自己実現と進路相談
- 成績評価方法（総合） 基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや宿題提出および出席も加えて総合的に評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 自作のテキストを配布します。（一冊 5 0 0 円）／参考書： 生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年； 教室で生かすカウンセリングマインド ―教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年
- メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポートを数回実施します。 期末試験と同様に準備を怠らないこと。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00～19:00



開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	澤喜司郎, 河野眞司				
<p>●授業の概要 現代世界とアメリカをテーマに取り上げ、講義(問題提起)と参加者によるディスカッションを中心に授業を進めます。また、講義(問題提起)は政治、経済、文化、宗教、歴史など多方面から行われます。</p> <p>●授業の一般目標 現代世界とアメリカの現実についての多面的かつ多角的な知識の習得とディスカッションの能力の向上を目標とします。</p> <p>●授業の計画(全体) 講義の概要(授業計画)は以下のとおりですが、場合により、一部変更されることがあることをお断りしておきます。また、講義の順序も都合により変更されることがあります。</p> <p>●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 ガイダンス</p> <p>第 2 回 項目 文明の衝突は何を意味するのか(河野)</p> <p>第 3 回 項目 9・11 米同時多発テロがアメリカに及ぼした影響とは(澤)</p> <p>第 4 回 項目 アメリカのビッグ・ビジネスの現実とは(河野)</p> <p>第 5 回 項目 世界の紛争にアメリカはどう関わってきたのか(澤)</p> <p>第 6 回 項目 アメリカの戦争ビジネスとは(河野)</p> <p>第 7 回 項目 国連平和維持軍とは(澤)</p> <p>第 8 回 項目 ブッシュとクリントンの違いとは(河野)</p> <p>第 9 回 項目 国際連合は機能しているのか(澤)</p> <p>第 10 回 項目 アメリカと EU の将来は(河野)</p> <p>第 11 回 項目 日本とアメリカの経済関係(貿易摩擦等)とは(澤)</p> <p>第 12 回 項目 大量破壊兵器とパワーゲームの現実とは(河野)</p> <p>第 13 回 項目 日米安全保障条約の本での日本の防衛とは何か(澤)</p> <p>第 14 回 項目 グローバリゼーションが世界経済に及ぼす影響とは(河野)</p> <p>第 15 回</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎時間の小レポート(50点)、態度(25点)、出席(25点)により評価します。</p>					

開設科目	事前・事後指導	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教員					

- 授業の概要 高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするため、教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は、次の通り。 事前指導：教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議
- 授業の一般目標 1. 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2. 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)
- 授業の計画(全体) 事前指導として、教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義が行われる。事後指導は、教育実習後に、各教室、教育実践総合センターで行う。
- 成績評価方法(総合) 出席状況及びレポート等によって評価を行う。
- 備考 集中授業

開設科目	教育実習（高）	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教員					

- 授業の概要 高等学校教諭免許（公民）に必要な教育実習を、高等学校において行う。
- 授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。  
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。
- 授業の計画（全体） 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合） 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。
- 備考 集中授業

開設科目	事前・事後指導	区分	実験・実習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教員	古堤 一三				

●授業の概要 実習校に出向き学校教育を実際に体験する教育実習に備えるために本学の各学部で合同で実施する事前指導の後を受けて、特に教科「商業」免許状取得希望者を対象に日を改めて実施する事前、事後の指導です。／検索キーワード 教育職員免許法, 教育職員免許法施行規則

●授業の一般目標 教育実習は、教職志望者が実際の現場に向いて、教員の職務の一部を実際に担当することを通じて教育活動を体験することですが、この実習を通して下に示すようなねらいを認識するとともに、教員の使命及び教職の特殊性・専門性に対する自覚を深め、「教師自身が彼らと共に善さを求めて成長する存在でなくてはならない」ことに目を開かせ、真摯な気持ちで実習に取り組む姿勢を涵養する。

1. 教育理論を実証的に研究し、その深化をはかる。 2. 教員として必要な知識や技術、技能の習得とあわせて具体的な指導方法を習得し、指導力を身につけていく中で、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを認識する。 3. 教育の社会的役割を認識し、公教育に従事する者としての姿勢や態度、心がまえを身につけさせる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 教育実習の意義を理解し、実習生自身が行動の主体者であることを自覚する。 思考・判断の観点： 1. 公教育に従事する者としての自覚の上に適切な判断ができる。

関心・意欲の観点： 1. 新たな未経験・未知の分野に対する積極的な取り組みの姿勢がある。 態度の観点： 1. 好奇心を持ち、生徒と共に成長を目指そうとする前向きな態度がある。 技能・表現の観点： 1. 教材を分かりやすく、系統立てて提示することができる。

●授業の計画（全体） 公教育に従事する者としての責任を自覚し、絶えざる努力の中で実践力を身につけることにより、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを自覚できるよう真剣に取り組む姿勢や態度の涵養に資することをねらいとして、 1. 事前指導では主として、(1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 などを取り上げる。 2. 事後指導では主として、実習生全員による (1) 教育実習の態様 (2) 反省及び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 などについての体験発表を行う。

●成績評価方法（総合） 事前・事後指導についてのレポート、実習校における教育実習の評価などを中心におくが、他に、実習に関する諸提出物等をも参考にして総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書： 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。／参考書： 教育実習を考える, 岩本・浪本編著, , 2003 年； 教育実習の研究, 教師養成研究会編著, , 2001 年； 教育実習は度ブック, 教育技術研究会編, , 1993 年； 教育学入門, 村井実, , 1976 年

●メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示してほしい。

●備考 集中授業

開設科目	教育実習	区分	実験・実習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員					

- 授業の概要 高等学校教諭免許(商業)に必要な教育実習を、高等学校において行う。
- 授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。  
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。
- 授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。
- 成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。
- 備考 集中授業

開設科目	商業教育論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古堤一三				

●授業の概要 我が国における近代的商業教育は、我が国が近代国家の一員としてたつことを決意した 明治 期に導入され、その拡充・発展をみたものです。それはまた、経済発展の原動力となった科学的思考方法とともに「知」の教育を推進するために体系化され組織された学校 制度とも大きな関わりを持っています。ここでは、先ず、我が国の歴史的・社会的背景を 考慮の上に我が国の商業教育についてみていきます。次に、産業の発展著しい現代社会では、人のビジネスに関わる活動範囲の拡大とあわせて、その専門性への要求が高まる中で「知」の学習だけでは十分でないところが沢山あります。知とあわせて情・意の教養が、また行動力と決断力が強く求められることがあった我が国の近代以前の教育を概観する中に、商業教育における人格の陶冶の問題を考えていきます。／検索キーワード 学制、教育令、商業学校通則、実業学校令、専門学校令、教育基本法

●授業の一般目標 我が国の教育の特質を、各時代が求めた人間像の中に概観するとともに、我が国に商業教育が出現し、それが置かれてきた位置とあわせて、その背景を認識し把握するとともに、その内容・視点・方策などの中に新しい商業教育の方向を探る。とりわけ明治期以降 の我が国の近代学校制度の確立過程の中で、世界及び我が国の政治経済社会の変容と大きく関わりあいながら発展し、位置づけられてきた我が国の教育制度の特色と、この間に生じたひずみを取り除く上での新しい視点や方策について、また、専門性を発揮する上での 基盤を形作っている人格の陶冶の問題について考えます。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 適切な判断に導く上で必要な基礎・基本の知識を身につけている。 思考・判断の観点： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 関心・意欲の観点： 1. 教育と職業生活との関わりに強い関心を抱き、現状での克服策に取り組む。 態度の観点： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。

●授業の計画(全体) 主として、1. 教育の社会性、歴史性と商業教育 2. 近代以前の我が国の教育 3. 近代の我が国の教育と商業教育 4. 現代の我が国の教育と商業教育 5. 経済社会の変容と商業教育 6. 商業教育と倫理 7. 商業教育の目指すところ などの内容を取り上げて授業を進めるが、機械的な暗記ではなく、より長期的な視野に立った、広く高い立場からの思索の上に結論に導いていく態度を身につけるよう頭の切り替えを望みます。

●成績評価方法(総合) 1. 学期末試験を中心に評価する。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約3%以内での加減調整を行う。

●教科書・参考書 教科書： 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。／参考書： 河合・雲英・岡田・山田編著『新商業教育論』1994年

●メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2年次以降にするのが望ましい。

開設科目	職業指導	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	永田萬亨				

●授業の概要 「労働」あるいは「職業」について意識化させていく活動をともなう職業指導の発展と、技術・職業教育の充実、整備の問題は密接不可分に結びついている重要な課題である。これまでの職業指導は、職業適性検査や個性の発見とかもっぱら心理学的な側面からのみ行われてきたきらいがあるが、それだけでは不十分と思われる。経済社会の発展・成長について職業生活はどうなるのか、技術革新の進展に伴って労働は、どのようにへんびうするのか、さらに職業や雇用はどのようになるのか等々、社会経済的側面も合わせて認識する必要がある。そのことを通し／検索キーワード 学校から職業への移行、職業教育、生涯教育

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育と貧困
- 第 2 回 項目 文部省の進路指導調査
- 第 3 回 項目 経済政策と進路指導
- 第 4 回 項目 職業指導運動の始まり
- 第 5 回 項目 日本の職業指導運動の体質
- 第 6 回 項目 労働時間
- 第 7 回 項目 賃金
- 第 8 回 項目 企業社会における能力主義管理
- 第 9 回 項目 職業高校
- 第 10 回 項目 各種・専修学校
- 第 11 回 項目 公共職業訓練
- 第 12 回 項目 企業内教育と熟練形成
- 第 13 回 項目 デマケーション
- 第 14 回 項目 職業教育と生涯学習
- 第 15 回 項目 まとめと試験

●メッセージ 講義では、ビデオなど視聴覚教材を多用したいと考えているが、受講生は各種ルポタージュを読んでおくことが望ましい。教師側からの一方的な講義にならないように、受講生の主体的参加を希望している。

●備考 集中授業